

2018 年度
南山大学自己点検・評価報告書
(学部・研究科)

南山大学自己点検・評価委員会

2018 年度

南山大学自己点検・評価報告書

(学部・研究科)

－目 次－

<学部>

●人文学部.....	1
・キリスト教学科.....	10
・人類文化学科.....	18
・心理人間学科.....	27
・日本文化学科.....	35
●外国語学部.....	43
・英米学科.....	51
・スペイン・ラテンアメリカ学科.....	59
・フランス学科.....	69
・ドイツ学科.....	77
・アジア学科.....	85

●経済学部.....	93
●経営学部.....	102
●法学部.....	110
●総合政策学部.....	118
●理工学部.....	126
・システム数理学科.....	134
・ソフトウェア工学科.....	140
・機械電子制御工学科.....	148
●国際教養学部.....	155
●短期大学部.....	163

<研究科>

●人間文化研究科.....	172
・キリスト教思想専攻.....	180
・宗教思想専攻.....	188
・人類学専攻.....	196
・教育ファシリテーション専攻.....	204
・言語科学専攻.....	213
●国際地域文化研究科.....	221

●社会科学部研究科.....	229
・経済学専攻.....	237
・経営学専攻.....	250
・総合政策学専攻.....	257
●ビジネス研究科.....	264
・経営学専攻.....	271
●法務研究科.....	278
●理工学研究科.....	288
・システム数理専攻.....	296
・ソフトウェア工学専攻.....	303
・機械電子制御工学専攻.....	310

		学部・学科/研究科・専攻	人文学部	氏名	青柳 宏					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる改善が求められる。 [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	人文学部は、「物の時代から心の時代へ、そして生命の時代となった21世紀において問われることになる「人間とは何か」「人生とは何か」「人と人の対話はいかになされるべきか」といった根元的な問題を深く考えることを目指している学部である。各学科の専門分野を追究しながら、同時に、人間に関する広く深い洞察力を養うこと」(1-①-1)を目的に定めている。この目的は、大学及び各学科の目的に応じて定めたものであり、当然相互に関連している。学部の目的の適切性は、毎年学部の自己点検・評価委員会において、大学及び各学科の目的との整合性を確認するとともに、点検・評価している(1-①-2)。さらに、毎年度末に実施する「卒業生アンケート」の結果を学部カリキュラム委員会で検討し、学部の理念・目的に合ったカリキュラムが提供できているか検証している(1-①-3)。	特になし。	「卒業生アンケート」は学部カリキュラム委員会で集計、分析しているが、その結果の教授会での報告は例年春学期後半か秋学期前半なので、その結果を前年度の学部自己点検・評価に取り込むためには、4月中に行うべき。	B	特になし。	2020年度から前年度の「卒業生アンケート」の結果報告を4月中に行うように検討する(1-①-4)。	1-①-1「人文学部の理念・目的」(https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html)、1-①-2「2018年度人文学部自己点検・評価委員会記録」、1-①-3「人文学部カリキュラム委員会議事録」、1-①-4「人文学部カリキュラム委員会への検討依頼」

			学部・学科/研究科・専攻	人文学部	氏名	青柳 宏		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。 ③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。 (1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	人文学部のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める、「文化、歴史、社会、および人間のあり方に関する幅広い教養を背景として、現代の問題状況を洞察・理解する能力」（能力1）、「多様な他者を柔軟なコミュニケーションを通して理解し、受け入れる能力」（能力2）を養うために、どのような科目を配置しているかを述べている。能力2については、人文学部共通科目に関する記述で、「超領域演習などの学科の垣根を越えた人文科学の横断的・総合的な科目を配置し、背景の異なる他者とともに成長しながら自分たちの現状をよりよくしていこうとする能力を涵養」するとあるが、能力1については、2年次における配当科目に関する記述で、「入門科目、概論科目、基礎演習IIをはじめとする多様な学科科目を履修することによって、各自がどの領域をより深く追究してゆかかという方向性を見極め、3・4年次における演習での学修に備え」るとの記述にとどまり、この能力の涵養に繋がるものが直接読み取りにくくなっている（4-②-1）。	特になし。 特になし。	B A	特になし。 特になし。	4-②-1「人文学部3つのポリシー」 (https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html)、4-②-2「人文学部カリキュラム委員会への検討依頼書」 4-③-1「人文学部3つのポリシー」 (https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html)

			学部・学科/研究科・専攻	人文学部	氏名	青柳 宏			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 「2018年度学長方針」に掲げられた留学プログラムの充実については、兼ねてから懸念であった「人文学異文化研修短期留学プログラムB」を「同A」（アイルランド）に加えて2019年度からマレーシアで実施することとした（4-④-1）。（2）学生の主体的学修を促すための授業形態としては、各学科が開講する演習系科目でアクティブ・ラーニングの手法を取り入れている（4-④-2）。（3）教職課程科目以外でのe-ポートフォリオの導入は全学的に検討中であるが、webclassによる履修指導については、すでに本学部教員の多数が導入している（4-④-2）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-④-1「2017年度第14回授教会資料」、4-④-2各学科科目「シラバス」
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 本学ではレターグレードに対する評価基準（A+=90点以上、A=80～89点、B=70～79点、C=60～69点、F=59点以下）を全学的に定めており（4-⑤-1）、各科目シラバスには評価基準を明示し（4-⑤-2）、さらに学生からの成績疑問調査にも応じている（4-⑤-3）。さらに、4年間の学修の総仕上げとしての「研究プロジェクト」論文（卒業論文）の評価は、学科全体で論文報告会を開催する（キリスト教学科、心理人間学科）、主査たる指導教員の他に副査を置いて口頭試問を行う（人類文化学科）、ゼミごとに口頭試問や論文発表会を行う（日本文化学科）ことにより客観性の担保に努めている。（2）学位授与については、「南山大学学則」第21条、「南山大学学位規程」第3条及び第13条の規定に従い学長が決定している（4-⑤-4、4-⑤-5）。この結果、人文学部の2018年度卒業判定対象者435名中の卒業確定者数は379名（87.1%）であった（4-⑤-6）。	特になし。	（本学における現在のクォーター制の下では成績発表が年2回しかないので、学生はQ1、Q3で履修した科目が修得できているか分からないままQ2、Q4へと進み、不安を抱えている（4-⑤-7、4-⑤-8）。クォーター制に即した成績付与が可能になるように、ご検討をお願いしたい。）	A	特になし。	特になし。	4-⑤-1「南山大学学則」第18条、4-⑤-2各科目「シラバス」の【評価方法】、4-⑤-3「南山大学授業科目履修規程」第21条、4-⑤-4「南山大学学則」第21条、4-⑤-5「南山大学学位規程」第3条、第15条、4-⑤-6「2018年度第18回人文学部授教会資料」、4-⑤-7「2017年度人文学部FD活動報告書」、4-⑤-8「【人文学部】クォーター制意見聴取回答」

			学部・学科/研究科・専攻	人文学部	氏名	青柳 宏	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	すべての学科で卒業生対象カリキュラム調査（4-⑥-1）を実施し、各学科がディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーで挙げた能力をどの程度身につけたかを調査し、各学科の自己点検・評価委員会で精査している（4-⑥-2）。さらに、学習成果のひとつの指標となると思われる、本学部2018年度卒業生の就職内定率（就職者/就職希望者）は97.4%であった（4-⑥-3）。			A		4-⑥-1「人文学部卒業生対象カリキュラム調査票」、4-⑥-2各学科「自己点検・評価委員会点検記録」、4-⑥-3「2018年度学部学科別進路状況」
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについては、その後も学部自己点検・評価委員会及び各学科自己点検・評価委員会で取り上げ（4-⑦-1、4-⑦-2）、さらに、卒業生アンケートの結果も加味して（4-⑦-3）、その整合性を検証している。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性についても、「卒業生アンケート」の各学科の項目や学部長表彰被表彰者懇談会が出た意見も参考にしつつ、各学科自己点検・評価委員会で検証している（4-⑦-2、4-⑦-3）。	特になし。	3つのポリシーの検証作業は、これまで各学科会議または各学科自己点検・評価委員会で修正意見が出たときに、またそのたびに学部教授会で取り上げるとい、いわば五月雨式、ボトム・アップ方式を取ってきたというのが学部教授会の認識だが、今後は学部と各学科が互いに連携を取って定期的に学部および各学科の3つのポリシーを検証するシステムを構築したい（4-⑦-4）。	B	特になし。	4-⑦-1「2018年度人文学部自己点検・評価委員会記録」、4-⑦-2各学科「自己点検・評価委員会記録」、4-⑦-3「人文学部卒業生対象カリキュラム調査票」、4-⑦-4「人文学部カリキュラム委員会への検討依頼書」

		学部・学科/研究科・専攻		人文学部		氏名		青柳 宏	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。 ③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】 (1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	本学では「2018年度学長方針」に示された留学生受入れ促進方針を受けて、従来から実施してきた外国人留学生入試及び留学生別科推薦入試に加えて、前者に渡日前に入学審査を受けることが可能なEJU利用型入試を2018年度に開始したが、人文学部4学科もこれに参加している（5-②-1）。	特になし。	（本学部単独でできることは特にはないが、全学的に学部・学科における留学生を積極的に増やそうとするならば、たとえば、大学院において実施している国外在住者入試にしろ、外国人留学生試験[EJU利用型]を随時募集を行い、年4回ほどの期日で合否判定をするなどの方策と入学後の日本語学修支援のシステムの構築などが必要になると思われる。）	A	特になし。	5-②-1「2019年度第2回入学試験委員会資料」
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	2017年度に改正した人文学部のアドミッション・ポリシーについては、学部自己点検・評価委員会において、大学（全学）のアドミッション・ポリシーや各学科のそれとの整合性を点検している（5-④-1）。	特になし。	4-⑦で述べたように、3つのポリシーの検証作業は、これまで各学科の自己点検・評価委員会で意見を学部で吸い上げるという方式を取ってきたため、学部全体としては足並みが揃わないきらいがあった。 4-⑦の修正をご覧ください。	B	3つのポリシーの検証作業を学部主導で恒常的に効率よく行うためにどうすればよいかを学部カリキュラム委員会で今年度春学期中に検討してもらうこととした（5-④-2）。 4-⑦の修正をご覧ください。	5-④-1「2018年度人文学部自己点検・評価委員会記録」、5-④-2「人文学部カリキュラム委員会への検討依頼書」

			学部・学科/研究科・専攻	人文学部	氏名	青柳 宏		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である</p> <p>[B] 概ね問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な巻数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	人文学部では、各学科の教員組織の編成方針を重視し、年度始めに教授会運営委員会（学科長会議を兼ねる）で学部全体の人事計画を立案している（6-②-1）。その後の教授会運営委員会でも同計画を確認しつつ、2018年度については、新任用（教授2名、准教授3名、講師2名）、任期付教員の任期更新（准教授1名、講師1名）（6-②-2、6-②-3）の人事を行った。	特になし。	A	6-②-1「2018年度第1～4回人文学部教授会運営委員会資料」、6-②-2「2018年度第5～19回人文学部教授会運営委員会資料」、6-②-3「2018年度第1～19回人文学部教授会資料」	
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	まず、2018年9月28日（金）に「大企業から地続きの場所としての企業—人文系人材の産業界におけるあり方—」と題するFD講演会を人類文化学科主催・人文学部共催で実施した。電通プロモーション・デザイン局に勤務しながら大阪大学大学院文学研究科博士後期課程で研究活動も同時に実践している朱喜哲氏を講師としてお招きし、ご自身の経験や現在の実務などを事例として、人文科学の学びや思考法が企業において活用される状況や視点について講じていただいた（参加者18名、うち学部教員12名）。次に、2019年3月11日に人文学部主催のFD企画シンポジウムを「学部共通科目と人文学部の教育」と題して実施した。2013年度から実施している人文学部共通科目について、その後の課題および成果を再検討し、今後の学部カリキュラムのさらなる充実への方策検討を目的とした3報告が学部教員によってなされ、活発な議論が行われた（参加者35名、うち学部教員33名）。これらの機会は学部・学科カリキュラムのより具体的な課題を検討する機会を提供してくれた（6-④-1）。	人文学部または人文学部4学科主催のFD活動（他学部・他学科主催のものとは除く）に1回以上参加した学部所属教員数（留学・研究休暇中の者は除く）は、2017年度は58名中41名（70.7%）だったが、2018年度は62名（ノミナル所属教員は除く）中50名（80.6%）に増加した（6-④-2、6-④-3）。今後も少なくとも75%水準を維持したい。	A	本来FD活動とは教員がともに学ぶ、小さな学びの場の積み重ねであるべき（6-④-4）なので、2019年度も各学科で地道なFD活動を継続し、学部主催FD活動では、多くの学部構成員の関心を汲み上げた企画を立案する（6-④-5）。	6-④-1「2018年度人文学部FD活動報告」、6-④-2「2017年度人文学部FD活動出欠記録」、6-④-3「2018年度人文学部FD活動出欠記録」、6-④-4「2018年度外部評価委員会における鳥居朋子氏（立命館大学）談話」、6-④-5「2019年度人文学部FD活動方針・計画」

			学部・学科/研究科・専攻	人文学部	氏名	青柳 宏	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓抜した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが顕著である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
	<p>⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>人文学部の教員組織の編成方針については、特に学部・学科のカリキュラム・ポリシーを重視しており、人文学部教員評価委員会（学部長、4学科長、学部選出評議員2名で構成）でレビューを行なっている（6-⑤-1）。また、FD活動の適切性については、学部カリキュラム委員会検討するとともに（6-⑤-2）、「学生による授業評価」の結果を基に学科長会議を兼ねた学部教授会運営委員会で検証を行い、助言が必要な教員があった場合は助言を行なっている（6-⑤-3）。</p>	<p>特になし。</p>	<p>A</p>	<p>特になし。</p>	<p>6-⑤-1「2018年度人文学部教員評価委員会メモ」、6-⑤-2「2018年度第5回人文学部カリキュラム委員会記録」、6-⑤-3「2018年度第3回、12回人文学部教授会運営委員会資料」</p>

			学部・学科/研究科・専攻	人文学部	氏名	青柳 宏		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準 7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	人文学部では、すべての学科において、毎回の学科会議で問題を抱えた学生に関する情報を可能な限り教員間で共有し、問題に対処している(7-②-1)。ただし、守秘義務のある事案に対しては、指導教員と学科長または学部長で対処することもある。特に、心の問題を抱えた学生については、学内の学生相談室や保健センターに取り継ぐシステムができている。	特になし。	A	特になし。	7-②-1各学科会議事録
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。					

			学部・学科/研究科・専攻	人文学部	氏名	青柳 宏				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り残しが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	「2018年度学長方針」を受けて、社会連携については、特に高大連携を重視し、学園内高等学校を含む高校から出講依頼があれば、可能なかぎり応じている（9-②-1）。また、社会貢献、地域交流、国際交流に関する出講依頼や業務依頼についても、同様であり、2018年度学外諸機関の求めに応じて本学部所属教員が請け負った業務件数は延べ68件（他大学非常勤講師やカルチャーセンター講師は除く）であった（9-②-2）。さらに、卒業生との連携については、在学生のキャリア支援関連の行事等に、各界で活躍する卒業生を積極的に招いている。	特になし。	（本学部のみで対処できることではないが、卒業生との連携では、同窓会にもっと積極的に助けをいただくとありがたい。たとえば、高校訪問をしても、本学の卒業生が教員として着任していることが事前に分からないケースが多々ある。）	S	特になし。	本学の卒業生には高等学校の教職に就いている者が相当数いる。また、同窓会では卒業生の個人情報を蓄積しているはずである。そこで、個人情報保護法の観点から本人の同意を得ることを前提に、卒業生教員名簿のようなものができれば、高大連携事業の拡大や入試広報に役立つであろう。本学のキャリア支援室や入試課広報係との連携も重要である。	9-②-1「出講・業務依頼書」及び「兼業報告書・申請書」、9-②-2「2019年度第2回人文学部教授会運営委員会資料」
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学外からの出講依頼や業務依頼については、学部長が「出講・業務依頼書」と「兼業報告書・申請書」の妥当性をチェックしており、問題になりそうなケースがあれば、学科長会議に諮るが、昨年度はそのようなケースは見当たらなかった。さらに、各教員の社会貢献については、教員評価委員会で評価している（9-③-1）。	特になし。		S	特になし。	9-③-1「2018年度人文学部教員評価委員会メモ」	

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教学科	氏名	松根 伸治		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	キリスト教学科の目的は規程において次のように定められている。「世界宗教の一つであるキリスト教を基礎としながらも他の宗教伝統からも学ぶという対話的な研究と教育の視点に立ち、人類の共通の課題である人間の尊厳および幸福とは何かについて思想的、文化的、歴史的、実践的分野において学び、考えることによって、教養と他者の人格や人権への配慮をそなえた人材、関連諸領域で社会に貢献できる人材を養成すること」（1-①-1）。この目的は、大学と学部の理念・目的を前提としており、それらと密接に関連しつつ、学科独自の特色を表現するものである。	ウェブページや大学案内誌には、学科の理念を簡潔に示す「キリスト教の深い理解をもった心豊かな人」という表現も掲載し、高校生や学外者に向けてわかりやすいメッセージを発信している（1-①-2）。	特になし。	特になし。	1-①-1：南山大学の目的に関する規程 第2条②1 1-①-2：キリスト教学科・学科の紹介（大学ウェブページ） https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/hc/top.html 、 『大学案内誌2019』p. 29

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教学科	氏名	松根 伸治			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
教育課程・学習成果	教育課程・学習成果 ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	おもに以下の三点においてディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーはうまく整合している。第一に、ディプロマ・ポリシーに示す「キリスト教の基礎的知識と理解」と「専攻領域に関する深い理解と知識」を段階的・有機的に養成するための授業展開が、カリキュラム・ポリシーでは年次を追って具体化されている。第二に、学科科目の内容は両ポリシーで一貫しており、「キリスト教の思想的、文化的、歴史的、実践的分野」「キリスト教の思想、文化、歴史、実践」と提示されている。第三に、ディプロマ・ポリシーの「異文化間コミュニケーション」について、カリキュラム・ポリシーでは、主として「基礎演習」と「多様な宗教文化の交流や関係を扱う授業」がこの能力を保証するという関連を明確にしている(4-②-1)。	特になし。	ディプロマ・ポリシーの冒頭に謳う「創造的な思考力」の内実がわかりにくく、カリキュラム・ポリシーにおける具体的記述との関連も薄い。	B	特になし。	ディプロマ・ポリシーの「創造的な思考力」を養うための授業内容・授業方法について、関連する記述をカリキュラム・ポリシーに書き加えることができるか、あるいは、ディプロマ・ポリシー自体の文言を修正すべきか、学科会議で早急に検討する。	4-②-1: キリスト教学科・3つのポリシー(大学ホームページ) https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/hc/policy.html
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	下記の通り、授業科目はカリキュラム・ポリシーと整合している。まず、1年次必修の学科科目(聖書入門A・B、基礎演習I)と共通教育科目のラテン語は、大学での学習態度への導入と転換をうながすと同時に、キリスト教に関する基礎的知識を身につける目的のために有効に機能している。また、1年次から履修できる学科の選択科目として「神学入門」「聖書時代史」「キリスト教史」「キリスト教芸術」「古代哲学史」が配置されており、早い時期に各専門分野にふれる機会も確保されている。さらに、3、4年次の演習は全教員が開講し、キリスト教に関する多様な分野をカバーしている(4-③-1)。	聖書学・神学・哲学・宗教学・キリスト教史・聖書ギリシア語・聖書ヘブライ語などの各分野にわたって、学科の特色を反映する幅広いカリキュラムを提供できている(4-③-2)。	クォーター制のもとでの基礎演習II(2年次生)と演習(3、4年次生)の現状の開講方法が、教育効果の面で適切かどうか再検討する余地がある。	A	幅広く体系的に授業を開講できるよう引き続き留意しながら、2021年に計画されているカリキュラム改正に向けた改善案を2019年度から学科会議において検討し始める。	演習の開講方法について2019年度に学科会議であらためて議論し、その結果を必要に応じて2020年度あるいは2021年度の時間割編成に反映させる。	4-③-1: キリスト教学科・履修について(大学ホームページ) https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/hc/rishu.html 4-③-2: 学科開講科目一覧(第8回学科会議資料4)

		学部・学科/研究科・専攻	キリスト教学科		氏名	松根 伸治			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 2018年度は学部の短期留学プログラムに学科生2名が参加した。 (2) 演習科目では少人数教育を徹底し、学生の主体的な調査、研究発表、討論を中心に授業を実施している。1年次の「基礎演習I」では教員数名が引率してカトリック多治見修道院を見学する学外授業を実施している。聖堂でのフィールド観察的な課題を取り入れ、生きたキリスト教文化の一端にふれる機会をもった(4-④-1)。また、開講科目全体で見ても、208科目の半数以上にあたる116科目で何らかのアクティブラーニングの要素が取り入れられている(4-④-2)。 (3) 各授業で多様な課題を設定することにより、学習効果の向上をめざしている。定期試験とレポート以外で2018年度シラバスに記された評価基準は、リアクション・ペーパー、授業後に提出する小レポート、授業内の小テスト、講義中の質疑応答体験的学習への取組、発表のためのレジュメ作成、発表後の修正原稿提出、予習復習の小課題、読書課題などである(4-④-3)。	特になし。	人文学部の卒業生対象カリキュラム調査の回答(キリスト教学科分)では、特に演習と研究プロジェクトに関して丁寧な指導を評価する声が多く、少人数教育の成果が見られる(4-④-4)。	A	3年次、4年次の演習において、卒業論文の完成に向けた手順をいっそう意識した指導を各教員がおこなうとともに、教員間で指導方法と評価項目の共有をめざす。	特になし。	4-④-1: 2018年度キリスト教基礎演習IB学外授業(第4回学科会議資料2) 4-④-2: キリスト教学科アンケートアーニン□ グ調査2018年8月 4-④-3: 2018年度授業概要(シラバス) 4-④-4: カリキュラムアンケートまとめ(FD懇談会配布資料)
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 授業の目的と特性に応じて多面的な評価基準を各教員が明示して成績評価をおこなっている(4-⑤-1)。また、教育成果の集大成を学科全体で共有するために、研究プロジェクト発表会を毎年開催している。発表会では全員の卒業論文の題目一覧を配布し、指導教員以外の教員からも質問やコメントをおこなっている(4-⑤-2)。 (2) 学位授与については学則および「南山大学学位規程」に定める要件と手続きに従って決定されている(4-⑤-3)。	特になし。	研究プロジェクト(卒業論文)の指導と成績評価について、各ゼミの指導教員に一任されている面が大きい。成績評価の客観性と厳格性を高めるために、この点は改善が必要である。	B	特になし。	研究プロジェクトの評価項目と評価基準、題目提出票のあつかい、指導体制について学科会議と懇談会で改善策を話し合い、2019年度中に方針を決定する。	4-⑤-1: 2018年度授業概要(シラバス) 4-⑤-2: 2018年度研究プロジェクト発表会プログラム、2018年度卒業論文題目一覧 4-⑤-3: 南山大学学位規程 第3条、第13条 https://www.nanzan.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf

				学部・学科/研究科・専攻	キリスト教学科	氏名	松根 伸治		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	人文学部の卒業生対象カリキュラム調査で、おもに学科のディプロマ・ポリシーにもとづく10項目の能力を提示し、「キリスト教学科の授業を通して身についたと思うもの」の回答を求めることにより、卒業をひかえた4年次生の学習成果に関する自己評価を調査している(4-⑥-1)。	左記のカリキュラム調査の結果、「聖書やキリスト教に関する基礎知識」「自分の選んだ研究テーマに関する深い理解」「キリスト教の文化や思想に関する歴史的知識」「自分と異なる価値観を理解しようとする態度」の4項目について、回答者のほぼ全員が身についたと評価した。一方、「新しい発想を生み出す思考力」と「わかりやすく発表する力」の2項目の評価が低いことがわかった(4-⑥-2)。	卒業後の仕事や生活、考え方において、学科で受けた教育がどんな効果や影響をもたらしているかを把握できる経路が少ない。	B	今後数年の調査結果を蓄積してカリキュラムと授業内容の改善に活かしたい。また、アンケートの質問項目を微修正し、学科の授業で身についたことに関する自由記述欄を追加することを検討している。	卒業生に対する教育成果の調査は、準備が整っていないため、ただちに実行するのは難しいが、他学科・他学部の取組みを参考にしながら適切な方法や規模について学科会議や懇談会の場で検討を始める。	4-⑥-1: 2018年度卒業生対象学部カリキュラム調査(キリスト教学科分・質問用紙) 4-⑥-2: カリキュラムアンケートまとめ (FD懇談会配布資料)
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)卒業生対象カリキュラム調査は、1月の卒業論文提出時に実施して学科でデータを整理し、年度末に学科の懇談会で結果を検討したうえで、翌年度の学部教授会で概要報告のために内容を再度確認する、という一連の手順が定着してきている。この過程の中で、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーについても毎年定期的に検証を続けている(4-⑦-1)。 (2)次年度の時間割編成を議論する学科会議および年度末の懇談会において、カリキュラム・ポリシーにもとづいて適切に科目編成ができているか確認している(4-⑦-2)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑦-1: 学科FD懇談会記録、2017年度卒業生対象学部カリキュラム調査のまとめ(第8回学科会議資料2) 4-⑦-2: 第6回学科会議議事録審議事項6、第8回学科会議議事録 審議事項1・2、開講科目一覧(第8回学科会議資料4)

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教学科	氏名	松根 伸治				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受け入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	学科として留学生の受け入れ促進に特化した改革は実施していないが、国外出身者の入学が可能になるように、外国人留学生入学審査や社会人入学審査など多様な制度を設けている（5-②-1）。	2019年度入試では国外出身の神学生2名が社会人入試に合格して編入学が決まった。	特になし。	A	特になし。	特になし。	5-②-1：入学審査要項
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】							
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	各種推薦入試および一般入試に際して、学部と学科のアドミッション・ポリシーを確認し、学科会議で過去数年の入試実績についても慎重に見直している（5-④-1）。あわせて、当該の関心や目標を満たすためにふさわしいカリキュラムを提供できているか学科会議で点検している（5-④-2）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	5-④-1：各種入学審査要項抜粋（第2回学科会議資料6）、過去の11月試験（第10回学科会議資料1）、入試結果まとめ（第15回学科会議資料2） 5-④-2：開講科目一覧（第8回学科会議資料4）

2018年度自己点検・評価報告書 「学部（学科）/研究科（専攻）」

様式1（基準6）教員・教員組織

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教学科	氏名	松根 伸治				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	教授（宗教社会学）、講師（ビザンティン美術史）の2件の任用人事を完了し、研究分野のさらなる多様性を確保することができた。しかし、2017年度末に退職した教員の後任ポストについては、典礼学あるいは神学分野の候補者を立てるべく学科で議論が続けたが、候補者決定には至らなかった（6-②-1）。	特になし。	退職教員の後任人事1件が実現できていない。	B	特になし。	教皇庁認可神学部との連携のもとで、学科の中長期的な将来計画について議論をさらに詰め、その計画にもとづき退職教員の後任人事をできるだけ早い時期におこなう必要がある。	6-②-1：学科会議議事録（第1回審議事項1、2、第2回審議事項6、第3回審議事項1、第4回審議事項1、第8回審議事項3）
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	各教員が自分の授業について内容と方法をあらためて考える機会をもつために、2月に学科FD懇談会を開催した。今回は着任2年目の教員から、2つの授業で複数回に参加して授業参観をおこなった経験にもとづき話題提供をしてもらった。教員相互の授業参観の意義を確認するとともに、学生の関心のあり方と授業の満足度、人文系の講義科目の組み合わせなどについて有益な意見交換をすることができた（6-④-1）。	学科の理念やカリキュラムを検証するようなFD活動とあわせて、日常的・具体的な授業実践と教授法の手がかりとなるFD活動も実施している。	特になし。	A	多面的なFD活動を実施できるよう引き続き努力し、特に新任教員の授業と研究をサポートする内容を企画したい。	特になし。	6-④-1：学科FD懇談会（当日配布資料）、学科FD懇談会記録
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	今後学科として必要な研究・教育分野について学科会議で議論を重ね、将来計画をあらためて文書化した（6-⑤-1）。FD活動についての検証は特別に実施していないが、FD懇談会であつかう内容は学科教員からアイデアをつくり、開催後には記録を学科会議で確認して今後のFDにつなげる工夫をおこなっている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	6-⑤-1：キリスト教学科の人事計画について（第12回学科会議資料4）、改訂版20190115

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教学科	氏名	松根 伸治			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	第1クォーターと第3クォーターの開講時期に、指導教員一覧を作成して学科会議で配布し、学生全員の所属ゼミと指導教員について学科教員全員で確認している。その際、残留生、休学や復学の状況、欠席過多な学生、留意すべき学生について情報共有し、指導と支援につなげている(7-②-1)。	通常授業の教育内容を補充し、学習を援助するために下記の学科行事を実施した。新入生合宿、始業ミサ、新入生歓迎会、研究プロジェクト発表会、来年度ゼミ説明会、卒業生送別会である(7-②-2)。これらの行事は、授業外で教員と学生が身近に接し、多様な背景をもつ学生どうしが交流する機会を提供することで、学科への帰属意識と学習意欲を高める効果を発揮していると思われる。卒業生対象カリキュラム調査でも、各種行事を高く評価する意見が複数あった(7-②-3)。	特になし。	特になし。	特になし。	7-②-1: Q1指導教員リスト(第2回学科会議資料1)、Q3指導教員リスト(第6回学科会議資料1)、第6回学科会議事録報告事項1 7-②-2: 学科ウェブページ・2018年度の記録 http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINBUN/Christ/event_2018.html 7-②-3: カリキュラムアンケートまとめ(FD懇談会配布資料)
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学科レベルで組織的な検証体制は設けていないが、個別の事例に即して、おもに指導教員と学科長が相談して対応している。必要に応じて他の教員からの助言と学科会議での話し合いにより、学生への支援と指導の適切さを確認する場を設けている。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	A

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教学科	氏名	松根 伸治				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	各教員が講演、懇話会、教会での活動など学外での社会的活動にたずさわわり、文化センターなどで市民講座を担当している（9-②-1）。毎年、カトリック大学キリスト教文化研究所協議会に学科教員が参加し、カトリック大学との連携・交流をおこなっている（9-②-2）。また、学科紀要『南山神学』の総目次とPDFファイルをウェブページで公開し、学科教員による研究成果を広く社会に還元するよう努めている（9-②-3）。	2018年11月の南山大学土曜セミナー（南山高校女子部）で、学科教員が研究成果を活かして『聖書の世界：古代オリエントを中心に』と題する模擬授業をおこなった。	卒業生との連携については、学科として組織的な取組みは実施できていない。	B	特になし。	大学と社会のつながりのひとつとして、学科教員や在学生が卒業生と交流したり情報交換したりするためにどのような方法が可能か、他学科・他学部の取組みも参考にして検討を始める。	9-②-1：大学ウェブページ各教員研究者詳細（社会活動） 9-②-2：第5回学科会議議事録報告事項6 9-②-3：『南山神学』総目次 http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINBUN/Christ/NJTS.htm
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学外機関での講座や出張に関しては、申請書類を学科長が日常的にチェックしている。さらに、学部の教員評価委員会において、毎年度提出される教員評価のための報告をもとに各教員の社会連携・社会貢献活動の内容を確認し、適切さを検証する仕組みになっている。あわせて、教授会運営委員会や教授会で配布される学外出講者一覧によって、担当時間などについても定期的に確認している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	人類文化学科		氏名	石原 美奈子		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準1	理念・目的	<p>① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。</p> <p>学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。</p>	<p>1. 人類文化学科は、「人間の文化の幅広い多様性と人間の普遍的な本質を探究すること」（1-①-1）をその目的として定めている。この目的は、大学及び学部の目的を踏まえながら、専門分野に応じて具体的に定めたものであり、大学及び学部の目的と連関している。学科の目的の適切性は、学科全員が参加する「自己点検・評価委員会」において、大学及び学部の目的との整合性を確認するとともに、卒業生を対象とするアンケート結果、学科で必修としている研究プロジェクト（卒業論文）の相互評価を踏まえて点検・評価している（1-①-2）。</p>	特になし	<p>「南山大学の目的に関する規程」に定める目的と、ホームページの「学科の紹介」（1-①-3）及び「学科の3つのポリシー」（1-①-4）に掲載している目的との間に記述の仕方に齟齬がみられるので、その齟齬について点検・評価を行う必要がある。</p>	B	<p>特になし</p> <p>「学部・学科の紹介」及び「学科の3つのポリシー」（掲載している目的は、「南山大学の目的に関する規程」に定める学科の目的をより分かりやすく具体的に説明したものである。しかし、そのために表現に微妙なずれが生じる結果となった。今後は、定例の学科会議あるいは年度末の自己点検評価委員会において、規程との不一致について検討する。</p>	<p>1-①-1 南山大学の目的に関する規程 (https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1040.pdf)</p> <p>1-①-2 2019年2月27日開催学科自己点検評価委員会議事録 1-①-3 人類文化学科紹介 (https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/ha/top.html)</p> <p>1-①-4 人類文化学科「3つのポリシー」 (https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/ha/policy.html)</p> <p>1-①-4</p>

			学部・学科/研究科・専攻	人類文化学科	氏名	石原 美奈子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。 本学科のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める学習成果を修得させるために学科科目を開設することを示したうえで、各年次における具体的な教育内容と教育方法を定めている。教育内容についてはたとえば、「1年次では、人類文化学基礎演習IIにおいて、大学で自ら学修の計画を立て、能動的に学修する方法、議論の仕方等を学ぶ」とし、「講義科目としては、人間に対する人文科学的なまなざしの基礎を養うために、人類文化学基礎論をはじめ、文化人類学、考古学、哲学、言語学の分野の概論科目を配置」するとしている。また教育方法については、演習科目では「少人数制」をとること、また国内外でのフィールドワーク、考古学実習、博物館を利用した実習の授業など、実習を取り入れた授業を数多く開設していることを明示している(4-②-1)。従って、カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーと概ね整合性をもっている。	ディプロマ・ポリシーにおいて「国際社会に貢献できる人材の育成を目指す」ことを謳っていることを受けて、本学科では2015年度を最後に中断していた海外フィールドワークを復活させる見通しをつけた。	海外フィールドワークの実施に当たっては、現地の協力機関や旅行会社との頻繁かつ密な交渉や、現地での学生に対する細やかな対応が不可欠だが、現段階ではすべての作業を担当教員1名が担うことになっており、授業準備・学内業務・研究といった時間の確保が難しい状況にある。本学科にとって、海外フィールドワークの継続的実施は、ディプロマ・ポリシーに掲げた目的を具現化する上で要となる事案であるので、海外フィールドワークの継続的な実施を保障するために、教員間で協力体制を構築することが今後検討されるべきであろう。	A	特になし	2019年度中に、2年後のカリキュラム改正に向けた話し合いを開始し、その際に、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの整合性についても検討する。具体的には、カリキュラム・ポリシーに書かれている科目が、ディプロマ・ポリシーに書かれている「能力・知識」の修得に繋がっているかどうか、を検討し、もし齟齬があるのであれば修正を検討する。	4-②-1 人類文化学科の3つのポリシー (https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/ha/policy.html)
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	特になし	特になし	A	特になし	4-③-1 人類文化学科の3つのポリシー (https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/ha/policy.html)	

		学部・学科/研究科・専攻	人類文化学科		氏名	石原 美奈子		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合はURLを必ず明示してください。	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 本学科では、2017年にクォーター制が導入された際、人文学部短期留学プログラムなどに参加できるように必修科目を第2クォーターに配置しない措置をとっている(4-④-1)。 (2) 1・2年次必修の「人類文化学基礎演習」および3・4年次必修の「人類文化学演習」は、学生の主体的取り組みを主軸とした演習形式の科目である。また2年次以降の選択科目として、「フィールドワーク」「考古学実習」や「文献資料講義」など、学生の主体的取り組みが欠かせない授業が多数開講されている(4-④-1)。中でも「フィールドワーク(文化人類学)」は、学内で文献調査と学外での現地調査を組み合わせた教育効果の高い科目であり、2018年度は国内で学外授業を実施するクラスを2つ開講した(4-④-1)。2019年度は、国内で学外授業を実施するクラスのほか、海外(中国)で学外授業を実施する1クラスを新規開講する予定であり、2018年度はその事前準備を実施した(4-④-2)。 (3) 本学科は、e-ポートフォリオを利用していない。webclassについては、学科で利用を推奨している。	(1) 2018年度、本学科から13人にのぼる学生が人文学部短期留学プログラムに参加した。また、本学科では2015年度を最後に中断していた海外フィールドワークへの参加を望む学生の声を反映し、2018年度の国際化推進事業採択を受け、向こう4年間で中国・ハワイ・ベトナムでの海外フィールドワークが実現する見通しが立った。2018年度は、担当教員が現地の協力大学・コーディネイターとの交渉に当たり、2019年度夏に2週間にわたるフィールドワークを実施する準備を整えた。海外フィールドワークは文化人類学・考古学の教員が担当する予定だが、参加資格は学科全体に開かれており、すでにさまざまな分野の学習意欲をもつ学生から参加希望が出されている。 (2) 人類学研究所主催の「人類学フェスティバル」は、2010年度から毎年開催されており、これは人類学研究所の研究成果のほか、学科の人類学系のゼミや「フィールドワーク(文化人類学)」の学習・調査成果を発表しあう人類学系の文化祭である。このイベントは、学内のみならず学外に向けて教育・研究の成果を公開・発信する、他学科にはない特色ある取り組みである(4-④-3)。	特になし	2018年度までは国内で学外授業(調査実習)を実施する「フィールドワーク(文化人類学)」のみであったが、2019年度以降、海外で学外授業(調査実習)を実施する同科目が復活する予定となった。海外での調査実習は、学科の文化人類学・考古学領域の教員の負担を考慮して、交代で担当することにしており、担当予定者が実施前年度に事前調査を行い、実施年度に備えるというサイクルを確立した。今後、国内・海外フィールドワーク授業の取り組みを学科全体で支えると共に、学科の特色を表す科目としてホームページなどで広報につとめたい。	特になし	4-④-1 2018年度シラバス (https://portal.nanzan-u.ac.jp/syllabus/) 4-④-2 2018年度国際化推進事業中間報告書 4-④-3 人類学研究所報告 (http://rci.nanzan-u.ac.jp/jinruiken/activities/information/013750.html)

A

		学部・学科/研究科・専攻	人類文化学科		氏名	石原 美奈子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 原則として、成績評価については全学的に定められた評価基準に従って、各教員がそれぞれ担当する科目について個別に実施している。成績評価の客観性、厳格性を担保するための取り組みは、4年間の学修成果としての研究プロジェクト（卒業論文）の成績評価において実施している。 (2) 本学科では、学位授与の要件として提出を義務づけている研究プロジェクトについて、1年間を通した卒業提出までの手順（題目提出/変更届の提出・下書き稿提出・完成稿の提出・口頭試問）をマニュアル化し、5月上旬に4年次生に配布し、演習担当者である指導教員が責任をもって卒業提出まで指導にあたる体制を構築している。提出後に口頭試問を実施し、主査（指導教員）と副査（学科教員）の2名体制で評価を行うことで、成績評価の客観性と厳格性を担保している（4-⑤-1）。	研究プロジェクト（卒業論文）の評価を複数教員で行うことにより、成績評価の公正性と客観性を担保している。	特になし（(1)現状では、研究プロジェクト以外の学科科目で成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を講じてはいないが、そのことについて学科としてとくに問題であるという認識をもっていない。）	A	(2) 現状では、主査（指導教員）と副査（関連分野の教員）で研究プロジェクトの評価を行っているが、演習によって履修生数に偏りがあるので、必然的に評価しなければならぬ件数に偏りが生じてしまう。件数の多寡は、評価の質にも関わってくるので、偏りをできるだけ減らすような方法を検討することが今後の課題となる。	特になし	4-⑤-1 2018年2月27日開催学科自己点検評価委員会議事録

		学部・学科/研究科・専攻	人類文化学科		氏名	石原 美奈子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>		<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	本学科は、4年間の学習の集大成として、研究プロジェクト(卒業論文)の単位取得を必修としている。学科では、2月末に学科の全教員が参加する自己点検評価委員会を開催しているが、そこで当該年度に提出された卒業論文のタイトルのリストを配付して、情報共有をはかっている(4-⑥-1)。毎年、卒業生を対象としたカリキュラム・アンケートを実施しており、「本学科で習得した力」を問う質問項目を設けている。	卒業論文タイトルを毎年確認することによって、ゼミごとの特徴や指導体制などの確認を行うことができる。	特になし	A	特になし	特になし	4-⑥-1 2019年2月27日開催人類文化学科自己点検評価委員会議事録および資料
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。(2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)ディプロマ・ポリシーについては、取得すべき知識や能力が、学科の目的と照らして適切に定められているかを、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーに定める学習成果を修得させるためにふさわしい教育課程(教育内容、教育方法)を明示しているかを、学科の自己点検評価委員会において点検・評価している(4-⑦-1)。(2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性については、定例の学科会議と、年度末の自己点検評価委員会において検証する体制ができている。	特になし	毎年卒業生を対象として行っている学科のカリキュラム・アンケート(4-⑦-2)で、本学科で修得した力は何かと問う質問項目のうち、「社会に貢献できる力」および「現代社会の諸問題についての関心や知識と、その解決に取り組む意欲」が低くなっている(4-⑦-3)。これらの文言は、カリキュラム・ポリシーに明記されているので、その齟齬について検討する必要はあるだろう。	B	特になし	毎年卒業生を対象として行っている学科のカリキュラム・アンケートで明らかになった問題点については、2021年度カリキュラム改編に向けて2019年度中に学科の時間割・カリキュラム委員が中心になって案をまとめ学科会議で検討していくことが望ましい。	4-⑦-1 2019年2月27日開催人類文化学科自己点検評価委員会議事録および資料 4-⑦-2 2018年度人類文化学科卒業生を対象とするカリキュラム・アンケート 4-⑦-3 2018年10月4日付「2017年度卒業生対象 人類文化学科カリキュラム調査結果」

学部・学科/研究科・専攻			人類文化学科			氏名		石原 美奈子	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。 ③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】 (1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	本学では「2018年度学長方針」に示された留学生受入れ促進方針を受けて、従来から実施してきた外国人留学生入試及び留学生別科推薦入試に加えて、渡日前に入学審査を受けることが可能なEJU利用型入試を2018年度に開始したが、本学科もこれに参加している。	特になし	特になし	A	特になし	特になし
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのよう	学科のアドミッション・ポリシーについては、学科自己点検評価委員会において、大学や学部のアドミッション・ポリシーとの整合性を点検している。	特になし	特になし	A	特になし	特になし

			学部・学科/研究科・専攻	人類文化学科	氏名	石原 美奈子				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	学科の目的に沿って教員を採用・配置するための人事計画を定めている（6-②-1）。大学設置基準上必要となる専任教員数および教授数を遵守することを前提としたうえで、専門分野の構成、年齢構成、男女比のバランスに配慮することを毎年学科会議で確認しており、その結果、教員の構成に偏りのない組織編制ができている。学科将来構想ワーキング・グループ（文化人類学・考古学・哲学・言語学の各領域代表から構成）が、学科からの検討依頼を受けて、任用人事の際の人選、学科の将来像にあった教員編成などについて検討し、答申を学科会議に提起するという体制を整えている。	2018年度、人類文化学科では、人事計画に則り、年齢構成・男女比に考慮し若手教員2名を採用した。	特になし	A	特になし	特になし	6-②-1 2016年6月21日付「人類文化学科のカリキュラムと今後の人事計画について」
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	教員の授業改善に向け、学科では毎年FD研修会を実施している。2018年度は「人文系人材の産業界・企業におけるあり方」というテーマで、外部から講師を招聘し、学科外からも多くの教員の参加がみられた。講演は人文学系学問と産業界との関連について認識を深める内容となっており、学生指導において参考になるものであった（6-④-1）。	学科教員がよりよい授業運営・授業内容の改善に資するFD企画を毎年異なる教員の発案で開催できている。	特になし	A	特になし	特になし	6-④-1 2018年7月20日付け「人類文化学科主催FD企画（人文学部FD企画）について」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の適切性については、具体的な人事案件との関連で学科内に設けた将来構想ワーキンググループが確認し、学科会議で稟議されている。FD活動の適切性については、FD企画の場で意見交換の時間を行うなど、検証の機会を設けている。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	

		学部・学科/研究科・専攻		人類文化学科		氏名		石原 美奈子	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	指導教員が担当する学生の動向や状況を把握し、問題を抱えた学生がいる場合には、適宜相談に乗ったり、あるいは学生相談室や保健センターに行くように指導する体制を整えている。	27条該当者や過年度生については、本人や保証人に連絡をとり、時には保健センターとも相談しながら、学生支援を行っている。	特になし	特になし	特になし	
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	定例の学科会議で、欠席過多の学生や成績不良の学生などについて情報共有を行い、案件によっては対応について協議を行っている。また、年度末に提示される27条該当者や卒業不可者についても指導教員から連絡をとり、学科会議で情報共有し、対応について協議している。	27条該当者や過年度生の状況について、学科会議で情報共有ができており、状況が不明の学生はほぼいない状態となっている（7-③-1, 2）。	とくになし	とくになし	とくになし	7-③-1 2019年2月27日学科会議事録 7-③-2 2019年3月9日学科会議事録

			学部・学科/研究科・専攻	人類文化学科	氏名	石原 美奈子				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	高大連携の一環として中学・高校からの要請に応じて模擬授業の実施や生徒による研究室訪問を受けている。また、人類学研究所と連携して、毎年秋に「人類学フェスティバル」を開催し、学科の魅力を広く社会に発信する機会となっている(9-②-1)。	特になし	とくになし	A	とくになし	とくになし	9-②-1 2018年11月7日学科会議議事録
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	「人類学フェスティバル」には、本学科への受験を考えている学生が見学にくるケースもあり、そのようなケースを学科会議で情報共有することで検証を行っている。	特になし	とくになし	A	とくになし	とくになし	

学部・学科/研究科・専攻			心理人間学科		氏名	浦上 昌則			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	心理人間学科は、「考え方の違いを認めあい互いの個性を尊重しながら、自己を理解していくことが、現代社会ではいっそう必要になっているとの認識にもとづき、心と体、自己と他者、教と学び、人間関係などを理解するための理論的・体験的学習の場を提供する。それらの学習を通じて、人間理解力にすぐれ、人間関係の問題を解決する能力をもち、他者に援助的に関わる資質を備えた人材を養成することを目指している」（1-①-1）と目的に定めている。この目的について、大学および学部の目的との対応、本学科が専門とする分野との対応といった観点から、学科の構成員全員で点検している（「心理人間学科自己点検・評価委員会」1-①-2）。	特になし。	心理人間学科自己点検・評価委員会において、本学科の目的について点検し、特に問題はないと判断した。ただし、「南山大学の目的に関する規程」の心理人間学科の部分とディプロマ・ポリシーの対応関係に不明瞭な部分があるとの指摘もあった。この点は検討すべきである。	B	特になし。	「南山大学の目的に関する規程」の心理人間学科の部分とディプロマ・ポリシーの間の問題であるので、学科長が主体となり、学部長、人文学部他学科科長などの意見も収集した上で、学科会議にて修正の要否および対象と内容の検討を進める。2019年度中に修正の要否を決定し、必要という結論であれば修正案を策定し、学内手続を開始する。	(1-①-1) 「南山大学の目的に関する規程」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1040.pdf (1-①-2) 「2018年度心理人間学科第3回自己点検・評価委員会記録」

			学部・学科/研究科・専攻	心理人間学科	氏名	浦上 昌則			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	2018年度第3回心理人間学科自己点検・評価委員会において、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性について点検した。その結果、整合的であり問題はないことを確認した（4-②-1）。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	(4-②-1) 「2018年度心理人間学科第3回自己点検・評価委員会記録」
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) 各科目の名称・内容、配置年次といった点から、カリキュラム・ポリシーと2018年カリキュラムの科目との整合性について点検した。その結果、整合的であり問題はないことを確認した（4-③-1）。 (2) カリキュラム・ポリシーにそい、初年次には学習の姿勢やスキルに関する「心理人間学基礎演習Ⅰ」、心理、教育人間関係の各分野の基礎的知識の修得を目指す「心理学概論」などを配置しており、専門的な科目の履修、研究へと進む最初のステップとして機能している。いくつかのゼミでは、特定の共通教育科目の履修を推奨している。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	(4-③-1) 「2018年度心理人間学科第3回自己点検・評価委員会記録」

			学部・学科/研究科・専攻	心理人間学科	氏名	浦上 昌則		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法</p> <p>(3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導</p> <p>(4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施</p> <p>(5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>(1) 2017年度から、人文学部共通教育科目として、短期留学プログラムをスタートさせている。</p> <p>(2) 学科教員を対象に調査を行い、ゼミ相当である「心理人間学演習」と非常勤講師担当科目を除く学科科目46科目中、40科目で、ペアグループ学習、ディスカッション、体験学習など何らかの学生の主体的参加を促す方法が導入されていることを把握した。(4-④-1)</p> <p>(3) 学科教員を対象に調査を行った結果、ゼミ相当である「心理人間学演習」と非常勤講師担当科目を除く学科科目46科目中、21科目でWebclass等が指導に活用されている(4-④-1)。</p>	特になし。	特になし。	A	特になし。	(4-④-1) 「2018年度心理人間学科第3回自己点検・評価委員会資料」	
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</p> <p>(2) 学位授与に係る責任体制</p> <p>(3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) 学科教員を対象とした調査から、多角的、多面的な評価視点の導入、出題意図の明示、採点基準の開示などの工夫がなされていることが確認できた(4-⑤-1)。研究プロジェクト論文は、副指導教員との面談、発表会での口頭発表を課して、客観性や厳格性を確保している。また学科が独自に実施している卒業予定者に対するアンケートの自由記述欄に、しばしば評価に関する指摘が表明されるので、課題の発見に利用している。2018年度の調査では、クォーター毎の成績開示を求める声が強いか、PF評価に対する不満(Pの中での差が見えにくいことに対する不満)が確認できた(4-⑤-2)。</p> <p>(2) 学位授与については、学則および「南山大学学位規程」第3条に定める要件及び第13条の手續に従い学長が決定している(4-⑤-3)。</p> <p>アンケートについては、添付ファイルにて対応する</p>	特になし。	<p>学科が独自に実施している卒業予定者対象の調査から、クォーター毎の成績開示を求める声が強いか、PF評価に対する、Pの中での差が見えにくいことに対する不満の声は以前から把握できている。Pの中での差をつけないこと(つけられないこと)が適切であるがゆえにPF評価を選択しているため、それを学生に納得してもらいより他に手だてはない。現在でも担当者より丁寧に説明を行っているが、今後もこれを継続する。</p>	B	特になし。	<p>学科独自の卒業予定者対象調査結果にもあったように、クォーター毎の成績開示が可能になるよう、大学としてご検討いただきたい。</p>	(4-⑤-1) 「2018年度心理人間学科第3回自己点検・評価委員会資料」 (4-⑤-2) 「2018年度卒業予定者対象カリキュラムアンケート」 (4-⑤-3) 「南山大学学位規定」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf

		学部・学科/研究科・専攻	心理人間学科	氏名	浦上 昌則		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	ディプロマ・ポリシーに明示した諸点について、卒業前の1月に卒業予定者を対象に調査を行い自己評価を求めている(4-⑥-1)。2018年度は、2017年度改正前のポリシーに準じ、「多様な観点から自分自身や他者、人間関係、社会を理解する力」など7つのポイントについて自己評価を求めている。なお、卒業予定者対象の調査結果は成績情報とリンクさせて分析を行っている。	特になし。	A	特になし。	(4-⑥-1) 「2018年度卒業予定者対象カリキュラムアンケート」
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)心理人間学科自己点検・評価委員会において、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの内容や、それらの整合性に関して点検している(4-⑦-1)。加えて、卒業予定者対象の調査結果も点検に活用している(4-⑦-2)。 (2)心理人間学科自己点検・評価委員会において点検している(4-⑦-1)。加えて、卒業予定者対象の調査結果も活用している(4-⑦-2)。印象に残っている授業名とその内容について記述を求めている。その内容は整合性の確認や修正に活用されている。なお、結果の一部は学科webで公開し、受講の際の参考に供している(4-⑦-3)。	特になし。	A	特になし。	(4-⑦-1) 「2018年度心理人間学科第3回自己点検・評価委員会資料」(4-⑦-2) 「2018年度卒業予定者対象カリキュラムアンケート」(4-⑦-3) 「卒業予定者による授業紹介」 http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINBUN/Shinriningen/info/nsmail-1.pdf

			学部・学科/研究科・専攻	心理人間学科	氏名	浦上 昌則		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準5	学生の受け入れ ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受け入れを促進するための制度改革をしているか。 【2018年度学長方針】	2018年度より、従来からの制度に、新たにEJU利用型入試を導入することによって受け入れの枠組みを増やした。また2018年度第2回心理人間学科自己点検・評価委員会での新たな促進策についての意見を募った(5-②-1)。留学生視点からの本学科、すなわち日本にあり、日本人とともに、日本語でのコミュニケーション、授業を通して、心理学や教育学、人間関係論を学ぶことを希望する者にとって、進学しやすい制度を検討した。しかしながら、現状の受け入れ制度に加えるべき新たな制度に関する提案はなかった。なお、留学生を受け入れることには肯定的意見が多いが、現状は日本人を対象に日本語で教育をしているため、学科だけでなく全学的な日本語技能のサポートシステムの構築が不可欠との意見が多かった。	特になし。	学科内での議論では、現行の制度に特に課題があるとの指摘はなかった。しかし、これは学科内の意見であり、留学生の声が反映されていないことが課題である	A	特になし	(5-②-1)「2018年度第2回心理人間学科自己点検・評価委員会議事録」
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。【2018年度学長方針】						
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	心理人間学科自己点検・評価委員会において、アドミッション・ポリシーの記載内容、およびカリキュラム、ディプロマの各ポリシーとの一貫性について点検している(5-④-1)。また、新入生、オープンキャンパスに参加した高校を対象として、学科独自の調査を実施しているが、質問の中にアドミッション・ポリシーに掲げる實質ポイントに対する関心の程度を尋ねる内容も含まれている。これに対する回答の様子もアドミッション・ポリシーの適切性に関する情報源としている。2018年度入学者では、心理、人間関係、対人関係といった点への関心が高かった(5-④-2: なお2018年度調査は、2017年度改正前のポリシーに準じている)。	新入生対象の調査結果より、アドミッション・ポリシーに示している入学者に期待する内容については、よく周知され、それに適合した学生が進学してきていると判断している。	A	今後も調査を継続し、状況に関する監視を継続する。	(5-④-1)「2018年度心理人間学科第3回自己点検・評価委員会記録」(5-④-2)「2018年度新入生調査の結果報告」	

				学部・学科/研究科・専攻	心理人間学科	氏名	浦上 昌則		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	2018年度は、新しいメンバーを2人迎えたが、それ以外に大きな変動はなく、当面の計画通りに状況が維持されている。なおこの人事計画は、2016年に大学に対して示した「心理人間学科の新人事枠に対する対応について」(6-②-1)に記載の、中・長期的人事計画にそって進めたものである。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	(6-②-1) 「心理人間学科の新人事枠に対する対応について」
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施しているか、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	本学科の教育面でのFD活動の中心は、毎年3月に実施している「心理人間教育研究会」での発表と議論。心理人間学基礎演習など複数の教員が担当する科目での打ち合わせ、そして学科会議をはじめとする多様な機会をとらえての情報交換の3点が根幹をなしている。特に「心理人間教育研究会」では、授業方法の紹介や提案、成果報告が行われ、意見交換を通して実際の授業に反映されている(6-④-1)。研究面、組織面では、年度当初に「人文学部教員評価のための報告」をもとに、前年度の点検、評価を行っている(6-④-2)。この点検機会は昇格に向けた準備状況の確認という側面もあり、昇格が期待される教員には、学科長より昇格のために必要とされる業績の内容を伝えている。	「心理人間教育研究会」での発表などから、複数教員で担当する「心理人間学基礎演習」を中心に、授業改善に向けたサイクルが機能していることが把握できる。打ち合わせ等も時間を要する活動であるが、今後も同様に継続していく。	特になし。	特になし。	特になし。	(6-④-1) 「2018年度心理人間教育研究会プログラム」 (6-④-2) 「2018年度第2回心理人間学科学科会議議事録」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	FD活動については、「心理人間教育研究会」や複数教員での科目打ち合わせの繰り返しだが、点検・評価の場として機能している。教員組織の編成に関しては心理人間学自己点検・評価委員会で、大学設置基準はもとより、学科の設置目的やカリキュラム運営などにて確認を行っている(6-⑤-1)。	特になし。	本学科は、「心理人間学科の新人事枠に対する対応について」に記載した、中・長期的人事計画にそって教員の削減途中にある。15名体制から12名体制への移行中であり、現在は13名体制となっている。予測では、12名体制でも公認心理師資格対応カリキュラムに対応できるという見込みであったが、この点の点検も中・長期的に継続する必要がある。	特になし。	2018年度よりスタートした公認心理師資格対応カリキュラムは、2021年度にすべての学年で開講されることとなる。現在の13名体制でどの程度の負担増になるのか、2018年度から継続的に監視、点検を続ける。	(6-⑤-1) 「2018年度心理人間学第3回自己点検・評価委員会記録」

		学部・学科/研究科・専攻		心理人間学科		氏名		浦上 昌則	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	毎学科会議において、最初に「学生の状況」という議題を置き、長期欠席や受講の様子、具体的な問題など、目につく学生について情報を交換し、指導教員または学科全体としての対応を検討している。成績不良者に対して補習、補充にかかる時間を設定することはしていない。	会議にて学生の状況を共有することにより、より多くの、また多面的な情報が集められ、指導教員等関係者の指導に活用されている。	南山大学履修規定第27条以外に、学生の履修状況の良不良に言及する規定等はない。そのため、指導すべき成績不良学生（履修規定第27条には該当しないものの、GPAが低い学生など）を特定しにくいという現状がある。	A	特になし。	2019年度中に、学科会議を通して、単位修得状況や成績に関して指導すべき学生を特定するために、学科内の基準を検討、作成する。またこれを学生にも周知する。
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	本学科では、支援の適切性は複数人で対象者を把握し、分析し、対応を合議することによって担保されると考えている。そのために、主として学科会議の場を活用している。	特になし。	特になし。	S	特になし。	特になし。

			学部・学科/研究科・専攻	心理人間学科	氏名	浦上 昌則				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	学科独自の「ホームカミングデー」を研究プロジェクト論文発表会と同じ日に開催し、卒業生の来校を促す企画を継続して行っている。研究プロジェクト論文発表会は学内外に開かれた会として運営しており、卒業生をはじめ、他大学の学生や高校生、学生の保証人、近隣の関心を持つ市民などの参加も散見される。また高校等の教育機関や、各種団体からの講師派遣要請にも、できる限りの協力をしている。教育委員会をはじめとして、教育、福祉に関する学生ボランティアの募集等の要請が寄せられる。これに関しては、心理人間学科合同研究室前の掲示等を通じて学生に周知している。	2018年度の学科ホームカミングデーおよび研究プロジェクト論文発表会は2月3日に開催した。芳名録からは、本学科学生以外に26人の来場があった。入試課もしくは教育・研究支援事務室を通して5件の講師派遣依頼があり、うち4件について派遣できた。	特になし。	A	特になし。	特になし。	
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学科ホームカミングデー、研究プロジェクト論文発表会、講師派遣の依頼等に関しては、学科会議、もしくはメールでの情報共有と確認を行っている。ボランティア等の募集案内に関しては、活動内容に精通する学科教員、もしくは学科長の判断により掲示の可否を決している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	日本文化学科		氏名	西岡 淳				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>		
基準1	理念・目的	<p>① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。</p>	<p>学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。</p>	<p>日本文化学科は、「日本語、日本文化、日本文学を内部からの目で見つめるとともに、他の言語や文化との比較を通して見る、という二つの視座を保ちながら、先ず「日本」を理解し、また自己を反省し検証する方途を見つけることを目指す。そのことにより、内・外の両方の視点に立って「日本」を見つめる研究を教育に生かし、世界に向けて「日本」を語ることでできる有能な人材を養成する」（1-①-1）ことを目的に定めている。この目的は、大学及び学部の目的を踏まえながら、専門分野に応じて具体的に定めたものであり、大学及び学部の目的と連関している。学科の目的の適切性は、定例の学科会議で関連する案件があればその度に確認しており（1-①-2）、更に年度末に行われるFD研修会（2019/3/9）、および次年度始めにかけて学科の自己点検・評価を行う際にも検証している（1-①-3）。これに関連して、毎年行う学生の卒業時アンケートの結果（1-①-4）は、学科の全教員が共有している。</p>	<p>学科Webページのコンテンツをより充実させ、学生や受験生に、学科の理念や目的をより効果的に伝えられるようにした（1-①-5）。</p>	<p>卒業生を対象とするアンケート調査において、「学科科目を増やすとすれば、どのような科目がよいか」の設問に対し、分野（複数）によっては授業数を増やしてほしいとの要望があった（1-①-6）。</p>	<p>A</p>	<p>これまでのWebページ担当者が先導してきた路線を継続しつつ、学科の構成員一人ひとりが、学科内での動きをその都度発信する作業を継続する。</p>	<p>特に卒業生の要望が多い分野を考慮し、2021年のカリキュラム改正を見据えて、学科会議および専門領域の教員間の協議などを通じて、可能な限り要望に応える。</p>	<p>1-①-1「南山大学の目的に関する規程」第10条 https://www.nanzan.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1040.pdf 1-①-2 2018年度学科会議議事録 1-①-3 2018年度日本文化学科FD企画資料 1-①-4 2018年度日本文化学科カリキュラム調査 1-①-5 日本文化学科Webページ (http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/hj/top.html) 1-①-6 2018年度日本文化学科カリキュラム調査</p>

			学部・学科/研究科・専攻	日本文化学科	氏名	西岡 淳			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	日本文化学科のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める学習成果を修得させるために学科科目を開設することを示したうえで、各年次における具体的な教育内容と教育方法を定めている。例えば、教育内容については、「1年次には、各領域の入門的な科目とともに、日本文化学基礎演習Ⅰを配置し、学科での学修に必要な基礎的能力を修得する。2年次には日本文化学基礎演習Ⅱを配置し、日本文化、日本文学、日本語学、日本語教育の各領域における専門的な研究の概要を知り、多様な文化の1つとして日本文化を理解し、位置づける力を養成するとともに、2年次以降は各領域にわたる多種多様な学科科目の履修によって、それぞれの専門的な知識や研究方法を習得する」など。これらにより、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性を確保している(4-②-1)。	2018年度卒業生に対する学科独自のカリキュラム調査において、「本学科への進学を希望した主な理由」が、学科のカリキュラムの内容にほぼ一致する。また、「本学科で習得した力」として、「日本文化・日本文学・日本語学・日本語教育についての基本的な知識」をはじめ、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーに掲げた事項が多く挙げられていることから、入学者が一定の学科に関する情報を得て修学・卒業していることが伺える(4-②-2)。	特になし。		従来通り、カリキュラム調査の結果を学科内で共有するとともに、質問項目の選定や修正を怠ることなく、当面は2021年度のカリキュラム改正に備える。	特になし。	4-②-1 日本文化学科3つのポリシー、2018年度学科会議議事録 4-②-2 2018年度日本文化学科カリキュラム調査
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) カリキュラム・ポリシーに基づき、配当年次に従って科目を編成している。演習科目は受講生を原則15名以内とし、能動的学修の実践によって主体的な学びを体得するようにしている。 (2) 学科必修科目の日本文化学基礎演習Ⅱは、学科の四領域における主要な研究のあり方を学ぶと同時に、学生自身が専門分野を選び、ゼミを選択する際の導入となるよう設計している。	(2) 2018年度FD研修会において、「学科の2年次基礎演習科目のあり方について」と題する活動を行った。本年度の同科目担当者による基調報告と、今後のカリキュラムや学生のゼミ選択などを据え合せて話し合いなどを行うことで、必修である同科目の意味と、学科のカリキュラムにおける位置について再確認できた(4-③-1)。	特になし。		2021年度に予定されるカリキュラム改正を控えて、本年度FD企画のような話し合いを、今後も学科内で継続して持つことが重要である。	特になし。	4-③-1 2018年度日本文化学科FD企画資料

			学部・学科/研究科・専攻	日本文化学科	氏名	西岡 淳			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り留みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り留みが概ね適切である</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法</p> <p>(3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導</p> <p>(4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施</p> <p>(5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>(1) 人文学部共通教育科目として、短期留学プログラムの履修が可能である。</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促すために、日本文化学演習科目(ゼミ)において、少人数のクラスでの読解や調査・発表・議論を繰り返す行い、学生同士のコミュニケーションを通じて自主的に課題に取り組む姿勢を育んでいる。卒業研究はそうした主体的な学びの集大成であり、研究プロジェクト(卒業論文)はその成果である。</p> <p>(3) 教員によってはWebclassを活用している。</p>	<p>(1) 2019年度からは、短期留学プログラムの留学先に、マレーシア・サンウェイ大学が加わった(4-④-1)。</p> <p>(2) 2018年度卒業生のカリキュラムアンケートにおいては、「学部のカリキュラム全体」「ゼミの内容指導」項目に関する肯定的回答(「やや満足」「満足」「非常に満足」の合計)が、それぞれ95.3%、100%と、高い評価が得られた(4-④-2)。</p> <p>学科内のゼミの間での人数差を縮小し、学生への指導が周到に行われるように、2018年度から一つのゼミ当たりの人数を厳密に15名以内とすることとした(4-④-3)。</p>	特になし。	A	<p>カリキュラムアンケートの自由記述欄に記された、評価の具体的な内容に留意し、学科で共有すること。来年度以降のゼミ生の声、およびアンケート結果に継続して注意すること。</p>	特になし。	<p>4-④-1 人文系異文化研修 短期留学プログラムB http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/intl/training/page26.html</p> <p>4-④-2 2018年度日本文化学科カリキュラム調査</p> <p>4-④-3 2018年度学科会議事録</p>
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</p> <p>(2) 学位授与に係る責任体制</p> <p>(3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) 学科科目については、シラバスにおいて到達目標と評価方法を明示し、これに従って厳密に成績評価を行っている。特に4年次の研究プロジェクトについては、上記の基本的な成績評価基準の遵守に加えて、各指導教員が、口頭試問、研究発表会(学生の個別発表・参加者との質疑応答)、最終プレゼンテーションなどの機会を設け、それらを通して教育成果が上がっているかどうかの検証を行っている。その最終的な成果(卒業論文)は、データ化して保存し、合同研究室における閲覧に供することによって、活用と継承をはかっている(4-⑤-1)。</p> <p>(2) 学位授与については学則および「南山大学学位規程」に定める要件及び手続に従って決定されている(4-⑤-2)。</p>	特になし。	<p>研究プロジェクトに関して、学科の教員同士の情報共有にやや弱さが見られる。</p>	B	特になし。	<p>2019年度より、研究プロジェクトの題目一覧を作成し、学科内で共有することとする。</p>	<p>4-⑤-1 2019年度研究プロジェクト発表会資料</p> <p>4-⑤-2 「南山大学学位規定」第3条・第13条 (https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/ki-tei/daigaku/dpart4/d4340.pdf)</p>

		学部・学科/研究科・専攻	日本文化学科		氏名	西岡 淳			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	(1)卒業生に対するカリキュラムアンケートにおいて、ディプロマ・ポリシーに関わる項目「本学科で修得した力」として、「社会に貢献しようとする力」「世界に向けて日本語を話ることができる力」「日本文化、日本文学、日本語学、日本語教育についての基本的な知識」について問うている（4-⑥-1）。	「現状の説明」におけるアンケートの設問のうち、「本学科で修得した力」として、「日本文化、日本文学、日本語学、日本語教育についての基本的な知識」を挙げた卒業生が92%余にのぼった。	特になし。	A	質問事項などの点検を行いつつ、次年度以降もカリキュラム調査を継続して実施して、回答の動向に注意を払いたい。 また、学科教員の専門領域では、専門性の高い測定方法の導入は難しいため、他学科や全学のFD講演会等の企画があれば積極的に参加したい。	特になし。	4-⑥-1 2018年度日本文化学科カリキュラム調査
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)学科の教育目標と、それに関連した教育課程の編成・実施方針などについては、定例の学科会議で関連する案件がある度に確認している（4-⑦-1）。 (2)学科の各領域における関連科目数、内容に関する科目間の調整・点検、各科目の実施方法などについては、学科会議をはじめ、領域別、科目別に関連教員（基礎演習科目では当該年度の担当教員全員、通常の学科科目では各領域の全ての教員）が日常的に把握、点検を行っている。	2018年度FD研修会「学科の2年次基礎演習科目のあり方について」の活動において、学生生活4年間の結節点に履修する同科目の意味を再検討することによって、学科カリキュラム全体を俯瞰して、教育課程の適切性を点検できた（4-⑦-2）。	特になし。	A	来年度以降のFD活動においても、教育課程全体を視野に収められるような企画を可能な限り考えたい。	特になし。	4-⑦-1 2018年度学科会議議事録 4-⑦-2 2018年度日本文化学科FD企画資料

			学部・学科/研究科・専攻	日本文化学科	氏名	西岡 淳		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良質な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>【A】良質な状態にあり、取り組みが顕著である。</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準5	学生の受け入れ	<p>② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。</p> <p>③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p>④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】</p> <p>(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】</p> <p>(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。</p>	<p>(1) 従来より実施していた、外国人留学生入試・留学生別科推薦入試に加えて、渡日前に入学審査が受けられるEJU利用型入試を、2018年度より開始した。一般入試・推薦入試等のすべての入学選抜に際して、入学者の選考基準や合否の確認などを学科会議で慎重に確認し、学生の受け入れが公正に行われるよう留意している（5-②-1）。入学試験の際には入試課と協議してアドバイスを受け、学生の受け入れ数について慎重に判断している。</p> <p>人文学部のアドミッション・ポリシーに示す資質に加えて、学科が求める学生像や入学希望者に求める水準等を明示しているか、またその内容はディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと一貫性があるかを確認している。また、入試種別ごとに、どのような点を評価するかをアドミッション・ポリシーに明示し、入試が行われる際には、選抜の適切性をその都度確認している（5-④-1）。</p>	<p>特になし。</p> <p>特になし。</p> <p>特になし。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>(1) カトリック系推薦入学審査から特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）への移行、南山国際高校の募集停止など、学科の学生受け入れに影響するであろう案件に対し、学科内での議論、入試課との連携などを周到に行いながら対処した。</p> <p>(2) 『HJ』の継続的ないしは定期的な刊行を図るとともに、推薦指定校等に配布するなどして、広報活動を充実させる。</p> <p>学内高校との話し合いの場を継続して持つことは重要だが、基本的には学科での教育を充実させることが、広義の広報活動につながると考えている。</p>	<p>5-②-1 2018年度学科会議議事録</p> <p>5-④-1 2018年度学科会議議事録および入試関連資料</p> <p>5-④-2 学内高校との懇談会記録</p>

			学部・学科/研究科・専攻	日本文化学科	氏名	西岡 淳				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料			
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	大学設置基準上必要となる専任教員数を遵守することを前提とし、教員の任用、昇格、再任用などの人事案件については、その都度学科会議の議題として慎重に検討を行い、議論を重ねて進めている。その際、専門分野の構成、年齢構成などを考慮することとしており、その結果、教員の構成に偏りのない組織編制ができています(6-②-1)。	2018年度には、教員の退職に伴う任用人事3件(教授1名、准教授1名、講師1名)と、名誉教授称号授与1件(教授1名)を行い、学科の年齢構成や専門分野の将来性において、バランスのとれた人員構成になった。	特になし。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要はあるか。)	2018年度は学科のFD企画として、「学科の2年次基礎演習科目のあり方について」と題した活動を行った。内容は、これまでの同科目の担当者4名(日本文学・日本文学・日本語学・日本語教育の各分野から1名ずつ)による授業実施についての報告と、それを承けて今後のカリキュラムや学生のゼミ選択などを見据えた話し合いで、学科の1年次基礎演習科目(必修)が、数年前に運用をより組織的にしたことを承けての企画である(6-④-1)。	2年次基礎演習科目は、学科の4分野それぞれの研究のあり方について学生に知識を与え、3年次進級時に行われるゼミ選択をスムーズに行うことを目的としている。4名の担当者の報告とそれに続く議論では、各分野ごとに個性的な授業運用を行ってきたことが、本来意図した効果が相当程度生んでいること、学生に対するカリキュラムアンケートの結果もそのことを裏付けていることなどが確認された。	特になし。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・検証を行っているか。	(1)教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の編成については、大学設置基準上必要となる専任教員数を遵守することを前提とし、教員の任用、昇格、再任用などの人事案件については、その都度学科会議の議題として慎重に検討を行い、議論を重ねて進めている。その際、専門分野の構成、年齢構成などを考慮することとしている(6-⑤-1)。FD活動の適切性については特に行っていない。	特になし。	FD活動の適切性の検証が行われていない。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。

		学部・学科/研究科・専攻	日本文化学科	氏名	西岡 淳		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	学生教育・指導に関しては、毎年4月に行う新入生学外オリエンテーションを始め、全ての学生が履修する基礎演習および演習の授業を通じて、学生・教員間のコミュニケーションをはかっている。特別な指導を要する学生に対しては、学科会議等を通じて恒常的に教員全員で情報を共有し、指導教員を中心に学科全体で指導することにより対応している(7-②-1)。	必修科目に欠席の多い学生については、そのつど授業担当者が学科会議で現状を報告し、他の授業の出席状況を照会することとしており、学生への細やかな指導・支援につなげている。配慮を要する学生に対しては、学内の学生支援組織と連携して対応し、一定の評価を得ている(「現在の配慮に対する満足度」が「非常に満足している」。「配慮を要する内容」の項目数が、2017年度に比べて約半数に減少)(7-②-2)。	特になし。	特になし。
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	「日本文化学基礎演習1」の担当教員間で、毎回授業内容について打ち合わせを行っており、成績評価についても相互に確認している。学科の教育の成果ともいえる研究プロジェクト(卒業論文)については、質に或る程度のばらつきは見られるが、各指導教員が時間をかけて丁寧に指導をしており、教育成果として概ね満足できるものである。卒業時のカリキュラムアンケートを用いて学生の満足度を把握し、改善・向上に繋げている。	2018年度卒業生のカリキュラムアンケートにおいては、1・2年次基礎演習が大学での学びに役立ったかとの設問に対して、85.6%の学生から肯定的な回答(「やや満足」「満足」「非常に満足」の合計)を得られた。また、個人研究(研究プロジェクト)、ゼミの内容指導についても、それぞれ84.9%、100%と、基本的に良好な結果が得られた(7-③-1)。	特になし。	特になし。

			学部・学科/研究科・専攻	日本文化学科	氏名	西岡 淳				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	高大連携の一環として、学園内高校からの要請に応じて模擬授業を実施し、質問などを受けている。人文学部の他学科とともに学園内高校教員との懇談会を開催し、意見交換を行っている(9-②-1)。	学園内高校からは、ほぼ推薦依頼人数に見合う合格者が得られており、模擬授業や教員との懇談会が、一定の効果を挙げていると思われる。学科教員の社会連携、社会貢献に関連する取り組みについては、以下のような例がある。博物館や市民講座等における講演講座、文化財審議会委員、学会理事・評議員・査読委員としての活動、教員免許更新講習担当など。これらを通じて、各々の研究成果を社会に還元している(9-②-2)。	特になし。	A	高大連携に関する取り組みに関しては、最低でも現状を維持しつつ、従来実施している内容をより充実させるよう配慮する。社会に対する貢献については、2019年度より着任した3名の新任教員が、専門分野においてこの地域に密着した業績・実績を持つことから、従来は本学科になかったかたちでの地域とのつながりを期待したい。	特になし。	9-②-1 2018年度学園内高校進路指導教員との面談記録 9-②-2 2018年度 人文学部教員評価報告
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	毎年行われる学部構成員の教員評価において、学科長が学科教員より提出された評価報告書を点検・評価している。	特になし。	特になし。	A	特になし。		

			学部・学科/研究科・専攻	外国語学部	氏名	牛田 千鶴			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>		
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	<p>学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。</p> <p>外国語学部の基本理念は、外国語の運用能力を身につけ、それに加えてその外国語の学問的研究、および、その言語が話される国や地域の文化と国際関係について、基本的知識と学問的訓練とを身につけた広い視野の人物の育成をすることである。言語の修得と地域研究の双方を重視したカリキュラムにより、異文化理解の素養の育成や、文化や価値観の多様性を尊重する態度の形成を促進し、グローバル社会で活躍できる人材を養成することを目的としている。これらは大学の理念・目的の下で設定されており、異文化を理解し、他者を尊重できる資質を涵養することで、「人間の尊厳のために」という本学の教育モットーを具現化しようとするものである（1-①-1～3）。</p>	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	<p>1-①-1「南山大学の目的に関する規程」第3条（https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/okai/pdf/d1040.pdf）</p> <p>1-①-2 南山大学Webページ「外国語学部」（https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof.html）</p> <p>1-①-3『2019年度大学案内』および同誌に添付されている「2019年度南山大学入学試験要項」別冊子（「南山大学3つのポリシー」）</p>

		学部・学科/研究科・専攻		外国語学部		氏名		牛田 千鶴		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である。 [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。 ③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。 (1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	高度にグローバル化した現代社会の各分野で活躍し、多文化共生社会の構築に寄与できる人材の育成を目指す外国語学部は、そのディプロマ・ポリシーにおいて、「専門とする外国語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度な外国語運用能力」ならびに「専門とする地域についての多分野（言語、文化、歴史、政治、社会など）にわたる知識をもとにした問題解決能力」を身につけた学生に学位を授与する、としている。また、カリキュラム・ポリシーにおいては、上記の能力を養成するために、共通教育科目、学部共通科目、学科科目を配置し、外国語教育と地域研究教育の2つを軸とするカリキュラムを編成しており、ディプロマ・ポリシーと整合している（4-②-1～2）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-②-1 南山大学Webページ「外国語学部」(https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof.html) 4-②-2 『2019年度大学案内』および同誌に添付されている「2019年度南山大学入学試験要項」別冊子（「南山大学3つのポリシー」）
				新旧両カリキュラムの整合性に留意し、履修者数とクラス数の不均衡等、問題が生じた際には必要な措置に運用がなされてきている。しかしその一方で、科目の位置づけという観点から、学部共通科目と学科専門科目との関連性について見直しが必要な状況が生じている（4-③-2）。	新カリキュラム導入に伴い、各学科から学科科目群のうちのいくつかの科目が学部共通科目として他学科生にも開放されることとなった。しかしながら、そうした科目の中には、対象地域に関して一歩踏み込んだ事前知識や、その地域の言語を運用する能力がある程度必要とされる、他学科生にとっては難易度が若干高いと感じられる科目も含まれているため、各学科で今後、どの科目を継続して提供していくべきかについての再検討が必要である。	B	改組後4年を経過した2021年度時点（すなわち入学時に旧カリキュラムが適用されていた学生の大半が卒業した時点）で、新カリキュラムがしっかりと定着していることを目標とする。	外国語学部内に既に「学部共通科目検討ワーキング・グループ」を立ち上げ、見直しを進めている（4-③-2）。2019年度中に具体的な調整を行い、2020年度に履修要項の改正を済ませたのちに、2021年度入学者より運用を開始する予定である。	4-③-1 『2018年度履修要項』 4-③-2 「学部共通科目検討ワーキング・グループ」第1回・第2回配付資料（2018年8月3日および12月13日開催）	

			学部・学科/研究科・専攻	外国語学部	氏名	牛田 千鶴			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[2] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である</p> <p>[B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数を、冊子の場合はURLを必ず明示してください。</p>
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法</p> <p>(3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導</p> <p>(4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施</p> <p>(5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>(1) 従来の海外事情・言語実習（短期海外研修プログラム）を、2017年度より「海外フィールドワーク」に改称し、2018年度には9か国10プログラムに拡大して実施した（英米学科：アメリカンハワイ大学、イギリス・チェスター大学/スペイン・ラテンアメリカ学科：スペイン・サラマンカ大学、コロンビア・ハバリアナ大学、メキシコ・グアナフアト大学/フランス学科：オルレアン大学、リヨン・カトリック大学/ドイツ学科：IHKデュッセルドルフ/アジア学科：台湾一輔仁大学、インドネシア・サナタ・ダルマ大学）。事前学習や現地研修においてアクティブ・ラーニング形式がとり入れられ、学生の主体的かつ積極的な学びが促された。このほかドイツ学科、スペイン・ラテンアメリカ学科では、例年通り協定校から学生2名を招聘し、学内に居ながらにしての国際交流の機会となった（4-④-1）。尚、(2)(3)については、各学科作成の本欄に具体的取り組み状況を記載している。</p>	短期プログラムについては学内でも最大のプログラム数を運営し、かつ長期派遣留学に出かけた学生数も学部全体で計105名（交換82名/認定22名/推薦1名）に上った（4-④-2）。	特になし。	S	ドイツ学科のプログラムについては、デュッセルドルフに加え2019年度にはベルリンでも実施する予定である。他学科についても、プログラム内容を一層魅力的なものとしていくため、現地ホスト校とのさらなる関係緊密化に努めるとともに、新規プログラム開拓の可能性についても引き続き検討していく。	特になし。	4-④-1「海外フィールドワーク報告書」（各学科作成） 4-④-2 外国語学部教授会審議資料（2017年11月29日、2018年6月27日、2018年11月28日開催分）
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</p> <p>(2) 学位授与に係る責任体制</p> <p>(3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) 複数教員が担当する必修外国語科目については、各学科で十分にコーディネートがなされており、同一問題・同一基準による評価や成績評価分布の平準化等を通じ、客観性と厳格性を担保している（4-⑤-1）。</p> <p>(2) 学位授与については、学則ならびに「南山大学学位規程」に定める要件および手続きに従い、外国語学部教授会による審査を経て、学長が決定している（4-⑤-2）。</p>	特になし。	2020年度より、スペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科で、卒業論文完成に向けた「研究プロジェクト」（4単位）が開講される。授業という形態をとらない科目であるため、具体的運営方法や複数教員による評価方法の導入等、今年度中に確定しておく必要がある。	A	特になし。	「研究プロジェクト」の運営・評価方法については、関係する3つの学科間で連携を取りつつ検討を重ね、学科長会議での協議を経て2019年秋までに確定し、2020年度用シラバスに明示する。	4-⑤-1 各学科における本欄記載の学科会議資料・議事録 4-⑤-2 「南山大学学位規程」第3条および第13条 (https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/okai/pdf/d4340.pdf)

			学部・学科/研究科・専攻	外国語学部	氏名	牛田 千鶴				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [5]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 【A】良好な状態にあり、取り組みが適切な水準にある。 【B】改善の余地がある。 【C】重要な問題があり、さらなる改善が求められる。	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	学期ごとの定期試験やレポートの水準、ならびに「学生による授業評価」により、学習到達度や満足度を確保している(4-⑥-1)。在学期間中の学習成果の集大成ともいえる卒業論文についても、判定会議を通じて指導教員以外の視点からの評価も加えることで、より客観的かつ総合的な判定に取り組んでいる学科もある。また、外国語運用能力については、海外フィールドワークに参加する学生に、国際化推進事業予算より、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に準拠した外国語能力検定試験の受験料の補助を行うなどして、学習成果測定の一助としている(4-⑥-2)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑥-1『「学生による授業評価」のまとめ2018年度第1クォーター・第2クォーター』 4-⑥-2「南山大学国際化推進事業（第4期）成果報告（2018年度）」および「国際化推進事業費2018年度決算」（2019年4月23日開催学科長会議協議資料）	
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)ディプロマ・ポリシーについては、修得すべき知識・技能といった学習成果が、学部・学科の目的と照らして適切に定められているかを、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーに定める上記の学習成果を修得させるために、ふさわしい教育課程（教育内容、教育方法）を明示しているかを、学科ごとに学科会議等で点検・評価を行い、学科長会議においてその情報を共有している。(2)年度ごとの時間割編成作業を通して、カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性や適切な開講数等について確認している(4-⑦-1)。	学内外で開催される外国語スピーチコンテストやオーラル・インタプリテーション大会等での学生の上位入賞実績は、間接的ではあるが、本学外国語学部における教育課程とその内容・方法の適切性の評価につながるものである。また、毎年5月に開催される学部長表彰式において、被表彰者ひとりひとりから寄せられる意見も、学部教育に関する点検・評価の貴重な機会となっており、カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性に関する検証の一助としている(4-⑦-2)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑦-1 各学科における本欄記載の学科会議資料・議事録 4-⑦-2 「2018年度外国語学部学部長表彰式における学生からの意見・要望 覚書」

			学部・学科/研究科・専攻	外国語学部	氏名	牛田 千鶴				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき、学生募集・入学選抜を公正に実施している。留学生の受入れについては、外国高等学校卒業等入学審査、外国人留学生入学審査、外国人留学生別科留学生推薦入学審査がある。加えて2018年度からは、新たに「EJU利用型」の入学審査を導入した（5-②-1）。このほか、国際化推進事業の一環として、ドイツおよびスペインから毎年2名ずつ計4名の学生を招聘し、短期受入れ（1～2ヶ月間）を継続的にしている（5-②-2）。	短期受入れではあるが、海外フィールドワークでの学生派遣先国でもあるドイツとスペインから毎年、計4名の学生を招聘している。渡航後に予定されている現地での交流活動の準備作業に、事前授業等を通じて共に取り組むことにより、日本と現地での学生交流が継続的に行われている。具体的には、授業内外での外国語学習における支援やドイツ語劇・スペイン語劇の練習・上演に関するサポート、サラマンカ大学日西文化センター主催の日本文化週間における本学学生の発表に関する準備段階からの支援と助言、長期留学希望者に対する相談等、様々な活動を通じて交流が日本と現地で継続的に展開されている。	特になし。	A	本学学生との交流活動に積極的に関わることを望む意欲的な学生を選考していただけるよう、協定校関係者となり緊密に連携し、引き続き良好な関係を維持していく。	特になし。	5-②-1 2019年度11月試験志願者数報告、入試種別一覧「その他の入試」 (http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/sonota.html) 5-②-2 「南山大学国際化推進事業（第4期）成果報告（2018年度）」・「2018年度におけるハインリッヒ・ハイネ大学からの招聘学生の受入れに関する運用細則」・「学生を核とするサラマンカ大学との双方向型交流プログラム運用細則」
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	外国語学部の入学定員は英米学科が150名、他の4学科がそれぞれ60名で計390名となっている。2016年度までは英米学科の入学定員が185名、フランス・ドイツ・アジアの3学科が各50名であったことから、編入学生の定員を合わせた2018年度の収容定員は1,629名であった。2018年6月1日現在の在籍者数は1,772名（収容定員の1.09倍）であるが（5-③-1）、外国語学部には長期留学をする学生が多く卒業を延期する事例が珍しくないことから、定員管理は適正であると判断できる。	特になし。	2017年度の学部改組以降、専攻制を導入したスペイン・ラテンアメリカ、フランス、ドイツ、アジアの各学科において、二専攻間の志願者数に不均衡が生じている（5-③-2）。	B	特になし。	オープンキャンパスや高大連携事業・入試広報活動の一環としての講師派遣等、さまざまな機会を利用して各専攻の特長をアピールし、専攻間の志願者数は正に少しでもつながらよう、学部を挙げて取り組みたい。	5-③-1 「2018年6月1日現在学生数（学部生・春学期入学者/秋学期入学者合計）」（学生課作成資料 2018年6月1日 PORTA掲出） 5-③-2 「2019年度（平成31年度）入学試験総括表<1年次入学>」（2019年4月16日開催 入学試験委員会 報告資料）
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	毎年度、各種入学試験の募集要項に関する変更の有無を検討する際に、学部・学科のアドミッション・ポリシーとの整合性および学生受入れの適切性について確認し、点検・評価を行っている（5-④-1）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	5-④-1 各種入学試験要項

			学部・学科/研究科・専攻	外国語学部	氏名	牛田 千鶴				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述して、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [1S] 極めて良好な状態にあり、期待がもたらされた状態にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが確かなる [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、根本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	大学設置基準上必要となる専任教員および教授数を遵守することを前提に、各学科の目的と将来構想に基づき、専門分野の構成や年齢構成等に留意しつつ、年度当初の人事計画案がまとめられる。外国語学部では、5学科からの上記案の提示を受け、学部全体の適切な教員配置・組織編成のための調整を行い、外国語学部人事計画を策定している（6-②-1）。その計画に則り、2018年度は任用人事3件（うち特別任用2件）、再任用1件、昇格1件、特別任用任期更新4件、留学延長1件、研究休暇1件、名誉教授称号1件の人事が成立した。	年度当初に策定された人事計画に則り、概ね順調に学内手続きを進めることができた。また、アジア学科、ドイツ学科にそれぞれ女性新任教員が着任し、教員構成のジェンダー・バランスにもやや改善が見られた（6-②-2）。	特になし。	A	着実に人事案件手続きを進めるとともに、留学や研究休暇については、学科間の公平性や学部全体の人的配置に留意しながら、学科長会議や外国語学部教員評価委員会で検討していく。	特になし。	6-②-1「2018年度外国語学部人事計画」6-②-2「外国語学部教授会構成員」（2018年9月12日および2019年4月10日開催外国語学部教授会配付資料）
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部・研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	外国語学部では、FD活動の取組として、2018年度においても、FD研修会および学部自己点検・評価委員会懇談会を実施した。FD研修会（7月27日）では、今後のCOLLの活用を視野に入れて、「テレコラボレーションの実践と今後の展望」をテーマに掲げて、ノースジョージア大学講師の西尾知恵氏を講師に迎え、遠隔学習の事例紹介と今後のパートナーシップやプロジェクトのあり方についての予備・提言をしていただいた。参加者は28名であった。 学部自己点検・評価委員会懇談会（3月11日）では、各学科から2018年度のFD活動を含む自己点検・評価の報告と、意見交換を行った。参加者は44名であった。このほか学科単位では、ドイツ学科主催FDワークショップとして、ドイツの教科書出版編集者による「スマートフォンを使ったドイツ語授業」、ならびに日本人研究者による「ドイツ語ダイアログの会話分析」の2件が開催された（6-④-1）。	学部主催のFD研修会には日時の制約もあってか参加者が28名に留まったが、年度を通じての学部構成員のFD研修参加率は82.8%に達した。また、学部自己点検・評価委員会懇談会では、学部長および各学科長が、2018年度の自己点検・評価報告を行った後、参加者全員で今後の学部運営や教育研究体制についての活発な意見交換がなされた。学部の伝統を受け継ぎつつ、今後も教員と職員が一丸となって学部運営を行っていく方針を確認した。学科の枠をこえた教員同士の交流だけではなく、普段はなかなか聞くことのできない事務職員の意見も聴取できる非常に貴重かつ大変有益な機会となった（6-④-3）。	特になし。	A	外国語学部における教育内容のさらなる質的向上に資するような研修会のテーマを、学部FD委員会および学科長会議において今後も検討し、実施していく。	特になし。	6-④-1「2018年度外国語学部FD活動報告」6-④-2「2018年度FD研修会等参加実績」（2019年5月6日開催自己点検・評価委員会配付資料）6-④-3「2018年度外国語学部自己点検・評価委員会実施メモ」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・検証を行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の編成方針については、年度ごとの人事計画策定時に、中長期的な学部・学科の将来構想計画の中に当該年度の人事計画を位置づけることを念頭に、その適切性について学科長会議で議論し検証を行っている（6-⑤-1）。FD活動については、当該年度末から次年度初頭にかけての「FD活動報告書」および「FD活動計画書」作成時に、学科長会議・学部FD委員会・教授会等で振り返りや情報共有、意見聴取、協議等を行い、検証している（6-⑤-2）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	6-⑤-1 外国語学部学科長会議資料（2018年4月11日開催）6-⑤-2 「2018年度外国語学部FD活動計画」・「2018年度外国語学部FD活動報告」・「2019年度外国語学部FD活動計画」

		学部・学科/研究科・専攻		外国語学部		氏名		牛田 千鶴		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をクエズの場合はURLを必ず明示してください。			
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	多様な背景をもつ学生に関しては、授業担当教員・指導教員・学科長（および学部長）との間でまずは情報が共有され、状況に応じて教務課・学生課・保健室等と連携しながら組織的に対応している。履修規程第27条に係る成績不良学生については、全学的及び学部内ルールに則り、指導教員による指導内容について学部教授会で審議・決定したうえで、必要に応じてその後も経過報告を求めるなどして適正に対応している（7-②-1~3）。	学科内サポートチームの結成やTAの導入、オフィスアワーでの個別対応等、各学科において学生への支援体制を整えている。	特になし。	A	支援を必要としながらも、教員やTAを頼るに至っていない学生にも留意し、より万全な支援体制の整備に引き続き努める。	特になし。	7-②-1「南山大学授業科目履修規程第27条」 7-②-2「外国語学部了解事項（2000年7月5日開催外国語学部教授会にて承認）」 7-②-3「2018年度第1回外国語学部教授会議題（2018年4月11日開催）および2018年度第13回外国語学部教授会議題（2018年10月24日開催）」
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	修学支援（指導強化等）後の成績状況に関し学部教授会で確認し、検証を行っている（7-③-1~2）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	7-③-1「外国語学部了解事項（2000年7月5日開催外国語学部教授会にて承認）」 7-③-2「2018年度第13回外国語学部教授会議題（2018年10月24日開催）」

			学部・学科/研究科・専攻	外国語学部	氏名	牛田 千鶴				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	グローバル社会の第一線の日々奮闘する学外の専門家を招き、「国際社会で活躍するキャリアを考える特別プログラム」公開特別講座を年間5回開催した(9-②-1)。1年次生向けの「キャリアデザイン」科目においても、国内外に広く拠点を有する企業・団体・新聞社等から学外講師を招き、早い段階での学生のキャリア意識の涵養に努めた(9-②-2)。外務省との連携による「外交講座」も2回開催した(9-②-3)。「英語教員セミナー」の開催(42回目)や、各種外国語検定試験の会場運営・審査においても、学部教員が貢献した。国際交流については、9カ国10プログラムの海外フィールドワーク、およびドイツとスペインからの学生招聘による交流活動、講演会等を通じた研究交流が展開された。卒業生との連携も、企業説明会等を通じた就職支援、短期・長期留学先での領事館・日系企業訪問時やインターンシップの受入れ等において緊密に行われている(9-②-4)。	左記の各種活動を中心に、外国語学部では様々な取組を積極的に展開している。卒業生との連携も、現役学生にとっては自身のキャリアを検討するうえでよい刺激となっている。	特になし。	S	2021年度以降は学部構成員数が縮小される予定であるため、すべての活動にいかによりバランスよくマンパワーを割いていけるかが今後の課題であるが、現状の活動内容を維持できるような態勢を整えていきたい。	特になし。	9-②-1 南山大学Webページ (https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof/program.html) 9-②-2 南山大学Webページ (https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fof/career.html) 9-③-3 外交講座案内チラシ 9-②-4 「国際化推進事業報告書」(各学科作成)および文部科学省「大学の世界展開力強化事業」実績報告書(国際センター作成)
	社会連携・社会貢献	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	各種取組に関し学科長会議で情報共有するとともに、プログラム内容・費用等を中心に学科長会議の協議事項として適切性・妥当性等について確認している。キャリアデザインの外部講師については、教授会で審議の上、委嘱を決定している。海外フィールドワークや学生招聘事業については、前年度までの実績から要改善事項を抽出し、協定校との協議を経て当該年度の運用細則に反映させ、外国語学部国際化推進委員会および教授会での審議・決定というプロセスを踏むことで、プログラム内容の適切性を検証し担保している(9-③-1)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	9-③-1 2018年度外国語学部教授会・学科長会議・国際化推進委員会各議題

		学部・学科/研究科・専攻	英米学科	氏名	鈴木 達也					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	英米学科は、専攻言語である英語に習熟するとともに、専門分野としての言語学、コミュニケーション研究、英米文学、英語教育、アメリカ研究、国際関係論などの諸領域における研究を通して体系的で包括的な専門知識を身につけ、十分な国際理解力と異文化対応能力を発揮しながら、現代のグローバルな多文化共生社会において活躍できる人材の養成を目的としている(1-①-1)。この目的は、大学及び学部の目的を踏まえながら、専門分野に応じて具体的に定めたものであり、大学及び学部の目的と連関している。大学案内誌、学部パンフレット、学科HPにおいても、「南山大学の目的に関する規程」の趣旨を踏まえつつ、広く社会に学科の紹介を行っている(1-①-2、1-①-3、1-①-4)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	1-①-1「南山大学の目的に関する規程」第3条第2項第1号 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1040.pdf 1-①-2「2019年度大学案内誌 pp. 43-44」1-①-3学部パンフレットp.2 1-①-4「英米学科：学科の紹介」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fb/top.html

			学部・学科/研究科・専攻	英米学科	氏名	鈴木 達也			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[E] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である</p> <p>[B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	英米学科では、外国語学部のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を踏まえて学科のディプロマポリシーを定め、それと整合するカリキュラム・ポリシーに従って各年次における具体的な教育内容と教育方法を定めて、広く社会に公表するとともに学科会議にて自己点検を行なっている(4-②-(1))。学科科目では、基礎教育として、情報収集、プレゼンテーション、ディスカッション、論文作成、コンピュータの利用などに関する技法を習得するための必修科目を配置すると同時に、学術的な議論ができる水準まで英語運用能力を高めるための科目を配置し、専門教育では、英語圏の文化と社会についての知識、人文学・社会科学的な思考力、的確な表現力を身につけるための科目を配置している。カリキュラム全体を通してアクティブ・ラーニング(能動的学習)を取り入れ、学生の主体的な学びを積極的に評価することを明示している。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	4-②-(1)「英米学科 3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fb/policy.html 、「2018年度第1回学科会議」資料および議事録、「2018年度第11回学科会議」資料および議事録
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1)カリキュラム・ポリシーに基づき、配当年次に従って科目を編成している。ただ、現行のカリキュラム・ポリシーでは、2年次の海外フィールドワークへの参加を通して英語運用能力の向上と異文化環境への適応力の涵養を図り、3年次からの長期留学に繋がることを想定しているが、長期留学する年次が従来の3年次から2年次に前倒しされる傾向が高まっている。(2)初年次教育としては、1年次学科必修科目のAcademic English Aにて、全クラス共通の学科独自作成教科書を使用するとともに、コーディネーターを置いて質的管理を行なっている(4-③-(2))。	特になし。	長期留学する年次が従来の3年次から2年次に前倒しされる傾向が顕著になった場合は、海外フィールドワークの長期留学への呼び水としての位置付けを再検討する必要がある。2019年度中にカリキュラムの見直しも視野に入れて学科内で検討する。	特になし。	学科内にカリキュラム検討プロジェクトチーム、海外フィールドワークプロジェクトチームを組織して状況を慎重に分析し、対策が必要であるかどうか、2019年度中に学科会議にて判断する。	4-③-(2) 2018年度英米学科FD活動報告

			学部・学科/研究科・専攻	英米学科	氏名	鈴木 達也		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが顕著である。</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
	<p>④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法</p> <p>(3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導</p> <p>(4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施</p> <p>(5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>(1) 2018年度より学科短期留学プログラム（海外フィールドワークA、B）を実施し、それぞれ学科2年次生の32名と50名が参加した。これは学科2年次生の約59%の参加率である（4-④-(1)）。</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促すために少人数クラスのSpecial Topics in Englishの授業を24クラス開講した（4-④-(2)）。</p> <p>(3) Webclassを約半数の教員が活用している（4-④-(3)）。</p>	<p>長期留学（「留学」の身分および「休学」の身分による）ならびに短期留学によって、多くの学科生が海外生活を体験している（4-④-(4)）。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>4-④-(1) 「海外フィールドワークA報告書」、 「海外フィールドワークB報告書」 4-④-(2) 教務課提供資料、4-④-(3) 「WebClass使用状況回答」、4-④-(4) 「国際センター提供資料」、 「2018年度英米学科休学留学生一覧」</p>
	<p>⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</p> <p>(2) 学位授与に係る責任体制</p> <p>(3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) 複数クラスの授業科目の成績評価の客観性、厳格性を担保するために、1年次学科必修科目のAcademic English A、2年次学科必修科目のAcademic English Bともにコーディネータを定め、教員間の成績評価分布の平準化を図っている（4-⑤-(1)）。</p> <p>(2) 学位授与については学則および「南山大学学位規程」に定める要件及び手続に従い、学科で要件を確認の上、外国語学部教授会による審査を経て、学長が決定している（4-⑤-(2)）。</p>	<p>Academic English A、Bにコーディネータを設けたことにより、複数クラスの授業科目の場合でも、成績評価分布や授業についていけない学生の有無等、問題点の把握が可能になった。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>4-⑤-(1) 第1回学科会議資料、第1回学科会議議事録 4-⑤-(2) 「南山大学学位規程」第3条 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koikai/pdf/d4340.pdf</p>

			学部・学科/研究科・専攻	英米学科	氏名	鈴木 達也			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、技術的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	<p>⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)</p>	<p>(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)</p>	<p>個々の科目については、担当教員が定期試験の結果を分析することによって（マークシートによる解答の場合）、得点分布等の分析結果等）、全体的な達成度や満足度は大学で実施している学生による授業評価によって確認している（4-⑥-(1)）。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>A</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>4-⑥-(1) 「マークシート解答採点結果」、「2018年度第1クォーター、第2クォーター学生による授業評価アンケート結果」</p>
	<p>⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>(1) ディプロマ・ポリシーについては取得すべき知識、技能、態度等と照らして適切に定められているかを、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーに定める上記の学習成果を修得させるために、ふさわしい教育課程(教育内容、教育方法)を明示しているか、を、学科会議において点検・評価している（4-⑦-(1)）。(2) 時間割編成作業を通して、適切な開講数等を確認し、学科会議で情報共有している（4-⑦-(2)）。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>A</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>4-⑦-(1) 第1回、第4回、第5回、第9回、第11回、第12回学科会議、学科会議事録 4-⑦-(2) 第12回、第15回学科会議、学科会議事録</p>

			学部・学科/研究科・専攻	英米学科	氏名	鈴木 達也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		視覚資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した状態にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。 ③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 ④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】 (1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】 (1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	英米学科の入試種別には、外国高等学校卒業生等、外国人留學生入学審査、外国人留學生別科留學生推薦入学審査がある。一方、受け入れ後の教育についても、必修科目をはじめ、学科の多くの授業が英語で行われており、学科として留學生を受け入れる体制が整っている。 学科の入学定員は2017年度から150名となっており、編入学生の定員9名を合わせた収容定員は723名である。2018年5月1日現在の在籍者数は742名（定員の1.03倍）であるが、英米学科では長期留學をする学生が多く卒業を延期する学生が少なからずいることも踏まえて、定員管理は適正であると考えている。 年度始めに入学試験の募集要項の確認をする際に、アドミッションポリシーとの整合性を確認している。その際、その内容がディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと一貫性があるかについても点検・評価している。	特になし。 特になし。 特になし。 特になし。	英米学科生全体に占める留學生の割合は低い状態にある。 特になし。 特になし。 特になし。	B A A	特になし。 特になし。 特になし。	2019年度内に、どのような対策が有効であるか学科内で検討する。 特になし。 特になし。	2019年度11月試験志願者数報告書、入試種別一覧「その他の入試」 http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/sonota.html 在籍学生数_学部生_20180501 各種入学審査要項

			学部・学科/研究科・専攻	英米学科	氏名	鈴木 達也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	英米学科では、学科の目的に沿って教員を採用・配置するための人事計画を定めている(6-②-(1))。大学設置基準上必要となる専任教員数および教授数を遵守することを前提とし、年齢や性別などのバランスに配慮しながら教員組織を編成している(6-②-(2))	特になし。	人事計画に沿った教員組織の編制を継続的に行っているが、改組のために他学部に移籍した教員がおり、専門分野の構成や年齢構成にやや偏りが生じている。	B	特になし。	今後の任用人事の際に、職位の別（教授、准教授、講師）に配慮して、調整をしていく。	6-②-(1)「英米学科人事計画」 6-②-(2)「2018年度 南山大学教育職員配置表」
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	教員の授業改善に向け、毎年、前年度の学科のFD活動報告書をまとめ、1年間の学科のFD活動計画を定めている。教育活動や研究活動、社会貢献などの社会的活動など、教員の業績を毎年評価しており、業績が不十分な場合には、学科長および学部長と面談を行うシステムを取り入れている。(6-④-(1))	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	6-④-(1)「2018年度英米学科FD活動報告書」、 「2019年度英米学科FD活動計画」、第5回、第11回、第13回学科会議資料ならびに議事録、 「2017年度英米学科教員評価報告書」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の適切性については、年度始めの英米学科の人事計画作成時に、大学設置基準上必要となる専任教員数および教授数を満たしているかを確認し、専門分野の構成、年齢構成を学科内で点検・評価するとともに、学部の教員評価委員会にてその適切性を点検・評価している。また、FD活動の適切性については、学科長が学科のFD活動報告書ならびにFD活動計画を作成する際に事前に学科内で情報共有して検討を重ねることにより検証を行っている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	6-⑤-(1)「2018年度英米学科FD活動報告書」、 「2019年度英米学科FD活動計画」

		学部・学科/研究科・専攻		英米学科		氏名		鈴木 達也	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	英米学科では、特別な支援が必要と思われる学生について、授業の各担当者から学科長に情報が上げられ、必要に応じて学科として組織的な対応をするようにしている。成績不良学生については、全学的なルールならびに外国語学部内のルールに則り、指導教員による指導と経過について学科および学部内で情報を共有している。	特になし。	A	特になし。	特になし。	7-②-(1)「南山大学授業科目履修規程第27条」、外国語学部了解事項（2000年7月5日開催外国語学部教授会にて承認）、2018-7-3障がい者サポートプロジェクトチーム会議資料
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学科会議で修学支援が必要な学生の情報を共有し、支援・指導を行った後の成績に基づいて効果の有無を確認し、就学支援の適切性を検証している。	特になし。	A	特になし。	特になし。	第21回、第22回学科会議資料および議事録

			学部・学科/研究科・専攻	英米学科	氏名	鈴木 達也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが継続した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが適切である</p> <p>[B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重微な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 視座の場合は、具体的な集数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準9	社会連携・社会貢献	<p>② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。</p>	<p>(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】</p>	<p>高大連携の一環として東海3県に限らず、広く高校からの要請に応じて模擬授業の実施を積極的に行っている他、生徒による研究室訪問も受けている。また、英語教員の免許更新のための講習に加えて、2018年度で42回を重ねる英語教員セミナーをエクステンションカレッジと連携して開催している。加えて、2018年度から中高生も対象としたオーラルインタープリテーションフェスティバルを開催し、中高大の交流を開始した。地域の大学間交流として、毎年、愛知県立大学との卒業論文合同発表会を開催している。</p>	<p>模擬授業等の高大連携事業を始め各種講座への講師派遣等の件数は、入試広報を窓口とする件数が6件、教育・研究支援事務室を窓口とする件数が4件、提供しており、学科教員数との対比では、十分貢献できていると考える。教員免許の更新講習、英語教員セミナーとも、社会に対して十分な貢献を行っており、オーラルインタープリテーションフェスティバルについては、中高生も対象としている点で、特に大きな社会貢献となっていると考える。愛知県立大学との卒業論文合同発表会では、合計99の発表が行われ、両大学の学生にとって、意見交換による視野の拡大、研究の深化の機会を提供している。</p>	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	入試広報および教育・研究支援事務室提供模擬授業関連資料、第42回「南山大学英語教員セミナー」概要、第1回英語オーラルインタープリテーションフェスティバル実施要領、卒論発表会2018プログラム、修正版
		<p>③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>英語教員セミナーならびにオーラルインタープリテーション・フェスティバルの実施については、学科会議で報告することによって適切性の検証を行っている。</p>	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	第1回、第4回、第13回学科会議資料および議事録

		学部・学科/研究科・専攻	スペイン・ラテンアメリカ学科		氏名	泉水 浩隆			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	スペイン・ラテンアメリカ学科では、本学の掲げる「キリスト教世界観に基づく学校教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成」という建学の理念や、この建学理念に具体的な方向性を与える為の「Hominis Dignitati（人間の尊厳のために）」という教育モットーと密接な関係を持つ、カトリック人口の多いスペインやラテンアメリカを研究対象エリアとしている。本学科では、対象エリアに対する知見を深めるべく、「スペインならびにラテンアメリカにおいて使用されている主たる言語の運用能力を有し、それに加えて、それらの言語についての学問的研究、およびこれらの言語が話されている国々の文化や国際関係について基本的知識を身につけ、資料分析力を磨き、総合的判断ができる視野の広い人物の養成を目的としている」と謳っており、それを踏まえた上で、大学の学科紹介サイトにおいても、学科の特長や目指すところを簡潔に紹介している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	「南山大学の目的に関する規程」第3条第2項第2号 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1040.pdf 、「建学の理念」サイト https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/rinen/index.html 、「スペイン・ラテンアメリカ学科 学科紹介」サイト https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fs/top.html

		学部・学科/研究科・専攻		スペイン・ラテンアメリカ学科		氏名		泉水 浩隆	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り残しがなかった水準にある [A] 良好な状態にあり、取り残みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	学部のディプロマポリシーでは (1) スペイン語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度なスペイン語運用能力、(2) スペイン専攻では、スペインに関する専門的な知識、ならびに、スペインとラテンアメリカ相互の関連性を十分に理解し、両地域を不可分のものとしてとらえて議論できる力、(3) ラテンアメリカ専攻では、ラテンアメリカに関する専門的な知識、ならびに、ラテンアメリカとスペイン相互の関連性を十分に理解し、両地域を不可分のものとしてとらえて議論できる力、(4) スペインならびにラテンアメリカの文化や国際関係に関する知識を基に資料を的確に分析し、幅広い視野と総合的判断力によって、地域研究の課題に積極的に取り組むことのできる力を身につけることを謳っている。これを実現するため、スペイン語力を着実につけるためのスペイン語科目を置くとともに、スペイン、ラテンアメリカ双方に関連する多様な学科学目を設置し、学科学学生それぞれのニーズに応えられるような体制を取っている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	4-②-1 スペイン・ラテンアメリカ学科3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fs/policy.html

学部・学科/研究科・専攻			スペイン・ラテンアメリカ学科			氏名		泉水 浩隆			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明		点検・評価		自己評価		将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。			
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) カリキュラムポリシーに基づき、配当年次にふさわしいと考えられる科目を配置している。スペイン語科目については、低学年次から高学年次へと、内容がより高度になるように設計されている。一方、学科科目についても、初年次には「基礎演習」「スペイン・ラテンアメリカの文化入門A/B」のような導入科目を配置し、その後の学習の進め方の指針や基礎を築けるようにしている。2年次以降は、各学生の興味関心に合わせ、内容を深められるようにしており、3・4年次においては、演習、特殊研究科目等さらに専門的な教育・研究ができるような科目配置になっている。初年次では「基礎演習」と「スペイン・ラテンアメリカの文化入門A/B」といった導入科目を置き、ここからより深い学びにつなげられるように配慮している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	『授業科目履修案内「履修要項」』 (http://office.nanzan-u.ac.jp/KYUMU/item/2018_100_gakubu.pdf) および Web シラバス (https://portal.nanzan-u.ac.jp/syllabus/)		

			学部・学科/研究科・専攻	スペイン・ラテンアメリカ学科	氏名	泉水 浩隆		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 「海外フィールドワークA」（スペイン）、「海外フィールドワークB」（メキシコ）、「海外フィールドワークB」（コロンビア・LAP科目の1つ）など、短期留学プログラムは、学生の専攻や興味関心に応じて、参加できるようになっている一方、時期をずらすことによって、スペインとラテンアメリカ両方に参加し、双方の地域を知ることができるようになっている。 (2) スペイン語科目については、いずれも予・復習および授業内の積極的参加が求められる形態を取っており、学生自身の主体的学びが要求される。また、学科科目・演習科目等についても、事前の文献講読、授業内のプレゼンテーション、グループワーク等が求められるものが多く、能動的な参加が不可欠である。この他、2018年度より復活した、課外活動のスペイン語劇もスペイン語学習に対しよい効果をもたらすものと考えられる（4-④-1）。 (3) WebClass の利用は、教員によって、また、科目の性質によって、用いられている場合もある。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
			左記(1)については、2018年度より新たに「海外フィールドワークB」（メキシコ）が開始された。これにより、ラテンアメリカ地域での学びを希望する学生に対する選択肢が増加した。また、「海外フィールドワークA/B」に参加し、かつ、その後、長期留学を希望する者も出てきている。「海外フィールドワークA」（スペイン）の参加者数は26名、「海外フィールドワークB」（メキシコ）の参加者数は17名（4-④-2）、「海外フィールドワークB」（コロンビア）の参加者数は4名であった（4-④-3）。	WebClass の利用は、特定の教員・授業に限られているため、授業の特性に応じて、利用を検討するよう呼びかけを行う。	B	2019年度も引き続き3つのプログラムが実施される予定であり、方向性としてはこれまでの方法を踏襲する。「海外フィールドワークA」（スペイン）・「海外フィールドワークB」（メキシコ）については、2018年度参加学生を対象にアンケート調査を実施しており（4-④-2、アンケート事例は別途送付）、現地担当者およびコーディネーターと相談しながら、運用細則の内容調整時まで、改善が望まれる点に対し、学科長と引率担当者が必要な変更を加える。	WebClass を利用している教員に、学科会議等で、その活用法について紹介してもらおう機会を設ける。	4-④-1 2018年度第10回学科会議事録（2018年9月12日）、2018年度第11回学科会議事録（2018年9月26日）、2018年度第12回学科会議事録（2018年10月6日）、2018年度第15回学科会議事録（2018年11月17日）、2018年度第16回学科会議事録（2018年11月24日）、2018年度第17回学科会議事録（2018年11月28日）、2018年度第18回学科会議事録（2018年12月12日）、2018年度第19回学科会議事録（2019年1月9日） 4-④-2 2018年度「海外フィールドワーク」参加者名簿およびアンケート回答（学科合同研究室保存資料） 4-④-3 2018年度「海外フィールドワークB」（コロンビア）履修者名簿。

		学部・学科/研究科・専攻	スペイン・ラテンアメリカ学科		氏名	泉水 浩隆	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料
			⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 各学年のスペイン語科目の定期試験は、同一教員が担当する同一科目・別クラスの場合はもちろん、複数教員が担当する同一科目・別クラスの場合でも、言語科目コーディネーターあるいは当該科目コーディネーターの指示の下、同一範囲、同一問題、同一基準で評価しており、客観性と厳格性は担保されている。また、1年次配当の学科必修科目「スペイン・ラテンアメリカの文化入門A/B」（オムニバス形式）については、各テーマの担当者から提出された素点をコーディネーターがまとめ、客観的かつ厳格に評価している。学科のスペイン語科目、「スペイン・ラテンアメリカの文化入門A/B」以外の科目の評価については、科目担当者の裁量に委ねられているが、大学の基準に基づき、各教員が適切に評価している。 (2) 学位授与については学則および「南山大学学位規定」に定める要件および手続きに従い、外国語学部教授会による審査を経て、学長が決定している（4-⑤-1）	特になし。	学科必修のスペイン語科目および「スペイン・ラテンアメリカの文化入門A/B」以外の科目については、全体として客観性に関するすり合わせを行っていない。また、2020年度の「研究プロジェクト」開始を控え、これと関連する卒業論文評価についても、学科教員の間で何らかの共通する枠組みを検討する必要がある。

			学部・学科/研究科・専攻	スペイン・ラテンアメリカ学科	氏名	泉水 浩隆		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価してください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	各学科科目については定期試験の結果の分析により、また、科目に対する評価や達成度は各クォーターで行われる授業評価も参考にしている。さらに、在学期間全体を通した満足度・達成度は大学で実施している卒業生に対する満足度調査によって確認している。また、2018年度から学科学学生に対する外国語能力検定試験の受験および取得状況に関するアンケート調査を開始し、学習成果の測定の一助としている(4-⑥-1)(「2018年度 スペイン語検定試験等の受験・取得状況に関する調査」用紙は別途提出)	スペイン語科目は、1年次～4年次まで、必修の形で必ず配置されており、文法(1・2年次)、会話(1～3年次)、作文(1～3年次)、講読(1～4年次)と経年的に達成度を把握することが可能になっている(4-⑥-2)。	特になし。	A	学科学のスペイン語科目は、学科学の言語科目コーディネーターのきめ細かい調整の下に展開されているので、今後もこの方針を踏襲する。	4-⑥-1 2018年度第19回学科学協議事録(2019年1月9日)、2018年度第20回学科学協議事録(2019年1月23日) 4-⑥-2 『授業科目履修案内「履修要項」』(http://office.nanzan-u.ac.jp/KYUMU/itcm/2018_1000_gakubu.pdf)および Web シラバス(https://portal.nanzan-u.ac.jp/syllabus/)
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改訂したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。(2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを2017年度に改定するにあたり、それを反映させるような形で学科科目の構成についても見直しを行ったので、現時点ではそれをできる限り実現できるように務めている。ただ、現行のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーの開始時点では、実施に至っていない科目開講については、引き続き学科学協議において点検・評価している。(2)時間割編成作業を通して、カリキュラム・ポリシーと開講科目の適合性・適切性を確認し、学科学協議で情報共有している。(4-⑦-1)	2018年度は、「海外フィールドワークB(メキシコ)」、「スペインの政治」、「ポルトガル語学特殊研究B」などが新たに開講され、以前から学科科目リストにはあったもの開講されていなかった「スペイン語通訳法II」が開講されるなど、ポジティブな動きが見られた。また、「ブラジル・ポルトガル語III/IV」の開講準備を進めた(4-⑦-2)	特になし。	A	未開講の学科科目や新規開講が予定されている科目があるため、学科学長と学科学時間割担当教員が中心となって、こうした科目の取扱いを引き続き検討する。	4-⑦-1 2018年度第18回学科学協議事録(2018年1月11日)、2018年度第3回学科学協議事録(2018年5月16日)、2018年度第13回学科学協議事録(2018年10月24日)、2018年度第15回学科学協議事録(2018年11月7日)、2018年度第19回学科学協議事録(2019年1月9日)、2018年度第20回学科学協議事録(2019年1月23日)、2018年度第21回学科学協議事録(2019年2月19日) 4-⑦-2 2018年度第19回学科学協議事録(2019年1月9日)、2018年度第20回学科学協議事録(2019年1月23日)、2018年度第21回学科学協議事録(2019年2月19日)、2018年度第22回学科学協議事録(2019年2月19日)

		学部・学科/研究科・専攻		スペイン・ラテンアメリカ学科		氏名		泉水 浩隆	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 【A】良好な状態にあり、取り組みが顕著である。 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。 ③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 ④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】 (1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】 (1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	学生の受け入れについては、学科のアドミッション・ポリシーに基づいて一般入試等各種入学試験を実施している。入学選抜についても学科学会や大学の合否判定資料作成委員会、入試委員会での審議によって公正に実施している。留学生の受け入れについては、従前から実施している外国人留学生入学審査に加えて2018年度から新たに[EJU利用型]の入学審査を導入した。これに加え、国際化推進事業の一環として、サラマンカ大学から運用細則(5-②-1)に基づき、招聘学生2名の短期受入(1ヶ月～2ヶ月)を続けている。 学科の入学定員は60名、収容定員は240名である。2018年5月1日現在の在籍者は281名(5-③-1)であるが、長期留学からの帰国者も含んでおり、定員管理は適正であると考えられる。 年度はじめに行う入学試験募集要項確認の際、アドミッションポリシーとの整合性を確認すると同時に、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーとの整合性があるかどうかを確認している(5-④-1)。	複数の会議体を通過することによって学生募集及び入学選抜の公平性と公正さを担保できている。招聘学生については、サラマンカ大学日西文化センターへ選抜・推薦を依頼し、その結果を学科会議・学部教授会で審議した上で、受入を行っている。 特になし。 改組以降、スペインおよびラテンアメリカの二専攻間で志願者数に不均衡が見られる状況が続いている。 特になし。	特になし。 A B A	各種入学試験については、例年通りの方法に基づいて実施する。サラマンカ大学からの招聘学生については、学科長・国際化推進担当および「海外フィールドワークA」担当の学科教員を中心に、既に2019年度運用細則の検討に着手している。 特になし。 これまで、オープンキャンパスや高大連携事業における模擬授業(講師派遣)、入試広報の一環としての講師派遣など、さまざまな機会を利用して、両専攻の特長とめざすところを受験生にアピールしてきている。2019年度も、これらの機会を十分活用しながら、不均衡を少しでも減らすことができるよう学科長を中心に、講師派遣で高校等に出向く教員の協力を得て、受験生への呼びかけを続けたい。	特になし。 これまででも、オープンキャンパスや高大連携事業における模擬授業(講師派遣)、入試広報の一環としての講師派遣など、さまざまな機会を利用して、両専攻の特長とめざすところを受験生にアピールしてきている。2019年度も、これらの機会を十分活用しながら、不均衡を少しでも減らすことができるよう学科長を中心に、講師派遣で高校等に出向く教員の協力を得て、受験生への呼びかけを続けたい。 5-②-1 2018年度第3回学科会議資料2(2018年5月16日)および2018年度第3回外国語学部教授会審議資料9(2018年5月16日) 5-③-1 「2018年5月1日 現在学生数(学部生・春学期入学/秋学期入学者合計)」(学生課作成資料2018年6月26日 PORTA掲出) 5-④-1 入学試験要項	

			学部・学科/研究科・専攻	スペイン・ラテンアメリカ学科	氏名	泉水 浩隆			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [2]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A]良好な状態にあり、取り組みが顕著である。 [B]軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C]重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な教員を、冊子の場合は具体的なページ数を、冊子の場合はウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	学科の人事計画に沿って、2018年度はスペイン政治史・比較政治学を担当する教員1名およびラテンアメリカ地域研究（文化史・思想史）を担当する教員1名（特別任用）が4月に着任した（6-②-1）。	これまで長い間開講になっていたままだった科目や、開講を予定していた科目が、新たな教員を迎えたことにより、開講の運びとなり、学生の科目選択の幅が広がった（6-②-2）。	特になし。	2019年度には、各教員の担当コマ教員にも配慮しながら、担当可能な他の科目を開講し、学科の科目ラインナップをより充実させる。	特になし。	6-②-1 「スペイン・ラテンアメリカ学科 教員紹介」サイト https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/faculty.html 6-②-2 Web シラバス (https://portal.nanzan-u.ac.jp/syllabus/)
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要があります。）	年度初めに学部提出する人事計画については、学科会議で提案・希望等のある学科教員からその旨学科長に伝えるように依頼し、それに基づき学科長会議での検討を行っている。FD活動としては、特に学科必修のスペイン語科目について、言語科目コーディネーターを中心に年度終わりに当該科目担当教員との話し合いを通じて、年度の振り返りと次年度への留意事項の伝達を行っている。	チームティーチングの形式を取っているものが多い学科必修のスペイン語科目は、学科の言語科目コーディネーターが年度当初に詳細な授業計画を記したカレンダーを作成し、同一科目・別クラス間であっても、足並みをそろえて授業展開ができるような体制を整えている（6-④-1）。また、言語コーディネーターや学科教務担当教員を通し、各教員間での意見交換がスムーズに行えるようになっている。	[1] 言語科目については言語科目コーディネーターによりきめ細かく進捗調整などがなされているが、それ以外に気づいた点・改善が望まれる点がないかどうか直接確認したり、その他の学科専門科目でも関連する科目を担当する教員同士がそれぞれの学生の学習状況などについて状況を把握できるようにする必要がある [3] 学科専任教員と学科科目を担当する非常勤講師が直接集って意見交換をする機会があることが望ましい。	学科必修スペイン語科目については、これまでの方法を踏襲し、2019年度も言語科目コーディネーターによるきめ細かい調整を行う。	学科会議で、学科専任教員と学科科目を担当する非常勤講師の意見交換をする場を設けることができないかどうか、2019年度中に検討する。	6-④-1 学科必修スペイン語科目進捗表（学科言語コーディネーター作成資料）
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	ここ2年ほど、学科教員の定年に伴う入れ替わりがあったため、必然的にその都度組織編成の方針が適切であるかどうか学科会議の場で検討することになった。FD活動の適切性については、学科会議内で議論し、学科のFD活動報告書ならびにFD活動計画にまとめられている（6-⑤-1）。	特になし。	[1] 対象とする地域の言語や事情など学科の事情を特に考慮すべきテーマ（例えば、スペイン語教育）については、学部全体のFD活動では、必ずしも十分に扱いきれない部分がある。[3] [1]の事情をくんで、学部のFD活動に加え、学科内でのFD活動企画も考慮することが望ましい。	特になし。	教育関連の講演会が行われる場合など、その内容を考慮した上で、学科向けのFD活動の一環とできるかどうかを検討する。	6-⑤-1 「2018年度スペイン・ラテンアメリカ学科FD活動報告書」、 「2019年度スペイン・ラテンアメリカ学科FD活動計画」

		学部・学科/研究科・専攻	スペイン・ラテンアメリカ学科		氏名	泉水 浩隆			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をクエツの場合にはURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	成績不良学生に対する対応としては、「南山大学授業科目履修規程」第27条第2項に該当する学生がいる場合、学部で定められた手順に従って指導する。そのような学生が1名いたが、残念ながら前年度末で退学したため、指導は行われなかった(7-②-1)。学科の特性上、留学を希望する学生が多くいるため、留学経験のある学生有志が留学に関するアドバイスをする会合を開いている(7-②-2)。また、TA制度を利用し、大学院国際地域文化研究科のスペイン・ラテンアメリカ領域で学ぶ大学院生2名がそれぞれ週1回(計週2回)学習相談を行う時間を設けている。	留学希望者に対する学科学生有志によるガイダンスはフレッシュな情報を多く含んでいるため、留学を考えている学生には有益であり、かつ、刺激的であると考えられる。	TA制度を設けているが、利用する学生数の更なる増加が望まれる。また、2019年度秋学期には、国際地域文化研究科博士前期課程のスペイン・ラテンアメリカ領域の学生が不在となることから、TAとしてふさわしい学生を学部生から選ぶ必要がある。	留学ガイダンスを継続的に行うよう、ゼミの担当教員から学生への呼びかけを行うよう学科会議等で依頼する。	TA制度の学生への周知を行うよう、必修科目を担当している教員やゼミの担当教員から学生へ呼びかけるよう学科会議等で依頼する。また、TAとしてふさわしい学生の推薦についても、ゼミの指導教員に対し、学科会議で依頼する。	7-②-1 2018年度第1回外国語学部教授会議議題(2018年4月11日)および2018年度第13回外国語学部教授会議議題(2018年10月24日) 7-②-2 『2018年度 留学ガイド』(スペイン・ラテンアメリカ学科資料)(2018年7月18日)
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	上記のような各項目については、学科会議で報告・検討を重ねている。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	

			学部・学科/研究科・専攻	スペイン・ラテンアメリカ学科	氏名	泉 浩隆		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準9	社会連携・社会貢献 ② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	社会連携・社会貢献については、外会議で報告されており、学科教員の間で情報が共有されていると同時に、必要な場合、学科内での協力が得られる体制が整っている。	特になし。		今後も現在のよう体制を維持していく。	特になし。	9-②-2 サラマンカ大学日西文化センター「文化週間」プログラム (http://www.centrojapones.es/wp-content/uploads/2019/03/Trip-tico-CC_Japon_2019.pdf)
	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	上記の各種事業・交流については、それぞれについて学科会議の場で報告し、確認・検討している。	特になし。		特になし。	特になし。	

2018年度自己点検・評価報告書 「学部（学科）/研究科（専攻）」

様式1（基準1）理念・目的

				学部・学科/研究科・専攻	フランス学科	氏名	クローン・ダヴィッド	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある。</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である。</p> <p>[B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。</p> <p>[C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
基準1 理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	フランス学科は「フランス語運用能力を基盤に、フランスの言語、文学、歴史、政治、文化、社会、法制と幅広く複眼的な視野を身につけ、自らの理性で考え、批判できる思考力を有し、自らの意思を論理的に伝えることのできる論理性と表現力を涵養することを目的としている。」 (1-①-1) この目的は、大学の目的および学部の目的を踏まえながら設定されたものであり、大学の理念・目的と関連のあるものである。この目的の適切性は、学科会議において、毎年、大学及び学部の目的の整合性を確認している。卒業時アンケートや、卒業論文の合格率、卒業時におけるフランス語能力に関する外部試験の合格率などを踏まえて点検・評価している。	学科の目的について学科会議において議論している。特に学科生のフランス語運用能力の向上を目指して、2018年度より非常勤講師を交えた懇談会を年度末に開催した。会議において、教員間の連携の向上を図った。	2専攻制を導入したことで、フランス語運用能力以外の、フランスの言語、文学、歴史、政治、文化、社会、法制などの専門領域をカリキュラムにおいて強化した。2専攻制開始より2年が経過し、これらの専門領域に関する知識の習得度について現段階では学科全体で共有されていない。専門領域に関する授業を担当する学科教員間で、学科生の習得度について意見交換をし、評価する必要がある。	2018年度より開催した非常勤講師を交えた懇談会を次年度以降も継続し、教員間の連携の向上が、フランス学科の目的の一つであるフランス語運用能力の向上に寄与するか次年度の懇談会で、学科生のフランス語学科目目の成績などを参考に、議論する。	Q2およびQ4終了時の学科会議において、専門領域に関する授業を担当している学科教員が、専門領域に関する知識の習得度について報告し合いい、学科全体で情報を共有する。語学科目だけではなく、専門科目に関する、学科の目的の適切性について検討する。	1-①-1「南山大学の目的に関する規程」第3条 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d140.pdf

2018年度自己点検・評価報告書 「学部（学科）/研究科（専攻）」

様式1（基準4）教育課程・学習成果

			学部・学科/研究科・専攻	フランス学科	氏名	クローン・ダヴィッド				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>		
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	フランス学科のディプロマ・ポリシーでは、フランス語教育とフランス語圏地域研究の2つを軸としている。ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するように、カリキュラム・ポリシーで、教育内容及び教育方法を定めており整合性が取れている(4-②-1)。	カリキュラム・ポリシーに示してある二年次の「海外フィールドワーク」を今年度初めて実施した。フランス語教育に関しては旧カリキュラムから引き続き充実したカリキュラムになっている。フランス地域研究に関する科目については、2017年度から施行したディプロマ・ポリシーに従い新カリキュラムで充実させた。そのため、学生たちの専門分野に対する意識の向上を図っている。	ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは、2017年度より施行したため、2年が経過したばかりである。引き続き、両ポリシーが整合しているか検証していく必要がある。	A	「海外フィールドワーク」によって学科生たちが身につけたフランス語運用能力や異文化環境での適応力・行動力などを総合的に評価し、2020年度の卒業時に整合性がとれたのか検証する必要があるだろう。	2017年度入学者が卒業するのは2020年度であるため、その時点で、両ポリシーが整合しているか学科の「自己点検・評価委員会」において改めて検証する。	4-②-1フランス学科3つのポリシー http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/f/policy.html 4-②-2海外フィールドワーク（フランス） https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/intl/training/index.html#link00
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	カリキュラム・ポリシーにおいて、教育内容が定められており、それに基づいて授業科目を配置しているため、両者は整合している(4-③-1)。2017年度のカリキュラム改編で、旧カリキュラムにはなかった「基礎演習」を配置し、学科生のアカデミックスキルの向上を図っている。また、二専攻制を導入したことで、学生たちの専門性に合った科目を提供できており、教育内容に関しては共通科目との連携が以前より容易になった。	カリキュラム・ポリシーにおいて、アカデミックスキルの向上を掲げ、「基礎演習」を4科目設置したことで、学生たちのプレゼンテーション力やレポートを構成する力など、旧カリキュラムの学生と比較して向上している。特に、2年次生が3年次以降の演習を選択する際に提出する研究計画書の質が向上している。(4-③-2)	学科必修科目の履修やクォータ制の導入により、学科生たちの時間割で空き時間が限られてしまっており、学生たちが教育内容の面から関心があり選択したい共通教育科目があったとしても、時間割の都合上履修できないことが、特に1・2年次に散見される。	A	現在のカリキュラムは2017年度より施行したものであり、2年間「基礎演習」を受講した学生たちが、2019年度には「演習」を履修し、個人の研究を深めていく段階に入る。「基礎演習」で身につけたアカデミックスキルが3年次以降の卒業研究に活かされているか、学科会議等で「演習」を担当する教員間で議論し、検証する。また、必要に応じて、「基礎演習」の教育内容などを再検討する。	学科必修科目の履修などの時間割上の重複が原因で、関心がある共通教育科目を履修できない学生には、比較的的時間割に余裕がある3年次以降で履修するように専任教員は積極的に勧めていく。	4-③-1フランス学科3つのポリシー http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/f/policy.html 4-③-2 演習選択のための研究計画書

2018年度自己点検・評価報告書 「学部（学科）/研究科（専攻）」

様式1（基準4）教育課程・学習成果

			学部・学科/研究科・専攻	フランス学科	氏名	クローン・ダヴィッド	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが確固たる [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、根本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。根拠の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度 学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>(1) 今年度からQ2に「海外フィールドワーク」を実施した。オルレアン大学とリヨンカトリック大学の2校へとプログラムを拡張し、2年次全員が参加可能なプログラムを開始した (4-④-1)。(2) 学生の主体的参加を促すような学習活動の導入を勧めている。シラバスでは学生の視点に立った学習目標を設定し、より学生が何を身に付けることができるのか明確にし、各教員は授業設計している。また、学科教員間で成功した授業方法などを共有する機会を設けている (4-④-2)。(3) 学科の一部の教員はWebclassを活用し、資料の配布だけではなく、掲示板などを活用し、学生主体の授業に役立てている (4-④-3)。</p>	<p>(1) 「海外フィールドワーク」により、オルレアン大学に28名、リヨンカトリック大学に25名を派遣した。以前の「フランス語実習」では、最大34名までしか派遣できなかったが、短期留学を経験できる学生数を大幅に増やすことが可能となった。また、「海外フィールドワーク」への参加後に、学生の授業に対するモチベーションの向上が見られた。 (2) 2018年度の授業評価アンケートにおいて、学科平均4.71点 (Q1)、4.23 (Q2) と高い満足度を得た。また、学科教員間で教授法や授業方法などを共有することを通して、互いの実践について検討できた (4-④-4)。(3) Webclassを活用し、出席管理の効率化を図ることができている。また、フォーラムを利用することで、授業内で学生間の意見交換に活用している。</p>	<p>(1) 諸事情により「海外フィールドワーク」に参加できなかった学生が若干名いたが、これらの学生には代替となるフランス語科目を提供しているが、留学を促進する具体的な対策を施すまでは至っていない。(2) 学部共通科目などの受講者が200名近い授業の中で、学生の主体的参加を促すのはまだ十分とは言えない。(3) Webclassの活用について学科の一部の教員に限られている現状がある。</p>	<p>B</p>	<p>(1) 「海外フィールドワーク」へ参加した学生が、より長期間の留学へどの程度出ていくかなど今後しっかりと把握し、より長期的な視野に立ち「海外フィールドワーク」の効果について検証する必要がある。今回参加した学生が卒業する2~3年後を目途にその効果を検証する。(2) 現在の取り組みを継続し、今後も授業内容、授業方法ともに満足度の高い授業を提供するように努める。(3) Webclassの授業での活用事例を継続的に積み重ねて、教員間で活用事例を共有し、積極的な利用を推し進める。</p>	<p>4-④-1海外フィールドワーク (フランス) https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/intl/training/index.html#link00 4-④-2 同一授業担当教員間での資料やパワーポイントの共有 4-④-3 「フランス語学」Webclassの活用事例 4-④-4 学生による授業評価アンケート結果 (2018年Q1、Q2)</p>
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するために、すべての授業に関して、シラバス上で明確に評価基準を提示している。また、複数クラスで運用している授業については、共通テストを導入し、採点基準の統一化を図っている。成績判定会議をQ毎に開催し、教員間での成績評価に大きな差が出ないように調整している (4-⑤-1)。(2) 学位授与については学則および「南山大学学位規程」(4-⑤-2) に定める要件および手続きに従い、外国語学部教授会による審査を経て、学長が決定している。</p>	<p>複数クラスで運用している授業において、共通テストを導入するなど、成績評価に客観性を持たせることができている。また、成績判定会議を運用している授業については、共通テストを導入し、採点基準の統一化を図っている。成績判定会議をQ毎に開催し、教員間での成績評価に大きな隔たりがなくなっている。</p>	<p>特になし。</p>	<p>A</p>	<p>複数クラスで運用している授業に関しては、今後も共通テストを導入しつつ、成績判定会議で成績評価の基準について検討することを継続すること。現状では、Q毎に検討することに留まっているが、一年を通して成績評価の客観性、厳格性を担保できているのか改めて検討する。</p>	<p>4-⑤-1 学科会議議事録 4-⑤-2 「南山大学学位規程」第3条および第13条</p>

			学部・学科/研究科・専攻	フランス学科	氏名	クローン・ダヴィッド			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	フランス学科のディプロマ・ポリシーでは、フランス語運用能力とフランス語圏地域に関する研究調査の2つを軸としている。フランス語運用能力に関しては、2年次の「海外フィールドワーク」で受験するTCFを活用し、その時点でのフランス語運用能力を評価している(4-⑥-1)。また、フランス語検定試験やDELF・DALFなどの外部検定試験の受験を奨励し、毎年合格者数を把握し、教育内容の適切性を検討する際に活用している(4-⑥-2)。フランス語圏地域研究についての研究能力に関しては、卒業論文を長期的なスパンで、演習担当の教員が形成的に指導し、提出時に総括的評価をおこなっている。	「海外フィールドワーク」に2年次の大半(53名)が参加し、TCFを受験したため、2年時点でのフランス語運用能力を把握することが可能になった(4-⑥-1)。	「海外フィールドワーク」の時期とフランス語検定試験春季試験の時期が重なったため、今年度は外部試験受験者数が減少した。卒業論文に関して、演習を担当する指導教員が個別に評価を与えているが、より客観的に学習成果を測定する仕組みが必要である。	B	今後もTCFの受験を継続し、学習成果の測定を把握し、データを蓄積する。複数年度のデータが蓄積できた段階で、比較検討し、教育内容の検討に活かす。	フランス語検定試験秋季試験で受験するように促すなど対策を講じる。また、4年次の学生など、卒業前にも同様にフランス語検定試験の受験を奨励する。フランス語圏地域研究についての研究能力に関しては、卒業時の学習成果をより客観的に測定するために、評価ルーブリックなどを活用し、他の教員が容易に評価をおこなえるような体制を構築し、総合的な評価をおこなう可能性を探る。	4-⑥-1 2018年TCF結果一覧 4-⑥-2 2018年春季、秋季フランス語検定試験結果一覧
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)ディプロマ・ポリシーに示してある習得すべき知識・技能、カリキュラム・ポリシーに示してある科目について、学科の「自己点検・評価委員会」において点検・評価している。 (2)大学による卒業時アンケートを通じた学習成果の測定結果を用いて、カリキュラムの検討を行っている(4-⑦-1)。	特になし。	2018年度卒業時アンケートにおいて、「物事をさまざまな視点から考える力」は68.6ポイントと高い数値だったのに対し、「物事を論理的に考える力」は31.4ポイントと比較的低い数値であった。「物事を論理的に考える力」を意識した授業を展開する必要がある(4-⑦-1)。	A	特になし。	2018年度卒業時アンケートの結果を学科会議で共有し、「物事を論理的に考える力」を意識した授業を展開する。特に、演習科目のレポートなどではこの能力を強調し、評価の一部として加えることを検討する。	4-⑦-1大学による卒業時アンケート結果

			学部・学科/研究科・専攻	フランス学科	氏名	クローン・ダヴィッド			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り残れが顕著した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り残れが顕著である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 現職の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び（一般入試、全学統一入試、センター利用入試、推薦入学審査、AO入学審査等）入学選抜の制度や運営体制を整え、入学選抜を行なっている。 上記方針に加え、適切な日本語運用能力があるかを見極めた上で、フランス語およびフランス語圏の文化と社会に強い関心のある留学生の受入れを行なっている。	特になし	特になし	特になし	特になし	
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取組をしているか【2018年度学長方針】	適切な定員数を設定して学生の受け入れを行い、また在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。	2018年度は71名の学生を受け入れた。定員60名を超える学生数を受け入れるため、外国語学部の各学科と調整し、外国語学部全体の受け入れ数を超えることのないよう配慮した。この措置は本学科が課す学力の基準を満たした上で志願する学生を受け入れることで、社会的な要望に応えるものである。	特になし	特になし	特になし	入試結果資料
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	2017年度は61名の学生を受け入れ、2018年度は71名の学生を受け入れた。本学科の受け入れ方針、とりわけ高校までの基礎学力、フランス語圏の言語、文化、社会に対する関心、そして問題解決のための思考力、判断力、表現力を備えた学生を受け入れるという方針については、学科会議とは別に学科の教員間でクォーター毎に開催される成績判定会議において、そうした能力の向上がそれぞれの学生において見られたかを検証している。 また推薦入学審査、AO入学審査等試験合格者に対しては、入学までの期間に課題図書レポートを課し、各教員がそれにコメントを与え学生に返却し、入学後の学生の学習・研究に資するように努めている。	これまで推薦入学審査、AO入学審査等で作られた小論文の問題を学科教員間で共有し改善点を相互にチェックすることを通して、受け入れ方針に沿った学生を選抜できるように努めている。	また学生の受け入れを進めるための現在の体制を継続的なものにしていき、また問題点や改善点を早期に発見する方策として、学科会議のみならず日常的に教員間の意見交換を行なっていく必要がある。	最新のフランス語圏の資料を収集し、フランス学科合同研究室に置き、教員間で小論文のテーマや設問を日常的に議論する環境を整える。	特になし	入試結果資料ならびにフランス学科資料

			学部・学科/研究科・専攻	フランス学科	氏名	クローン・ダヴィッド				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが順当である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】軽度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>		
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	フランス学科では学科の目的に沿って教員を採用配置するための人事計画を毎年、学科会議を通して確認している（6-②-1）。大学設置基準上必要な専任教員数を遵守することを前提に、専門分野の構成、年齢構成、男女比のバランスを配慮することを学科会議で確認している（6-②-2）。本年度は、学科の任期付講師1名が任期を2年残して退職を希望したため、上記の基準に従い、補充採用を行った。	人事計画に沿った教員組織の編成を継続的に行っており、専門分野の構成や年齢構成、さらに職位（教授4名、准教授3名、講師2名）などのバランスのとれた編成ができている。	男女比のバランスについては改善の余地がある。 所属教員9名のうち女性は1名のみとなっている。 ただし、採用に関しては専門性・年齢・科目適合性を考慮した総合的判断の結果である。	A	現在、学科の専任教員は30代から50代の年齢で構成しており、任期付教員以外の人事は現在想定していないため基本的にはこの体制が続く元と思われる。 任期付講師2名のうち、一名は二年後後任人事を行わないが、三年後に任期の切れるもう一名の後任人事も左記の方針に従いながら、今後の大学全体の方針に従いながら対応する予定である。	今後、任期付教員の後任人事などが発生した場合は、改めて男女比を考慮する予定はある。 ただし、採用に関しては総合的に判断するものであり、大学全体の方針として教員数のジェンダー差を無くすための方策が具体的にない限り、フライオリティを持つ人事基準とはなりにくい。	6-②-1 2018年度第2回フランス学科会議、議題② 6-②-2 2018年度第3回学科会議、議題⑥
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	本年度はフランス学科の教員は全員が、11月開催の全学のFD研修会（6-④-1）、7月開催の外国語学部主催のFD研修会（6-④-2）、並びに他学部開催のFD研修会の複数ないしはは必ず出席し、FDへの意識を高めた。今回は全学ではアクティヴ・ラーニング）そして外国語学部では、ITメディアを使用したテレコミュニケーションによる最新授業方法の提示など、昨今の新しい教育方法の実用的な実践に対応するものであり、それらを取り入れていくことで学科の教育水準を上げることが期待された。	FD研修で取り上げられた授業方法に関して、アクティヴ・ラーニングに関しては語学や演習にすでに取り入れられており、語学系を中心とした学科の授業アンケートに反映されている（6-④-3）。	特になし	A	アクティヴ・ラーニングを採用している授業に関しては今後も学科の教員が、来年度も同様にFD研修会に継続的に出席し、新しいメソッドを習得し、授業へと反映させることで時代の変化に対応できるようにしたい。 ただし、講義系の授業では安易なアクティヴ・ラーニングの採用は、コミュニケーションできる情報量の低下を招くことも事実であり、大学全体の教育理念と規定に合致した形での教育方法についての全学での合意形成を求めたい	特になし	6-④-1 2018年度全学FD研修会「ラーニングアナリティクスに基づいたアクティヴラーニングデザイン」2018年11月21日開催。 6-④-2 2018年度外国語学部主催FD研修会「テレコラレーションの実践の今後の展開」2018年7月27日開催。 6-④-3 2018年度フランス学科授業アンケート結果
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の適切性については、フランス学科「自己点検・評価委員会」において、大学設置基準上必要となる専任教員数及び教授数を満たしているかを確認するとともに、専門分野の構成・年齢構成・男女比のバランスを点検評価している。またFD活動については毎月行われる学科会議でFD研修の成果を共有し、学科の授業状況への反映状況並びに成果を検証している。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	

2018年度自己点検・評価報告書 「学部（学科）/研究科（専攻）」

様式1（基準7）学生支援

			学部・学科/研究科・専攻	フランス学科	氏名	クローン・ダヴィッド			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [2] 最も良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [3] 軽度な問題があり、さらなる改善が求められる [4] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。複数の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。 フランス語など教育内容に関する質問や留学相談に関しては、学科教員全体でオフィスアワーなどを活用し、対応している。また、フランス語検定、スピーチコンテスト、フランス語劇など学外における学科生の活動に関しても、適宜担当教員を決め、学生の活動を積極的に支援している。成績不良学生や欠席過多になった学生に関しては、学科長や指導教員との面談を勧め、履修相談などを実施している。	留学相談などを親身になって行った効果もあり、2018年度に留学した学科生数は15名であった（7-②-1）。また、日仏会館スピーチコンテストで準優勝にあたる成績を取った。12月にはフランス語劇を上演し、多くの学生が参加した（7-②-2）。欠席過多になりがちな学生に対して、学科長や指導教員が何度も面談をし、1名の学生であるが改善が見られた。	スピーチコンテストなど学外活動に関して、参加することをためらっている学生たちのサポートが充分ではなかった。改善の余地がある。また、依然として、成績不良学生で大学に顔を出さない学生がいる。何度も連絡を試みているが、連絡もとれず、面談がかなっていない学生がおり、対応が必要となっている。	A	留学や教育内容に関する相談に関しては、引き続き学科教員全体で対応する。成績不良学生の修学に対する支援についても、学科長や指導教員が面談の機会を設け、引き続き行っていく。	スピーチコンテストの参加をより促進するために、学生へのアナウンスを積極的に行い、学外活動への参加を検討する学生を把握できるように、次年度は窓口を作る必要がある。成績不良学生への対応に関しては、引き続き連絡を試み、面談を実施していく。	7-②-1 日仏会館スピーチコンテスト準優勝報告 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/news/2018/181206_jyusyo.html 7-②-2 フランス語劇 (フランス学科 facebook) https://www.facebook.com/nanzanfrancais/
		④ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。 学生への修学支援の適切性については、学科会議で議題として取り上げ、日常的に点検・評価をおこなっている。また、卒業時アンケートを通じて支援の適切性についても検討を行っている。	学科会議において、日常的に、留学支援、スピーチコンテストやフランス語劇など課外活動の奨励などについて議論し、適切に行っていたため、卒業時アンケート「学生生活で困った/悩んだときに助けしてくれる人は誰ですか?」という質問項目で、「教授、先生」という回答が63.7ポイントと高い数字となっていた。	学生への修学支援の量・質ともに良好であると考えられるが、学生支援のために要する労働量が教員間に相違があるため、ノウハウを共有し、負担を分散させる必要がある。	A	今後とも、継続的に学習への修学支援の適切性について学科会議で話し合い、点検・評価し、卒業時アンケートにおいて、学生から高い評価を得られるように努力を続ける。	学生支援のために要する労働量が多大にならないように、学科会議での議論を通して、学生支援のノウハウを共有する。	

			学部・学科/研究科・専攻	フランス学科	氏名	クローン・ダヴィッド			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取組が卓著した水準にある [A]良好な状態にあり、取組が概ね適切である [B]軽微な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組を実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取組、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	本学科による社会貢献に関する取組として、まずフランス語劇を通じた地域交流と本学のフランス人留学生との国際交流が挙げられる。次に公益財団法人フランス語教育振興協会が実施する実用フランス語技能検定試験の会場運営を本学科の2名の教員が担っていることが挙げられる。試験は春季・秋季に行われ、それぞれ1次試験と2次試験が行われる。南山大学が愛知県や東海地域の中心的な試験会場を担当することで、本学科の学生に積極的に受験することを促すだけでなく、愛知県内の幅広い年齢層のフランス語学習者に試験会場を提供すると同時に、フランス語学習およびフランス地域研究の拠点としての南山大学の存在をもアピールしている。また高大連携や高校での模擬授業にも依頼があれば、できる限り学科の教員が応じている。卒業生との連携に関して言えば、ゼミのレベルで、保険の歴史的役割と絡めて、保険会社で働く本学の卒業生に話をしてもらったり、学科のレベルでフランスの文化に関わる職業に就いている卒業生に話をしてもらおうなどの試みを行なっている。	試験運営では、愛知県でのフランス語教員と連携を取る機会となり、フランス語教育やフランスの文化・社会との関わりについて意見を交わす機会ともなっている。	改善すべき事項として卒業生との連携が挙げられる。連携強化する方策として、学生と卒業生の就職先企業とのつながりを考える講義を企画する。その際には、毎回学生にアンケートやコメントシートを求め、学生のキャリア意識やその変化を評価するような仕組みを作り、企画者が改善点を見いだすことができるような材料とする。	フランス語語劇および試験会場の運営の業務が各教員の負担になっている。各教員による仕事の分担および各種の仕事の効率化が問題となっている。	仕事の効率化を図るために、教員間で必要な仕事と不必要な仕事を仕分けすることを検討する。	公益財団法人フランス語教育振興協会（仏検事務局）とのメール
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。	(1)その取組の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	フランス語劇に関してはとりわけ参加者のフランス語能力のみならず、表現力やコミュニケーション能力一般の向上もその後の学生生活の観察を通して確認される。また実用フランス語技能検定試験の会場運営に関しては、仏検事務局の担当者から毎回の受験者数の報告を受け、試験運営上に問題があれば、それを防止する取組を行なっている。	特になし	上記に同じ	特になし	特になし	公益財団法人フランス語教育振興協会（仏検事務局）とのメール

		学部・学科/研究科・専攻	ドイツ学科		氏名	太田 達也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	ドイツ学科は、ドイツ語の運用能力を修得し、ドイツ語の学問的研究およびドイツの文化、文学、哲学、政治、経済、歴史、社会等に関する基本的知識と学問的訓練とを身につけた、幅広い知識と見識をもって国際社会に貢献できる人材の養成を目的としている(1-1-1)。 この目的は大学及び学部の目的と関連したものとなっており、大学案内誌、学部パンフレット、学科HPにおいても、広く社会に学科の紹介を行っている(1-1-2、1-1-3、1-1-4)。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	1-1-1 「南山大学の目的に関する規程」第3条第2項第4号 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koikai/pdf/d1040.pdf 1-1-2 「2019年度大学案内誌」pp.49-50 1-1-3 外国語学部パンフレット p.2 1-1-4 「ドイツ学科」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/f/g/top.html

			学部・学科/研究科・専攻	ドイツ学科	氏名	太田 達也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	ドイツ学科のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める学習成果を修得させるために共通教育科目、学部共通科目、学科科目を配置することを示したうえで、科目種別ごと、専攻ごとの具体的な教育内容と教育方法を定めている(4-2-1)。例えば、専攻ごとの教育内容については、「ドイツ文化専攻では、個別の言語表現や芸術作品に内包される文化的特質、差異を認識する高度なリテラシーと、深い想像力をもって他者と接する、異文化コミュニケーションに開かれた態度を育成するための科目を配置します。」「ドイツ社会専攻では、情報を収集、整理、分析し、問題発見、課題解決へとつなげる能力、市民として政治や経済など社会の動きを観察し、それに積極的に関与する行動力、批判的思考力を育成するための科目を配置します。」としている。また教育方法については、「カリキュラム全体を通してアクティブ・ラーニング(能動的学習)を取り入れ、学生の主体的な学びを積極的に評価します。」と明示しており、ディプロマ・ポリシーとの整合性もとれている。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	4-2-1「ドイツ学科 3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/f/g/policy.html
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) カリキュラム・ポリシーに基づき、配当年次に従って科目を編成している。例えばカリキュラム・ポリシーには「2年次には、ドイツ語運用能力の向上と、異文化環境における適応力、行動力の涵養を図るために、海外フィールドワークを配置します。3・4年次には、ドイツ語の運用能力をさらに高めると同時に、ドイツ語圏の文化や社会に関する知識を深めるための科目を配置します。必修の演習科目では、学問的方法を学ぶとともに、自らが設定したテーマに関する研究成果を卒業論文としてまとめます。」とあるが、実際に上記のような科目配置を行っている。したがって、カリキュラム・ポリシーと整合している。 (2) 初年次には主に共通教育科目の枠組みでドイツ語運用能力を集中的に高めるとともに、調査研究能力・協働学習能力を発展させるための「基礎演習」科目を学科科目として配置し、さらに高次の専門科目との効果的な連携を図っている。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	1-3-2「2018年度ドイツ学科FD活動報告」

			学部・学科/研究科・専攻	ドイツ学科	氏名	太田 達也			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法</p> <p>(3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導</p> <p>(4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施</p> <p>(5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>(1) 2017年度より2年次の選択必修科目として「海外フィールドワーク」科目(2018年度の「海外フィールドワーク1」は6月に実施、「海外フィールドワーク2」は7月に実施)を配置し、2018年度には2年次生全員(6月に33名、7月に28名)および3年生の若干名(6月に2名、7月に6名)がこれに参加している。</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促すアクティブ・ラーニング型の授業を積極的に実施しており、実施科目ではシラバスにも明記している(4-4-1)。</p> <p>(3) 一部の教員はWebClassを積極的に活用している。具体的には、課題の提出、情報の共有、ドイツ語による意見交換などの場としてだけでなく、休暇中の自主学習課題の提供の場としても活用している(4-4-2)。</p>	<p>(1) ドイツ語圏の人々・社会・文化と触れ合う機会を提供し、異文化交流を深めることができた(4-4-3)。</p> <p>また、「海外フィールドワーク」最終週に現地で実施し参加者全員が受験したA2レベルの試験では、69名中、67名が合格した。</p>	特になし	特になし	特になし	<p>4-4-1 シラバス(例:「基礎演習I(言語文化)」(34A05-001)、「演習I」(34A19-001))</p> <p>4-4-2 WebClass(例:ドイツ学科1年生ドイツ語クラス用に特設した「2018_ドイツ学科1年(ドイツ語連絡用)」のページ)</p> <p>4-4-3 学科教員提出の「海外フィールドワーク」出張報告書</p>	
	⑥ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</p> <p>(2) 学位授与に係る責任体制</p> <p>(3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) 複数の教員が共同で担当している科目については、担当教員間で情報を共有し、協議の上で成績をつけており、成績評価の客観性、厳格性は担保されている。</p> <p>また、全学的に学生による「履修成績評価の疑問調査」を行っており、客観性の高い成績評価を行うよう努めている。</p> <p>複数の教員が共同で担当している科目以外については、成績付与はそれぞれの担当教員に任されており、学科ミーティングで「措置」として成績を確認するというはしてはいない。</p> <p>(2) 学位授与については学則および「南山大学学位規程」に定める要件及び手続に従い、外国語学部教授会による審査を経て、学長が決定している(4-5-1)。</p>	特になし	特になし	特になし	特になし	<p>4-5-1 「南山大学学位規程」第3条および第13条</p> <p>https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koiki/pdf/d4340.pdf</p>	

				学部・学科/研究科・専攻	ドイツ学科	氏名	太田 達也		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	「海外フィールドワーク」では、ヨーロッパ言語共通参照枠に準拠したA2レベルのドイツ語試験（telc）を最終週に現地で実施してもらうよう、受け入れ機関であるIIKに依頼し、参加者全員にはこれを受験させている（4-6-1）。 また、1年次のドイツ語授業では、各課の終了時に「学習振り返りシート」を記入させ、回収して教員がフィードバックを与えることで、自らの学習についてのリフレクションを促している。	2018年度から、学科の学生が外部の検定試験等に合格した場合に記入・提出してもらうためのシートを作成した（4-6-2）。これにより、学習成果の測定がより容易になった。	大学が全学部を対象に行った「2018年卒業時アンケート」の回収率が低かった（4-6-3）。	B	外部の検定試験等に合格した場合に記入・提出してもらうためのシートによって得られたデータを、定期的集計する。	「2018年卒業時アンケート」の回収率を上げるよう、4年次生への呼びかけを徹底する。	4-6-1 「海外フィールドワーク」実施機関であるIIKから本学に送付された請求書におけるtelc試験実施費用の記載 4-6-2 ドイツ学科作成の検定試験等合格申告用紙 4-6-3 「2018年卒業時アンケート」
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) ディプロマ・ポリシーについては修得すべき知識、技能などの学習成果が学科の目的と照らして適切であるかを、カリキュラム・ポリシーについてはディプロマ・ポリシーに定める学習成果を修得させるためにふさわしい教育内容、教育方法を明示しているかを、学科会議において点検・評価している。 (2) 学科学生の各種ドイツ語検定試験の合格状況やドイツ学術交流会（DAAD）奨学金の獲得状況、各種ドイツ語コンクールにおける入賞状況、就職状況などについて学科会議で情報を共有しつつ、カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性に問題はないかを学科全体で検証している（4-7-1）。	秋に大学で開催されたB1レベルの試験で、全モジュールの合格者が6名あった。 オーストリア政府公認ドイツ語検定試験の結果は公開されていないが、多数の合格者があったことを学科独自に把握している。 さらに、ドイツ学術交流会の支給する夏期ドイツ語講座奨学金に応募したドイツ学科生1名が選考に合格した。 12月に本学で開催された第57回ドイツ語弁論大会では、1位と3位がドイツ学科生であった。また同日に開催された第43回ドイツ語オーラル・インタプリテーション大会でも、1位と2位がドイツ学科生であった。 さらに、埼玉の駿河台大学で開催された「ドイツ語暗誦大会」でも本学科学生が1位と3位に入賞した。 加えて、京都女子大学主催「第7回ドイツ語俳句コンテスト」では、本学科学生が最優秀賞にあたる学長賞を受賞した。	教育成果について定期的な検証については、各種公的ドイツ語検定試験の合格者、留学奨学金受給者、スピーチ・コンテスト受賞者等についての情報を学科内で整理・共有するために、学生用記入シートを作成したが、その存在を知らない学生が多いためと思われる。	B	ドイツ語運用能力をさらに伸ばすためのカリキュラムの改革案について継続的に学科内で検討を続ける。	外部の検定試験等に合格した場合に記入・提出してもらうためのシートの存在を知ってもらうよう、学科教員が情報の周知につとめる。	4-7-1 学科会議記録（例：12月12日）

		学部・学科/研究科・専攻	ドイツ学科	氏名	太田 達也						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料				
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施している。ただし、留学生の受け入れを促進するための制度改革は特に行っていない。	特になし	他学科・他学部および全学の方針とも関わるため、連携をとりつつ検討していく。	特になし	特になし	当面は学科長会議で同学部の他学科との意見調整が必要であると認識している。	2019年度11月試験志願者数報告、入試種別一覧「その他の入試」 http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/nyushi/shubetsu/sonota.html	
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】								
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	学科会議において、求める学生像や入学希望者に求める水準等についての認識を共有している。その内容は、どのように検証しているかを点検・評価している。	特になし	特になし					各種入学審査要項

		学部・学科/研究科・専攻	ドイツ学科		氏名	太田 達也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	ドイツ学科では、大学設置基準上必要となる専任教員教および教授教を遵守することを前提としたうえで、専門分野の構成、年齢構成、男女比のバランスに配慮しつつ、学科の目的に沿って教員を採用・配置するための人事計画を定めている（6-2-1）。	2018年度はこれまで欠けていたオーストリアの文化・芸術思想を専門とする研究者を専任教員として獲得することができた。	特になし	A	2020年度末には2名の専任教員が同時に退職する予定であることから、どのような人事を進めるのが最善か、学科で議論・検討する。	特になし	6-2-1 「ドイツ学科人事計画」
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	2018年度はドイツ学科主催のFDワークショップに2度にわたって開催した（6-4-1）。	2018年度は、3名の教員が学外の教員研修に自発的に参加し、教員の資質向上に取り組んだ（日本独文学会主催「ドイツ語教員養成・研修講座」に2名、日本独文学会主催「ドイツ語教授法ゼミナール」に1名が参加）。さらに、公的ドイツ語検定試験の試験官資格更新審査・講習を受けることで、ドイツ語教師としての資質向上に取り組んだ（ゲーテ・インスティトゥート検定試験の試験官資格講習に3名が参加、オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験の試験官資格を1名が更新）。	特になし	A	試験官資格を持つ教員は、今後も資格維持のための講習等を受け、さらなるスキルアップに取り組む。	特になし	6-4-1 「2018年度ドイツ学科FD活動報告」
		⑥ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の適切性、とりわけ教員組織の編成方針については、学科会議において必要に応じ議論している。また、FD活動の適切性についても、学科会議において必要に応じ議論している。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	

		学部・学科/研究科・専攻		ドイツ学科		氏名		太田 達也	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。 学科会議においてたびたび「気になる学生」はいるかを話題にし、対処方法を検討している。またドイツ語授業においては、理解度の遅い学生に対し、学生TAによる学習支援の機会を提供している。成績不良の学生に対しても積極的に声かけをして学習を促したり、どのような困難をかかえているかを聞いて相談に乗るなどの対応をしている。このように、問題が発生する以前から小さな問題に対処していることから、学生支援はおおむね適切に行われていると判断できる。多様な背景をもつ学生に対する具体的対応については、担当部署から連絡があれば学科長が会議に出席して状況を把握し、学科内で必要な範囲で情報を共有し対処している。	授業についてこれられない学生や授業外での質問にも、教員が授業外の時間に対応している。また、TAを導入してそうした学生のサポートを手伝ってもらっている。	特になし	A	支援を必要としていても声をあげられないような学生にも留意し、より万全の支援体制の構築を行う。	特になし	
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。 学生への修学支援の適切性については、必要に応じて適宜、学科会議で検証している。	特になし	「2018年卒業時アンケート」の回収率が低かった（7-3-1）。	B	特になし	「2018年卒業時アンケート」の回収率を上げるよう、4年次生への呼びかけを徹底する。	7-3-1「2018年卒業時アンケート」

			学部・学科/研究科・専攻	ドイツ学科	氏名	太田 達也			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】軽微な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	学科教員による社会貢献は、右欄に記す通り、大に行われている。国際交流事業は、国際化推進事業の枠組みで積極的に行われている。2018年度は、「海外フィールドワーク」の枠組みで67名の学生をドイツに短期派遣したほか、2名の学生をドイツから短期招聘し、国際交流の促進を図った。また、キャリア支援室主催の催しとして1名のドイツ学科卒業生を招聘し、ドイツ語をいかした仕事についての講演会を開催した。加えて、学科主催のドイツ語劇や弁論大会などの催しを機会として、同窓会メンバーとの交流が促進されている。	3名の教員がゲーテ・インスティテュートのドイツ語試験官資格を持ち、また1名の教員がオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験の試験官資格を持っており、学外でも活動を行っている。また、1名の教員が、日本独文学会ドイツ語教育部の会長職にあり、大学入試センター試験のドイツ語入試問題の評価委員をつとめている。また、1名の教員が、自身の教育研究成果をいかし、NHKのドイツ語テレビ番組およびラジオ番組の制作に携わり、自ら出演している。	特になし	今後も定期的に試験官としての活動を、学内・学外で続けていく。	特になし	「2017年度ドイツ学科教員評価報告書」
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	社会連携・社会貢献については、学科会議等で話題にすることで情報共有を行っている。これまでに不適切な活動事例などはなかったことから、各教員の社会連携・社会貢献は適切な方向で行われているであろうとの相互信頼的な前提に立ち、特にその「適切性」について学科で検証する作業は行っていない。	特になし	今後、ドイツ語圏と関連のある企業との連携可能性を検討する必要がある。	特になし	ドイツ語圏と関連のある企業とどのような連携が可能であるか、学科で議論し、具体的に何ができるのかを検討していく。	

		学部・学科/研究科・専攻	アジア学科	氏名	中 裕史		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 ② 大学の理念・目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	アジア学科では、「アジア有数の言語人口を擁する中国語・インドネシア語を修得したうえでこの地域の実情を現地目の目でも理解する力を培う。日本の将来はアジア近隣諸国との信頼関係構築にかかっており、今後域内協力の必要性が高まることに鑑み、アジアの複数の言語を駆使し広い視野をもって活動できる人材を育成すること」(1-①-1)を目的としている。学科HPにおいても、上記「南山大学の目的に関する規程」の趣旨を踏まえたうえで受験生等に対してわかりやすい表現を用いて学科紹介を行っている。(1-①-2)	特になし。	特になし。	[A]	「南山大学の目的に関する規程」第3条第2項第5号 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/okai/pdf/d1040.pdf (1-①-1) 「アジア学科ホームページ」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/faq/top.html (1-①-2)

			学部・学科/研究科・専攻	アジア学科	氏名	中 裕史			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重微な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。 学科全体のディプロマ・ポリシーとして「中国語またはインドネシア語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることのできる高度な外国語運用能力」を掲げ、東アジア専攻のディプロマ・ポリシーとして「中国、台湾、韓国などの東アジア地域で共有されてきた文化、東アジア地域の歴史や社会などに関する専門知識、ならびに日本や欧米諸国と東アジア地域との関係性を視野に入れて複眼的に東アジア地域を理解する力」を、また東南アジア専攻のディプロマ・ポリシーとして「東西文明の十字路に位置するインドネシアおよびその周辺の東南アジア地域が育んできた多文化共生社会に関する専門知識、ならびに東西世界および周辺地域との関係性を視野に入れて複眼的に東南アジア地域を理解する力」を掲げている。上記を実現するために、カリキュラム・ポリシーでは「中国語およびインドネシア語の4つの技能について高度な運用能力を培う科目」、「海外フィールドワーク」および各専攻において「本格的な地域研究を行う科目」を配置することを掲げており、両ポリシーの整合性はとれている。(4-②-1)	特になし。	特になし。	[A]	特になし。	特になし。	アジア学科 3つのポリシー http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/policy.html (4-②-1)

			学部・学科/研究科・専攻	アジア学科	氏名	中 裕史		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、ワークとリサーチワークを適切に組み合わせ合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	共通教育科目では、幅広い教養を身に着けるために宗教科目や「人間の尊厳」科目、基盤・学際科目などを配置するとともに、コミュニケーション能力を養うために英語や中国語、インドネシア語の科目を配置している。学科の初年次教育では、「入門演習」および「アジア入門」科目を配置している。2年次では、日本との関係性を視野に入れてアジアを理解するために「アジアと日本」を配置し、欧米諸国との関係性も視野に入れるために学部共通科目を配置している。また外国語運用能力を伸長させるために中国語とインドネシア語の中級科目を配置している。3年次以降では、各専攻で地域研究を行うための科目を配置している。このように科目配置や配当年次はカリキュラムポリシーと整合している。(4-③-1)	演習科目を1年次から4年次まですべての学年に配当しており、初年次の「入門演習」、2年次の「基礎演習」から3年次・4年次の各演習科目へと発展する流れができています。加えて講義科目として初年次に「アジア学入門」、2年次に「アジアと日本」を配置してアジアに関する基本知識の涵養を目指すとともに、演習科目におけるプレゼンテーションや討論の水準の向上を図っており、演習科目と講義科目の連携がとれている。	特になし。	[A]	特になし。	『授業科目履修案内「履修要項」』(4-③-1)	
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	従前のアジア言語実習科目を発展させて2017年度から海外フィールドワーク科目を配置して原則として学科生全員が参加する形態とした。(4-④-1) 履修年次は2年生であるので2018年度にその第1回を台湾(輔仁大学)とインドネシア(サナタダルマ大学)とで実施した。学生の主体的授業参加を促すために演習科目や外国語科目はもちろんのこと、講義科目においても発問、討論、リアクションペーパー、Webclassなど各科目に適した方法を用いて双方向の授業ができるよう、学科会議において各教員に要請している。	海外フィールドワークに参加した2年生から次年度に長期留学をするための手続きをしたいと申し出があった。またWebclassを利用する教員が増えた。海外フィールドワークから長期留学へとステップアップする流れを継続して維持したいと考えており、これまでのところは順調に推移している。(4-④-2)	Webclassの利用が一部の教員にとどまっている。またその利用も機能の一部に限られていて学生へのフィードバックが十分とはいえない。その利用が効果的であると思われる科目についてはWebclassの利用をさらに促進していきたい。	[A]	学科で実施している留学説明会への学生の参加をさらに促して長期留学者を増やす。 Webclassについては、学科会議の場で2018年度ならびに2019年度の活用状況の情報共有を図り、利用の促進につなげる。	『授業科目履修案内「履修要項」』(4-④-1)、『海外フィールドワーク(言語実習)参加者の長期留学』(4-④-2)	

		学部・学科/研究科・専攻	アジア学科		氏名	中 裕史		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	1年次の中国語およびインドネシア語科目の定期試験については、同一範囲、同一問題、同一基準で評価しており、客観性と厳格性は担保しているものと考えている。また、卒業論文作成の指導は各指導教員に委ねているが、評価にあたっては毎年学科において判定会議を行って、担当教員以外の視点からの評価も加えて客観的、総合的な判定を行っている。また判定会議において優秀と認められた卒業論文は『卒業論文優秀作品集』として編集し、冊子体の形にまとめている。(4-⑤-1)	1年次の中国語は1科目を複数クラスで開講しているが、学生の成績は客観的かつ厳格に行っているのに2年次の習熟度別クラス編成の際に適切にクラスの振り分けができていない。卒業論文についても複数教員の評価を加味することで適切に判定が行えている。	特になし。	卒業論文については手引きを配布して形式面での統一を図っているが、なお一部に形式面での不統一等が見られるので、統一した書式をファイルで配布することを検討する。	特になし。	卒業論文優秀作品集(4-⑤-1)
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	1年次の中国語およびインドネシア語科目については各クォーター定期試験の正答率をみることによって、全体的な達成度や満足度は大学で実施している学生による授業評価によって確認している。(4-⑥-1、4-⑥-2)	必修あるいは選択必修科目として配置している中国語科目およびインドネシア語科目では筆記試験を実施しているので、会話・文法・語彙それぞれに到達度を見て取ることができている。	3年次以降の中国語科目およびインドネシア語科目は選択科目として配置しており、学科生のすべてが履修しているわけではないために、履修していない学科生の到達水準を把握できていない。中国語およびインドネシア語については、1、2年次生のみならず、上級生も含めて到達度を把握できるように努めたい。	特になし。	検定試験の合格状況についてアンケート等を行うことにより、学科生の到達水準の把握に努める。	『2018年度アジア学科中国語・インドネシア語定期試験正答率』(4-⑥-1)、『南山大学「学生による授業評価」』(4-⑥-2)
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	ディプロマ・ポリシーに定める修得すべき知識と能力については、おもに年度初めの学科会議の場において、学科の目的に照らして適切であるかどうか、また、学科生の到達度がどの程度であったか等を中心に検証している。カリキュラム・ポリシーと授業の整合性については、おもに秋学期の時間割編成の段階において、学科会議の場でカリキュラム・ポリシーに則って配置している科目が適切に開講、運用されているかどうかを確認するとともに、年度初めの学科会議において、学科科目の配置がディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するためのものとして適切であるかどうか検証している。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	
					[A]			
					[B]			
					[A]			

			学部・学科/研究科・専攻	アジア学科	氏名	中 裕史			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	学生の受け入れについては、学科のアドミッション・ポリシーに基づいて一般入試等各種入学試験を実施している。(5-②-1) 入学者選抜についても学科会議や大学の合否判定資料作成委員会、入試委員会での審議によって公正に実施している。留学生の受け入れについては、従前から実施している外国人留学生入学審査に加えて2018年度から新たに【EJU利用型】の入学審査を導入した。(5-②-2)	複数の会議体を通過することによって学生募集及び入学選抜の公平性と公正さを担保できている。	特になし。	[A]	特になし。	特になし。	アジア学科3つのポリシー http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/policy.html (5-②-1) 南山大学外国人留学生入学審査要項【EJU利用型】(5-②-2)
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	学科の入学定員は2017年度から60名となっており、編入学生の定員を合わせた収容定員は226名である。2018年5月1日現在の在籍者は262名であるが、長期留学からの帰国者も含んでおり、定員管理は適正であると考えている。	特になし。	特になし。	[A]	特になし。	特になし。	2018年度収容定員超過率(2018年5月1日現在)(5-③-1)
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	毎回の学科会議の場で各教員が学生の様子を報告して入学した学生がアドミッション・ポリシーに掲げた資質を有しているかどうかの検証を積み重ねている。こうした検証をさらに積み重ねた上でアドミッション・ポリシー自体の適切性についても専攻制導入4年をめぐりに議論を行う方向で考えている。	学科会議における検証はアドミッション・ポリシーに掲げる資質を伸長するための各授業の運営改善の検証にも活用できる。	特になし。	[A]	特になし。	特になし。	

			学部・学科/研究科・専攻	アジア学科	氏名	中 裕史		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織 ② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	学科の人事計画に沿って2018年度はインドネシア語およびインドネシア言語研究を担当する教員1名が4月に、中国語および華人研究を担当する教員1名が9月に着任した。(6-②-1)	学科のインドネシア語教育および中国語教育を担う体制が堅固になった。	特になし。	特になし。	特になし。	2018年度外国語学部教員人事計画 (6-②-1)
	④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	初年次教育に関しては、春学期終了時点で「入門演習Ⅰ」の振り返りと次年度に向けての計画について、学科会議の場で協議した。外国語教育に関しては、インドネシア語を担当する専任教員と非常勤教員との会合を2017年度に続いて開催して授業運営について意見交換を行うとともに、中国語についても、2017年度から実施している教科書、授業進度、定期試験問題および採点基準の統一に則して授業運営を行い、その経過や結果について、専任教員間で適宜確認を行った。	「入門演習Ⅰ」は4人の教員が担当しているが、それぞれが専門領域を反映したものを使用するが、学科会議での協議を通じて課題の回数や分量の統一を図ることができた。また、インドネシア語についても各クラスを専任教員と非常勤教員がペアで担当しているが、会合での意見交換を通じて授業を円滑に運営することができた。中国語の授業運営や学生の学習状況についても専任教員間での情報共有ができていた。授業の進行状況や学生の理解度、教材の適否等について常に専任教員間で情報共有と意思疎通ができていたよう今後も努めたい。	特になし。	特になし。	特になし。	
	⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	年度初めに学部提出する人事計画についてはその直前の学科会議において適切であることを確認している。また、FD活動については、初年次および2年次の演習科目や外国語科目、海外フィールドワークなどそれぞれの対象とした科目の開講を終えて当該年度末に提出する学部宛報告書(6-⑤-1)の内容に反映するとともに、次年度の始めにやはり学科会議の場で振り返りを行っている。	人事計画についてもFD活動についても学科教員の合意のもとに進んでおり、事後の検証も行って次年度において継続すべき点や改善すべき点の有無を確認している。	特になし。	特になし。	特になし。	2018年度アジア学科FD活動報告書 (6-⑤-1)

		学部・学科/研究科・専攻	アジア学科		氏名	中 裕史	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。 全学的な会議体である「合理的配慮を希望する学生へのサポート体制についての情報共有会議」に学科長が出席して、合理的配慮が必要な学生に対するサポートの体制や取り組み状況を確認している。(7-②-1) また「南山大学授業科目履修規程」第27条第②項に該当する学生1名に対して、外国語学部教授会での審議に基づいて指導強化を行った。(7-②-2)	指導強化を行った当該学生は2018年度春学期には18単位を修得して復調気配がみえた。	特になし。	特になし。	合理的配慮を希望する学生へのサポート体制についての情報共有会議資料(7-②-1) 外国語学部教授会記録(4/11および10/24) (7-②-2)
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。 修学支援（指導強化等）をおこなった後の学期の成績に基づき、学科会議において効果の有無を検証している。	修学支援を行った後の修得単位数は支援（指導強化等）の効果を測る客観的な目安になっている。	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	アジア学科		氏名	中 裕史			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り残れが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準9	社会連携・社会貢献 ② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	国際交流としては、毎年実施している海外フィールドワークAおよび海外フィールドワークBにおいて、学科生の派遣先である輔仁大学(海外フィールドワークA)およびサナタダルマ大学(海外フィールドワークB)との間で、教員間の交流や学生間の交流を行っている。(9-②-1) また、国内の他大学等との連携については、毎年11月にインドネシア語スピーチコンテストを主催して、国内の他大学や高等学校等から参加を得てインドネシア語による朗読やスピーチを通じて交流を進めている。(9-②-2) 卒業生との連携としては、毎年、大学祭においてホームカミングデーとして卒業生と教員が交流する場を設けているほか、学科単位でも秋学期に卒業生と現役学生が交流する場を設けている。	教員間の交流を通じて毎回の海外フィールドワークが円滑に実施できている。またインドネシア語を学習している他大学や高等学校の学生・生徒、および審査を依頼している他大学・学校の教員と本学教員・学生との交流も円滑に行っている。卒業生と現役学生との交流は相互にいい刺激となっており双方にとって有益であると考えている。これらについては今後も維持していきたい。	海外フィールドワークAは2018年度には7月に実施したが、輔仁大学はその時期が夏季休暇にあつていて、2018年度以前に比べて本学学生と交流する輔仁大学の学生が少なかった。プログラムの遂行には支障はなかったが、次回以降さらに輔仁大学生の人数が減るようであれば何らかの対策を講じる必要が生じる。	[A]	途絶えることなく継続していくことが重要である。	2019年度の状況をみたらうえではあるが、本学科との交流に参加する輔仁大学の学生がさらに減るようであれば、現在7月としている実施時期の変更等も視野に入れながら輔仁大学と協議をしていくことになる。	2018年度海外フィールドワークA運用細則および同B運用細則ならびに学生事後レポート(9-②-1) インドネシア語スピーチコンテストプログラム(9-②-2)
	③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	上記海外フィールドワークにおける教員間の交流については、それぞれのプログラムの準備期間や実施期間中の意思疎通が円滑に行っているかどうかを学科会議の場で、また学生間の交流については学科生の意見や感想を事後授業の場で確認したうえで学科会議において報告している。	学科会議の場で海外フィールドワークの準備状況や学生の反応を含めた実施状況を報告することによって学科教員に情報が共有されて次回への引継ぎが容易になっている。	特になし。	[A]	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	経済学部		氏名	林 順子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準1	理念・目的	<p>① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。</p> <p>学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。</p>	<p>「南山大学の目的に関する規程」第4条において、経済学部経済学科は、「普遍的な人間理解と寛容性の養成に役立つ教養教育を行うとともに、経済学の基礎の正確な修得の上に各専門分野における発展的知識・分析力の修得と応用能力の育成をめざした教育を行う。本学部における教育を通して、国際化がすすむ現代社会において国際人としての自覚と幅広い教養の上に経済の専門的知識と応用能力を活かして積極的に活躍できる人材を養成する」の目的と定めている。（1-①-1）</p> <p>学部のディプロマ・ポリシー（以下DP）においても「経済学の専門的な知識を修め、国際社会における経済活動に求められる幅広い視野と実践力を備えた人材を育成し」、「経済学の理論・実証、国内外の経済事情、経済の歴史・思想に関して理解する能力」および「経済分析、経済政策、国際経済、経済史・経済思想の複数分野における学習により修得した、現実の経済問題を社会全体の広い文脈に位置づけながら分析・検討・議論できるだけの思考力と表現力」という能力をもつ学生に学位を授与するものとした。（1-①-2）</p>	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	<p>1-①-1「南山大学の目的に関する規程第4条」 1-①-2「経済学部経済学科3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/e/policy.html</p>

			学部・学科/研究科・専攻	経済学部	氏名	林 順子		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。 DPに沿うカリキュラム・ポリシー(以下CP)を設定している。例えば、DPで示した「経済学の理論・実証、国内外の経済事情、経済の歴史・思想に関して理解する能力」を獲得するため、CPでは、1年次に「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済学のための数学」および、「経済学を中心とした社会科学を学ぶ専攻分野科目、経済外国語科目、社会人基礎力科目」を設けている。 また、DPで示した「現実の経済問題を社会全体の広い文脈に位置づけながら分析・検討・議論できるだけの思考力と表現力」を獲得するため、CPでは1年次に資料・文献の報告及び議論の手法を学ぶための経済基礎演習を、3年次以降に社会で求められる発想力や論理的思考力、自己表現力を、卒業論文の作成を通じて涵養する経済専門演習を設定している。(4-②-1) 以上のように、DPとCPは、整合しているといえる。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	4-②-1「経済学部経済学科3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/e/policy.html
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) 私立大学の経済学部で、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済学のための数学」を必修科目としている大学は少ないが、本学部ではこれらを必修とし、基礎理論を踏まえて現代社会の問題を根本的に理解できるよう配慮している。 社会人基礎力科目として、これまでの「企業と業界の研究」のほか、2018年度は「自己とキャリアの形成」においても、実社会で活躍する人々を呼び、社会人としての仕事に対する姿勢を学ぶ機会を増やした。	経済基礎演習Ⅰ・Ⅱは、カリキュラム・ポリシーに掲げる「資料・文献の報告及び議論の手法を学ぶ」場であるが、担当教員によって基準に若干のばらつきがみられる。 また、この経済基礎演習Ⅰ・Ⅱについては、新入生オリエンテーションや履修登録のスケジュール上、1年生に、所属する経済基礎演習Ⅰを選択する時間を割くことができない現状への対策。また、クォーター制移行後の基礎演習への教員配置などの様々な課題もみられる。	特になし。	経済基礎演習について、カリキュラム・ポリシーに掲げる「資料・文献の報告及び議論の手法を学ぶ」との目標の達成に向けて、「2020年度以後の経済基礎演習の決定と運用方法に係るワーキンググループ」を学部に設置し、2018年度より演習内容の再編成や所属する演習の決定方法等を含め、本格的な検討を始めている。(4-③-3) このWGの検討を踏まえて、2019年度は学部研修会や教授会でも検討を重ねる。	4-③-1「2018年度 第1回FD委員会 議事録」 4-③-2 2018年度『授業科目履修案内 履修要項』 4-③-3「2018年度第13回経済学部教授会会議資料及び議事録」

			学部・学科/研究科・専攻	経済学部	氏名	林 順子		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重微な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 2016年度より短期留学プログラムを開始、2017年度より「経済英語海外研修」として単位化した。また、学部研修会において学生へのPR方法を検討し、説明会の日程を前倒しにしたり、説明会案内チラシを1～3年生全員に行き渡るようにし、参加者の増加を図った。(4-②-1) (2) 学生の主体的参加を促す授業形態として、1年次に経済基礎演習、3、4年次に経済専門演習を設けている。経済基礎演習では調査分析および議論の手法を学ぶとともに、調査した結果に基づく主張を年度末にレポートにまとめて提出することを必須としている。3、4年次には各自がより専門的な調査研究を進め、報告、議論を行い、4年次には卒業論文を提出することを必須としている。 (3) 複数の講義でwebclassが活用されている。	(1) 2018年度参加者は2017年度に比べて1人減の9名となったが、2018年度に募集した2019年度参加予定者は16名と大幅に増加した。また、2018年度の参加者の帰国報告レポートには「語学力はもろろんコミュニケーション力が身についた」「自主性が養われた」など、学習効果とともに人間の成長もうかがわせる記述があった。(4-④-2)	特になし。	特になし。	特になし。	4-②-1「2018年度経済学部研修会記録」「2019年度経済英語海外研修(短期留学プログラム)説明会チラシ」4-②-2「帰国報告レポート」
	⑥ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「経済学のための数学」等の複数クラス開講の学科必修科目については、「担当教員間の申し合わせ」を定め、クラス間の客観性、厳格性を担保するよう努めている。かつ、これらの科目については、成績評価の客観性、厳格性を担保するために、成績評価分布を教授会で共有するとともに、教員間の成績評価分布の平準化を図っている。(4-⑤-1) 経済基礎演習Ⅰと経済基礎演習Ⅱについても、修了レポート・修了論文の提出状況を教授会で共有し、成績評価の客観性と厳格性の担保に努めている。 (2) 学位授与については学則および「南山大学学位規程」に定める要件及び手続に従い、経済学部教授会による審査を経て、学長が決定している。(4-⑤-2)	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	4-⑤-1「2018年度第1回教授会会議資料及び議事録」4-⑤-2「2018年度第5回教授会会議資料及び議事録」「2018年度第17回教授会会議資料及び議事録」

			学部・学科/研究科・専攻	経済学部	氏名	林 順子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	<p>DPに定める学習成果については、学部教授会における卒業判定の審議等を通して毎年度議論を重ねている。(4-⑥-1)</p> <p>さらに、経済学部においては、毎年度4年次生を対象に学習成果に関する「学生生活アンケート」を実施している。具体的には、4年間のゼミナール制度・数学や英語科目の能力別クラス編成のように、各学生の現状に即した教育実践がどのように身に付いていったかについて、学部全体の共通認識として把握することに努めている。(4-⑥-2)</p> <p>また、毎年度の学部FD研修会において、アンケート結果を検討している。(4-⑥-3)</p>	<p>数年に1度のカリキュラム改正によって、学生の成果に対する自己認識が変わる可能性があるが、学生生活アンケートの実施やその後のFD研修会でアンケート結果を確認している。(4-⑥-2)</p> <p>そのアンケートにおける経済学部の教育についての設問への回答をみると、4年間のゼミの実施への満足度や教育を含む学生生活全般への満足度が、2015年度以降85%を超え続けるなど、毎年度低くない結果を得ている。(4-⑥-3)</p>	特になし。	A	<p>2018年度のFD研修会の際に、「第3期認証評価の特質—大学基準協会が求める内部質保証の実質化—」について、外部講師を招き講演頂いた。この講演内容を参考に、2019年度以降、今後の学習成果測定について検討し、さらに効果を伸ばして行くことが望ましい。</p>	特になし。	<p>4-⑥-1「2018年度第5回教授会会議資料及び議事録」</p> <p>「2018年度第17回教授会会議資料及び議事録」</p> <p>4-⑥-2「2018年度FD研修会資料」</p> <p>4-⑥-3「2018年度学生生活アンケート」</p>
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。	(1) FD委員会において、出席者全員が3つのポリシーを再度読み直し、それぞれの整合性を点検した後、現段階では特段の変更の必要性がないことを確認した。(4-⑦-1)	特になし。	特になし。	A	特になし。	4-⑦-1「2018年度FD委員会議事録」	

学部・学科/研究科・専攻			経済学部			氏名	林 順子		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受け入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	経済学部では、留学生の受け入れについては、これまで一般試験とは別に外国人留学生入学審査、外国人留学生別科留学生推薦入学審査の制度を設けて留学生の受け入れに対応してきたが、2018年度には新たに外国人留学生入学審査[ELU利用型]の制度を設け、受け入れの拡大を図った。審査内容や求める学生像については教授会で議論をした。様々な意見が出たが、最終的には、多くの受験者が取り組めるように、幅広い小論文の議題を設定することを決定した。(5-②-1)	特になし。	特になし。	特になし。	5-②-1「第2回経済学部教授会議事録」	
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】						
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	3月21日開催の第1回経済学部FD委員会において、委員全員でアドミッション・ポリシー(以下、AP)の内容を再確認し(5-④-1)、求める学生像や審査方法について明記されているか、またCPやDPと一貫性があるか等について検証した。 学生の受け入れの適切性については、毎年度の学部研修会において、入試種別ごとの成績追跡調査に関する報告を行っている。(5-④-2) このデータは、次年度以降の定員決定の際の参考資料として利用されている。	成績の追跡調査を見る限り、入学後の成績が極端に悪い入試種別は存在しておらず(5-④-2)、APの設定および学生の受け入れは適切に行われていると考える。	この2年ほど、定員厳格化の影響でセンター利用入試の合格点が高くなり、結果的にセンター利用入試(3教科・5教科のいずれも)による入学者数が減っていることから、定員の見直しについて議論する必要がある。	2021年度から始まる新しい入試制度に向けて、学部としても対応する必要がある。学部FD研修会で、定員や科目配置、アドミッションポリシーなどについて議論をし、必要であれば修正を行う。	定員厳格化に対して場当たりの対応をせざるを得なかったが、教授会や研修会などで早めに議論をし、経済学部における入試戦略の見直しを行う。	5-④-1「第1回経済学部FD委員会議事録」 5-④-2「入試種別による成績追跡調査について」経済学部研修会資料

			学部・学科/研究科・専攻	経済学部	氏名	林 順子				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	経済学部では、学部の目的に沿って教員を採用、配置するための人事計画を定める。2018年度の人事計画は「国際金融論」担当の専任教員の新任用、また教員1名の期間をさだめない任用、さらに、教員2名の教授昇格の人事計画にそって、これを進めた。(6-②-1) また、2018年度を最後に退職する英語科目担当教員の後任人事の準備を行っている。	「経済学部における教員評価の基準と実施体制に係る内規」に従い、「国際金融論」担当教員1名の任用と2名の教授昇格を行った。また、「南山大学外国人教育職員任期取扱内規」に従い、教員1名の期間を定めない任用を行った。 さらに、「経済学部における英語教育担当教員評価の基準と実施体制に係る内規」を制定し、2020年度に予定している、経済学部としては初めての英語教育担当任用にあたって、評価の基準を示した。(6-②-2)	特になし。	英語教育科目担当教員の2020年度任用を目指し、教員公募をおこなう、「経済学部における英語教育担当教員評価の基準と実施体制に係る内規」に照らして業績を評価し、任用の手続きを進める。	特になし。	6-②-1「2018年度経済学部経済学科人事計画」 6-②-2「経済学部における英語教育担当教員評価の基準と実施体制に係る内規」	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	教員による教育の質向上を目的として、各学年度の成績優秀者(学部長表彰者)との懇談会、4年次生向けに実施している「学生生活とその成果に関するアンケート」、クォーターごとに実施される「学生による授業評価」を活用するとともに、毎年度FD研修会を教職員対象に実施している。 FD研修においては、2018年度は、「第3期認証評価の特質—大学基準協会が求める内部質保証の実質化—」というテーマで開催している。研修後には教員間で話し合いを行い、次年度のテーマについても決定している。特に、FD関連行事を通して教員間で現在の状況を相互で確認することが可能であり、共通の認識・目標を持って進められていることを考えても効果が上がっていると見えるであろう。	学生を対象に集計したアンケートからも、毎年のFD活動の成果は着実にあがっていると考えられる。毎年開催されるFD研修会等を通して、学部スタッフの意識が高まり、認識を共有し連携した取り組みが機能的に作用し始めていると考えられるが、このような状況改善は経済学部にとって大きな効果であるといえる。	FD研修で取り上げた学習成果の評価方法に関する改善等につき、今後実施される大学認証評価という機会とも関連して、2019年度以降学部内でも検討を行う必要があるかもしれない。 また、年度初めの新入生ガイダンスにあてられる時間が減り、初年次の必修科目である経済基礎演習Ⅰの担当者の希望を新入生に訊く時間がなくなっているため、経済基礎演習Ⅰとともに経済基礎演習Ⅱの担当者決定と運営方法などについて、初年次教育の質の向上を目指して、検討する必要がある。	A	FD活動の機会は、近年充実していると考えられるが、2019年度には夏休み前に1回、夏休み後に1回と、外部講師を招いて行う研修会回数を増やす予定である。互いに関連したテーマで実施する予定であり、よりその効果を高めたいと考えている。	毎年度、夏休み中に実施される学部研修会は、各教員によって、日頃の教授会等で取り上げられないような事柄についてまとまった時間を取って議論する、学部にとっては非常に有効な機会であると位置づけられている。この研修会の機会等を利用して、初年次教育の質向上につながる事案に関して検討を行う。	6-④-1「2018年度経済学部FD活動報告」

		学部・学科/研究科・専攻	経済学部		氏名	林 順子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の編成方針については、2016年度「経済学部における研究・教育体制確認のためのワーキンググループ報告書」を教授会で承認し、2018年度はその方針にしたがって人事計画を進めた。(6-⑤-1) また、「経済学部教員評価システム」により、各教員の業績のほか、講義数や指導担当学生数など教育業務、役職数などの校務負担などを毎年確認し、「経済学部における教員評価の基準と実施体制に係る内規」に照らしつつ、業績が不振である教員には学部長が面談を行っている。(6-⑤-2) FD活動に関しては、年度初めの教授会において、2017年度の活動報告および2018年度計画の情報を共有した。(6-⑤-3) また、2018年度末に経済学部FD委員会を開催し、2018年度の活動報告の点検および2019年度計画の検討を行った。(6-⑤-4)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	6-⑤-1 2016年度「経済学部における研究・教育体制確認のためのワーキンググループ報告書」 6-⑤-2 「経済学部教員評価システム」 6-④-3 「2018年度第1回教授会記録」 6-⑤-4 「2018年度FD委員会記録」

		学部・学科/研究科・専攻	経済学部		氏名	林 順子				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をクエリの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	推薦入学の学生に対しては、数学や英語の勉強の仕方を紹介し、推薦図書を提示した上で書評提出を義務づけている。(7-②-1) また、2009年度から必修科目の「経済学のための数学」において、また2012年度からは経済外国語科目の「時事英語」および「ビジネス英語」において、能力別クラス編成を行っている。(7-②-2) 1, 3, 4年次の演習を必修とし、各教員が定期的に指導学生の様子を観察し、問題があった場合に気がつきやすい体制ができています。 各年度末において、1~3年次で所定の取得単位数に満たなかった成績不良学生に対し、(7)前年度指導教員から次年度指導教員への当該学生学習状況に関する申し送り、(4)当該学生の保証人に対する、特に注意を喚起する形での成績表の送付、(9)次年度指導教員による当該学生(必須)および保証人(任意)との個別面談等、個別の指導を行っている。(7-②-3)	「学生生活アンケート」では、「経済学のための数学」に関しては83.6%の回答者が、「時事英語」および「ビジネス英語」に関しては80.7%の回答者が、能力別クラス編成に満足している。(7-②-4)	クォーター制導入に伴い、2年次のゼミが廃され、2年次生の問題を把握しづらくなった。2018年度の2年次生に、1年次には20単位以上とっていたにも関わらず、2年次は5単位以下にしかとれていない学生が増加している(前年度の2名[256名中]から、今年度は5名[300名中])。(7-②-5)	B	経済外国語科目の能力別クラス編成の立案・実施を担う「英語コーディネーター」については、従来、「経済学を専攻する日本人専任教員」がその任に当たってきたが、2020年度に「英語教育に専門的に携わってきた教員」を任用し、学部の英語教育の充実を図る。	学習意欲を喪失した学生、特に2年次生の状況を、指導教員が早期に確認・指導できるような体制を検討する。	7-②-1「2019年度推薦入試合格者への送付文書」 7-②-2「2018年度履修要項」 7-②-3「2017年度履修規程第27条該当者リスト」今後の手順 7-②-4「2018年度学生生活アンケート」 7-②-5「2017年度履修規程第27条該当者リスト」「2018年度履修規程第27条該当者リスト」(学生番号・氏名は削除)
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	経済学部では、学生支援の適切性に関わる「定期的な点検・評価」を行うにあたり、2011年度より各年度末、卒業予定年次にあたる学生を対象とする「学生生活アンケート」を実施してきた。このアンケートは、学生の就学および就職の状況、ならびに、学生生活および進路に関わる満足度等について、調査するものである。(7-③-1)。	2018年度「学生生活アンケート」において、「学生生活の満足度」については、回答者の87.4%が「非常に満足」または「まあまあ満足」と回答している。「進路選択についての自己評価」では、回答者の47.7%が「10点満点中8点以上」、80.8%が「10点中6点以上」と回答している。「4年間のゼミ教育」に関しては、85.1%が有益と回答している。また、「4年間の学習を通じて学んだ能力」として、75.7%が「基礎的・専門的知識」を、77.3%が「思考力・表現力」を回答している(7-③-2)。 以上より、学生生活の満足度、および進路選択についての自己評価に関しては、概ね一定の水準が実現されてきたと考えられる。	特になし。	A	「学生生活アンケート」の評価結果について、得られたデータを蓄積しつつ、毎年度、その結果を検討し、「学部として取り組むべき課題」を把握する。 さらに、上記アンケートにおける「各調査項目の妥当性」についても、毎年度、確認・検討を行う。	特になし。	7-③-1,7-③-2、「2018年度学生生活アンケート」

			学部・学科/研究科・専攻	経済学部	氏名	林 順子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組を実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	社会連携の取組みに関しては、東海財務局の寄付講座「経済政策論」、外務省「外交講座」を受け入れている。 社会貢献としては、高大連携の一環として中学・高校からの要請に応じて模擬授業を実施している。また、小中高校の教員免許状更新に係る講習において、隔年で学部教員が講義を担当し、南山大学エクステンションカレッジ「日本の経済を考える」にも、経済学部教員5名が協力している。	2018年度、14件の模擬授業の依頼に対応した。模擬授業実施校の一部からは感想文が送られてきており、好評である。 2018年度の教員免許状更新に係る講習の受講後のアンケートによれば、良好な評価を受けている。(9-②-1)	特になし。	特になし。	特になし。	9-②-1 2018年8月開催「教員免許状更新講習受講後アンケート結果」
	社会連携・社会貢献	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。	(1) その取組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	社会連携の適切性については、東海財務局の寄付講座「経済政策論」の開講にあたっては、毎年度教授会において、東海財務局から提出された講義内容をみて、審議をしている。(9-③-1) 社会貢献については、年度毎に、学部所属教員に「経済学部『教員評価システム』評価項目一覧」に、社会貢献の実績を記載する項目を設けており、その結果を学部長が把握している。(9-③-2)	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	9-③-1「2018年度第1回経済学部教授会記録」 9-③-2「2017年度経済学部『教員評価システム』評価項目一覧」

		学部・学科/研究科・専攻	経営学部	氏名	安田 忍			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	「大学の目的に関する規程」において、経営学部は「現代経営学における基本的領域を広範に学んだ上で、経営倫理ならびに社会的責任を全うすることができ、本学の教育のモットーである「人間の尊厳のために」を体現した学生を養成すること」を目的とし、また、「このような人材を国際社会および地域社会の発展に寄与するために世に送り出すこと」を社会的使命とすると定めている。この目的は、大学の目的を踏まえながら、学部の専門分野に応じて具体的に定めたものであり、大学の目的と関連している。学部の目的は、ディプロマ・ポリシーにも反映されており、その適切性は、学部教員および学部学生に対する3つのポリシーの配布、意見聴取によって確認している。また、2019年度からは、意見をより表明しやすくなるため、意見聴取方法を自由記述式アンケート用紙によって行うことにしている。また、ディプロマ・ポリシーの内容は、「父母の集い」においても説明している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	大学の目的に関する規程

			学部・学科/研究科・専攻	経営学部	氏名	安田 忍			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	経営学部のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに示す能力を養成するために共通教育科目と経営学科科目から成る教育課程を編成していること、また、学科科目では、経営学の基本的な4つのコア専門領域（組織・労務、財務・ファイナンス、マーケティング・流通、会計）と実践的な技能を習得するための科目、経営倫理に関する科目を幅広く配置していることを記載している。したがって、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは整合している。	特になし。	A	特になし。	特になし。	ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー (https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/bb/policy.html)
		④ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	カリキュラム・ポリシーに基づき、経営学の入門的な科目を基礎に、4つの領域（組織・労務、財務・ファイナンス、マーケティング・流通、会計）と実践的な技能を習得するための科目を幅広く配置している。学生はこれらの多様な科目の中から、段階的に経営学の基礎知識を学び、そのうえで4つの分野のうちから選択した分野について応用的かつ発展的知識を学ぶことができるように授業科目を開設し、配当年次に従って体系的に編成している。なお、現行カリキュラムは2017年度クォーター制導入と学部定員増による教員配置などを考慮して見直し、2017年度から実施しているため、2018年度においては学生からの意見など、現状の把握につとめている段階である。	1年次から4年次まで、ゼミ担当者による指導教員制を採用し、少人数教育を実施している。指導学生数が1・2年次は20名、3・4年次は13～15名となるように、ゼミの開講数を確保している。	A	特になし。	特になし。	2018年度経営学部長表彰懇談会およびゼミ長会議の記録（第6回経営学部教授会報告事項）

			学部・学科/研究科・専攻	経営学部	氏名	安田 忍			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り残れが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り残れが顕著である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	シラバスにおいて各科目の到達目標、授業計画、および授業時間外に学習すべき内容を記載している。大学の学びを円滑に行うために初年次教育に力を入れており、入学時に「学び方講座」を実施し、また、1年次の「基礎演習(A・B・C・D)」では、コミュニケーション能力、グループ学習、文献の探し方、プレゼンテーションなどの教育・指導を行っている。複数の授業においてWebclassを活用している。経営学部短期海外留学プログラムとして「ビジネス英語海外研修」を実施し、単位化している。実施状況については自己点検評価委員会が確認している。	2018年度実施の経営学部短期海外留学プログラムの参加者は15名(募集人数15名)であった。また、当プログラムはJASSOの助成を受けている。全学的に行われる学部長表彰、学長表彰以外に、経営学部独自の制度として学部表彰(学長表彰者を除き、それに続く成績優秀者5名の表彰)を実施し、学生の学習意欲向上につなげている。3、4年生のゼミだけでなく、1、2年生対象のゼミでも産学連携を取り入れたPBL型授業に取り組むクラスが増えている。また、産学連携を通じて学生の主体的学習態度を促す効果が出ており、各種コンクールで表彰に結びつく成果を挙げている。2018年度学部FD講演会において「ティーチング・ポートフォリオを活用した教育改善」について話を聞き、ティーチング・ポートフォリオに対する認識を共有した。	特になし。	A	特になし。	特になし。	南山大学HP、NEWS & TOPICS (https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/news/index.html)で紹介 FD講習会資料2018、9、25自己点検評価委員会資料
	⑥ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	シラバスに明示されている個々の授業の到達目標および成績評価方法に従って、各教員が責任をもって単位認定を行なっている。また、全学的に学生による「履修成績評価の疑問調査」を行っており、成績評価に疑問がある学生に対しては評価の妥当性に関して教員が説明責任を果たすことにより、成績評価の客観性、厳格性が担保されている。学位授与については学則および「南山大学学位規程」に定める要件及び手続に従い、教授会による審査を経て、学長が決定している。成績評価の厳格性については、教務部長からの注意事項として明記され、教授会でも注意を喚起しているが、教授会において、今後も注意喚起に努めている。教員による課題受け取り方法の厳格化、受け取り記録管理の徹底について呼び掛けている。	外国語検定試験の結果による全学的な単位認定のほか、経営学部では簿記検定試験の結果による単位認定を行っている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	「学位規程」第3条および13条

		学部・学科/研究科・専攻	経営学部		氏名	安田 忍			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	ディプロマ・ポリシーに定める学習成果については、卒業時アンケートを実施して把握している。具体的には、「成長した程度」「身についた力」「満足度」に関する詳細な質問項目の結果から、学生の自己認識を通じて把握に努めている。就職等の進路結果を教授会において報告している。	卒業論文のうち、指導教員が推薦する優れた論文は、「経営学部学生論集」として刊行し、学部の新3・4年次生にも配布している。卒業論文提出者全員の卒業論文要旨を経営学部の「卒業論文要旨集」として刊行している。	学習成果の測定は、上記の成績評価に記載したように、各授業担当者の責任において行われている。学習成果の測定がどのようなものを意味し、どのような指標が求められているのかは、全学的に論議されていない状況にある。	B	特になし。	学習成果の測定方法については、学部としての枠組み、指針の設定等を論議する必要があるが、あわせて、全学的にも方法を検討、設定していくことが望まれる。	第1回教授会報告事項6
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	ディプロマ・ポリシーについては修得すべき能力が学部の目的と照らし、適切に定められているかを、カリキュラム・ポリシーに沿って、ふさわしい教育課程（教育内容、教育方法）を明示しているかを、学部教員および学生に対する3つのポリシーの配布、意見聴取によって確認している。授業評価アンケートの結果に対する報告書について、学部からも教員に提出を要請し、報告書の作成を通じて各授業の自己点検を求めている。	学部長表彰時および3・4年生ゼミ長会議時に学生からカリキュラム、授業内容等について意見を聞き、その結果は教授会で報告している。1年生に対して学部独自に勉強時間、授業内容等に関するアンケートを実施している。また、全学的な「2018年卒業時アンケート」を4年生のゼミ時間を利用して実施している。これらの結果は学部教員全員に配布して情報を共有するとともに、学部の拡大自己点検・評価委員会（学部自己点検・評価委員会委員以外の教員も参加）において、教育課程やその内容、方法の適切性に関する検証材料として活用し、問題点、改善方法等を検討している。	2017年度に論議し、改正した3つのポリシーは、2018年度から適用されることもあり、2018年度は3つのポリシーの教員、学生への配布による周知および意見聴取にとどまっている。	A	特になし。	2019年度は、従来通り3つのポリシーを配布するとともに、意見聴取をより行い易くするためにアンケート用紙を添付し、意見の提出を依頼する。またその結果を受けて、学部の自己点検・評価委員会が確認、検討する。	「1年生に対するアンケート」、「2018年卒業時アンケート」結果（全学、経営学部）、2018年度経営学部長表彰懇談会およびゼミ長会議の記録（第6回経営学部教授会報告事項）第2回経営学部教授会報告事項8、2018.12.12経営学部拡大自己点検評価委員会記録

			学部・学科/研究科・専攻	経営学部	氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受け入れを促進するための制度改革をしているか。 【2018年度学長方針】	学生の受け入れ方針、求める学生像、入学選抜の方法についてはアドミッションポリシーに明示し、公表している。 留学生受け入れを促進するため、2019年度入試においてEJUを利用した「外国人留学生入学審査(EJU利用型)」を募集した。このほか、留学生に対して外国高等学校卒業生入試、外国人留学生入試、別科推薦入試を実施している。	カトリック高校特別入試を実施し3名の志願があり、3名を合格とした。	「平成33年度大学入学選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について」に従って、2021年度入試から推薦入試に小論文を追加する必要がある。	A	特になし。	2021年度入試から推薦入試に小論文を追加することにつき、入試課と連携して必要な手続きを進めていく。	
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。 【2018年度学長方針】	文部科学省への届出により、2017年度から学部入学定員を270名(以前は245名)として学生を受け入れている。各種入学試験の合格者数は、入学定員充足率および収容定員充足率を考慮して、合否判定委員会、入試委員会および教授会において慎重に判定している。	2019年度大学生の入学定員充足率(2019年4月1日時点)は94%、在籍学生の収容定員充足率は1.07%であり、適正に管理されている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	アドミッションポリシーの適切性は、毎年、学部教授会、学部学生への配布、意見聴取によって確認している。また、教授会において入試種別ごとの受け入れ人数を毎年審議している。	推薦入試で依頼する指定校の内容および人数について、一定の学力レベルと志願者人数を確保できるように、毎年教授会で慎重に審議している。	センター試験を利用した現行の入試種別から、大学入学共通テストを利用した種別への変更等、2021年度入試の変更に合わせて入学定員を再検討する必要がある。	A	特になし。	2021年度入試に合わせて、アドミッションポリシーの内容を見直す必要があるかどうか検討を始める。 2021年度入試の入試種別の変更に合わせて、種別ごとの入学定員を再検討する。	

			学部・学科/研究科・専攻	経営学部	氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、そのは、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	経営学部では、学部の目的に沿って教員組織を編制・配置するための人事計画を定め、人事計画に沿って組織編制を行っている。人事計画は学内人事委員会で検討を行っている。第一回教授会において構成メンバー、定足数を確認し、あわせて専任教員数、教授数が大学設置基準を満たしていることを確認している。	人事計画に沿って、2018年度において、特別任用講師4名の2019年度からの再任用(2年)、外国人講師1名の2020年度からの任期を定めない任用、准教授昇格1名、教授昇格1名、研究休暇1名に関する人事案件の処理を実施した。	特になし。	A	特になし。	特になし。	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	教員の授業改善に向け、基礎演習担当者ミーティング(春、秋学期各1回)、FD研修会(1回)を実施し、また、経営学部以外が開催するFD活動についても教授会で案内し、積極的な参加を呼びかけている。外部講師によるFD講演会では「ティーチング・ポートフォリオを活用した教育改善」について学んだ。「学生による授業評価」を活用している。研究活動、教育活動、社会貢献活動など全教員の前年度業績は、大学の「研究業績システム」に入力するほか、「南山経営研究」各巻第1号に掲載し、各自の自己点検を促している。また、「研究業績システム」の入力結果に基づいて、「経営学部における教員評価の基準と運営体制に係る内規」に従って経営学部教員評価委員会を実施し、研究業績基準を満たさない教員に対し、面談で事情を聴取した上で、助言を行うシステムを取り入れている。	2018年度における経営学部所属教員のFD活動参加率は87.5%であった。優れた教育を実践している学部教員を表彰するために、経営学部独自に教育功労顕彰を実施している。	経営学部所属教員と大学院経営学専攻兼任教員は重複しているため、これまで講演会形式で実施するFD講演会については経営学部と経営学専攻の共催として実施してきたが、2019年度からは経営学部が単独で開催とすることとする。	特になし。	A	特になし。	「2018年度 経営学部FD活動報告」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の適切性については、経営学部の「人事委員会」によって昇格等の人事計画、教育専門分野別の教員配置・構成のバランスについて点検を行い、配置、構成については教授会でも審議している。また、学部の人員配置を計画する際は、大学設置基準上必要となる専任教員数および教授数の条件充足状況を確認している。FD活動の1つである基礎演習担当者ミーティングでは、担当者全員で授業運営、評価方法などについて話し合い、その結果については教授会で報告し、FDの内容の適切性を検証している。	FD活動の1つである基礎演習担当者ミーティングでは、担当者全員で授業運営、評価方法などについて話し合い、情報共有することで、各クラス間の整合性を保つ効果を果たしている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	第7回及び第17回教授会報告事項

			学部・学科/研究科・専攻	経営学部	氏名	安田 忍		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	特になし。 特になし。	特になし。 特になし。	A A	特になし。 特になし。	特になし。 特になし。
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	基礎演習担当者ミーティングにおいて担当教員間で授業内容と成績評価の方法について相互に確認を行っている。 1年次生アンケートや卒業時アンケートを用いて、学生の満足度を把握し、拡大の自己点検・評価委員会で議論することによって、学生支援の改善・向上に繋げている。	特になし。 特になし。	A A	特になし。 特になし。	特になし。 特になし。

			学部・学科/研究科・専攻	経営学部	氏名	安田 忍		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。 (1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	高大連携事業として高校からの模擬授業等への講師派遣依頼に対して、2018年度は4件の派遣を行った。 ゼミ単位での産学連携が活発に行われており、2018年度は4件の取組みがあった。 企業その他の組織から、講演依頼や委員委嘱などが22件あった。 大学でのキャリア教育充実に向けて中部経済連合会が会員企業からの講師派遣などを行う「企業・人材プール」を活用した産学連携を行った。	ゼミ教育の一環として数年にわたって学生とともにボランティア活動に従事している教員がいる。 南山大学卒業生15名を非常勤講師とする「現代産業論(先輩実務家と語る)」を第2および第4クォータに開講している。また、授業内容の専門分野に応じて、卒業生を非常勤講師とする講義(例えば「アドバンスト会計」「税務会計論」、公認会計士)を依頼している。	特になし。	A	特になし。	企業・人材プール 2018年度 講義実施報告書 http://www.chu.keiren.or.jp/news/pdf/J_Pool_2018Report.pdf
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組みを行っているか。 (1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	各教員が行う社会連携・社会貢献については、教授会における兼業申請・届出の審議によってその適切性を点検している。	学部独自に実施する教育功労顕彰において、社会連携・社会貢献の成果を評価の重要な視点の1つとしている。	特になし。	A	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	法学部	氏名	伊藤 司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	<p>「『キリスト教世界観に基づく学校教育』という建学の理念のもと、法律学科では、専門教育に偏ることなく、幅広い教養を修得させるため、「共通教育科目」、「他学部開講科目」とをバランスよく履修するように、卒業要件を設定している。また、専門教育では、「法的、読み、書き、話すの能力を修得させ」るため、1年次に法学の基礎的スキルを学ぶ「ベーシック演習」を開講し、すべての新入生に対し履修させている。ベーシック演習では、法律関連資料の調査手法、判例の分析・解析方法、報告の仕方など、法学の基礎的要素の修得する授業を行っている。</p>	<p>ベーシック演習を担当する教員ごとで異なった視点で授業を行うことにより、所属する演習毎で目標レベルや修得範囲にばらつきが生じないように、法学の基礎となるスキルを修得できるよう、学部統一のテキスト（「ベーシック演習テキスト&マテリアルズ」）を作成し、それをもとに授業を行っている。このため、2年次に進級後に履修する演習（ミドル演習）の履修者は、進級者の98%となっている。</p>	B	<p>特になし。</p> <p>2018年度に法学を効果的に学ぶための履修プランの検討を行い、それを踏まえ、2019年度にカリキュラム改定を行った。 2019年度からは、カリキュラム改定の目的である効果的な法学の履修ができるよう、時間割の作成等に配慮する。また、ガイダンスの実施において、学生に対し、改定の趣旨を説明し、カリキュラム改正の趣旨に則った履修を行うよう、指導する。</p>	2018年9月26日 教授会資料・議事録

			学部・学科/研究科・専攻	法学部	氏名	伊藤 司				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが適切なものである。</p> <p>[B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。</p> <p>[C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>			
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	法律学科のディプロマ・ポリシーでは、五つの能力を身につけた学生に対し、学位（法学）を授与すると定める。 カリキュラム・ポリシーでは、これらの能力を養成するため、共通教育科目、学科科目を配置すると定める。学科科目では、1年次に、基本六法のうち、憲法・民法・刑法に関する科目を配し、2年次以降では、これらの科目を含め、基本六法を中心に、先端的な法分野に関する科目を配している。これらの講義科目と各学年で開講される演習科目をもって、前述の五つの能力を修得することとなっている。	特になし。	法律学科は、2019年度入学者が2年次に進級する2020年度から、従来の1コース制、3つの履修モデルのカリキュラム体系から、2コース制に変更される。 カリキュラム・ポリシーでは、この履修モデルについての記載がある。そこで、このコース制の導入を踏まえ、カリキュラム・ポリシーの改定を行う必要がある。	B	特になし。	2018年度に議論した内容を踏まえ、教授会で審議のうえ、2019年9月までに、コース制を前提としたカリキュラム・ポリシーの改定を行う。	カリキュラム・ポリシー
		④ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	学カリキュラム・ポリシーを前提に配当科目を配している。 法律学科のカリキュラムは、共通教育科目の修得年次を意識し、1年次に配する学科科目や時間割の設定に配慮している。 また、特定のプロジェクトに集中的に取り組むことを通じて問題分析スキルや問題解決能力を涵養するための演習科目（プロジェクト研究）を開講している。 以上のように、学部ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するための指針であるカリキュラム・ポリシーに従った科目配置、時間割設定を行っていることから、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程となっている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	カリキュラム・ポリシー、および法学部履修要項

		学部・学科/研究科・専攻		法学部		氏名		伊藤 司	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [5]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが顕著である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	2018年度に、学部のFD研修、および法務研究科との合同の検討会で、より効果的な法学教育の検討を行い、その検討結果を踏まえ、2019年度にカリキュラム改定を実施した。また、法学学科では、学習の主体的な参加を促す「プロジェクト研究」や短期の留学プログラムである「海外法文化研修」が開講されている。 2018年度では、「プロジェクト研究」を18科目、267名が履修し、「海外法文化研修」には、26名が参加している。 なお、「海外法文化研修」は、2019年度海外留学支援制度（協定派遣）学生交流創成タイプ（タイプA）の採択を得た。	特になし。	効果的な履修体系をとるためのカリキュラム改定であることを周知し、その効果が生じているかのモニタリング（具体的な数値項目としては、南山大学法務研究科への志願者の増加をその一つとして考えている）は継続する必要がある。	B	特になし。	2021年度に早期卒業生が誕生するよう、制度の周知を目的としたガイダンスや法律専門家による講義（セミナー）の実施を通じて、学生に対する学習の動機付けを強化していく。	2018年7月18日FD研修会資料（「法科大学院進学希望者に対する法科大学院と法学部の連携に関する調査研究報告書」（以下「報告書」という）について）
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	法学学科では、各Qで実施した定期試験の成績分布については、教授会で開示し、意見交換を行っている。また、教授会が卒業判定を行っている。	特になし。	法学学科では、成績評価に関する客観的基準を設けていない。 客観的基準を設けるべきかを含め、成績評価のあり方について、検討を行う必要がある。	B	特になし。	第198回国会に提出されている「法科大学院の教育と司法試験等との連携等に関する法律等の一部を改正する法律案」によって、「法曹コース」の創設が認められる予定となっている。また、経済界でも大学教育の品質について関心が高まっている。 そこで、卒業生の品質の確保のため、対外的に説明が行えるレベルでの「厳格な成績評価」とは何かについて、およびその実施の是非について、自己点検評価委員会を中心に議論し、2019年度中に結論を出す。	2018年7月18日FD研修会資料（「法科大学院進学希望者に対する法科大学院と法学部の連携に関する調査研究報告書」（以下「報告書」という）について）、法学部作成海外法文化研修パンフレット

		学部・学科/研究科・専攻		法学部		氏名		伊藤 司	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓著した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	講義科目は、法学的素養のうち、主として、当該科目に関する知識を踏まえた法的な論理的思考力をみるための論述試験（定期試験）によって、演習科目については、当該科目に関する知識を踏まえた法的な論理的思考力を前提とした論述力、弁論能力、交渉力をみるための論文、報告、議論を通じて、学習成果の測定を行っている。 さらに各教員が行った成績評価については、半年毎に教授会で開示され、その妥当性について、意見交換を行っている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年4月25日、10月24日実施教授会資料・議事録
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	2018年度に、学部のFD研修、および法務研究科との合同の検討会で、より効果的な法学教育の検討を行い、その検討結果を踏まえ、2019年度にカリキュラム改定を実施した。そのとき、現状のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーとの整合性を検証した。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年7月18日FD研修会資料（「法科大学院進学希望者に対する法科大学院と法学部の連携に関する調査研究報告書」（以下「報告書」という）について）

		学部・学科/研究科・専攻		法学部		氏名		伊藤 司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [5] 極めて良質な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である。 [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重要な問題があり、根本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	留学生の受入れを促進する制度の導入について、特別な対応を行っていない。	特になし。	法律学科で行っている授業の多くは、我が国の法律に関する事項である。我が国の法の多くは、明治以降にヨーロッパやアメリカから導入されたものである。このような事情もあり、法律学科で受け入れが見込まれる留学生は、我が国の法制度を学ぶアジア諸国の学生が想定される。法律学科としては、そのような国々からの留学生の受け入れに備え、履修の便宜を図る制度・仕組みを構築することが望まれる。	B	特になし。	アジア諸国からの留学希望があった場合に、円滑な受け入れのための準備や課題の洗い出しを行う。		
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】								
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	年度初めに入試課から配布される資料をもとに、志願者、合格者、在籍者等を踏まえ、その後の成績等を分析して、アドミッション・ポリシーや入試制度、受け入れ人数が妥当であるか検証し、翌年の入試制度の改善を行っている。 推薦入学生については、入学年度の5月にガイダンスを設け、意見交換などを行い、推薦入学制度がアドミッション・ポリシーと適合しているか検証をしている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年4月11日 実施教授会資料・議事録	

			学部・学科/研究科・専攻	法学部	氏名	伊藤 司				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 【A】良好な状態にあり、取り組みが顕著である。 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	教員組織については、専門領域別に、カリキュラム・ポリシーや効果的な法学教育を行うために必要とされる人員を教授会で議論、決定し、その人員を充足することを目的として、年度初めに、人事懇談会を開催し、当該年度以降の人事計画の見直しを行い、かつその計画に基づき、教員人事を行っている。	2019年3月退職する法領域を補充するため、2019年4月採用の1名の人事を行い、所定の人員を充足させた。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年人事計画
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	2018年度は、2回のFDを実施した。その成果として、2019年度からカリキュラムの改正を実施した。	定期的なFDを実施することにより、法律学科での問題や、その対応や対応方法の必要性の共有化が行えた。2018年度はその共有化の成果として、カリキュラム改正の実施をスムーズに行うことができた。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年度法学部FD活動報告
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	「法学部・法務研究科『教員評価』に関する内規」（2008.7.2法学部教授会決定）によって、3年に1回の研究活動等の報告を実施し、能力・資質等に関する理解を深める機会を設定している。さらに、教員の教育の能力向上に関して、学生による授業評価を実施し、また各授業の成績分布について教授会で明確にしている。その上で、授業評価が一定基準未満の教員に対して指導・サポートをしている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	法学部・法務研究科『教員評価』に関する内規 2013～2015年度に関する教育研究実績報告 次回は、2019年度に2016年から2018年度分実施予定

			学部・学科/研究科・専攻	法学部	氏名	伊藤 司		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である</p> <p>[B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準7	学生支援	<p>② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。</p>	<p>(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。</p> <p>法学部では、高校教育までで取扱われない法学の学習にスムーズに導入できるよう、法学部共通のテキスト（「ベーシック演習 テキスト&マテリアルズ」）を用い、法学部の1年次生の基礎教育を実施している。また、年7回、1年次生全員を集めた講義を行い、大学での学び方、キャリア教育、法曹の仕事などの授業を設け、法学部の学びの動機付けを行っている。</p> <p>また、各教員のオフィスアワーを学生に周知することによって、学生が相談しやすい環境づくりも行っている。</p> <p>成績不良学生については、全学的なルールに則り指導教員による指導を行っている。</p>	<p>1年次に法学等学習の基本的なスキルを修得させることができ、スムーズに2年次以降の専門科目の学習ができています。また、成績不良学生の学科内での情報共有でき、各教員が連携して、当該学生の支援を行うことができています。</p> <p>成績不良学生については、全学的なルールに則り指導教員による指導はなされていない。</p> <p>現状では大きな問題は生じていないが、そのような事態が生じる前に、成績不良者については、定期的なフォローする体制を構築する。</p>	B	特になし。	<p>成績不良者については、指導後にどのような状況となっているかについて、一定期間後（例えば、1年後）の教授会で報告することを検討する。</p>	<p>ベーシック演習テキスト&マテリアルズ</p> <p>2019年4月10日教授会資料・議事録</p>
		<p>③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p> <p>授業評価、および卒業時のアンケートを教授会で開示し、情報を共有している。</p> <p>なお、卒業時のアンケートについては、全学を対象とした入試報告会で開示され、そこで配布された資料を教授会で回覧し、情報の共有化を図っている。</p>	<p>特になし</p> <p>卒業時のアンケートについては、入試報告会で配布された内容を教授会で回覧し、共有化のみで、何らの評価を行っていない。</p>	B	特になし。	<p>2019年度からは、卒業時のアンケートについて、評価を行い、教授会で検証することを検討する。</p>	<p>2018年7月18日教授会資料・議事録</p>

			学部・学科/研究科・専攻	法学部	氏名	伊藤 司				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが顕著である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、根本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合はウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準9	社会連携・社会貢献	<p>② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。</p>	<p>(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】</p>	<p>高大連携の一環として中学・高校からの要請に応じて模擬授業を実施している。 市民向け講座（エクステンションカレッジ）では、各教員が持ち回りで、毎年、当該教員の最新の研究成果を踏まえた、講座を提供している。また、各教員単位では、公的機関の講座や講演、委員会の委員等について、積極的に実施、就任している。</p>	<p>模擬授業等の高大連携事業を始め各種講座への講師派遣等の件数は毎年度10件前後で推移している。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>2019年4月10日 教授会資料・議事録 南山大学研究業績システム</p>
		<p>③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>「法学部・法務研究科『教員評価』に関する内規」（2008.7.2法学部教授会決定）によって、社会貢献活動についても、3年に1回の報告を実施し、検証を行っている（前回は2013～2015年度に関する教育研究実績報告）。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>法学部・法務研究科『教員評価』に関する内規 2013年～2015年度に関する教育研究実績報告</p>

		学部・学科/研究科・専攻	総合政策学部	氏名	藤本 深				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	大学の建学の理念に基づく「人間の尊厳のために」という教育のモットーを踏まえ、現代社会の問題解決に当たっては、当事者への尊厳をもち、状況や背景を深く理解した上で解決策を立案・実践できる人材を育てるため、本学部では「文明論」を学びの基礎とした教育に取り組んでいる。具体的には、第1年次に必修科目「文明論概論」を置き、文明論の概念や視座についての基礎を修得させると共に、文明論科目として配置している9科目から3科目を選択履修させるカリキュラムを構築している。	特になし	特になし	特になし	特になし	2019年度授業科目履修案内 履修要項・教職課程 p.188, 189.

		学部・学科/研究科・専攻		総合政策学部		氏名		藤本 潔	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である</p> <p>[B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。</p> <p>規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合はウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、すなわち文明論を踏まえた上で、国際政策、公共政策、環境政策のそれぞれの分野における専門的知識とスキルを駆使することにより、複合的な諸問題の解決に向けた政策立案能力を養成するため、カリキュラム・ポリシーでは、文明論を学びの基礎に据え、上記3分野の政策コースに対応する科目を幅広く開講することを謳っており、整合性において問題はない。	特になし	特になし	特になし	特になし	総合政策学部3つのポリシー http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/p/p/policy.html 2019年度授業科目履修案内 履修要項・教職課程 187-218
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	1) 現状ではコース科目全てが2年次以降履修可となっているが、一部科目は基礎科目からの積み上げが必要なものもあり、履修年次について見直しを要する。授業科目、および科目の位置づけはカリキュラムポリシーと整合している。 (2) 学科科目では、初年次には学びの基礎となる「文明論概論」を必修科目として配置すると共に、共通教育科目の必修科目である「宗教論」や「キリスト教概論」で文明論的視野の涵養を補うことが可能となっている。また、初年次に共通教育科目の必修外国語科目と選択必修外国語科目で現場でのコミュニケーションツールとなる語学力の基礎を涵養すると共に、2年次には専門資料の読解力やコミュニケーション力のさらなる向上を目的とした選択必修科目「総合政策外国語科目（総合政策英語または中国語）」を配置している。	特になし	コース科目の一部に履修年次の見直しを要するものがある。	2019年度に立ち上げるカリキュラム検討委員会（仮称）で議論する。	2019年度授業科目履修案内 履修要項・教職課程 187-190	

			学部・学科/研究科・専攻	総合政策学部	氏名	藤本 凜		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [5]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A]良好な状態にあり、取り組みが顕著である。 [B]軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C]重要な問題があり、根本的な改善が求められる。</p>	<p>[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>(1) 共通教育の選択必修外国語科目の位置づけであったNAP（南山短期アジア留学プログラム）を2018年度から学科学科目に位置づけ、語学学習と共にフィールド調査の実施を明確化した。また、学外での体験学習を目的とした「学外体験プログラム」には海外で実施するプログラムも存在する。 (2) 複数の授業で演習や討論、学外授業等を取り入れて学生の主体的参加を促す工夫をしている。 (3) Webclass上に授業ファイル等を事前にアップしたり、質問に答えたりすることで、学生が主体的に学べる工夫をしている教員も徐々に増えつつある。</p>	<p>(1) NAPを学科学科目の選択科目の位置付けとしたことで履修者数が減少することが懸念されたが、2018年度のNAP履修者数は108名で、2017年度の128名、2016年度の126名と比べ実数では減少したが、2年次生の学生数に対する参加比率でみると、それぞれ35.3%、34.5%、33.6%で、むしろ増加した。 (3) Webclassへ授業資料を事前にアップしたり、Webclassを利用して質問を受け付けることで、授業評価の設問2や設問11の値が向上したと自己評価欄に記載している教員が数名確認された。</p>	<p>(1) 7つの国・地域で実施するNAPは担当教員の確保と出張旅費の確保が大きな課題となる。現状では1カ国当たり2名の教員が担当し、事前学習と現地指導にあたるが、現地で全日程に教員が帯同できたのはベトナム、マレーシア、フィリピンの3カ国のみで、他は送迎のみの引率となった。そのため、フィールド調査の質的充実度は各国間で差違が生じる結果となった。また、教員の出張旅費が大学から支給されないため学生の参加費に上乗せせざるを得ず、参加費が高額となる一因となった。高額な参加費は参加学生数の減少に繋がるゆゆしき問題である。</p>	B	<p>(1) 参加率の増加は、入学前のオープンキャンパスや入学後のNAPの履修説明会等で、その意義や魅力について積極的に広報に努めた結果と考えられる。今後もWebやFacebook等の活用も含め、様々な方法での広報に努めたい。 (3) 教授会やFD懇談会等で、Webclassの積極的利用を促したい。</p>	<p>(1) 各年度時間割一覧の履修者数、学部事務室保管NAP経費関連資料。 (2) 例えば「環境調査法」「総合演習」等のシラバス (3) 例えば「学生による授業評価」のまとめ 2017年度第3クォーター・第4クォーター p.94、2018年度第1クォーター・第2クォーター p.82-84</p>	
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位论文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) 成績評価の基準はそれぞれの科目のシラバスに具体的に記載されている。各科目の成績評価結果（成績分布）は学期毎に教授会の報告資料として公表し、教員相互による確認を行っている。 (2) 学位授与に関わる卒業判定は教授会審議事項であり、適切に行われている。</p>	特になし	<p>複数の教員が共通した内容を講義する科目で、担当者間で成績分布にばらつきが見られる科目がある（例えば「総合政策基礎演習」など）</p>	B	<p>特になし</p>	<p>成績分布のばらつきが一定の範囲内に収まるよう、評価基準について担当者間で共有する場を設ける。</p>	<p>(1) 2018年10月10日、2019年5月15日教授会報告資料 (2) 2018年6月27日、7月11日、2019年3月1日教授会審議資料</p>

		学部・学科/研究科・専攻		総合政策学部		氏名		藤本 凜	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが顕著である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	学習成果を測定するための特別の調査は行っていないが、卒業論文によって、その到達度を評価している。	特になし	客観的な学習成果の測定法は定められていない。	B		学習成果の客観的測定が可能か否かについて、学部懇談会等で検討を行う。	
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	2017年度に改正したディプロマ・ポリシーについてはまだ卒業生が出ていないため検証の段階にない。カリキュラム・ポリシーについては、2019年度にカリキュラム検討委員会を立ち上げ、科目配置や履修年次について検討を開始した。	特になし	現段階ではディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについての検証、カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性についての検証は行っていない。	B	特になし	担当者会議等で浮上してきた問題点やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの関係も含め、2019年度にカリキュラム検討委員会（仮称）を立ち上げ全体的な議論に入ると共に、FD活動の一環として懇談会等の機会に議論していく予定である。	2019年6月12日第1回カリキュラム検討委員会議事メモ

2018年度自己点検・評価報告書 「学部（学科）/研究科（専攻）」

様式1（基準5）学生の受入

			学部・学科/研究科・専攻	総合政策学部	氏名	藤本 潔				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが顕著である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合はウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>		
基準5	学生の受け入れ	<p>② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。</p>	<p>(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】</p>	<p>留学生を対象とした入試方式は、外国人留学生推薦入学審査【指定教育機関】、外国人留学生A0方式入学審査、外国人留学生A0方式入学審査【指定教育機関】の3方式で、9月入学と4月入学に対し、年2回実施している。</p>	<p>外国人留学生推薦入学審査は協定機関からの推薦に基づくもので、2017年度9月入学は受験者10名、合格者10名、2018年度4月入学は受験者11名、合格者11名、2018年度9月入学は受験者13名、合格者13名、2019年度4月入学は受験者12名、合格者12名とコンスタントに入学者を確保している。外国人留学生A0方式入学審査は、2017年度9月入学は受験者1名、合格者1名、2018年度4月入学は受験者2名、合格者1名、2018年度9月入学は受験者4名、合格者3名、2019年度4月入学は受験者9名、合格者5名と受験者数が増加している。</p>	特になし	<p>外国人留学生A0方式入学審査に関しては国際センターと連携し、さらに積極的な広報活動に努める。</p>	<p>特になし</p>	<p>2017年度、2018年度、2019年度入学試験委員会資料</p>	
			<p>③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p>	<p>(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】</p>	<p>2019年5月1日現在の在籍数でみると、定員275名の1～3年次生は、1年次271名、2年次266名、3年次300名、定員330名の4年次生は371名で、5年次生以上を除く総定員に対する比率は1.03となっている。</p>	<p>2018年度および2019年度の入学者数は定員に対して適切な値となっている。</p>	<p>総定員に対する全学生数（残留生含む）比は1.09となっている。</p>	特になし	<p>2020年度入試においても定員を上回らないよう入学者数を絞り込む必要がある。</p>	<p>2019年5月1日現在学生数(PORTA掲載資料)</p>
			<p>④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。</p>	<p>アドミッション・ポリシーの検証は学部入試検討委員会において行うが、現ポリシーは2017年度に改正したばかりであり、それに基づいて入学した学生が卒業に至っていない現時点においては検証を行う段階にない。</p>	特になし	<p>アドミッション・ポリシーそのものの検証については現段階では行っていない。</p>	特になし	<p>アドミッション・ポリシーの検証はどのような方法で可能となるか検討する。</p>	

2018年度自己点検・評価報告書 「学部（学科）/研究科（専攻）」

様式1（基準6）教員・教員組織

		学部・学科/研究科・専攻		総合政策学部		氏名		藤本 凜		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが顕著である。 [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な巻数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	学部教育の基礎となる文明論と3コース制をバランスよく持続的に維持・運用するため、一般教員枠の定数を「国際政策」7名、「公共政策」7名、「環境政策」6名、「文明論・語学」5名に再編した。	2018年度で定年および任期満了を迎えた教員の後任人事は計画通りに進めることができた。	現状では環境政策分野が1名不足している一方で、文明論・語学分野が2名超過している。	B	特になし	2020年度で退職予定の文明論・語学分野教員の1枠を環境分野に振り替える予定である。	2018年度教員枠（様式1, 2）
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれにFD活動を実施する必要がある。）	「演習科目群の現状とよりよい方向へ進むための情報交換」（2018年11月28日）を実施した。ここでの議論は今後のカリキュラム改正に反映させる予定である。	特に「総合政策基礎演習」「プロジェクト研究」について問題の把握と改善方策についての情報交換ができた。	特になし	A	2019年度はFD活動として、これまでの議論も含め、さらにカリキュラム全体の見直しについて議論する場を設ける予定である。	特になし	2018年度総合政策学部FD活動報告
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の編成方針に関しては、学務人事委員会において年度初めに検討している。FD活動計画は、FD委員・学科長・学部長、および関連教員で協議の上計画案を作成し、教授会で報告し、教授会構成員から意見聴取している。また、FD活動報告は、年度初めの教授会において前年度の活動について報告している。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	2018年度第13回および第15回教授会報告資料。2018年度総合政策学部FD活動報告

学部・学科/研究科・専攻			総合政策学部			氏名		藤本 潔	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
基準7 学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	留学生に対しては、日本語能力に応じ、未修者、中級者、上級者に対応したカリキュラムを編成している。様々な障害を持つ学生に対しては、学生課や保健センターと連携を図りながら、状況に応じた対応を取っている。授業科目履修規定27条に抵触する成績不良学生に対しては、教授会でその対応について審議すると共に、当該学生には誓約書および履修計画書（2回目以降）の提出を求めている。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	2019年度授業科目履修案内 履修要項・教職課程 198-209。 2018年9月12日および2019年3月11日開催教授会審議資料。
	④ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	留学生のカリキュラムに関しては、約4年ごとに実施するカリキュラム改正に合わせ、カリキュラム検討委員会の中で評価・検証している。	特になし	留学生のカリキュラムを除く学生支援の適切性に関する検証は、学部レベルでは行っていない。	B	特になし	学生支援の適切性に関する評価は、学部レベルでどのような方法で可能になるか検討する必要がある。	

学部・学科/研究科・専攻		総合政策学部		氏名		藤本 潔				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	掲載資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける掲載資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	各教員が専門性を生かし、国や自治体等の様々な委員会委員を務めている。地域交流事業としては、石川ゼミによる大学コンソーシアムせと「新しい文化創造プロジェクト：瀬戸市居住促進のための魅力分析と情報発信」が実施された。	特になし	個人レベルあるいはゼミレベルでの様々な社会連携・社会貢献活動等は行われているが、学部レベルでは行われていない。	B	特になし	学部レベルでの社会連携等についてどのような取り組みが可能か検討する必要がある。なお、今年度で学部創立20周年を迎えたことを踏まえ、来年度に卒業生と連携して20周年記念行事を開催する予定である。事業内容については社会への研究成果の発信も含め、20周年記念行事企画準備委員会(仮称)を立ち上げ検討する予定である。	研究業績システム 大学コンソーシアムせとHP: http://seto-cu.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/project2018-ishikawa.pdf
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	外部委員会委員等の就任に当たっては兼業申請書の提出が義務づけられている。	特になし	社会貢献等に関する適切性に関して検証する仕組みは構築していない。	B	特になし	社会貢献等の適切性について検証することが可能かも含め、その方法について検討する。	

		学部・学科/研究科・専攻	理工学部	氏名	大石 泰章		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	3つのポリシーにおいて、学部の理念・目的が設定され、公表されている。その内容は、大学の理念・目的に整合している。	A		理工学部webページ https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fos.html

		学部・学科/研究科・専攻	理工学部		氏名	大石 泰章		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	学部全体および各学科ごとに、カリキュラムポリシーを定め、公表している。その内容は学部全体および各学科のディプロマポリシーに整合している。		S		理工学部webページ https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foos.html システム数理学科 3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/sofwareengineering/3policy.html

			学部・学科/研究科・専攻	理工学部	氏名	大石 泰章		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) 整合している[1]。 (2) 各学科の情報技術専修コースについてカリキュラムツリーを作成し、初年次教育、共通教育科目、専門科目との連携を検証している[2]。	情報技術専修コースについては、2018年度にJABEE継続認定審査を受け、3年間の認定継続が認められた[3]。 文科省事業「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT2)」組込みシステム分野の連携校として、他大学との連携のもとに、ソフトウェア開発の実践的教育体制を整備中である。	S	enPiT2については、2019年度から開講されるソフトウェア工学科の「PBL実践演習」において、ソフトウェア開発の実践的教育を行う予定である[4]。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 理工学部webページ https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foos.html [2] 2018年度情報技術専修コース履修要項 [3] JABEE認定審査結果報告書(2019年3月8日付) [4] 2019年度「PBL実践演習[SE]」シラバス
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 2018年度より、University of North Carolina at Charlotte (アメリカ)において、上智大学理工学部と合同の短期留学プログラムを実施している。プログラム修了者は、「理工学海外研修」として2単位を修得できる[1]。 (2) 座学のみならず、演習や実験などを組み合わせ、学生の主体的参加を促している。 (3) webclass は、卒業研究を含めて多くの授業で活用されている。e-ポートフォリオについては、全学的な整備を期待する。	短期留学プログラムには11名の参加があった[2]。	S		[1] 2018年度「理工学海外研修」シラバス [2] 2018年度第19回理工学部教授会記録	

		学部・学科/研究科・専攻	理工学部	氏名	大石 泰章		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</p> <p>(2) 学位授与に係る責任体制</p> <p>(3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) シラバスに評価基準と評価方法を明記し、それに基づいて成績評価を行っている[1]。成績に疑問のある学生は、成績疑問調査を行うことができる[2]。2018年度のJABEE継続認定審査において、成績評価の客観性、厳格性について評価を受けた[3]。</p> <p>(2) 卒業判定は、履修要項で定めた判定基準に基づき、教授会で審議して行う[4, 5]。</p>		S		<p>[1] 2018年度シラバス</p> <p>[2] 南山大学授業科目履修規程</p> <p>[3] 2018年度JABEE継続審査審査結果</p> <p>[4] 理工学部履修要項</p> <p>[5] 2018年度第19回理工学部教授会記録</p>	
⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)</p>	<p>学生による授業評価を行い、学習成果を検証している[1]。必修の卒業研究では、中間発表と最終発表の2回発表を行い、卒業論文と所定のページ数の卒業論文要旨を提出しなくてはならない。発表に際しては、指導教員を含む3名の教員が、所定の卒業論文評価表に基づいて評価を行う[2, 3]。</p>		S		<p>[1] 学生による授業評価 http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/jugyou/</p> <p>[2] 2018年度第13回理工学部教授会記録</p> <p>[3] 卒業論文評価表</p>	
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。</p> <p>(2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>(1) (2) 理工学部外部評価委員会を設け、外部委員3名から評価を受けている[1]。</p> <p>2018年度のJABEE継続認定審査において、カリキュラムポリシーと授業科目の整合性について検証した[2]。</p>		S		<p>[1] 2018年度理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録</p> <p>[2] 2018年度JABEE継続審査審査結果</p>	

		学部・学科/研究科・専攻		理工学部		氏名		大石 泰章	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか。 【2018年度学長方針】	2018年10月17日に、「名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題」なる題目でFD報告会を行い、同大学の留学生受入れ体制を参考に、当学部の留学生受入れはどうかあるべきかを議論した。その結果、学部レベルでの留学生受入れは、留学生の学力に留意して、慎重に行うべきであることがわかった[1]。 2019年度入試より、「外国人留学生入学審査[EJU利用型]」を開始した[2]。	2019年度入試の結果、過去3年間の平均は適正水準となった[1]。	A			[1] 2018年度理工学部FD活動報告 [2] 2019年度南山大学外国人留学生入学審査要項 [EJU利用型]
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。【2018年度学長方針】	2017年度、2018年度入試では、入学者数が定員に対して超過しており、特にソフトウェア工学科の超過が目立っていた[2, 3]。	2019年度入試の結果、過去3年間の平均は適正水準となった[1]。	A			[1] 2019年4月9日開催評議会資料「2019年度入学者数について」 [2] 2018年4月10日開催評議会資料「2018年度入学者数について」 [3] 2017年4月11日開催評議会資料「2017年度入学者数について」
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	学部改組に際して、アドミッション・ポリシーを見直し、必要な変更を行う予定である。	学部改組に際して、アドミッション・ポリシーをいかに変更すべきか具体化する必要がある。	A			

			学部・学科/研究科・専攻	理工学部	氏名	大石 泰章		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	学部に対して設定された教員枠に基づいて、教員組織は適正に編成できている[1]. 学部改組に際して、教員組織をいかに編成すべきか方針を作成した[2].	作成した教員組織の編成方針にしたがい、人事を進める必要がある。	A		[1] 2018年度教員人事計画資料 [2] 2018年度第17回理工学部教授会記録
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	2018年10月17日にFD講演会を行い、名古屋大学の野水勉教授より、「名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題」について講演があった。 2019年3月11日にFD・自己点検報告会を行い、柴原寛明講師より「情報倫理教育の授業と運営について」について、小藤俊幸教授より「新しい時代の微積分の教育」について、それぞれ報告があった。 教員1名に対して教育業績表彰を行った。	FD活動は各学期1回以上行うことが望ましい。	A	2019年度はFD活動を各学期1回以上行う予定である。	2018年度理工学部FD活動報告
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の適切性については、理工学部将来構想委員会で議論している。 2018年度のJABEE継続認定審査において、教員組織の適切性やFD活動について検証した[1]. FD活動については、教授会で活動報告および活動計画の報告があり、情報共有を行っている[2].	教育職員の再任用について、および教育職員の研究業績の日常的評価について、基準を定める必要がある。	A	2019年度の早い段階に、「理工学部における教員評価の基準と実施体制に係る内規」を改正し、教育職員の再任用について、および教育職員の研究業績の日常的評価について、基準を定める予定である。	[1] 2018年度JABEE継続審査結果 [2] 2019年度第1回理工学部教授会記録

			学部・学科/研究科・専攻	理工学部	氏名	大石 泰章		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	合理的配慮が必要な学生については、全学的な枠組みの中で対応している[1]。単位修得状況が思わしくない学生については、27条該当学生として、指導教員が面談し、就学の意味確認および指導を行っている[2]。その他、履修登録状況などを通じて、支援の必要な学生の発見に努めている。		A		[1] 2018年度第1回理工学部教授会記録 [2] 2018年度第20回理工学部教授会資料
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学生支援の適切性については、学部・研究科将来構想委員会で適宜議論している。	27条該当学生への対応の方針を見直し、「履修規程27条該当者に係る運営方針」を定めた。	A		2018年度第20回理工学部教授会資料

学部・学科/研究科・専攻		理工学部		氏名		大石 泰章		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	社会連携のための組織として理工学研究センターを設置し、企業への共同研究シーズの提供や研究員の受入れを行っている[1]。大学の高大連携の枠組みの中で、高校に模擬授業を提供している[2]。大学の小学生・中学生向け講座に講座を提供し、小学生・中学生の啓発を行っている[3]。		A		[1] 南山大学理工学研究センター規程 [2] 2018年度第1回自己点検・評価委員会資料 [3] 2018年4月9日開催協議会資料
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	理工学研究センターは独自に自己点検評価を行っている。高大連携と小学生・中学生向け講座の点検・評価は全学的な枠組みの中で行われるべきである。学部・研究科将来構想委員会で、必要に応じて適切性に関する議論を行っている。		A		2018年度理工学研究センター自己点検・評価報告書

		学部・学科/研究科・専攻	システム数理学科	氏名	三浦 俊英				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	3つのポリシーに、学部の目的が書かれている。それらは大学の理念と目的に関連している。		A			3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/ss/policy.html

		学部・学科/研究科・専攻	システム数理学科	氏名	三浦 英俊			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態であり、取り組みが確立した水準にある。 [A] 良好な状態であり、取り組みが確立している。 [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	根拠資料は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	整合している。		S		3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/s/policy.html
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1)、(2)ともに問題ない。		S		3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/s/policy.html	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 2018年度より、University of North Carolina at Charlotte（アメリカ）で短期留学プログラムを実施している（右欄記載の根拠資料に記載）。(2) 座学だけでなく演習や課題を組み合わせて授業を実施している。(3) 多くの授業でwebclassを利用している。		S		2018年（平成30年）度第15回理工学部教授会記録	
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) シラバスに成績評価の方法を明記している。(2) 卒業研究の審査は3人の教員で行っている。ソフトウェア工学科、機械電子制御工学科と同様、主査1名、副査2名の体制である。		S		シラバス https://portal.nanzan-u.ac.jp/syllabus/	
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	(1) 学生による授業評価、で全学的に行っているため、それで十分と考えている。		S		学生による授業評価 http://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/jugyou/	
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)、(2) 2018年3月11日の学科会議で、学科の3つのポリシーおよび授業科目との整合性について検証しその時は特段の意見は出なかった。整合していると検証できた（根拠資料なし）。		A			

			学部・学科/研究科・専攻	システム数理学科	氏名	三浦 英俊		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	留学生を受け入れを促進するための制度改革は、特段行っていない。		B		
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	なし				
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	(1) 2018年3月11日の学科会議で、学科の3つのポリシーについて検証した。その時は特段の意見は出なかった。		A		

		学部・学科/研究科・専攻	システム数理学科	氏名	三浦 英俊			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。			A		システム数理学科教員一覧 https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/ss/faculty.html
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれにFD活動を実施する必要がある。）	2019年3月11日（月）に理工学部FD報告会を実施した。2つの発表をもとに議論を行った。「情報倫理科目の授業と運営について」（柴原先生）、「新しい時代の微積分の教育」（小藤先生）			A	2018年（平成30年）度FD・自己点検報告会 https://office.st.nanzan-u.ac.jp/faculty/keiji/20190311/fd_contents.htm
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の編成方針については、学部長、学科長、研究科長を中心に行っている。FD活動の適切性については、学部FD委員会を中心に行っている。			A	◆2018年度委員会委員（学部/研究科） https://office.st.nanzan-u.ac.jp/faculty/iinkai/iinkai2018.pdf

		学部・学科/研究科・専攻	システム数理解学科	氏名	三浦 英俊					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	27条該当学生には、指導教員による面接を実施している。						2018年(平成30年)度第20回理工学部教授会 審議事項3
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	27条該当学生の面接については、その面接結果について、教授会で報告されて、情報共有がなされている。		A				2018年(平成30年)度第20回理工学部教授会 審議事項3

			学部・学科/研究科・専攻	システム数理学科	氏名	三浦 英俊		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	企業や自治体との共同研究を行っている研究室がある。これらを通じて研究成果を社会に還元している。	企業との共同研究は、卒業研究というかたちで行われており、学生が学内で学ぶ内容を社会でどのように活用されているか直接知ることのできる機会となっている。	S		理工学部卒業研究要旨 http://www.st.nanzan-u.ac.jp/info/gr-thesis/
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	ほとんどの共同研究は、報告書を作成して、取り組みが適切であるかどうか検証を行う体制を整えている。	共同研究の成果には、公開にいくつかの制約があり、全てをオープンにすることが難しい。そのため、取り組みが適切であるかどうかは、共同研究の個別の事案ごとに行う必要がある。学科で議論できる性質のものではない。	B	共同研究の性質によっては、秘密保持など研究の契約のため、左に書いた内容を改善することが難しいことはご理解いただきたい。	

学部・学科/研究科・専攻		ソフトウェア工学科		氏名		蜂巢 吉成			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	大学の3つのポリシーを踏まえて、学部のポリシーを定め、さらに学科のポリシーを設定して、公表している。	特になし	特になし	特になし	特になし	南山大学 3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/policy.html

		学部・学科/研究科・専攻		ソフトウェア工学科		氏名		蜂巣 吉成	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	整合している。2016年度から2017年度にかけて3つのポリシーを策定した。その際に全学的にポリシーの整合性について確認している。当時からカリキュラムは変わっていない。	2018年度にJABEE継続認定審査を受け、認定された。	特になし	2021年度にJABEE認定審査に向けて、JABEE委員会や学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」を中心に、学部教員で継続的な教育点検・改善を行っていく。	特になし	2016年度第14回理工学部教授会 議事録 2017年度第8回理工学部教授会 議事録 2018年度JABEE継続審査自己点検書 2019年度第1回理工学部教授会 議事録
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) 整合している。2016年度から2017年度にかけて3つのポリシーを策定した。その際に全学的にポリシーの整合性について確認している。当時からカリキュラムは変わっていない。 (2) カリキュラムは情報処理学会のカリキュラム標準J07-CSに基づいてる。	2018年度にJABEE継続認定審査を受け、認定された。	特になし	2021年度にJABEE認定審査に向けて、JABEE委員会や学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」を中心に、学部教員で継続的な教育点検・改善を行っていく。	特になし	(1) 2016年度第14回理工学部教授会 議事録 2017年度第8回理工学部教授会 議事録 (2) 2018年度JABEE継続審査自己点検書 2019年度第1回理工学部教授会 議事録

			学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学科	氏名	蜂巣 吉成		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1]自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A]良好な状態にあり、取り組みが顕著である。 [B]軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C]重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>(1) 2018年度より、University of North Carolina at Charlotte (アメリカ) で短期留学プログラムを実施している。 (2) 2019年度Q2からは「PBL実践演習」を開講し、チームでのソフトウェア開発、成果発表会を行う。 (3) 多くの授業や卒業研究発表でWebClassを利用している。e-ポートフォリオは全学的に導入されるのを期待する。</p>	特になし	<p>(2) JABEEの継続審査でシラバスに科目間の流れが記載されていないとの指摘を受けた。</p>	S	特になし	<p>(2) 教務委員、時間割編成委員が履修要項の「情報技術専修コースの学習・教育到達目標を達成するための授業科目の流れ」に基づいて、2019年度シラバスの「他の科目との関連」の項目に、「この科目の前提となる知識を与える科目」と「この科目の知識を前提とする科目」を記入した。</p>	<p>(1) 2018年度第15回理工学部教授会 記録 (2) 2019年度シラバス (3) WebClassのコース</p>
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) JABEEの取組みの中で、シラバスに評価基準、評価方法を明記し、それに基づいて成績評価を行っている。 (2) 卒業研究発表会は主査1名、副査2名の複数教員で審査を行っている。</p>	特になし	特になし	S	特になし	特になし	<p>(1) 2018年度JABEE継続審査自己点検書 2019年度第1回理工学部教授会議事録</p>

			学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学科	氏名	蜂巣 吉成			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが顕著である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合はウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	卒業研究については学部で共通の「卒業論文評価表」を作成し、問題解決力、自主的・継続的に学習する能力、発表内容、論文内容について評価をしている。	特になし	「卒業論文評価表」の評価の記載の仕方が教員間でばらつきがある。	S	特になし	JABEE委員会が中心になって、2019年度の卒論中間発表会までに「卒業論文評価表」の記入方法を明確にする。	理工学部 卒業論文評価表
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) (2) JABEEの取組みの中で、学部外部評価委員会を設け、検証を行う仕組みを整えている。卒業研究発表会当日に学部外部評価委員会を開催して学外の評価委員に発表会を聴講してもらい、意見を伺っている。 2018年度にJABEE継続認定審査を受審したが、その際にもカリキュラム・ポリシーと授業の整合性について検証した。	2018年度にJABEE継続認定審査を受審し、認定された。	特になし	S	2021年度のJABEE認定審査に向けて、JABEE委員会や学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」を中心に、学部教員で継続的な教育点検・改善を行っていく。	特になし	(1) (2) 2018年度JABEE継続審査自己点検書 2018年度第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻		ソフトウェア工学科		氏名		蜂巢 吉成	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	2018-10-17(水)に「名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題」の題目でFD報告会を行い、他大学の留学生受け入れについて意見交換を行った。 2019年度入試より「外国人留学生入学審査[EJU利用型]」を実施している。	2019年度 南山大学 外国人留学生入学審査要項 [EJU利用型] を作成した。	2019年度に入学した留学生はいなかった。	特になし。	外国人留学生別科などにソフトウェア工学科を希望している留学生がいることを聞いているので、国際センターなどとも連携して、入学につながるようにサポートをしていく。	2019年度 南山大学 外国人留学生入学審査要項 [EJU利用型]
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】						
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	JABEEの取組みの中で、学部外部評価委員会を設け、検証を行う仕組みを整えている。	2018年度にJABEE継続認定審査を受審し、認定された。	特になし	2021年度のJABEE認定審査に向けて、JABEE委員会や学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」を中心に、学部教員で継続的な教育点検・改善を行っていく。	特になし	2017年度第1回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学科		氏名	蜂巣 吉成			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	2021年度の学部改組に向けて教員人事計画を作成した。	特になし	特になし	特になし	特になし	2018年度第17回【臨時】理工学部教授会記録
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	2018-10-17(水)にFD講演会を行った。 【題目】名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題 【日時】2018年10月17日（水）15:30-17:00 【場所】S棟1階会議室1 【講師】野水 勉氏（名古屋大学国際機構・国際教育交流センター・副センター長 教育交流部門 部門長・教授 工学系研究科国際交流室 室員） 2019-03-11(月)にFD・自己点検報告会を行った。 発表者：栗原講師 「情報倫理科目の授業と運営について」 発表者：小藤教授 「新しい時代の微積分の教育」	毎年度、FD講演会、FD・自己点検報告会を行っている。	特になし	FD委員を中心に、引き続き、FD講演会、FD・自己点検報告会を行っている。	特になし	2018年度 FD・自己点検報告会 資料
		⑥ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織については学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員らから構成される「学部・研究科将来構想委員会」で、FDはFD委員を中心に活動をしている。 検証を行う仕組みとして、学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」や「理工学部・理工学研究科外部評価委員会」がある。 学部長を中心に「理工学部における教員評価の基準と実施体制に係る内規」の改訂、「理工学部における業績審査に係る取扱要項」の制定をしている。	特になし	特になし	学部長が中心になって、「理工学部における教員評価の基準と実施体制に係る内規」の改訂、「理工学部における業績審査に係る取扱要項」の制定を2019年度中に行う。	特になし	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学科		氏名	蜂巢 吉成			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	合理的配慮が必要な学生については、全学的な枠組みの中で支援している。27条該当学生には指導教員が面談し、就学の意味確認および指導を行っている。	「履修規程27条該当者に係る運営方針」を定めた。	特になし	合理的配慮が必要な学生については、全学的な「合理的配慮を希望する学生へのサポート体制」に基づき、学科長と指導教員を中心に対応していく。 27条該当学生には「履修規程27条該当者に係る運営方針」にしたがい、指導教員、学科長、学部長を中心に対応していく。	特になし	2018年度第20回理工学部教授会議事録
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	合理的配慮が必要な学生や27条該当学生については教授会で適宜報告し、情報共有している。	特になし	特になし	特になし	特になし	2018年度第20回理工学部教授会議事録

		学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学科		氏名	蜂巢 吉成			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	社会からの要求は、理工学部・理工学研究科が主体となって年2回(9月と1月)開催している外部評価委員会に加え、3月の学内会社説明会における企業アンケートを行い、点検している。 教育成果や研究成果は共同研究などを通して、社会に還元している。	特になし	特になし	特になし	特になし	2018年度第1回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録 2018年度第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録 2018年度理工学部教授会 議事録
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	企業アンケートの結果は教授会で情報共有している。さらに、外部評価委員会でも報告し、外部評価委員から意見を伺っている。 共同研究については、開始前にその適切性について教授会で審議を行っている。	特になし	特になし	特になし	特になし	2018年度第2回理工学部教授会議事録 2018年度第1回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学科		氏名	河野 浩之				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	整合している。	2018年度にJABEE継続認定審査を受け、認定された。	特になし。	S	2021年度のJABEE認定審査に向けて、JABEE委員会や学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」を中心に、学部教員で継続的な教育点検・改善を行っていく。	特になし。	2018年度JABEE継続審査 自己点検書 2019年度第1回理工学部教授会議事録

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学科		氏名	河野 浩之		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	整合している。 2018年度にJABEE継続認定審査を受け、認定された。	特に無し。	S	2021年度のJABEE認定審査に向けて、JABEE委員会や学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」を中心に、学部教員で継続的な教育点検・改善を行っていく。	特に無し。 2018年度JABEE継続審査 自己点検書 2019年度第1回理工学部教授会議事録
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) 整合している。 (2) 連携している。 2018年度にJABEE継続認定審査を受け、認定された。	特に無し。	S	2021年度のJABEE認定審査に向けて、JABEE委員会や学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」を中心に、学部教員で継続的な教育点検・改善を行っていく。	特に無し。 2018年度JABEE継続審査 自己点検書 2019年度第1回理工学部教授会議事録
		④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度 学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 2018年度より、University of North Carolina at Charlotte (アメリカ) で短期留学プログラムを実施している。 (2) 特に3年次と4年次の配属先の研究室における演習ならびに卒業研究は、主体的参加を必要とする総合的な授業である。 (3) 授業ならびに卒業研究発表でWebClassを利用する履修指導が行われている。	特に無し。 (2) 学生の主体的参加を可能とする、安全性の高い実験室の拡充が必要である。 JABEEの継続審査でシラバスに科目間の流れが記載されていないとの指摘を受けた。	B	特に無し。 (2) 実験室において最低限の安全を確保するため安全講習会を継続する。 教務委員、時間割編成委員が履修要項の「情報技術専修コースの学習・教育到達目標を達成するための授業科目の流れ」に基づいて、2019年度シラバスの「他の科目との関連」の項目に、「この科目の前提となる知識を与える科目」と「この科目の知識を前提とする科目」を記入した。	(1) 2018年度第15回理工学部教授会 記録 (2) 2019年度シラバス (3) WebClassのコース

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学科		氏名	河野 浩之		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) JABEEの取組みの中で、シラバスに評価基準、評価方法を明記し、それに基づいて成績評価を行っている。 (2) 卒業研究発表会は主査1名、副査2名の複数教員で審査を行っている。	2018年度にJABEE継続認定審査を受審し、認定された。	1年生向け「基礎演習」を2017年度に開講したことから、2019年度に新たに研究室配属される3年生への定着状況を確認する。	A	特に無し。	2019年度に新たに研究室配属される3年生に対して、指導教員が演習の課題などにより定着状況を確認する。	(1) 2018年度JABEE継続審査 自己点検書 2019年度第1回理工学部教授会議事録
⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	卒業研究については学部で共通の「卒業論文評価表」を作成し、問題解決力、自主的・継続的に学習する能力、発表内容、論文内容について評価をしている。	「卒業論文評価表」に記載された評価は適切であり問題無いが、教員間で多少の揺れが見られる。	特に無し。	S	特に無し。	JABEE委員会が中心になって、2019年度の卒論中間発表会までに「卒業論文評価表」の記入方法を明確にする。	理工学部 卒業論文評価表
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) (2) JABEEの取組みの中で、学部外部評価委員会を設け、検証を行う仕組みを整えている。卒業研究発表会当日に学部外部評価委員会を開催して学外の評価委員に発表会を聴講してもらい、意見を伺っている。 2018年度にJABEE継続認定審査を受審したが、その際にもカリキュラム・ポリシーと授業の整合性について検証した。	2018年度にJABEE継続認定審査を受審し、認定された。	特に無し。	S	2021年度のJABEE認定審査に向けて、JABEE委員会や学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」を中心に、学部教員で継続的な教育点検・改善を行っていく。	特に無し。	(1) (2) 2018年度JABEE継続審査 自己点検書 2018年度第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学科		氏名	河野 浩之		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。 ③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 ④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】 (1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】 (1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	2018-10-17(水)に「名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題」の題目でFD報告会を行い、他大学の留学生受け入れについて意見交換を行った。 2019年度入試より「外国人留学生入学審査[EJU利用型]」を実施している。	特に無し。	A	外部では東京にある日本語学校、学内では外国人留学生別科など、留學生増加につながる入試広報に努める。	2019年度 南山大学 外国人留学生入学審査要項[EJU利用型]
			JABEE審査に適切なPDCAサイクルが必要であるため学部外部評価委員会によりアドミッションポリシーなどを検証している。	2018年度にJABEE継続認定審査を受審し認定された。	特に無し。	S	2021年度のJABEE認定審査に向けて、JABEE委員会や学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」を中心に、学部教員で継続的な教育点検・改善を行っていく。	2017年度第1回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学科		氏名	河野 浩之			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6 教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	2021年度の学部改組に向けて教員人事計画を作成した。	特になし	特になし	S	特になし	特になし	2018年度第17回【臨時】理工学部教授会記録
	④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれにFD活動を実施する必要がある。）	2018-10-17(水)にFD講演会を行った。 【題目】名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題 【日時】2018年10月17日（水）15:30-17:00 【場所】S棟1階会議室1 【講師】野水 勉氏 （名古屋大学国際機構・国際教育交流センター・副センター長 教育交流部門 部門長・教授 工学系研究科国際交流室 室員） 2019-03-11(月)にFD・自己点検報告会を行った。 発表者：栗原講師 「情報倫理科目の授業と運営について」 発表者：小藤教授 「新しい時代の微積分の教育」	毎年度、FD講演会、FD・自己点検報告会を行っている。	特になし	S	FD委員を中心に、引き続き、FD講演会、FD・自己点検報告会を行っている。	特になし	2018年度 FD・自己点検報告会 資料
	⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織については学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員らから構成される「学部・研究科将来構想委員会」で、FDはFD委員を中心に活動をしている。 検証を行う仕組みとして、学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」や「理工学部・理工学研究科外部評価委員会」がある。 学部長を中心に「理工学部における教員評価の基準と実施体制に係る内規」の改訂、「理工学部における業績審査に係る取扱要項」の制定をしている。	特になし	特になし	S	学部長が中心になって、「理工学部における教員評価の基準と実施体制に係る内規」の改訂、「理工学部における業績審査に係る取扱要項」の制定を2019年度中に行う。	特になし	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学科		氏名	河野 浩之				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	合理的配慮が必要な学生については、全学的な枠組みの中で支援している。27条該当学生には指導教員が面談し、就学の意思確認および指導を行っている。	「履修規程27条該当者に係る運営方針」を定めた。	特に無し。	A	合理的配慮が必要な学生については、全学的な「合理的配慮を希望する学生へのサポート体制」に基づき、学科長と指導教員を中心に対応していく。 27条該当学生には「履修規程27条該当者に係る運営方針」にしたがい、指導教員、学科長、学部長を中心に対応していく。	特に無し。	2018年度第20回理工学部教授会議事録
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	合理的配慮が必要な学生や27条該当学生については教授会で適宜報告し、情報共有している。	特になし	特に無し。	A	特に無し。	特に無し。	2018年度第20回理工学部教授会議事録

			学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学科		氏名	河野 浩之		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	JABEE審査の受審に必要なPDCAサイクルとして社会における要求を汲み取ることを必要としており、外部評価委員会に加えて、学内会社説明会における企業アンケートにより点検している。 教育成果や研究成果は共同研究などを通して、社会に還元している。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	2018年度理工学部教授会 議事録
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	企業アンケートの結果は教授会で情報共有している。さらに、外部評価委員会でも報告し、外部評価委員から意見を伺っている。 共同研究については、開始前にその適切性について教授会で審議を行っている。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	2018年度第2回理工学部教授会 議事録 2018年度第1回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	国際教養学部	氏名	斎藤 術			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準1	理念・目的	<p>① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。</p> <p>学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。</p>	<p>国際教養学部は、豊かな国際的教養に基づいて自らの価値観を形成し、国・地域の枠に捕われずに、グローバルな視点に立って思考することが出来る人材の育成を目的としている。そのために、各地で生起する問題をグローバルな視点から捉え、個人々の尊厳を保証し、実現する形での根本的解決をめざす「グローバル・スタディーズ」を主軸とし、異なるイデオロギーや価値観を有する人々と協働して、持続可能な社会の実現をめざす「サステイナビリティ・スタディーズ」を従たる軸としている。</p> <p>この学部の理念は、「人間の尊厳のために」を教育モットーとし、国際的人材の育成をめざす南山大学の理念を一つの形で具現化したものに他ならない。国際的教養に裏付けられたグローバルな視点に立ち、個人々の尊厳を根本に据えた社会を実現するために、世界の人々と協働できるようになるための教育は、文字どおり本学の理念に沿ったものである。</p>	<p>2017年4月の学部設置以降、学部構成員が、学部の理念・目的について話し合う機会を定期的に設けている。2017年度は、学部設置初年度であったこともあり、「国際教養学部をいかに説明するか」、「他大学と比べて、南山大学の国際教養学部の特徴は何か」、「グローバル・スタディーズ/サステイナビリティ・スタイルをどのように考えるか」といったテーマを設定して、FD報告・意見交換会を行った。2018年度は、教授会後の教員懇談会（8月3日、11月28日、12月12日）で、それぞれのテーマに関する議論を深めた。</p> <p>教員全員で話し合いの機会を持つことによって、個人々の教員が日常的に学部の理念・目的について考えるようになってきている。また、こうした話し合いの積み重ねが、理念・目的の検証に繋がるものと考えている。</p>	<p>各教員が、学部の理念・目的をよく理解し、それぞれ「グローバル・スタディーズ」、「サステイナビリティ・スタディーズ」に貢献する教育、研究活動を行なっているが、どのようにお互いの研究が関連し、学部全体としてどのような研究者集団をなしているあるいはなしうるかについて、まだ理解が充分ではないように思われる。学部の理念・目的をより明確な形で、学生そして社会に示すために、さらに議論を重ねていく必要がある。</p>	<p>学部FD委員から、2019年度は、2017年度と同様に、FD報告・意見交換会を複数回開催し、理念・目的に関する議論を深めることが提案されている。これを確実に実施する。</p>	<p>2019年度は、初めて3年次演習と3・4年生対象の専門科目が開講される。FD報告・意見交換会において、各科目の内容、実施状況に関する情報を共有し、意見交換を行う。また、各教員が研究の報告をする機会を設け、学部の理念・目的に関連づけて話し合いをする。</p>	<p>南山大学国際教養学部ホームページ https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fog.html 国際教養学部2018年度教授会記録 国際教養学部2018年度FD報告書</p>

A

		学部・学科/研究科・専攻	国際教養学部	氏名	齋藤 衛						
評価基準	点検・評価項目	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料					
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	ディプロマ・ポリシーでは、批判的思考、情報リテラシー等のスキル、トライリンガルのコミュニケーション能力、および異なるイデオロギーや価値観を尊重し、グローバルな視点を持って、持続可能な社会の実現に向けて他者と協働する力を身につけた学生に学位を授与としている。カリキュラム・ポリシーでは、技法知、学問知の基礎科目群、情報科目群、英語および第二外国語の語学科目群、幅広い専門科目群、演習科目群をあげており、ディプロマ・ポリシーに合致したカリキュラムを提供することを示している。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは、学部ウェブページに公表されており、開講科目もシラバスとともに、大学ウェブページの教務案内に示されている。	登録ガイダンスに加え、翌年度開講科目に関する学生向け説明会を随時開催して、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの関連において科目の説明を行なっている。	特になし。					南山大学国際教養学部ウェブページ https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foreign.html 国際教養学部 2018年度教授会記録 南山大学ウェブページ教務案内 http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUmu/
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	1年次に、技法知、市民的教養および学問知の基礎科目、情報科目、英語科目(2年次第1クォーターまで)、国際教養学入門、国際教養学概論、グローバル・スタディーズ概論を配置し、2年次には多元文化論や分野基礎科目を開講して、3年次からのより専門的な科目に必要な基礎知識を得られるようにしている。また、2年次第3クォーターからは、第二外国語科目も開講し、トライリンガルのコミュニケーション能力を涵養する体制をとっている。宗教科目、基盤・学際科目などの共通教育科目も、グローバル・スタディーズ、サステイナビリティ・スタディーズの専門科目を学ぶ際の基礎知識を提供する。高度な専門科目、演習科目は、年次進行により2019年度から開講する。以上の開設科目は、カリキュラム・ポリシーを具体化するものとなっている。	カリキュラム・ポリシーに沿って科目を配置し、年次進行による教育内容の深化も機能している。	特になし。					2018年度学生便覧 南山大学国際教養学部設置届出書

		学部・学科/研究科・専攻	国際教養学部	氏名	齋藤 衛			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWeblessなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	2年次第2クォーターのアリゾナ州立大学短期留学(6週間)は、基本的に必修としており、初回となる2018年度は、108名が参加した。英語研修ではなく、アリゾナ州立大学サステイナビリティ学部が提供する専門科目を履修するプログラムである。受入責任者から、参加学生のレベルの高さと積極性が報告されており、帰国後の参加者による成果報告会においても、基礎知識と英語プレゼン能力の向上が明確に認められた。アリゾナ州立大学短期留学に代えて、他の留学・研修を選択する学生もおり、2018年度に大学の交換留学プログラムに参加した2年次生は、14名であった。すべての科目でアクティブ・ラーニングを取り入れられており、学生の主体的授業参加が本学部の特徴ともなっている。e-ポートフォリオにより、一定程度ではあるが、教育の成果を把握することができている。各クォーター毎に学生に対するアンケート調査を行っているが、アカデミック・スキルに関する自己評価の向上が明確に認められる。	アリゾナ州立大学短期留学プログラムは、英語教育の集大成として英語によるサステイナビリティ・スタディーズ入門として、有効に機能している。帰国後のアンケート調査は、参加者の満足度も非常に高かったことを示している。2月に学科長と担当教員がアリゾナ州立大学を訪問して、プログラム内容の部分的改善を協議するなど、短期留学プログラムをより充実したものにする努力も続けている。2018年度は、授業以外に、学生向け講演会を15回開催した。これには、国際問題やその解決に向けた活動の紹介、卒業後のキャリアに関連する講演に加え、アリゾナ州立大学やサンカルロス大学など、学生の留学、研修先の教員によるセミナーも含まれる。後者は、留学、研修を希望する学生にとって、よい「事前学習」の機会となっている。アクティブ・ラーニングにより、学生の積極性が涵養されているが、これは授業内に留まらず、社会貢献を目的とする課外活動等においてもよい効果が表れている。(基準9(社会連携・貢献)の記述を参照されたい。)	e-ポートフォリオについては、年度後半に学生の使用頻度が減少する傾向がある。	A	アクティブ・ラーニングについては、文字通りの主体的学習を奨励するために、積極的な授業参加や活動に加えて、個々の学生が自ら研究計画を立て、遂行する力を身につけるように指導する。これは、2019年度から開講する3年次演習の目標とも重なる。	改めて、学生にe-ポートフォリオの積極的活用を呼びかける。また、e-ポートフォリオが、左記の主体的学習の手段としても有効であることを周知する。	国際教養学部 2018年度教授会 記録
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	必修の英語科目、基礎科目は、1学年を8クラスに分割して実施する機会が多いが、コーディネーターを置いて、担当者全員が定期的に会合を持ち、授業内容や成績評価について、クラス間で相違が生じないように配慮している。 また、成績が優れない学生については、科目担当者が学科長に報告し、学部長、学科長を含む教員5名から成る学部運営委員会が、情報を共有するとともに、指導教員による指導強化などの必要な措置を話し合っている。学位取得のために重要となる3年次演習を2019年度から開講するが、演習のレベルや内容、学生に要求される研究論文などについて、学部教授会後の懇談会で数回確認している。	英語科目、基礎科目の担当者間の連携が非常に有効に機能している。	特になし。	A	特になし。	国際教養学部 2018年度教授会 記録 南山大学国際教養学部設置届出書	

		学部・学科/研究科・専攻	国際教養学部		氏名	斎藤 衛		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	ポートフォリオの活用、教授会後の教員懇談会における学習成果に関する話し合いに加え、1年次生は4月に全員、1月にほぼ全員がTOEFLを受験し、英語力の向上を測定している。 添付します。	教員懇談会等で、学部の理念・目的に照らして、各科目における学生の学習成果を話し合っており、意味のある議論がなされている。	特になし。	A	2019年度は、科目毎に研究論文の執筆が義務付けられる3年次演習が開講される。提出された研究論文を学習成果を測る資料として、その質を検証する。	
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	国際教養学部は、2017年4月に開設された。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、そして開講科目は、設置届書の記載に沿って決定されており、現時点では、その忠実な履行に力を注いでいる。各科目の内容、特にカリキュラム・ポリシーとの整合性については、教員懇談会で話し合い、学部運営委員会で問題がないことを確認している。	2018年度は学部設立2年目にあたり、教員懇談会等では、検証よりも、理念・目的、さらには、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの理解を深める議論を行なっている。このコンテキストで、個々の科目の内容についても話し合いを行なっている。こうした議論が日々の教育活動に反映され、カリキュラム・ポリシーの具現化に繋がっている。	特になし。	A	特になし。	南山大学国際教養学部ウェブページ https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foreign.html 南山大学国際教養学部設置届出書 国際教養学部2018年度教授会記録 国際教養学部2018年度運営委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	国際教養学部	氏名	齋藤 衛		
評価基準	点検・評価項目	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
基準5	学生の受け入れ	<p>② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。</p> <p>(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】</p>	<p>現状の説明</p> <p>[1] 点検・評価項目に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>適正に各種入学審査を実施している。学部の理念・目的に則して、出願書類、小論文、面接に加え、プレゼンを審査する特別選抜試験[A0入試型]を秋に実施し、また、グループディスカッションを伴う特別選抜試験[センター利用型]を3月に行なっており、学力を備えた個性豊かな入学者を得ている。国際教養学部は、設置以来、留学生の受け入れを積極的に行なっている。例えば、外国人留学生入学審査の日本語問題はN3レベルとし、入学後に日本語力の向上が図れるように、学部として充実した日本語教育プログラムを提供している。また、2019年度入試から、EJU利用型の外国人留学生入学審査を実施し、1名が受験、合格している。2018年度入学者150名中の留学生数は2名であったが、2019年度は、138名中、留学生が5名を占めた。</p>	<p>点検・評価</p> <p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>2018年度は、学部独自に留学生のためのオープンキャンパスを行う(9月15日)などとして、特に留学生の受入れを促進すべく努めた。結果として、外国人留学生入学審査(EJU利用型を含む)では、受験者数が前年度の4名から大きく増加し、11名となった。学部設置の初年度から取り組んできた北海道地域の広報活動の成果が現れ、推薦入学審査で3名の学生を受け入れることができた。また2018年度に重点的に広報活動を行った北陸地方の高校からも推薦入学審査で複数名の学生を受け入れることができた。</p>	<p>自己評定</p> <p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p> <p>A</p>	<p>将来に向けた発展方策</p> <p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>北海道地域の高校からの学生の入学を定着させるために、学部設置以来行ってきた広報活動を今しばらく継続して実施する。特に指定校とカトリック系高等学校を中心に訪問や模擬授業を行う。また、次年度に向けて志願者を増やすために、長野県を重点地域として広報活動を実施する。</p>	<p>根拠資料</p> <p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p> <p>南山大学入学試験要項 国際教養学部 2018年度第10回 教授会記録</p>
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	<p>(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】</p>	<p>入学定員150名に対して、2017年度の入学者数は154名、2018年度は150名、2019年度は138名であった。</p> <p>前年度に続き、国際教養学部特別選抜(A0入試型及びセンター利用型)においては募集定員(各10名と5名)を満たしている。また推薦入学審査においても45名の定員を満たす48名の入学者があった。それにより、複数年の在籍学生数については収容定員に基づき適正に管理できている。</p>	<p>2019年度は、入学者数が入学定員を大きく下回る結果となった。特に一般入試、センター利用型(前期5教科型)、全学統一入試の2つの入試種別の全てにおいて、募集定員を下回った。</p> <p>A</p>	<p>特になし。</p> <p>蓄積された3年間のデータを検討して、入学者数が入学定員とほぼ一致するように努める。</p>	<p>2018年度南山大学入学試験委員会記録</p>	
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。</p>	<p>アドミッション・ポリシーにおいて、求める人物像を、「情報収集能力、洞察力、コミュニケーション能力、異文化理解力を備え、自らの教養力を高めつつ、多様な文化的背景を持つ人々と協働して、国際的問題の解決と地域社会の持続的発展に寄与できる人」としている。特に小論文、面接、プレゼン、グループディスカッションを伴う入学審査については、その都度担当者の会合を持って、アドミッション・ポリシーとそれに基づく採点基準を確認している。</p> <p>各種入試により、アドミッション・ポリシーに合致した入学者を得ている。特に、プレゼンやグループディスカッションを伴う特別選抜入試が有効に機能している。</p>	<p>特になし。</p> <p>A</p>	<p>特になし。</p>	<p>南山大学国際教養学部ウェブページ https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fo g.html 南山大学入学試験要項</p>	

		学部・学科/研究科・専攻	国際教養学部		氏名	斎藤 衛			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	学部設置届書に従って教員配置をしている。	学部の教育理念に則した教員組織であるが、研究活動も活発に行なっている。教員22名が2018年度に公表した学術論文は32編、共著書は7冊であった。また、6名が代表者として科学研究費の補助を受けている。	数名であるが、数年にわたって研究成果のない教員も存在する。	科学研究費などの申請をより積極的に教員に促す。学部の「教員評価の基準と実施体制に係る内規」では、学外の機関、出版社から公表した業績を一定程度要求するなどしているが、基本的には業績の「量」のみに言及している。質的に優れた研究業績について学部内で周知するとともに、評価するシステムを確立するように努める。	学部の「教員評価の基準と実施体制に係る内規」に従って、研究成果のない教員に指導と助言を行う。	南山大学国際教養学部設置届出書 南山大学ウェブページ研究業績システム https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/ 国際教養学部教員評価の基準と実施体制に係る内規
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	FD研究会(6月27日、学生レポートに関する意見交換会)、FD講演会(10月18日、株式会社ジオコス取締役 篠田花子氏、企業が求める人材について)を開催した。また、教授会後に随時、教員懇談会をもち、教育上の諸問題についても意見交換を行なった。教員の相互授業参観は、4件に留まった。FD講演会に加え、講師を招聘して、教員向け研究会を5回開催した。テーマは、貧困問題、民主主義の可能性、自然との共存など多岐にわたり、教育活動のための新たな知識を得るだけでなく、教員間の知的交流の場としても貴重な機会を提供するものとなった。	特になし。	新学部であることもあり、教員がお互いの研究、教育内容について充分理解しているとは言えない。学部の理念・目的を発展させ、各科目間の連携を強化するためにも、教員間の相互理解を深める必要がある。	A	各教員の研究や授業内容をとりあげたFD研究会を開催する。また、教員の相互授業参観を促すために、事前連絡なしに参観可能な科目を指定し、周知する。	国際教養学部 2018年度教授会議事録 2018年度国際教養学部FD活動報告書
		⑥ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学部設置届書に従って教員組織を編成しており、現時点では有効に教育を行うことができている。しかし、長期的には教員組織の構成を見直すことになろう。語学や他の基礎科目を中心に担当する教員の比率が高く、1、2年次生のみが在籍した2018年度は、これが教育の充実に繋がった。しかし、年次進行に伴ってより多くの専門科目、演習科目を開講する際には、担当者の過重負担を招くことになる。長期的に見て、教員全員が独創的な研究を継続し、教育の質を維持するためには、完成年度後に教員組織の構成を再検討する必要がある。	特になし。	現時点においても、担当科目数にバラツキがある。	A	できる範囲内で、科目担当の負担を平均化して、教育と研究の双方で最大限の成果を挙げられるようにする。	2018年度学生便覧 南山大学国際教養学部設置届出書

学部・学科/研究科・専攻			国際教養学部			氏名		斎藤 衛	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	成績不良、欠席過多の学生に対しては、指導教員を中心に、個別に指導、支援を行なっている。加えて、2年次第2クォーターのアリゾナ州立大学短期留学の参加条件（1年次英語科目12単位のうち少なくとも6単位を修得していること、GPAが2.0以上であること）を満たさない可能性がある学生に対しても、個別に指導と支援を行なっている。					
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	支援を必要とする学生については、ほぼ隔週で開催される教授会運営委員会で個別のケースについて対応を協議するとともに、問題発見のプロセスなどの検証を行っている。また、指導、支援の結果についても検証し、よりよい支援が行えるように努めている。	□特になし。	特になし。			国際教養学部 2018年度教授会 運営委員会記録
					A				

			学部・学科/研究科・専攻	国際教養学部	氏名	斎藤 術		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	国際教養学部では、社会貢献を通して学ぶ学生団体の活動を奨励しており、障がい者支援グループ「Iris」、タイ山地少数民族支援グループ「ルンアルン・プロジェクト」などが、学生交流センター・コアグループとして積極的に活動を展開している。学生グループには、他に、英語スピーチ・グループ、岐阜県美濃加茂市「コミュニティFMから」番組制作グループがある。学生の短期留学、研修の受入機関とは、教員間の学術的交流も行っている。2018年度は、アリゾナ州立大学、サンカルロス大学の研究者を研究会講師として招聘し、国際教養学部教員も2名がアリゾナ州立大学で講演を行った。本学部の教員は、学会役員、専門誌編集委員に加えて、ラジオ局番組審査委員長(倫理学教員)、高校生英語スピーチコンテスト審査委員長(英語教育教員)、大学生/高校生のための国際ワークショップ・ローディネーター(宗教学教員)、農村と留学生の交流イベントの企画・実施(環境経済学教員)など、様々な形で社会に貢献する活動を行なっている。	「Iris」の活動は、2018年1月16日の中日新聞で取り上げられたが、その後も、様々な形で障がい者支援を行なっている。「ルンアルン・プロジェクト」は、通常の活動に加えて、年に1回タイで研修を行っており、2018年度も2月21日～28日に実施された。本学部学生の受入先である海外機関との学術的交流は、信頼関係を築き、教育面でもさらなる協力体制を可能にする効果がある。	特になし。	海外機関との学術交流を共同研究のレベルに引き上げるべく、学部運営委員会において具体的な計画を立てる。	国際教養学部 2018年度教授会記録 南山大学ウェブページ研究業績システム https://portal.nanzan-u.ac.jp/research/ 南山大学学生課ウェブページ http://office.nanzan-u.ac.jp/student-services/nanchare/news/010883.html
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	本学部の学生、教員による社会貢献の取り組みは、すべて教授会で紹介され、承認されている。ローカルな問題をグローバルな視点から捉えることを掲げる国際教養学部としては、社会貢献の取り組みを奨励し、サポートするものであるが、同時に計画が適切であることを確認している。	特になし。		特になし。	国際教養学部 2018年度教授会記録

		学部・学科/研究科・専攻	短期大学部	氏名	中田 晶子				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	<p>学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。</p>	<p>南山大学短期大学部の理念「キリスト教的世界観に基づく学校教育」とモットー「人間の尊厳のために」に基づき、短期大学部では、実践的な英語能力の運用、他者との共生、国際性の涵養を目指して(1-①-1)きた。理念、モットーに基づいて策定した3つのポリシーに従って教育を実施している。それらを広報媒体によって公表する(1-①-2)と共に、必修の「キリスト教学」や「ラーニング・コミュニティ」の授業において講義と体験により、学生と教員が共に学び、理念の具現化を図っている。学生は授業後に「振り返り」を記すことにより、体験から学んだ内容を意識化し言語化する。それによって教員は理念やモットーについての学生の理解度を測ることができる。</p> <p>また、2014年度より学生全員を対象に実施している「短期大学部学生アンケート」により、理念やモットーの学生への浸透度を測り、学部自己点検・評価委員会にて結果について自己点検・評価を行っている(1-①-3)。結果を各年度の自己点検・評価報告書に記載している。</p>	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	<p>1-①-1 南山大学短期大学部学則第1章「本学の目的および使命」第1条、 www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1012.pdf 1-①-2 https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/te/policy.html 1-①-3 「2018年度第1回短期大学部自己点検・評価委員会議事録」</p>

				学部・学科/研究科・専攻	短期大学部	氏名	中田 晶子		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	英語科のカリキュラムポリシーはディプロマポリシーに示した、キリスト教精神・女性としての生き方・英語の4技能・日本文化の理解・異文化間コミュニケーションの5つを、4つのカリキュラムグループそれぞれに配置させて相互に関連づけることで実施してきた。(4-②-1) 本来は科目間の連携によって、上記の5つを相補的に達成するカリキュラム構成となっている。しかし、2018年度に関しては残留学生が春学期10名、秋学期5名となったため、そもそも残留生が必要とする科目のみしか開講されなかった。つまりポリシーとしては整合しているが、英語科目で読解技能を養い、それを異文化理解のための授業で生かすというような相互作用が期待できなかった。しかし、乗り入れ開講という特性や少人数授業となった状況を最大限生かして、単一の授業内でも従来複数の授業で実施されてきた講義内容や到達の目標などを設定し、最大限ふたつのポリシーを対応させた。2017年度の課題として挙げられていた「日本文化の理解」についても意識的に「異文化間コミュニケーション」「メディアリテラシー」「ラーニング・コミュニティ」の題材として設定して解消を目指した。	特になし。	開講科目の少なさによる制約があるとはいえ、ディプロマポリシーを体系的に反映させるような取り組みの意識を組織として実施できたとはいえない。FD活動報告に基づけば、個々の教員がどのように取り組んだかの情報共有があったのみである。(4-②-2)	B	特になし。	きめ細かな個別指導が可能である状態を生かして、2019年度は学期ごと、学生ごとに目に見える形での統合的なポートフォリオを作成し、各授業での成果物などを一元的に記録として残す。それによって、学生本人にも学習の目標であるディプロマポリシーやその達成度が明確になると考えられる。担当教員も数名となるので、学科の会議で担当者を決定し、ポートフォリオの管理と共有を行うものも充分現実的である。	4-②-1「2018年度開講科目一覧」『2018年度短期大学部記録』 4-②-2 2018年度短期大学部FD活動報告書
	④ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) ②に記述したように、少人数の学生のための開講であり、また実質的に1年次からやり直す学生と数科目を残すのみの学生が混在していたことから、開講調整は困難を極めた。そのため英語技能の訓練と専門分野の入門的学びの両方の性格を併せ持つ「English Workshop A/B」という科目を数多く開設し、そこに英語科目の多くを乗り入れる形を取った。「English WorkshoA/B」の科目としての柔軟性によって、カリキュラム中のさまざまな科目部分を必要とするという、残留生のニーズはある程度満たせたと思われる。 (2) また1科目を残したのみの2名を除いて、8名については「ラーニング・コミュニティ」を受講している。この科目は基礎演習であり、アクティブ・ラーニングの先進的取り組みを取り入れ、さらに自らの学習したものを俯瞰できる科目連携を見渡せる内容となっていた。(4-③-1)	(1) (2) 学生の作成した、「学びの統合の俯瞰図」や学生アンケートの結果からは、個々の科目がどのように相互にリンクして、カリキュラムポリシーに定めた目標(すなわちディプロマポリシーの実践)を目指すものであったのかの理解ができたことが示されている。また、「ラーニング・コミュニティ」での学習俯瞰図の作成にあたっては、学生自らが自分の学びの集積自体を客観的に検討するという方法を取ったことにより、主体的な取り組みにすることができた。このことから、少ない開講数と変則的な授業形態であっても、ある程度の成果は出せたと思われる。(4-③-2)	B	特になし。	特になし。	4-③-1、4-③-2「ラーニング・コミュニティ」における成果物・学生アンケート	

		学部・学科/研究科・専攻	短期大学部		氏名	中田 晶子		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 短期大学部は2017年度に募集停止をし、30年以上継続した交換留学プログラムも終了した。 (2) 授業はいずれも英語科目についてはそもそもインタラクティブなものであるが、本来は講義科目であるものについても、ほとんどのものについて人数の少なさを生かして調査・分析したものを発表するという形式を取った。（その授業展開状況は⑤に記すように教授会で頻繁に報告され、また個別にも各担当者に学部長・学科長より聞き取りを行っている。）(3) 授業は極小クラスであり、各学生の履修状況を教員が常時把握することは容易である。一方、学生によってはウェブ上のシステムを利用した履修に困難を伴う場合がある。これらの理由により、18年度の短期大学部では、e-ポートフォリオの導入やWebclassの使用を行わず、従来から「ラーニング・コミュニティ」で作成させていた紙版のポートフォリオによる履修指導を継続した。(4-③-1)	(1) 短期大学部の留学制度は終了したが、国際センターのご尽力により、留学提携校5大学のうち、既にNotre Dame of Maryland Universityは南山大学と協定締結し、留学協定校となっている。(4-③-2) 他の大学についても可能な限り協定締結の手続きを進める計画となっており、短期大学部からも情報提供を行った。	(1) 該当せず。 (2) 学生が、履修した科目を自ら振り返ることができるような取り組みは、一部授業の中で行ったが、全学生に対する組織だったものではなかった。また本来重きを置いてきた、グループワークを活用した学生同士の学び合いについての代替となる教育は、各担当教員が工夫したものの組織的に取り組んだとは言いがたい。	(1) 該当せず。	(1) 該当せず。 (2) ②にあげたポートフォリオ作成によって、学生がカリキュラムポリシーのどの部分がどの科目によって具現されているのかを抽象的ではなく、具体的に可視化できるようにする。	4-③-1 授業成果物・授業配布のより詳細なコースディスクリプション 4-③-2 南山大学評議会記録(2017年11月7日開催)
	⑥ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 学生の少なさを生かして、個別の学生の履修状況についての情報共有を、教授会ごとに行った。非常勤講師の協力をも得て、各科目の出席状況や課題の提出状況などについて細かく報告がされ、履修と評価の透明性は非常に高いものであった。 (2) (1)で述べたように、履修と評価の透明性は非常に高く、毎回の教授会に出席していた学部長・学科長を含む3名の教員が全学生の学位授与に係る責任を果たす形となった。(4-⑤-1)	(1) (2) 教授会等で履修状況及び、成績を学生ひとりひとりについてクォーターごとに把握する体制が有効であった。(4-⑤-2)	特になし。	(1) (2) 2019年度は、さらに成績評価の内容との関連についても把握し協議することが可能となる。残留生の科目担当者が短大部開講分についてはすべて短大部の専任教員3名となることを生かし、学部長が主体となって、授業の成果内容と成績にまで踏み込んだ情報共有体制をつくる。	特になし。	4-⑤-1、4-⑤-2 2018年度短期大学部教授会全記録

		学部・学科/研究科・専攻	短期大学部		氏名	中田 晶子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	在学生に対して、学部として英語の到達度テスト（CASEC）を実施し、結果を学科で共有した。またクオーターごとの独自授業評価や学生アンケートを行い、達成の度合いについて調査した。「ラーニング・コミュニティ」という学習統合要素を含む授業において、自己評価アンケートを行った。（4-⑥-1）	特になし。	達成度を測るためのテストや、学生による自己評価が年度途中の実施となった。これは9月卒業の学生が半数いたことによるものが大きい。しかし3月卒業の学生についても春学期以降の変化についても、アンケートや独自授業評価以外にも測定するような機会を設定するべきである。	B	特になし。	学部FDの機会を設けて、卒業の見込みが高いと思われる時点で、各授業科目についての統合的な学習成果の検討を行う。	4-⑥-1 CASEC結果、学生アンケート、独自授業評価、「ラーニング・コミュニティ」におけるレーダーチャート
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 短期大学部は2017年度に募集停止となったため、ポリシーの改正は実施せず、従来のものに基づいて教育を行っている。例年ポリシーの検証は、毎年第1回学部教授会と非常勤講師を招いて実施する春のFD研修会で行っていたが、今年度は極小学部の実態に鑑み、第1回学部自己点検・評価委員会において、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと開講科目や授業実践との整合性について全教員が出席し、検討した。（4-⑦-1） (2) 2017年度までの、ワーキンググループによる検討ができない状況であったため、FD研修会において各科目の内容を検証し、カリキュラムに沿ったものになっているかどうかを確認した。（4-⑦-2）	(1) (2) ともしればルーティン化の傾向もあった例年とは異なり、極小学部の実態と2つのポリシーの整合性について差し迫った必要性から詳細な検証が行われた。（4-⑦-3）	(1) 特になし。 (2) 全科目を開講する年度ではなかったため、網羅的に授業科目とカリキュラムポリシーの整合性を検証することは原理的にできなかった。	B	(1) (2) 特になし。	(1) (2) 特になし。2019年度の開講科目数はさらに減少するため、網羅的に授業科目とカリキュラムポリシーの整合性を検証することは原理的にますます困難となるため。	4-⑦-1、4-⑦-2、4-⑦-3 2018年度第1回短期大学部自己点検・評価委員会議事録 4-⑦-2 2018年度短期大学部第1回FD研修会記録

		学部・学科/研究科・専攻	短期大学部		氏名	中田 晶子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウエブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	2018年度には残留生を残すのみとなったため、短期大学部の交換留学制度は終了しており、留学生の受け入れは実施していない。	該当せず。	該当せず。	該当せず。	該当せず。	
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】						
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	2017年度より募集停止となったため、アドミッション・ポリシーは改正しておらず、検証も実施していない。	該当せず。	該当せず。	該当せず。	該当せず。	

		学部・学科/研究科・専攻	短期大学部		氏名	中田 晶子			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	2018年度4月の段階で、短期大学部は残留学生10名と教員4名から成る組織となった。教員は、学部長、学科長の役職者2名と、再任用中の教員2名、4名全員が教授である。役職者2名は、短期大学部開学時までが任期となっており、交代はない。現行の短期大学部の教員組織は、執行部の決定によるものであり、短期大学部は変更の権利を有していない。 2018年度春に大学協議会で承認を受けた人事計画に沿って、2018年度末で退職となる教員1名の名誉教授申請を行い、名誉教授称号が授与された。(6-②-1)	特になし。	特になし。	特になし。	6-②-1 名誉教授称号授与候補者申請書、協議会記録、短期大学部教授会記録、評議会記録	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれにFD活動を実施する必要がある。)	2018年度のFD活動は、学部長とFD担当教員1名が企画、運営を担った。7月に学生相談室より2名のカウンセラーを招き、「学生支援における教員と学生相談室カウンセラーの連携のあり方」をテーマにFD講演会を実施した。講師と参加者の教員間での多方面にわたる情報共有が行われた他、当日の参加者によるフィードバックも学部内で共有し、併せて各教員の授業や学生指導、また問題のある学生の保証人との情報共有や連絡における教員の姿勢にも活かされた。 12月には、特にディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと2018年度の短期大学部の教育・学生指導について全教員で話し合うFD研修会を開催した。ポリシーは定員150名の短期大学部を前提として作成されたものであり、2018年度の短期大学部における教育や学生指導との整合性には限界がある。問題の把握と解決の方法を教員全員で討議した。(6-④-1)	FD講演会は、短期大学部の残留学生の多くが定期的な登校や授業出席に関して問題傾向を有しているため、効果的な学生支援の方法を学ぶことを目的とした企画であったが、カウンセラーと教員それぞれの学生支援の原則の違い等、各分野では当然の前提であるがお互いにとっては未知であった情報を知ることができ、有益であった。学生相談室の周知や学生の受け入れについて改善策を教員側から伝えることもできた。 他学部教員2名、学部外事務職員2名の参加があった。 FD研修会では、ポリシーの意義を根本から考え直すことにより、2018年度の短期大学部における実現の可能性が広がった。また、研修会後には、いくつかの授業に関して、ポリシーを短期大学部の現状に合わせて活かすために次年度の授業計画を再度練り直した。 FD活動への短期大学部教員の参加率は今年度も100%であった。(6-④-1)	講演会後のフィードバックの依頼が遅れたため、会終了直後に回収する。	2018年度のFD研修会の討議内容については、2019年度も引き続き具体的な授業や学生指導に関して検討を続け、2019年度のFD活動のテーマとする。	2019年度のFD講演会、FD研修会の会場において、学部長がフィードバック提供の依頼をし、早期の回収に努める。確実に実施できるよう学部長が補佐となる。	6-④-1、6-④-2 2018年度短期大学部FD講演会チラシ、2018年度短期大学部FD講演「フィードバック」集、2018年度短期大学部第1回FD研修会記録

		学部・学科/研究科・専攻	短期大学部		氏名	中田 晶子		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をクエブの場合は皿を必ず明示してください。	
	⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の編成方針—任用を含む教員組織の編成方針に関しては、上述のように、短期大学部に自己決定権が無く、その意味においては検証の方策を有しないが、教員4名(うち1名は理事長)となった学部内の役割分担に関しては、通常の間担任が不可能となったため、必要に応じて随時検討、決定を行っている。教員の業績については、これまでと同じく、「研究活動・社会的活動」、「教育・大学運営」についてそれぞれ年度末に各教員から報告を提出し、学部長が点検し、問題があると思われる場合に学部長が調査、指導を行っている。2018年度について指導の必要な教員はいなかった。 FD活動の適切性について—7月に実施したFD講演会については、終了後に参加者から提出されたフィードバックを学部内で共有し、適切性を具体的に検討した。FD活動全体に関しては、学部FD研修会と学部自己点検・評価委員会において検討し、今後の方針について討議した。(6-⑤-1)	僅か4名の教員組織となったため、新学部立ち上げの年度のように、常に学部のあり方を意識することとなった。構成員が少ないため、意見聴取や討議が容易であり、毎回の教授会で学生への指導や支援を中心にFD活動を実施している状況にある。学部事務室担当者が経済学部との兼担となったことに伴う事務室の運営に関する変化も大きく、事務職員も含めて全員がよりよい学部運営を自らの問題として意識化している。	B	極小学部としての1年間の経験から必要な情報共有や起こりがちな問題の種類が明らかになったので、情報共有をより密にし、学部構成員全員が学部運営のより良い在り方を常時意識するという状態を維持する。	特になし。	6-⑤-1 2018年度短期大学部教員の業績「研究活動・社会的活動」・「教育・大学運営」、2018年度短期大学部FD講演会チラシ、2018年度短期大学部FD講演「フィードバック」集、2018年度短期大学部第1回FD研究会記録

		学部・学科/研究科・専攻	短期大学部		氏名	中田 晶子	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	2018年度の在籍者10名の多くが学力とメンタルの両方に問題を抱えている。英語科開講の各科目では受講者数が1桁であったため、どの科目においても個人指導に近い指導が可能となり、担当者が各学生の習熟度や志向性に合わせた授業展開を工夫した。定期的な授業出席が難しいケースも多かったが、欠席の多い学生には積極的に補習授業や特別課題を課して単位取得に導いた。他学部やセンターに移籍した元短期大学部教員の協力も得て、各授業における各学生の出欠状況や受講態度を毎日学部事務室で記録することにより、全学生の学習状況をリアルタイムで把握し、必要な指導や支援を速やかに実施することができた。特に欠席の多い学生に関しては、保証人の要望を受け入れて、当該学生の出席状況を連絡し、保証人からの登校支援も得られるようにした。科目担当教員、短期大学部教員、保証人、学部事務室が情報を共有し、チームを組んで支援にあたった。また、大学の共通教育科目を受講した一部の学生に関しては、科目担当教員に事情を伝えて必要な指導を依頼するとともに、指導教員も当該学生の受講状況を確認するなど指導に努めた。(7-②-1)	10名の残留学生のうち、4名が2018年9月に、3名が2019年3月に、卒業に必要単位を取得して無事卒業することができた(1名は経済的事情により9月に退学)。例年であれば卒業年次学生のごほとんどが卒業することは当然であるが、今年度様々な事情や問題を抱えた残留学生の7割が卒業したことは、短期大学部教職員の支援努力の成果であり、また支援の方向が誤っていなかったことの表れと言える。(7-②-2)	特になし。	特になし。
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	年間18回実施した学部教授会の各回において報告事項の最後に、学生の状況と指導に関する情報共有を行い、必要な指導、支援の方法について全員で討議検証し、今後の指導、支援の方向や、保証人との協力態勢のあり方を検討した。次回の教授会においてその後の学生の状況と行った指導について情報共有を行い、同様に検証、検討を実施した。(7-③-1)	この項目に関しては、PDCAが常時自ずから機能していたことが認められる。(7-③-2)	特になし。	特になし。

		学部・学科/研究科・専攻	短期大学部	氏名	中田 晶子					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	短期大学部では、多様な社会貢献、地域交流、国際交流事業を実施してきたが、2017年度をもって終了した。2017年度から2018年度にかけてその中で可能なものの学内における継承をはかり、二件において実現を見た。 24年間続いたOral Interpretation Contestは、外国語学部英米学科の行事Oral Interpretation Festivalとして2018年11月に第1回目が実施され、参加者から好評を博した。 書き損じ薬書収集を基にした募金活動で途上国の女性支援に協力するNantan Girls Projectは、総合政策学部のゼミの活動として引き継がれることとなった。 南山短期大学・短期大学部の卒業生による「南短創立50周年 卒業生の集い」が11月に開催された。企画運営は同窓会役員（南山短期大学・南山短期大学卒業生）を中心とした実行委員会が担い、短期大学部も協力援助を行った。（9-②-1）	「南短創立50周年 卒業生の集い」には、過去最多である約250名の卒業生、短期大学部学長と21名の名誉教授・現役教員が参加した。（9-②-2）	特になし。	(卒業生との連携) S	後継組織のない短期大学部の閉学後に同窓会（南山短期大学・南山短期大学部卒業生）との連携を保つ方法を工夫する必要がある。	特になし。	9-②-1「第1回Oral Interpretation Festival」プログラム、「南短創立50周年 卒業生の集い」プログラム、同アルバム 9-②-2「南短創立50周年 卒業生の集い」プログラム、同アルバム。
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	該当せず。	該当せず。	該当せず。	-----	該当せず。	該当せず。	

		学部・学科/研究科・専攻	人間文化研究科		氏名	西江 清高				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	人間文化研究科は、「人間性の本質的な理解を追求して、社会の問題を解決し、地域・世界の発展に寄与する人材の養成」を目的とし、「人間性」に関する総合的かつ高度な教育研究を目指す4つの専攻を設置している（1-①-1）。この目的は、大学及び大学院の理念と目的を踏まえながら、人間文化研究科として定めたものであり、大学及び大学院の目的に対応した内容である。目的の適切性については、毎年2回、研究科が開催する自己点検・評価委員会において、大学及び大学院の目的との整合性を確認するとともに、学位論文の審査報告を通じて、学生の研究・学習の成果を研究科で共有し、人間文化研究科委員会として点検・評価している（1-①-2）。	特になし	修正された3つのポリシーについて、公開、広報のあり方について点検する。	B	特になし	「2017年度自己点検・評価報告」において「改善すべき事項」としていたが、2018年度においては問題点を共通認識としながらも点検には関わっていない。2019年度開催の人間文化研究科委員会自己点検・評価委員会において課題として取り上げ、点検を進める。	1-①-1： http://depts.nanzan-u.ac.jp/grad/humanities/ 1-①-2：人間文化研究科委員会記録、人間文化研究科委員会自己点検・評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	人間文化研究科	氏名	西江 清高				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1]点検・評価項目に設定した「南山大学の「評価の視点」(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取組が卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取組が概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	特になし	研究科共通科目を重視しているが、年に2回実施してきた「大学院生による授業評価」アンケート調査では、これまで「専門科目」と「研究指導」についての回答欄のみを設定してきた。この点について2018年度に内部質保証委員会からの指摘もあり、研究科として可能ならば2018年度内に改善することを検討した(4-②-3)。	B	特になし	2018年度Q4(2019年2月)におこなった「大学院生による授業評価」では、「研究科共通科目」についての回答欄を設定し、学生の意見を聞くことができた(4-②-4)。その結果の評価値は良好であったが、詳しい評価を記述した回答は得られなかった。研究科共通科目への学生の関心が高くないことも考えられる。2019年度以降、学生に向けたガイダンスの機会に研究科の3つのポリシーを再確認させるとともに、研究科共通科目の重要性についても丁寧に説明する。	4-②-1、4-②-2: http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/h/index.html 4-②-3、4-②-4:人間文化研究科委員会記録
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1)人間文化研究科博士前期課程・修士課程では、カリキュラムポリシーに定めているように、「研究科共通科目」「専門科目」「研究指導」の3つの科目群を配置している。基礎的かつ分野横断的な性格をもつ研究科共通科目と専門科目(主領域、副領域)とをバランスよく配置することで、学生に系統的に学習させるコースワークを実践している(4-③-1)。 (3)研究指導では専門性の高い指導を実施しているが、各学生について研究指導教員、副指導教員を配置し、複数教員による指導体制を実施している(4-③-2)。研究科ではこのような研究指導とコースワークとの適切な組合せに配慮しながら、教育課程を実践している。なお、学位論文の作成の過程では、博士前期課程・修士課程、博士後期課程ともに各専攻の教員等が参加する中間報告会を実施し、各専攻全体として個々の学生の研究について総合的な観点からサポートしている(4-③-3)。	特になし	A	人間文化研究科は、2018年度において、名古屋大学大学院人文科学研究科との間で単位互換協定の制定について協議を続け、単位互換協定を2019年度より実施することに決定した(4-③-5)。本学大学院生にとっては履修科目の幅を広げることになると期待される。また授業の場において他大学大学院生と交流する機会ともなるであろう。次年度以降研究科の学生向けガイダンスの機会などでこの制度について周知をはかり、制度の有効利用を進めたい。	特になし	4-③-1:『大学院学生便覧』各専攻の項目(p.10、16、25、30)。 4-③-2:人間文化研究科委員会記録4-③-3:各専攻会議記録4-③-4:人間文化研究科委員会記録4-③-5:人間文化研究科委員会記録

			学部・学科/研究科・専攻	人間文化研究科	氏名	西江 清高		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、本質的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3)学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4)研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5)専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1)人間文化研究科では研究科として留学プログラムは実施していない。大学院生は研究、学習上の必要に応じて研究指導教員のアドバイスをを受けながら外国への留学や調査を実施することがある。博士前期課程・修士課程、後期課程学生で2018年度に留学あるいは海外での長期調査等に出かけたものは2名いた(4-④-1)。(2)研究指導科目をはじめとして多くの科目は少人数制が実施されている。その結果として学生の主体的参加を促すこととなっている(4-④-2)。(4)研究指導はシラバスに明示されているように博士前期課程・修士課程では2年間、博士後期課程では3年間の研究指導を、カリキュラム・ポリシーにあわせて段階的、系統的に進めている(4-④-3)。また学位論文作成過程において各専攻では中間報告会での報告を義務づけている(4-④-4)。	特になし	(2)学生の主体的参加を促すために、大学院の少人数制であることを考慮しながら、シラバスに学生による授業参加時の準備などについてより具体的な記載をするなどの工夫が考えられる。	特になし	(2)学生の主体的参加を促すための方策について、シラバスへの記載方法を含めて、2019年度に人間文化研究科専攻主任会議で検討をはじめ	4-④-1:人間文化研究科委員会記録、人類学専攻合同研究会記録、4-④-2:人間文化研究科委員会記録(在籍学生数に関して)、4-④-3: https://porta.nanzan-u.ac.jp/syllabus/4-④-4 ;各専攻新入生ガイダンス資料。
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1)授業の成績評価については、各専攻において複数教員による指導体制をとっており、また各授業ごとにシラバスに「評価方法」を明記して授業を進めている。これらによって成績評価の客観性、厳格性を担保している。 (2)学位授与については学則および「南山大学学位規程」に定める要件及び手続に従い、人間文化研究科委員会による審査を経て、学長が決定している(4-⑤-1)。 (3)学位の授与については、各専攻において論文審査委員会を設置し、委員の構成について人間文化研究科委員会で審議している。論文審査委員会は、博士前期課程・修士課程では研究指導ができる教員3名以上で構成される(4-⑤-2)。審査の客観性、厳格性を担保する目的で、審査を受ける学生を直接指導する研究指導、副指導教員は審査委員会の主査とならないこととしている(4-⑤-3)。	特になし	特になし	特になし	特になし	4-⑤-1:人間文化研究科委員会記録、4-⑤-2、4-⑤-3:学位規程第10条、 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf ;人間文化研究科委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	人間文化研究科	氏名	西江 清高				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	ディプロマ・ポリシーに定める学習成果については、毎年度2回の「大学院生による授業評価」アンケート調査を実施して把握している（4-⑥-1）。ただしこのアンケートでは授業の「満足度」について聞いているので、学習成果については間接的な回答となっている。より明確な測定方法などは実施していない。	特になし	(1)学習成果の測定結果を目に見える形で示すことができるように工夫する。	B	特になし	(1)学習成果の測定のための方法について2019年度のうち、専攻主任会議、人間文化研究科自己点検・評価委員会において検討をはじめ、具体的には毎年度2回おこなってきた「大学院生による授業評価」のアンケート質問項目に、このことに関する具体的な項目を盛り込むことを検討する。また、アンケート調査以外の方法の可能性についても検討する。	4-⑥-1、人間文化研究科委員会記録；アンケート結果（人文学部事務室保存）
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)ディプロマ・ポリシーについては取得すべき知識、技能などの学習成果が、研究科の目的と照らして適切に定められているかについて、またカリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーに定める教育課程（教育内容、教育方法）として適切であるかについて、人間文化研究科の毎年の「自己点検・評価報告書」作成過程において協議している。また「大学院生による授業評価」を検討する人間文化研究科自己点検・評価委員会において点検・評価している（4-⑦-1）。ただし、いずれにおいてもこの問題についての集中的な議論はおこなっていない。 (2)「大学院生による授業評価」のアンケート結果の点検を通じて、カリキュラムの検証をおこなっている。しかしアンケートの項目は、主として授業の「満足度」を聞くものであり、「授業科目の整合性」についての集中した検証はできていない。	特になし	(1)ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、具体的な資料を入手して検証する。そのために、まずは「大学院生による授業評価」アンケートの項目について改善を検討する。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性についても上記と同様に、具体的な資料を入手して検証する。そのためにまずは「大学院生による授業評価」アンケートの項目について改善を検討する。	B	特になし	(1)2019年度中に専攻主任会議および人間文化研究科委員会において「大学院生による授業評価」のアンケート項目の見直しを検討する。またアンケート以外の方法についても検討をはじめ、 (2)上記（1）と同様に、2019年度中に専攻主任会議および人間文化研究科委員会において「大学院生による授業評価」のアンケート項目の見直しを検討する。その他の方法についても検討をはじめ、	4-⑦-1：人間文化研究科委員会記録；人間文化研究科自己点検・評価委員会記録

学部・学科/研究科・専攻			人間文化研究科			氏名	西江 清高			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	人間文化研究科委員会において入試種別改革等の方向性について、学長方針を踏まえて、さまざまな可能性について認識を共有しているが、具体的な検討にはいたっていない。	特になし	学長方針に従って、全学的な方針とのすり合わせをおこないながら2019年度中に検討をはじめ。人間文化研究科では、4つの専攻によって留学生受入の事情も大きく異なるものがあり、受入を促進する方向性については共通認識としながら、各専攻ごとに特色ある方策を検討するようにしたい。	B	特になし	留学生受入の方策について、2019年度中に人間文化研究科の4つの専攻でそれぞれで検討をはじめ。全学の方針とのすり合わせも重要である。	
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	(1) 設定した定員に対して学生数はあきらかに少ない。これまでも「広報」に力を入れるという認識できたが、十分な結果を出していない。	特になし	(1) 入学者を増やすための方策を具体的に検討する。従来よりも幅広い見地から志願者数減少の原因をさぐり、可能な打開策を検討する。	C	特になし	(1) 積極的な広報への取り組みを続けるほか、学部との連携、他大学への広報、外国人留学生増加にむけた方策などを、2019年度中に専攻主任会議、人間文化研究科自己点検・評価委員会等で検討する。各専攻での個別の事情と研究科共通の問題を区別しながら具体的な議論を進める。	
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	人間文化研究科の一般入学試験、社会人入学審査にあたっては、アドミッション・ポリシーにあるように、書類審査と口述試験が重要な役割を果たしている。ここでは単に学力のみならず本学大学院の教育モットーをはじめとして入学志願者が人間文化研究科の特徴を十分理解しているのかを確認している。また、全学におこなっているように、人間文化研究科でも年に2回の入試説明会を開催し、ここで入学希望者に対して、本学のアドミッション・ポリシーを丁寧に説明している。しかしこれまでに、実際に入学した学生を対象に諸々のデータを踏まえて、入学者の傾向の把握や分析をおこなったことはない。	特になし	(1) 学内推薦、一般入学試験入学、社会人入学審査入学等の傾向などについて、入手可能なデータをそろえて専攻主任会議、人間文化研究科委員会等で検討し、アドミッション・ポリシーについて検証する。	B	特になし	(1) 各種入学試験、入学審査を経て入学した学生の傾向の把握や分析をすすめてアドミッション・ポリシーと実際の入学者との状況について、2019年度には各専攻別のデータを持ち寄りながら専攻主任会議、人間文化研究科委員会等で検討をはじめ。	

			学部・学科/研究科・専攻	人間文化研究科	氏名	西江 清高				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある。 【A】良好な状態にあり、取組みが概ね適切である。 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	(1) 教員組織の編成については、専攻主任会議において、大学院設置基準上必要となる教員の構成を満たしているかを踏まえて、年度のはじめに中長期的視点と短期的視点から検討し、専門分野、年齢、男女比のバランスなどを考慮しつつ教員組織の編成を進めている（6-②-1）。2018年度には「南山大学大学院人間文化研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」を制定した（6-②-2）。この内規を厳格に適用しつつ、人間文化研究科として2019年度新たに研究指導教員・研究指導補助教員（博士前期・修士課程：研究指導6名/研究指導補助1名、博士後期課程：研究指導3名/研究指導補助1名）を増員し、また講義担当者（博士前期課程：2名）を増員させた（6-②-2）。いずれも上記した教員組織の計画に沿ったものであった。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	6-②-1：専攻主任会議記録 6-②-2：人間文化研究科委員会記録
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	(1) 専攻主任会議や人間文化研究科委員会にてFDに関連する問題については常に重要視しているが、これまで研究科として独自のFD企画、たとえばFDをテーマとした講演会などは実施していない。	特になし	(1) 人間文化研究科として、大学院教育に相応しい内容のFD企画について検討し、速やかに実施する。	C	特になし	(1) 2019年度中に、大学院教育に相応しい内容のFD企画について専攻主任会議と人間文化研究科委員会にて検討し、年度内に実施する。	
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 教員組織の適切性については、専攻主任会議において大学院設置基準上必要となる教員の構成を満たしているかを年度のはじめに確認し、専門分野、年齢、男女比のバランスなどを考慮しつつ教員組織の編成を進めている（6-⑤-1）。その過程で指導教員の配置、講義担当の配置などを検討する中で、教員組織の適切性について協議している。なお関連して、FD活動については、その適切性の検証をするにいたっていない。	特になし	(1) 大学院として特色あるFD活動を今後計画実行し、そこでのアンケート結果を教員の組織編成にも反映させていく。	B	特になし	(1) 2019年度に、FD企画を実施して、その結果を専攻主任会議、人間文化研究科委員会などで検討して教員の組織編成に反映させていく。	6-⑤-1：専攻主任会議記録

学部・学科/研究科・専攻			人間文化研究科			氏名			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	(1) 人間文化研究科の学生は、一般入学試験、あるいは社会人入学審査によって十分な学力をそなえ、明確な研究計画をもつ人物であることが確認されて入学している。したがって補習授業などの必要性は一般的には生じていない。しかし博士前期課程・修士課程でもまた博士後期課程であっても、学位論文の作成過程において学生はさまざまな困難に行き当たる。学位論文の作成にあたって、人間文化研究科の各専攻では、研究指導担当教員のほかに副研究指導教員を配置して対応している(7-②-1)。また学生に対しては研究の中間報告を専攻の全教員と大学院生が参加する研究会において報告することを義務づけており、学生の研究状況について各専攻の全教員で認識を共有するように務めている(7-②-2)。結果として学生は直接の指導教員のほかにも、複数の視点から多様なアドバイスを受けられる学習環境のなかで研究を進めている。	特になし	特になし	特になし	特になし	7-②-1: 人間文化研究科委員会記録 7-②-2: 各専攻会議記録
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 年間の春学期後半Q2と秋学期後半Q4においてアンケート形式の「大学院生による授業評価」を実施している。これによって「研究科共通科目」「専門科目」「研究指導」についての学生からの評価、および関連する意見を聴取し、その結果を各専攻で検討しうえて人間文化研究科自己点検・評価委員会において総括している(7-②-1)。	特になし	(1) 毎年2回おこなっている「大学院生による授業評価」の結果から問題点を洗い出し、人間文化研究科自己点検・評価委員会の協議を通じて研究科教員として認識を共有するようにしている。ただしその協議において、前年度あるいは過去に指摘された問題点についてその後の取り組みがどのように進められているかを十分に検証してこなかったと思われる。この点を改善する。	特になし	(1) 人間文化研究科自己点検・評価委員会において各専攻別の「大学院生による授業評価」を検討する際に、前年度あるいは過去に指摘された問題点について、その後の取り組みの結果を報告する機会をつくる。	7-②-1: 人間文化研究科委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	人間文化研究科		氏名				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にあり、取組が軽度な問題にあり、さらなる努力が求められる 【A】良好な状態にあり、取り組みが軽度な問題にあり、さらなる努力が求められる 【B】軽度な問題にあり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題にあり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。 【2018年度学長方針】	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業については、現状では主として研究者・専門家としての個々の教員の活動としておこなってきた。研究科として組織的な取り組みは実施していない。卒業生との連携についても、一部の専攻において卒業生に呼びかけながら大学院修了後の社会活動などについて話を聞く機会も持っている。しかし研究科としては特におこなっていない。	特になし	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業については、研究科としても広報活動の一環として可能な範囲で関わっていききたい。このことは、将来的には本学への志願者増にも良い結果をもたらすものとして期待される。	特になし	(1)研究科の教員にむけて人間文化研究科が後援あるいは共催する地域社会に向けた講演会などの企画、あるいは小規模であっても国際的な性格をもつ研究会等の企画を募集したい。2019年度から専攻主任会議を通じて各教員に周知し、教員からそうした希望があれば同会議で協議したうえで、かざられた予算ではあるが人間文化研究科委員会で企画への後援、共催等について進めることとしたい。	
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的な点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業などはこれまでおもに個々の教員の活動としておこなわれてきた。そのため、取り組みの適切性について、人間文化研究科としてはとくに検証していない。	特になし	(1)研究科としては個々の教員による社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業について、その活動の状況を研究科構成教員間で共有することにとめるようにしたい。	特になし	(1)人間文化研究科では毎年度各専攻会議において研究業績を中心とした「教員評価」のピアレビューをおこない、その結果を人間文化研究科自己点検・評価委員会で検証しているが、その際に各教員の社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業についても報告することとし、教員間で情報を共有したい。	

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教思想専攻	氏名	坂下 浩司		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[2] 効果の裏付けとなる客観的証拠を具体的に記述してください。</p> <p>[3] 効果の裏付けとなる客観的証拠を具体的に記述してください。</p> <p>[4] 効果の裏付けとなる客観的証拠を具体的に記述してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位とともに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	<p>(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。</p> <p>本専攻の「ディプロマ・ポリシー」（以下DP）では、「以下の能力を身につけた者に修士（キリスト教思想）の学位を授与」するとしており、その能力それぞれを修得するための科目を「カリキュラム・ポリシー」（以下CP）において次のように明記している。すなわち、まず、DPの「神学、哲学、宗教学領域におけるキリスト教的人間観に関する専門知識と深い理解力」のために、CPでは、「専門科目では、神学領域と哲学領域と宗教学領域の3領域に関する科目を配置します」とし、「神学領域」では「聖書神学」「新約聖書」他の神学専門科目を、「哲学領域」では「古代哲学」「教父思想」他の哲学専門科目を、宗教学領域では「宗教哲学」「宗教史」他の宗教学専門科目を「配置」することを明記している。そして、DPの「ヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語などの古典語や西洋近代語の専門的知識と読解能力」のために、「ヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語」といった古典語や西洋近代語の専門的知識と読解能力を修得するための科目（＝「専門学国語」）を「配置します」と明記している。以上から本専攻においてDPとCPは整合している（根拠会議体：自己点検・評価委員会）。</p>	特になし。	<p>・CPにおける「研究指導科目」に対応する直接的な規定（たとえば「前記の二つの力に基づきキリスト教思想に関わる専門的な修士論文を具体的に作成する力」といった規定）が、DPに存在しない。</p>	B	<p>CPにおける「研究指導科目」に対応する直接的な規定（たとえば「前記の二つの力に基づきキリスト教思想に関わる専門的な修士論文を具体的に作成する力」といった規定）を、DPの能力列挙の箇所に付加するかどうか、2019年度中に、専攻会議において、専攻の全メンバーが、議論し、CPを一部書きかえるか検討する。</p>	<p>本専攻HP（http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_hc/index.html）（現状の説明のDPとCPの内容上の整合性の根拠資料）、専攻の自己点検・評価委員会議事録（整合性の根拠となる会議体の根拠資料）。</p>
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	<p>(1) 開設している授業科目とCPとが、整合していることは、毎年、春と秋に、自己点検・評価委員会において点検・評価している（根拠資料：専攻の自己点検・評価委員会の議事録）。</p> <p>(2) 本専攻は、講義科目（専門科目）というコースワークと、研究指導科目というリサーチワークの両方を開設しており、しかも、コースワークの知識を生かしてリサーチワークがするように、研究を指導しており、そのようにできているかどうか配慮するため、「合同ゼミ」での院生の発表や質疑応答を通じて、専攻の全メンバーが点検・評価している（根拠資料：「合同ゼミの諸記録」）。</p>	特になし。	<p>(1) の点について、継続的に、自己点検・評価委員会において、点検・評価できている。（3）の点についても、「合同ゼミ」がうまく機能し、修士論文の作成・指導に寄与しており、実際に提出される修士論文は、「合同ゼミ」発表時の研究よりも前進している。</p>	A	<p>(1) の点について、今後も、継続的に、自己点検・評価委員会において、点検・評価をおこなわないことを、到達目標にし、2019年度において、専攻のメンバー全員によって、行う。（3）の点について、2019年度中に、「合同ゼミ」の、特に「中間発表会」の時の記録を、現在より詳細に残し、最終的に、修士論文の審査教員に、「合同ゼミ」の経験が生かされているか、また、「合同ゼミ」の時よりも研究が前進しているか、アンケートをとって、この点について、自己点検・評価委員会において、専攻のメンバー全員によって、点検・検証する。</p>	<p>専攻の自己点検・評価委員会の議事録（（1）の根拠資料）、「合同ゼミ」の諸記録（（3）の根拠資料）。</p>

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教思想専攻	氏名	坂下 浩司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [B] 極めて良好な状態にあり、取組が卓著した状態にあり。 [A] 良好な状態にあり、取組が概ね適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を。冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWeblessなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 本専攻には、「留学プログラム」といったものはないが、短期留学や長期留学の経験のある教員が所属しているため、希望のある院生の相談にのることが可能である（根拠資料：本専攻HP）。(2) 本専攻においては、テキストの読解が大きなウェイトを授業において占めるが、これは院生が一言一句をおろそかにしない主体的な学習を促すための参加を必要とするものである（根拠資料：本専攻HP）。(4) 研究指導計画の内容については、CPにおいて、「神学、哲学、宗教学に関する修士論文の完成に向けて、修士論文のテーマ、文献調査や実地調査の仕方、研究計画の立て方、文献目録の作成、各章の具体的な執筆や構成など、具体的な事柄に関して指導を行います」と明示している。また、本専攻では、毎年、年度初めに、院生から「研究計画予定表」を提出させており、指導教員は、それを参照しながら、研究指導を実施している（根拠資料：「研究計画予定表」のフォーマット）。	(4) について、「研究計画予定表」を、2018年度に、「新入生用」と「在学生用」の2種類用意するように改善した（2017年度までは1種類しかなく特に新入生から「書きづらい」という感想が寄せられていた）。	(1) について、どの教員が、どのような留学経験があり、どのような経験を話したかを話せるかは、すぐには分からない状態であった。	B	(4) について、「学修および研究計画書」のフォーマットを、2019年度中に、専攻のメンバー全員によって、自己点検・評価委員会において、さらに点検し、バージョンアップさせる。	(1) について、どの教員が、どのような留学経験があり、どのような経験を話せるかについて、調査し、一覧表を作って、院生に配布する。この調査と一覧表作成を、2019年度中に、自己点検・評価委員会において、行い、2020年度春から、院生に、ガイダンス時に配布する。	本専攻HP (http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/html/_hc/index.html) (1) (1)の根拠資料。「研究計画予定表」のフォーマット（2017年度版、および、2018年度版） (4)の根拠資料）。
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保する措置としては、「複数指導教員体制」、春と秋の原則年2回の「合同ゼミ」での通常のゼミの外での「発表」と「指導教員以外の教員との質疑応答」を挙げることができる（根拠資料：「合同ゼミ」記録）。(3) 学位論文の審査基準については、「学位規程」がWebで公開されており（根拠資料：https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf）、「審査基準」も、「履修要項」に記載されており、Webで公開されている（根拠資料：http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOLMU/item/2018_6100.pdf）。	(1) 専攻において「複数教員指導体制」が維持され、「合同ゼミ」での「発表」と「指導教員以外の教員との質疑応答」も定期的実施できている。(3) 学位審査および修了認定のための専攻会議、研究科委員会での審議も、公正かつ適切に審議できている。	特になし。	A	「複数教員指導」の新しい実現形態として「合同ゼミ」後に時間をとって教員間での院生の「研究能力・研究到達度評価の意見交換」をすることを「到達目標」とする。「合同ゼミ」出席の専攻のメンバー全員で、2019年度中に、少なくとも1度こなう。	特になし。	「学位規程」 (https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf) (3)の根拠資料、「審査基準」 (http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOLMU/item/2018_6100.pdf) (3)の根拠資料、「合同ゼミ」記録（キリスト教思想合同研究室保存） (1)の根拠資料）。

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教思想専攻	氏名	坂下 浩司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	春学期末と秋学期末の「院生授業アンケート」によって行っている。その結果を、専攻の自己点検・評価委員会と共有し評価している。しかし、DPの「神学、哲学、宗教学領域におけるキリスト教的人間観に関する専門知識と深い理解力」および「ヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語などの古典語や西洋近代語の専門知識と読解能力」についてのアンケート項目はない。	特になし。	春学期末と秋学期末の「院生授業アンケート」に、DPの「神学、哲学、宗教学領域におけるキリスト教的人間観に関する専門知識と深い理解力」および「ヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語などの古典語や西洋近代語の専門知識と読解能力」についてのアンケート項目を作るべきである。	B	特になし。	春学期末と秋学期末の「院生授業アンケート」に、DPの「神学、哲学、宗教学領域におけるキリスト教的人間観に関する専門知識と深い理解力」および「ヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語などの古典語や西洋近代語の専門知識と読解能力」についてのアンケート項目を作ることを、「到達目標」とする。2019年度中に、専攻主任が、アンケート・フォーマットに加筆する案を作成し、専攻の自己点検・評価委員会にて検討・審議した上で確定する。そして、実施し、結果を、専攻のメンバー全員で検討し共有する。	
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 2017年度に改正したDP、CPについては、専攻の自己点検・評価委員会を通じて、DP、CPの規定をつきあわせて点検・検証している（根拠資料：専攻の自己点検・評価委員会の議事録、専攻のDP、CP）。(2) CPと授業科目の整合性については、専攻の自己点検・評価委員会を通じて、CPと授業科目一覧をつきあわせて点検・検証している（根拠資料：CP、授業科目一覧表）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	専攻の自己点検・評価委員会の議事録（(1)(2)の根拠資料）、専攻のDP、CP（(1)の根拠資料）、CP、授業科目一覧表（(2)の根拠資料）	

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教思想専攻	氏名	坂下 浩司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準5	学生の受け入れ ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか。【2018年度学長方針】	本専攻は、海外出身の神学生を積極的に受け入れる体制をととのえている。	海外出身の神学生を積極的に受け入れる体制をととのえ彼らをサポートして、着実に神学の課程を修了させている。	特になし。	B	海外出身の神学生の受け入れをいっそう促進しいっそう支援できる体制と制度についてさらに検討することを「到達目標」とする。2019年度中に、専攻会議において、議論する。	特になし。	専攻カリキュラムとシラバス、専攻会議議事録。
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。【2018年度学長方針】	専攻としては、年2回(5月と12月)の大学院入試説明会に、必ず専攻の3領域の教員を担当にし、どの領域の質問にも適切に答えられるように配慮することによって、入学者を増やそうとしている。また、大学院入試説明会のチラシを専攻で独自に刷って、関心のありそうな学部生に配っている。さらに、大学院での研究活動を広く知らせ、大学院への入学をうながすような研究会を年2回開いている。	2018年度は、在籍者1名であった。	2018年度(2019年度)入試は、受験者なしであった。	B	特になし。	大学院入試説明会に、年2回開いている大学院への入学をうながすような研究会を紹介するチラシを用意して紹介することを、「到達目標」とする。2019年度中に、入試説明会の担当教員によって、説明の際に、行う。	専攻の2つの外へ開かれた研究会「キリスト教思想専攻の教員が今考えていること」「学際研究会」の2018年度記録、参加者名簿、チラシ、ポスター。
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	専攻の自己点検評価委員会において、年度初めとおわりに、定期的に、A Pを実際に参照しつつ点検・検証している。	専攻のメンバー全員がA Pを知っており、院生の受け入れの適切性を確認できている。	特になし。	A	2017年度版A Pにさらなる改正点があるかの検討も2019年度中に手をつけ始めることを「到達目標」とする。専攻の自己点検評価委員会において、専攻のメンバー全員によって行う。	特になし。	専攻の自己点検評価委員会の議事録。

		学部・学科/研究科・専攻	キリスト教思想専攻			氏名	坂下 浩司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	本専攻は、神学・哲学・宗教学の3領域をバランス良く教育できるようにすることが教員組織の編成方針であるが、2017年度末においては、神学領域で2名不足している研究指導担当教員、また、不開講であった神学(倫理神学と実践神学)と哲学(教父思想)の講義担当者を立てる必要があった。そこで、2018年度の人事は、神学領域の研究指導教員1名、講義担当教員2名を計画した。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	毎年12月のクリスマス頃に「教員相互交流学際研究会」(博士前期・後期共同開催)を、6月の最終木曜日に「今キリスト教思想・宗教思想専攻の教員が考えていること」(博士前期・後期共同開催)という「FD活動」を実施している。その結果を、教員の研究・教育を互いに知り理解することや、自分自身の研究・研究のヒントを得ることに活用している。しかし、どう活用しているかの詳細は不明である。	「教員相互交流学際研究会」が、2016年度の12月から、「今キリスト教思想・宗教思想専攻の教員が考えていること」が、2018年度の6月から、継続して開催できている。継続して両研究会を開催することが到達目標であるから、この目標は達成されている(客観的証拠:両研究会記録、参加者名簿、告知ポスター・ちらし)。	両研究会の後に、研究会の結果をどう活用しているか明らかにすることを到達目標とすると、この目標は達成されていない。	B	神学領域の研究指導教員の残り1名の人事を起し認められることを発展方策の到達目標とする。2019年度中に、専攻主任と業績審査委員会が、新内規や学則などに準拠して行う。	不開講であった神学(倫理神学と実践神学)と哲学(教父思想)の講義担当者2名の人事を起し認められることを改善方策の到達目標とする。2019年度中に、専攻主任と業績審査委員会が、新内規や学則などに準拠して行う。	両研究会記録、研究科委員会議事録、大学院委員会議事録。	
	⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の編成方針とFD活動の適切性については、年度の初めとおわりに、専攻の自己点検評価委員会の点検と議論を通じて、検証を行っている。	教員組織の編成方針とFD活動の適切性について、年度の初めとおわりに、専攻の自己点検評価委員会の点検と議論を通じて、検証を行うことを到達目標としており、この目標は達成されている(客観的証拠:自己点検評価委員会議事録)。	特になし。	A	特になし。	特になし。	自己点検評価委員会の議事録	

		学部・学科/研究科・専攻		キリスト教思想専攻		氏名		坂下浩司	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	本専攻専攻、少人数であることを活かしてそれぞれの院生をきめこまかく適切に指導している。多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育などを、主・副指導教員との面談や話し合いを通じ、研究指導の時間や、「合同ゼミ」の時間に行っている。成績不良学生の状況把握については、指導教員から専攻主任へ連絡され、専攻会議において情報共有され、対策が話し合われている。	「合同ゼミ」において、各院生の現状や問題点が専攻の教員に共有され、専攻会議において確認されるということを「到達目標」として、この目標は達せられており、対処すべき問題があった場合は専攻会議において議論され対処されている。	特になし。	特になし。	特になし。	専攻会議の議事録、合同ゼミの諸記録（参加者名簿、配布物、告知ポスターとちらし）。
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学生の修学支援の適切性については、専攻会議を通じて日常的に、また、自己点検評価委員会を通じて定期的に、検証を行っている。	学生の修学支援の適切性について、専攻会議を通じて日常的に、また、自己点検評価委員会を通じて定期的に検証を行うことを「到達目標」とすると、この目標は達せられている。	特になし。	特になし。	特になし。	専攻会議の議事録、自己点検評価委員会の議事録。

			学部・学科/研究科・専攻	キリスト教思想専攻	氏名	坂下浩司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重微な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	年2回行われる「学際研究会」と「今キリスト教思想・宗教思想専攻の教員が考えていること」は、教員ないし院生以外の方々にも開かれている。卒業生との連携は、『南山神学・別冊』への執筆を通じて行われている。その他の卒業生との連携は、専攻会議で議論になることがあるが、実現できていない。	卒業生との論文執筆以外の連携を議論し、なんらかの仕方で実行に移すことを到達目標とすると、これは達成されていない。	B	特になし。	卒業生との論文執筆以外の連携を専攻会議の懇談事項として継続的にアイデアを出していくことを2019年度の到達目標とする。2019年度中に専攻会議において、専攻のメンバー全員で議論して、アイデアを出す。	学際研究会の諸資料(配布物、参加者名簿、告知ポスター・ちらし)。『南山神学・別冊』。
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	社会連携・社会貢献については、専攻会議において予定と実績の報告を行うことで検証している。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	宗教学研究専攻	氏名	坂下 浩司				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。規程の場合には具体的な条数を、冊子の場合には具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	本学大学院の理念・目的は、「本学学部における教育の基礎の上に、高度にして専門的な学術の理論および応用を研究し、その深奥を究めると共に、キリスト教世界観に立ち、人間の尊厳を自覚した社会人として、文化の進展と人類の福祉に寄与する人物を養成すること」であり、本専攻は密接に関連した3つの学問領域間でバランス良く研究・教育できるカリキュラムを組んでおり、さらに、学生が神学、哲学、宗教学のいずれかの領域で十分な知識と研究方法を身につけていることを前提にして、テキストの厳密な読解といった伝統的な学問を継承しつつ、さらに独創的な業績を生み出せるよう、そして学位論文を作成できるよう研究指導し、また留学生を積極的に受け入れ、国際性豊かな指導スタッフを含め、国際的な研究環境を提供している（裏付けとなる客観的証拠としては本専攻の教員一覧、カリキュラムとシラバスを挙げる事ができる）。以上から、この項目については良好な状態にあり取り組みは概ね適切であると判断できる。	到達目標は、「神学、哲学、宗教学という学問領域を柱とするが、現代世界に即応した学際的な研究を進めることを目指し、国際社会に通用する研究者を養成すること」であり、本専攻は密接に関連した3つの学問領域間でバランス良く研究・教育できるカリキュラムを組んでおり、さらに、学生が神学、哲学、宗教学のいずれかの領域で十分な知識と研究方法を身につけていることを前提にして、テキストの厳密な読解といった伝統的な学問を継承しつつ、さらに独創的な業績を生み出せるよう、そして学位論文を作成できるよう研究指導し、また留学生を積極的に受け入れ、国際性豊かな指導スタッフを含め、国際的な研究環境を提供している（裏付けとなる客観的証拠としては本専攻の教員一覧、カリキュラムとシラバスを挙げる事ができる）。以上から、この項目については良好な状態にあり取り組みは概ね適切であると判断できる。	B	「キリスト教的人間観」の研究および教育を促進することによって、本専攻の目的と本研究科および本学大学院の目的との適合性をさらに向上させることを「将来に向けた発展策」とする。その方策として、現在、年1回12月に行っている本専攻主催の「学際研究会」（キリスト教思想専攻・宗教学研究共同開催）を「人間尊厳のためのキリスト教的人間観の探求」として再編し、2019年度以降は、この統一テーマの枠内で継続して「キリスト教的人間観」を深めること、特に、2019年度中に、「カトリック神学のキリスト教的人間観」に関わるなんらかのテーマで発表と討議を行う。これは、専攻会議のメンバーによって、上記「学際研究会」のコンセプトの再検討、および新しいコンセプトによる発表と討議の実施によって行う。	「院生懇談会が2018年度は不十分であったこと」の「改善策」として、「学期末の授業評価アンケート」において、最後の自由記述で、「専攻の理念・目的の適切性について意見を寄せ下さい」と書くという方法を、その意見を分析し対処するというものを「到達目標」とする。これを2019年度中に、自己点検・評価委員会の全メンバーによって行う。	本学大学院HP (http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/gaiyo.html) 本研究科HP (http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/h/index.html) 本専攻HP (http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mhc/index.html)、専攻カリキュラムとシラバス、専攻の自己点検・評価委員会の議事録、「学際研究会」の諸記録、学期末の院生アンケートの専攻固有の部分の書式。

			学部・学科/研究科・専攻	宗教思想専攻	氏名	坂下 浩司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	本専攻の「ディプロマ・ポリシー」(以下DP)では、「以下の力を身につけた者に博士(宗教思想)の学位を授与」しており、その能力それぞれを修得するための科目を「カリキュラム・ポリシー」(以下CP)において次のように明記している。すなわち、まず、DPの「神学、哲学、宗教学に関する文献の読解力と豊かな学識を持ち、これら3領域の学際的な相互理解に関連する研究を遂行する力」のために、CPでは、「専門科目では、神学領域と哲学領域と宗教学領域の3領域に関する科目を配置します」とし、「神学領域」では「宗教思想特殊研究(神学)A」「宗教思想特殊研究(神学)B」、「哲学領域」では「宗教思想特殊研究(哲学)A」「宗教思想特殊研究(哲学)B」を、宗教学領域では「宗教思想特殊研究(宗教学)A」「宗教思想特殊研究(宗教学)B」を「配置」することを明記している。以上から、本専攻において、DPとCPは整合している。(根拠会議体:自己点検・評価委員会)。	特になし。	CPにおける「研究指導科目」に対応する直接的な規定(たとえば「前記の力に基づき宗教思想に関わる専門的な博士論文を具体的に作成する力」といった規定)が、DPに存在しない。	特になし。	CPにおける「研究指導科目」に対応する直接的な規定(たとえば「前記の力に基づき宗教思想に関わる専門的な博士論文を具体的に作成する力」といった規定)を、DPの能力列挙の箇所に加えるかどうか、2019年度中に、専攻会議において、専攻の全メンバーが、議論し、CPを一部書きかえるか検討する。	本専攻HP (http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_hc/index.html) (現状の説明のDPとCPの内容上の整合性の根拠資料)、専攻の自己点検・評価委員会議事録(整合性の根拠となる会議体の根拠資料)。
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) 開設している授業科目とCPとが、整合していることは、毎年、春と秋に、自己点検・評価委員会において点検・評価している(根拠資料:専攻の自己点検・評価委員会の議事録)。(3) 本専攻は、講義科目(専門科目)というコースワークと、研究指導科目というリサーチワークの両方を開設しており、しかも、コースワークの知識を生かしてリサーチワークがするように、研究を指導しており、そのようにできているかどうか配慮するため、「合同ゼミ」(キリスト教思想・宗教思想共同開催)での院生の発表や質疑応答を通じて、専攻の全メンバーが点検・評価している(根拠資料:「合同ゼミ」の諸記録)。	(1) の点について、継続的に、自己点検・評価委員会において、点検・評価できている。(3) の点についても、「合同ゼミ」がうまく機能し博士論文の作成・指導に寄与している。	特になし。	(1) の点について、今後も、継続的に、自己点検・評価委員会において、点検・評価をおこなわないことを、到達目標にし、2019年度において、専攻のメンバー全員によって、行う。(3) の点について、2019年度中に、「合同ゼミ」の、特に「中間発表会」の時の記録を、現在より詳細に残し(発表者および教員、参加した院生などにアンケートをとって)、最終的に、論文の審査教員に、「合同ゼミ」の経験が生かされているか、また、「合同ゼミ」の時よりも研究が前進しているか、これもアンケートをとって、この点について、自己点検・評価委員会において、専攻のメンバー全員によって、点検・検証する。	特になし。	専攻の自己点検・評価委員会の議事録((1) の根拠資料)、「合同ゼミ」の諸記録((3) の根拠資料)。

			学部・学科/研究科・専攻	宗教思想専攻	氏名	坂下 浩司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸长させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 本専攻には、「留学プログラム」といったものはないが、短期留学や長期留学の経験のある教員が所属しているため、希望のある院生の相談にのることが可能である(根拠資料:本専攻HP)。(2) 本専攻においては、テキストの読解が大きなウェイトを授業において占めるが、これは院生が一言一句をおろそかにしない主体的な予習をしてからの参加を必要とするものである(根拠資料:本専攻HP)。(4) 研究指導計画の内容については、CPにおいて、「博士論文の完成に向けて、博士論文のテーマ、文献調査や実地調査の仕方、研究計画の立て方、文献目録の作成、各章の具体的な執筆や構成などに関して指導を行います。加えて、学会での口頭発表や論文投稿など、個別の課題に対しても指導教員の指導を行います」と明示している。また、本専攻では、毎年、年度初めに、院生から「研究計画予定表」を提出させており、指導教員は、それを参照しながら、研究指導を実施している(根拠資料:「研究計画予定表」のフォーマット)。	(4) について、「研究計画予定表」を、2018年度に、「新入生用」と「在学生用」の2種類用意するように改善した(2017年度までは1種類しかなく特に新入生から「書きづらい」という感想が寄せられていた)。	(1) について、どの教員が、どのような留学経験があり、どのような経験をしたかを話せるかは、すぐには分からない状態であった。	(4) について、「学修および研究計画書」のフォーマットを、2019年度中に、専攻のメンバー全員によって、自己点検・評価委員会において、さらに点検し、ヴァージョンアップさせる。	(1) について、どの教員が、どのような留学経験があり、どのような経験をしたかを話せるかについて、調査し、一覧表を作って、院生に配布する。この調査と一覧表作成を、2019年度中に、自己点検・評価委員会において、行い、2020年度春から、院生に、ガイダンス時に配布できるようにする。	本専攻HP (http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mhc/index.html) (1) (2) の根拠資料)。「研究計画予定表」のフォーマット(2017年度版、および、2018年度版)(4) の根拠資料)。	
⑥ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保する措置としては、「複数指導教員体制」、春と秋の原則年2回の「合同ゼミ」での通常のゼミの外での「発表」と「指導教員以外の教員との質疑応答」を挙げることができる(根拠資料:「合同ゼミ」記録)。(2) (3) 学位論文の審査基準については、「学位規程」がWebで公開されており(根拠資料: https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf)、「審査基準」も、「履修要項」に記載されて、Webで公開されている(根拠資料: http://office.nanzan-u.ac.jp/KYUUMU/item/2018_6100.pdf)。学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置としては、専攻会議、研究科委員会での公正かつ適切な審議の実施を挙げることができる。	(1) 専攻において「複数教員指導体制」が維持され、「合同ゼミ」での「発表」と「指導教員以外の教員との質疑応答」も定期的の実施できている。(2) (3) 学位授与に係る責任体制、審査および修了認定のための専攻会議、研究科委員会での審議も、公正かつ適切に審議できている。	特になし。		「複数教員指導」の新しい実現形態として「合同ゼミ」後に時間をとって教員間での院生の「研究能力・研究到達度評価の意見交換」をすることを「到達目標」とする。「合同ゼミ」出席の専攻のメンバー全員で、2019年度中に行う。	特になし。	「学位規程」(https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf) (3) の根拠資料)、「審査基準」(http://office.nanzan-u.ac.jp/KYUUMU/item/2018_6100.pdf) (3) の根拠資料)、「合同ゼミ」記録(キリスト教思想合同研究室保存)(1) の根拠資料)。	

		学部・学科/研究科・専攻		宗教思想専攻		氏名		坂下 浩司	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	春学期末と秋学期末の「院生授業アンケート」によって行っている。その結果を、専攻の自己点検・評価委員会で共有し評価している。しかし、DPの「神学、哲学、宗教学に関する文献の読解力と豊かな学識を持ち、これら3領域の学際的な相互理解に関連する研究を遂行する力」についてのアンケート項目はない。	特になし。	春学期末と秋学期末の「院生授業アンケート」に、DPの「神学、哲学、宗教学に関する文献の読解力と豊かな学識を持ち、これら3領域の学際的な相互理解に関連する研究を遂行する力」についてのアンケート項目を作るべきである。	B	特になし。	春学期末と秋学期末の「院生授業アンケート」に、DPの「神学、哲学、宗教学に関する文献の読解力と豊かな学識を持ち、これら3領域の学際的な相互理解に関連する研究を遂行する力」についてのアンケート項目を作ることを、「到達目標」とする。2019年度中に、専攻主任が、アンケート・フォーラムに加筆する案を作成し、専攻の自己点検・評価委員会にて検討・審議した上で確定する。そして、実施し、結果を、専攻のメンバー全員で検討し共有する。	院生授業アンケート・フォーラム、結果。
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 2017年度に改正したDP、CPについては、専攻の自己点検・評価委員会を通じて、DP、CPの規定をつきあわせて点検・検証している（根拠資料：専攻の自己点検・評価委員会の議事録、専攻のDP、CP）。(2) CPと授業科目の整合性については、専攻の自己点検・評価委員会を通じて、CPと授業科目を一覧をつきあわせて点検・検証している（根拠資料：CP、授業科目一覧表）。	(1) と (2) について、点検と検証が、専攻の自己点検評価委員会を通じて、定期的に行われている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	専攻の自己点検・評価委員会の議事録 ((1) (2) の根拠資料)、 専攻のDP、CP ((1) の根拠資料)、 CP、授業科目一覧表 ((2) の根拠資料)

			学部・学科/研究科・専攻	宗敎思想専攻	氏名	坂下 浩司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。 ③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか。 【2018年度学長方針】 (1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。【2018年度学長方針】	本専攻は、海外出身の神学生を積極的に受け入れる体制を整えている。 専攻としては、年2回（5月と12月）の大学院入試説明会に、必ず専攻の3領域の教員を担当にし、どの領域の質問にも適切に答えられるように配慮することによって、入学者を増やそうとしている。また、大学院入試説明会のチラシを専攻で独自に刷って、関心のありそうな学部生に配っている。さらに、大学院での研究活動を広く知らせ、大学院への入学をうながすような研究会を年2回開いている。	特になし。 現在、博士前期課程の在籍者数が、定員8名のところ、7名在籍している。	2018年度（2019年度入試）は、残念ながら、7月試験、2月試験ともに、受験者なし、入学者なしであった。大学院での研究活動を広く知らせ、大学院への入学をうながすような研究会への、学部生の参加者は、2018年度はなかった。	特になし。 特になし。	特になし。 大学院での研究を紹介する研究会も、チラシを作って、関心のありそうな学部生に積極的に紹介し、学部生が参加することを到達目標とする。2019年度中に、専攻のメンバー全員によって行う。	特になし。 専攻の2つの外へ開かれた研究会「キリスト教思想専攻の教員が今考えていること」「学際研究会」の記録、参加者名簿、チラシ、ポスター。
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	専攻の自己点検評価委員会において、年度初めとおわりに、定期的に、A Pを実際に参照しつつ点検・検証している。	専攻のメンバー全員がA Pを知っており、院生の受け入れの適切性を確認できている。	特になし。	2017年度版A Pにさらなる改正点があるかの検討も2019年度中に手をつけ始めることを「到達目標」とする。専攻の自己点検評価委員会において、専攻のメンバー全員によって行う。	特になし。	専攻の自己点検評価委員会の議事録。

			学部・学科/研究科・専攻	宗教思想専攻	氏名	坂下 浩司				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	本専攻は、神学・哲学・宗教学の3領域をバランス良く教育できるようにすることが教員組織の編成方針であるが、2017年度末に神学領域で1名不足している博士後期研究指導担当教員を立てる方が望ましかったのであったが、該当するふさわしい人材が本学にいなかったため、できなかった。	特になし。	神学領域で1名不足している博士後期研究指導担当教員を立てることが望ましい。	B	特になし。	神学領域で1名不足している博士後期研究指導担当教員を立てる方が望ましかったのであったが、該当するふさわしい人材が本学にいないこと自体は、本専攻だけではどうにもできないので、博士前期研究指導担当教員に地道に研究教育活動を積み重ねていただいで博士後期研究指導担当教員になっていただく道をとるほかはなく、これを到達目標とするが、これの実現には現実のところ数年単位の時間がどうしても必要である。	専攻会議議事録。
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	毎年12月のクリスマス頃に「教員相互交流学際研究会」(博士前期・後期共同開催)を、6月の最終木曜日に「今キリスト教思想・宗教思想専攻の教員が考えていること」(博士前期・後期共同開催)という「FD活動」を実施している。その結果を、教員の研究・教育を互いに知り理解することや、自分自身の研究・研究のヒントを得ることに活用している。しかし、どう活用しているかの詳細は不明である。	「教員相互交流学際研究会」が、2016年度の12月から、「今キリスト教思想・宗教思想専攻の教員が考えていること」が、2018年度の6月から、継続して開催できている。継続して両研究会を開催することが到達目標であるから、この目標は達成されている(客観的証拠:両研究会記録、参加者名簿、告知ポスター・ちらし)。	両研究会の後に、研究会の結果をどう活用しているか明らかにすることを到達目標とすると、この目標は達成されていない。	A	特になし。	両研究会の後に、研究会の結果をどう活用しているか明らかにすることを到達目標とし、2019年度中に、専攻主任が、両研究会後に「アンケート」をとり、専攻の自己点検評価委員会と結果を今日することによって行う。	両研究会記録、参加者名簿、告知ポスター・ちらし。
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の編成方針とFD活動の適切性については、年度の初めとおわりに、専攻の自己点検評価委員会の点検と議論を通じて、検証を行っている。	教員組織の編成方針とFD活動の適切性について、年度の初めとおわりに、専攻の自己点検評価委員会の点検と議論を通じて、検証を行うことを到達目標としており、この目標は達成されている(客観的証拠:自己点検評価委員会議事録)。	特になし。	A	特になし。	特になし。	自己点検評価委員会の議事録

			学部・学科/研究科・専攻	宗教思想専攻	氏名	坂下 浩司			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準 7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	本専攻で教、多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育などを、学生と主・副指導教員との面談や話し合いを通じ、研究指導の時間や、「合同ゼミ」の時間に行っている。成績不良学生の状況把握については、指導教員から専攻主任へ連絡され、専攻会議において情報共有され、対策が話し合われる。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	専攻会議の議事録、合同ゼミの諸記録。
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学生の修学支援の適切性については、専攻会議を通じて日常的に、また、自己点検評価委員会を通じて定期的に、検証を行っている。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	専攻会議の議事録、自己点検評価委員会の議事録、合同ゼミの諸記録（配布物、参加者名簿、告知ポスター・ちらし）。

			学部・学科/研究科・専攻	宗教思想専攻	氏名	坂下 浩司				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	年2回行われる「学際研究会」と「今キリスト教思想・宗教思想専攻の教員が考えていること」(いずれも二専攻共同開催)は、教員ないし院生以外の方々にも開かれている。卒業生との連携は、専攻会議で議論になることがあるが、実現できていない。	年2回行われる「学際研究会」と「今キリスト教思想・宗教思想専攻の教員が考えていること」は、教員ないし院生以外の方に来ていただくことを到達目標としている。実際に、具体的には、本学の総合受付で働いている女性が来られたことがある(第3回「学際研究会」参加者名簿)ので、到達目標は達成されている。	卒業生との連携を議論し、なんらかの仕方でも連携を実行に移すことを到達目標とすると、これは達成されていない。	B	特になし。	卒業生との連携を専攻会議の懇談事項として継続的にアイデアを出していくことを2019年度の到達目標とする。2019年度中に専攻会議において、専攻のメンバー全員で議論して、アイデアを出す。	学際研究会の諸資料(配布物、参加者名簿、告知ポスター・ちらし)。
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	社会連携・社会貢献については、専攻会議において予定と実績の報告を行うことで検証している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	人類学専攻		氏名	渡部 森哉			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>		
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	<p>学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。</p>	<p>2018年度修了生1名が文化財関係の仕事に就職した。</p>	特になし。	A	<p>修了後に専門的知識を活かした職業に就けるように、修了生、近隣の研究者と情報交換を密にする。</p>	<p>特になし。</p>	<p>1-①-1「南山大学大学院の目的に関する規程」 1-①-2「人類学専攻2018年度第1回自己点検・評価委員会議事録」</p>

			学部・学科/研究科・専攻	人類学専攻	氏名	渡部 森哉				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>		
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位とともに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	人類学専攻博士前期課程のディプロマ・ポリシーでは「文化人類学、考古学、文化資源学に関する専門的な知識、社会の変化や文化の多様性を適確に捉え、研究資料の資源化・公共化を図る姿勢・資質と社会で活躍できる力」を備えた者に学位を与えることを明示し、そのための教育内容をカリキュラム・ポリシーで説明している。「研究成果は学界固有の財産にとどまるのではなく公共的なものである」とする考えの下、文化人類学と考古学の両領域の学生が学ぶ必修科目として、文化資源学研究を必修科目として位置づけている。人類学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーでは「異文明や異文化間の対話を促進し、相互理解に貢献する能力・文化や歴史に対する深い洞察力・フィールドワークや発掘調査による資料収集能力・収集した膨大な資料を忍耐強く整理・分析し、博士論文として完成させる能力」を有する者に学位を授与することを示している。そのためのカリキュラムとして、文化人類学、考古学の他、2領域を横断する地域研究からなる人類学特殊研究を配置している。(4-②-1)	特になし。	履修要項には副領域制度について説明されているが、カリキュラム・ポリシーでは説明されていない。(4-②-2)	B	特になし。	変更可能な場合、2020年度からカリキュラム・ポリシーに副領域制度について明記する。	4-②-1「人類学専攻 3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mha/policy.htm 人類学専攻履修要項 4-②-2「大学院学生便覧2018」
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) 博士前期課程、後期課程ともにカリキュラム・ポリシーに従い、科目を編成している。また毎年度適切な科目配置になるよう、カリキュラム改正を検討している。 (3) 博士前期課程、後期課程ともに講義系の専門科目と研究指導科目を関連づけながら教育を行っている。(根拠資料4-③-1)	特になし。	現在の研究状況に照らし合わせ、専門科目の中に名称変更をした方が良いものもある。	B	特になし。	人類学専攻では2020年度からカリキュラム改正を行う。	根拠資料4-③-1「2018年度人類学専攻会議事録」

			学部・学科/研究科・専攻	人類学専攻	氏名	渡部 森哉			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWeblessなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 中国を専門とする学生は、現地の大学で研修生として学んでいる。 (2) 授業の多くは少人数であるため、教員と学生の間で密接なやりとりが行われている。 (4) 毎年度開催される人類学専攻の合同研究会で研究発表することで、指導教員、副指導教員のみならず、全教員が各学生の研究の進捗状況を把握している。博士前期課程の学生は、春学期に1回、秋学期に1回発表し、研究の進捗状況を報告している。博士後期課程については「1年次から最終年次にわたって毎年1回、通算3回以上の研究発表をおこない、さらに博士論文の中間審査を受けなければならない。ただし、2年修了の場合には研究発表を2回以上とする。」としている。（根拠資料4-④-1）	特になし。	(4) 他の会議とのバッティングのため全教員が全ての大学院生の研究発表を聞くことが難しくなっている。	B	特になし。	年度初めの早い時期に合同研究会の日程を決め、他の会議とのバッティングを避けるようにする。	根拠資料4-④-1「課程博士論文提出資格に関する申し合わせ（2014年度）」、「2019年度 南山大学大学院人間文化研究科人類学専攻ガイダンス」配付資料『南山考人』の巻末の記録
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 学位論文の審査は、5名で行い、できるだけ客観性を保つようになっている。 (2) 大学院学則、および「南山大学学位規程」に定める要件および手続きに従い、人間文化研究科による審査を経て、学長が決定している（4-⑤-1）。 (3) 学位論文の判断基準は「大学院学生便覧 2018」に明記してある。また人類学専攻で「課程博士論文提出資格に関する申し合わせ」を2014年度から運用し、それに則って博士論文の審査を行っている（4-⑤-2）。	特になし。	(3) 「人間文化研究科人類学専攻」は、課程博士論文提出に関わる資格に関してこの申し合わせを定め、2014年度から試行的に実施する。その後一定期間の執行をへて問題点を修正し、内規として制定することとする。」とあり、内規として制定するタイムスケジュールを決める必要がある。	B	特になし。	2019年度に2名の学生が博士論文を提出予定であるので、その結果を踏まえ、申し合わせを修正し、内規として制定する手続きを進める。	4-⑤-1「南山大学学位規程」 https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daigaku/dpart4/44340.pdf 4-⑤-2「課程博士論文提出資格に関する申し合わせ」

学部・学科/研究科・専攻		人類学専攻		氏名		渡部 森哉			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取組が卓越した水準にある。</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取組が概ね適切である。</p> <p>[B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。</p> <p>[C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	(1) 博士前期課程、後期課程ともに『南山考人』などへの投稿論文の内容を精査し、評価している。教員が院生の合同研究会での発表を聞き、その内容について意見交換をし、評価している。修士論文を5名で審査することにより、審査の客観性を担保している。（根拠資料4-⑥-1）	特になし。	博士前期課程の学生については、投稿論文が少ない。	B	特になし。	合同研究会の院生の発表後の教員間の話し合いで、意見交換をし、指導教員を通じて投稿を促していく。	根拠資料4-⑥-1「『南山考人』の巻末の記録」
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 博士前期課程、後期課程ともにディプロマ・ポリシーに示された能力を修了生が身につけているかどうか、またディプロマ・ポリシーに示された能力を習得する適切な教育課程を明示しているかを、専攻の「自己点検・評価委員会」で確認している。（4-⑦-1） (2) 講義系の専門科目がカリキュラム・ポリシーに合致しているかどうかを専攻会議における検討課題とし、一部の科目の名称を変更することとした。（4-⑦-2）	特になし。	科目の一部の名称をより適切な名称に変更する必要がある。	B	特になし。	2020年度にカリキュラム改正を行う。	4-⑦-1「人類学専攻2018年度第1回自己点検・評価委員会議事録」 4-⑦-2「2018年度人類学専攻会議議事録」

			学部・学科/研究科・専攻	人類学専攻	氏名	渡部 森哉				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受け入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	(1) 問い合わせがあった場合に、個別に対応している。2019年度入試で外国人1名の受験者があったが、不合格であった。	特になし。	受験者はwebページから情報を得ることが多いと思われるため、外国人向けの情報を含める。英語版、中国語版、韓国語版にも掲載してもらう。	B	特になし。	2021年度の入試要項の改正などに合わせ、webページの情報を更新する。	人類学専攻webページ https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_ha/index.html
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	2014年度から2017年度まで、修了者を講師として招き講演会を実施し、大学院で学んだことが社会とどのように接合するかについて話してもらった。学部生にも参加してもらうことで、大学院進学へのきっかけとなるようにしている。2019年度から再開する予定である。						
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	(1) 人類学専攻の自己点検・評価委員会において、アドミッション・ポリシーの妥当性、アドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性について検討している。	特になし。	受験者数が少ないため、定員を充足できていない。受験者数を増やすための方法を引き続き考える必要がある。	B	特になし。	内部進学者を増やすために、文化人類学、考古学のゼミの教員を通じて、関心がある学生に個別に説明する。 他大学からの進学者から、どこから情報を得たかを聞き、効果的な宣伝媒体、方法を選択する。	

			学部・学科/研究科・専攻	人類学専攻	氏名	渡部 森哉			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	(1) 大学院の設置基準を満たし、カリキュラムの適合性、年齢バランスなどを考え、適切な人事計画を年度初めの専攻会議で立てている。	(1) 2018年度には1件の昇格人事を行った。2020年3月に博士後期課程の研究指導教員が2名退職するが、設置基準を満たすことができる。	2023年3月に博士後期課程の研究指導教員が2名退職予定なので、それまでに昇格人事を行う必要がある。	(1) 引き続き毎年度のはじめに人事計画を策定する。	設置基準を満たすよう、逆算して人事計画を立てる。	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	2017年度には修了生の講演会を開催したが、2018年度は実施できなかった。	修了者の話を聞くことで、大学院教育にないが求められているかを確認することができる。	特になし。	2019年度にも修了生の講演会を開催し、学部生にも宣伝することで、受験者の増加につなげる。	特になし。	
		⑥ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 教員組織の適切性については、毎年度はじめの専攻会議で検討し、人事計画に活かしている。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	人類学専攻	氏名	渡部 森哉					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	人類学専攻博士後期課程は「夜間開講を前提に、土曜開講や夏期講座など、個々の学生に対応した履修パターンを設定し、社会人のリカレント教育と学位取得を可能にするプログラムを提供」している（7-②-1）。博士前期課程の学生についても、社会人を受け入れ研究指導などを柔軟に行っている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	7-②-1「人類学専攻webページ」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mha/phd/index.html
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	2018年度に博士後期課程に社会人が1名入学した。2年間で修了希望であり、そのために専攻会議で密接に意見交換をしている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年度人類学専攻会議議事録

			学部・学科/研究科・専攻	人類学専攻	氏名	渡部森哉			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】 修了生を講師として招く講演会を実施している。	特になし。	修了生を招いての講演会は、2018年度は講師の都合が付かなく実施できなかった。	B	特になし。	2019年度は早めに講演会の企画を進める。	
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どこで定期的な点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。 人類学専攻所属の教員が個別に活動しており、教員間で年度初めの専攻会議で情報を共有し、業績の閲覧を行っている。	特になし。	特になし。	B	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	教育ファシリテーション専攻	氏名	加藤 隆雄					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	本専攻が掲げる教育ファシリテーションとは、学校や職場をはじめとする多様な現場において、学ぼうとする者が主体的に学ぶことができるように支援することである。この支援のあり方、すなわち、教育プログラムと学習環境の整備、クラス・小集団での学習促進のあり方について、実践に即しながら研究し、個人のもっている力を引き出すことが本専攻の目的であり、この点において研究科・大学の理念・目的と合致しているといえる。	特になし	特になし	A	該当なし	該当なし	「南山大学大学院の目的に関する規定」第2条第5号 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/okai/pdf/d1030.pdf

			学部・学科/研究科・専攻	教育ファシリテーション専攻	氏名	加藤 隆雄				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	教育ファシリテーションの研究教育理念は、学習者・学習環境を理解することと、学習者への効果的な働きかけから成り立っており、これらに関する知識の習得がディプロマ・ポリシーに謳われている。これを実現するために、研究基礎科目のうえに体験学習領域と学校教育領域という二つの領域を設定し、それぞれに十分な科目を配置し、「さまざまな教育領域における体験学習プログラムの立案・実行能力を育成する」「教育活動を組織し、援助できる能力を育成する」という目的を達成するカリキュラムを構築している(4-2-1)。この点で、カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーと整合的に対応しており、このことは開講科目の審議として研究科委員会でも継続的に確認がなされている(4-2-2)。	2017年度において指摘された「実情とのずれ」(4-2-3)は、体験学習領域の教育が手薄であることと推測される。2018年度には、体験学習領域の教員を研究指導補助として追加することができた。これによって、カリキュラムポリシーにより沿った研究指導を実現できるものと考えられる。	前年度、非常勤講師の先生が専攻のポリシーを理解していないという指摘が院生からあった(4-2-3)。今年度はそのような指摘はないが、専攻のポリシーを伝える方法が確立されていない。	B	特になし	2019年度の非常勤講師の依頼の際に、専攻のポリシーを送付し、事前に読んでいただく連絡体制を構築する。	4-2-1「教育ファシリテーション専攻修士課程3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mhl/phd/policy.html 教育ファシリテーション専攻専攻作成ページ http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/Daigakuin/Edufacili/index.html 4-2-2 2018年度人間文化研究科委員会資料 4-2-3 2017年度人間文化研究科「大学院生による授業評価」アンケート結果(春学期)

			学部・学科/研究科・専攻	教育ファシリテーション専攻	氏名	加藤 隆雄		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	1 年次に「教育ファシリテーション論」「教育ファシリテーション評価研究」を必修科目として開設して、人間性教育に根ざした教育の視座、および支援の効果の検討する能力を修得する。さらに、「教育プログラムの立案・実行能力を育成するとともに、学習者の自己実現を支援する能力を育成する」体験学習領域科目と、「問題解決を目的とした教育活動を組織・援助できる能力を育成する」学校教育領域について、複数の科目を開講して1年～2年次に履修を可能にしている。研究指導については、担当教員6名全員と研究指導を1クォーター受講する。複数の研究指導教員から指導を受け、自身の問題意識の多角化と深化を同時に図ることができるよう、カリキュラムが構築されている(4-3-1)。1クォーターの研究指導後、自らのテーマや方法に最も適合する教員を選んで指導教員とすることができる。以上の通り、カリキュラム・ポリシーと整合した科目設置・配置がなされている。このことは、専攻会議でも継続的に確認されたのち、研究科委員会においても開講科目の審議として確認されている(4-3-2)。	院生に対して研究指導教員が多く(2017年度入学者2名に対して研究指導教員・研究指導補助教員計6名)、院生は自らの関心に最も適合する指導教員を選択することができる。	特になし	A	今後2年程度で、研究指導(補助)教員を追加し、さらなる豊富化を図る。	該当なし	4-3-1 「教育ファシリテーション専攻修士課程3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mhl/phd/policy.html 4-3-2 2018年度人間文化研究科委員会資料
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 学生は国内に職業を持っている社会人であり(4-4-1)、留学以前に大学院と職業との両立を図らねばならず、それに苦慮し休学などで対応する学生が多い(4-4-2)。留学プログラムの充実の必要性は低いと考えられる。 (2) 少人数による授業であり(4-4-3)、また実践的な内容の授業も多い(4-4-4)。学生は極めて主体的な参加を求められる。 (4) 講義概要(シラバス)に研究指導計画が明示され、学生は段階を踏みながら、自身の問題関心を深化させていくシステムが構築されている(4-4-4)。	修士論文執筆計画者4名がすべて修士論文を執筆し、平均以上の成績で修了した(4-4-5)。	特になし	A	特になし	該当なし	4-4-1 入試課・大学院入学試験入学願書中履歴書 4-4-2 学生課・学籍情報 4-4-3 教務課・履修者数情報 4-4-4 2018年大学院講義概要 4-4-5 2018年度人間文化研究科委員会資料・学位審査報告書(教育ファシリテーション)

		学部・学科/研究科・専攻	教育ファシリテーション専攻	氏名	加藤 隆雄			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) コースワーク、リサーチワークについては、シラバスに評価基準を示している(4-5-1)。仕事などのために、授業の出席が十分にできない学生に対しては、担当教員と相談のもと、履修取り消しなどの手続きを行っている。学位論文については人間文化研究科教育ファシリテーション専攻履修要項「Ⅲ. 課程の修了と学位授与について」(論文審査、最終試験および学位の授与)3)に示された学位論文の合格判定基準(4-5-2)にもとづいて評価を行い、研究科委員会で報告を行っている(4-5-3)。 (2) 学位論文研究計画書が提出された段階で、正副の指導教員以外から専門領域を勘案しながら主査を決定し、研究科委員会で報告している(4-5-4)。 (3) 論文提出3か月程度前に、主査と副査2名による中間審査を行い(4-5-5)、執筆に助言を与えている。提出後は、修士論文発表会(4-5-6)に参加した審査委員以外の意見も参考にしながら、主査を中心に論文の評価と学位授与の可否を決定している。	修士論文の審査は、専門領域を勘案しながら主査を選び、副査2名(正副指導教員)の3名体制を構成して、4名の論文の審査を学位論文の合格判定基準(4-5-2)にもとづき行うことができた。	特になし	特になし	該当なし	4-5-1 2018年度大学院講義概要 4-5-2 2019年度大学院学生便覧「人間文化研究科教育ファシリテーション専攻履修要項Ⅲ. 課程の修了と学位授与について」 4-5-3 2018年度人間文化研究科委員会資料・学位審査報告書(教育ファシリテーション) 4-5-4 2018年度人間文化研究科委員会資料 4-5-5 修士論文提出予定者に対する中間審査についての通知メール 4-5-6 2018年度修士論文報告会(2019年1月26日開催)資料
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	個々の科目の短期的な学習成果を見ただけでは不十分であるとの考えから、各学期後の授業評価のコメント(4-6-1)、修了後の専攻での学習成果のふりかえりおよびキャリア形成にかかわる情報の収集により、学習成果を測っている。	大学院生による授業評価では学びの成果について肯定的な意見が多かった。修了後については、キャリアアップをした修了生のインタビュー記事が修了生のホームページに掲載され(4-6-2)、高い学習成果が現れた事例として判断できる。	特になし	ホームページに情報を掲載する修了生は、まだ限られているので、ホームページ作成に携わる修了生と連絡を緊密にし、より多くの修了生からキャリアに係る情報を収集しホームページに掲載できるようにする。	該当なし	4-6-1 2018年度人間文化研究科「大学院生による授業評価」アンケート結果(春学期・秋学期) 4-6-2 修了生のホームページ「ファシリテーションLABO」(https://edufacili.jimdofree.com/)

			学部・学科/研究科・専攻	教育ファシリテーション専攻	氏名	加藤 隆雄			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 修士論文の審査において、ディプロマ・ポリシーに定める要件、カリキュラム・ポリシーに定めた諸能力の習得を確認している（4-7-1）。また、2018年度の春学期後、秋学期後に専攻学生を対象として実施した「2018年度人間文化研究科「大学院生による授業評価」アンケート」において、学生からのコメントをポリシーに照らして検討している（4-7-2）。さらに、研究指導教員相互の情報共有によって、問題点を把握することに努めている。 (2) 上記大学院生による授業評価のコメントを参照して、整合性が確保されているか確認している（4-7-2）。また、講義担当者相互の情報共有によって、問題点を把握することに努めている。	2018年度は、授業評価と教員間の情報共有によっては、問題点は指摘されていない。	特になし	A	特になし	該当なし	4-7-1 2018年度人間文化研究科委員会資料・学位審査報告書（教育ファシリテーション） 4-7-2 2018年度人間文化研究科「大学院生による授業評価」アンケート結果（春学期・秋学期）

			学部・学科/研究科・専攻	教育ファシリテーション専攻	氏名	加藤 隆雄			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準5	学生の受け入れ ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	本専攻の研究教育領域には、言語と文化習慣を異にする留学生に不向きな領域もあり、専攻全体として留学生を積極的に受け入れる体制を構築するのは困難が大きい。とはいえ、2018年度においては、2名の留学生の志願者を得た。	留学生向けの入試制度は取り入れていないが、Webによる広報の効果で、2名の留学生の受験生を得た。また、留学生ではないが、在日外国人も1名受験があった（ただし合格者は無し）。	留学生（または日本在住外国人）の募集促進に向けた体制が構築されていない。	B	留学生（または日本在住外国人）を意欲して、入学選抜や専攻での研究に必要とされるものを、Webや入試説明会で明確にする。	本専攻のWebページにおいて、留学生を意識した広報活動を行う。	大学院入試志願者資料 教育ファシリテーション専攻専攻作成ページ (http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/Daigakuin/Edufacili/index.html)
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	合計6名の入学志願者があったが、いずれも合格水準に達せず、入学者はゼロであった。ここ2年、一定の志願者は確保しているが、残念ながらアドミッション・ポリシーで設定した水準に達していない。志願者はここ10年で減少しているが、その背景についての分析を専攻会議において行った。10年前と比べ、ファシリテーションを学べる教育機関が増えたこと、また、ファシリテーションが技術として習得される傾向にあることが、ファシリテーションを研究領域として捉える本専攻への志願者減をもたらしていると考えられるが、本専攻ではむしろ、積極的にファシリテーションを関係諸領域を総合する研究領域として位置づけた。そのため、アドミッション・ポリシーに示される入学試験での要求水準はかつてに比べ上がったと考えられる。本専攻で研究を行った修了生が、キャリアアップをしていることを示すために、修了生と連携して修了生のホームページを立ち上げた。	特になし	志願者のうち、入試説明会などに参加している人は少なく（6名中1名）、したがって受験者の多くは専攻が求める水準を理解しないまま受験していると考えられる。	C	該当なし	Webページなどには、入試説明会への参加を呼びかけるとともに、過去問を可能な形で公開するなどの対策を取りたい（2019年度）。	大学院入試志願者資料 教育ファシリテーション専攻専攻作成ページ (http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/Daigakuin/Edufacili/index.html) 教育ファシリテーション専攻会議資料
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	専攻教員の約半数が入試問題作成に加わり、アドミッション・ポリシーに見合う問題の難易度や範囲などについて検討を行っている。また、専攻独自に授業見学会・説明会を開催して、数名の参加者を得ている。さらに、入試説明会において説明を行っている。	アドミッション・ポリシーをまげて合格者を取るということをしていない点で、昨年度自己点検・評価委員会から評価されている。志願者も一定の数を維持している。	志願者に対するアドミッション・ポリシーの伝え方に改善の余地がある。	B	今後も水準を維持していくよう入試問題作成・判定を続ける。	志願者に対してこちらの水準を伝える努力をする。入試説明会や専攻独自の説明会では言うまでもないが、問い合わせなどの際にもこの点を伝える。	入試判定にかかわるため、提出できる根拠資料なし 入試説明会については、参加希望者からの申し込み電子メール

			学部・学科/研究科・専攻	教育ファシリテーション専攻	氏名	加藤 隆雄				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	専任教員9名（教授7名・准教授2名）のうち、研究指導教員5名、研究指導補助教員1名、講義担当3名であったが、2018年度中に研究指導補助教員1名を研究指導に、講義担当1名を研究指導補助に追加した。その結果、2019年度には、教授7名が研究指導・研究指導補助教員となり、准教授2名が講義担当となった。	大学院設置基準における教員構成ですでに満たしていたが、研究指導補助教員1名を研究指導に、講義担当1名を研究指導補助に追加し、教育体制のさらなる充実を図った。	特になし	A	「南山大学大学院人間文化研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」に従い、講義担当者の研究業績・教育経験を注視しながら、研究指導補助への追加を検討する（2020年度以降）。また、学部の手教員の研究業績と教育経験を検討して、大学院講義担当に追加するかどうか検討する（2019年度）。	該当なし	2018年度人間文化研究科委員会資料および議事録（第1回・第9回）
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	自己点検委員会を開催、その中でピアレビューを行って、教員の前年度の研究状況を確認している。	前年度の教員の研究業績のピアレビューにおいて、教員の研究状況が若干向上したことが確認された。	特になし	A	修生生による講演会を開催し、専攻での学びを話してもらうことで、教員資質の向上と教員組織編成の検討材料にする。	該当なし	2018年度教育ファシリテーション専攻自己点検委員会ピアレビュー資料、2018年度人間文化研究科自己点検・評価委員会資料
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	専攻会議で人事計画について検討している。研究指導補助教員、講義担当教員について、それぞれ研究指導担当、研究指導補助への追加のために、業績を精査することで、組織編成・FD活動の適切性について評価している。	研究指導補助教員1名を研究指導に、講義担当1名を研究指導補助に追加した。	特になし	A	体験学習領域の教員を、1～2年かけて増員する。また、講義担当教員を研究指導補助に追加する検討を行う。	該当なし	2018年度教育ファシリテーション専攻会議資料

学部・学科/研究科・専攻			教育ファシリテーション専攻			氏名	加藤 隆雄			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	本専攻の場合、学生は社会人であるので「多様な背景」は職業であるが、専攻の専任教員がそれぞれの就業時間と就業状況を把握して、指導にきめ細かい配慮をしている。	学生からの指導への評価が高い(大学院生による授業評価)。授業日・時間なども事前に調整を行った。	非常勤講師の開講時間に調整ができない部分があった。	A	2019年度は在籍する院生は1名であり、修士論文を残すだけであるので、2020年3月の修了ができるよう、専任教員全員が支援をするよう意識したい。	在籍院生1名は、今年度非常勤講師による授業は履修しない予定である。	2018年度人間文化研究科「大学院生による授業評価」アンケート結果(春学期・秋学期)
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学生による授業評価により問題を把握している。また、院生には就学上の問題は、指導教員だけではなく、専攻主任にも連絡するようにし、メールや院生研究室などで相談を行っている。	学生からの指導への評価が高い(大学院生による授業評価)。	特になし	A	指導教員以外にも、院生の修士論文執筆状況を逐次把握し、研究のための支援を行うように心がける。	該当なし	2018年度人間文化研究科「大学院生による授業評価」アンケート結果(春学期・秋学期)

			学部・学科/研究科・専攻	教育ファシリテーション専攻	氏名	加藤 隆雄				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	修了生が修士論文発表会に多数出席している。修了生のグループメールに専攻主任も参加し、修了生の動向について情報を得ている。修了生が独自のホームページを作成している。	修了生がホームページを作成して公開している。そこでは、専攻で学んだことや、それを職業生活、キャリア形成などにどのように生かしているかを発信している。学びの成果は、各領域で仕事をしている修了生がインタビューなどで答えている。専攻は、専攻のWebページでリンクを貼ってこれを紹介している。今後も継続のために専攻も協力する。	特になし	A	修了生との関係を維持し、教員が修了生のホームページに情報提供するなどで連携を深める。	該当なし	修了生のホームページ「ファシリテーションLABO」 (https://edufacili.jimdofree.com/)
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	新入生歓迎会、修士論文発表会・慰労会において、多数の修了生が参加し、意見聴取を行っている。	2018年度は新入生がいなかったために、新入生歓迎会は開催できなかった。しかし、修士論文発表会では多数の修了生が参加し、その場で定期的に本専攻で学んだことの意義について意見を聴取した。	特になし	A	修了生とより密なコミュニケーションを図り、より多くの修了生に発表会に参加してもらい、専攻での学びの成果を語ってもらう。専攻での教育の適切性を検証するため、修了生のホームページでの記事を参照する。そのためにも、より多くの修了生にホームページに参加してもらうよう、修了生の代表者に依頼する。	該当なし	修了生のホームページ「ファシリテーションLABO」 (https://edufacili.jimdofree.com/)

			学部・学科/研究科・専攻	言語科学専攻	氏名	鈴木 達也				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが適切である。 [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	言語科学専攻は、博士前期課程では、「人間性」の本質に迫る手だてとしての言語学研究と日本語・英語を主とする外国語教育研究の発展に貢献することを目的としている。博士後期課程では、「人間性」の重要な一部である言語にみられる普遍性と多様性を研究の対象とし、人間の本質的理解に貢献するため、人間言語の普遍的な理論の構築と、母語である第一言語ならびに外国語である第二言語の習得理論の構築、融合を目指すことを目的としている。(1-①-1)この目的は、大学院及び人間文化研究科の目的を踏まえながら、専門分野に応じて具体的に定めたものであり、大学院及び研究科の目的と連関している。大学院パンフレット、専攻HPにおいても、「南山大学大学院の目的に関する規程」の趣旨を踏まえつつ、広く社会に専攻の紹介を行っている。(1-①-2、1-①-3)	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	1-①-1「南山大学大学院の目的に関する規程」第2条第6項、第7項 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1030.pdf 1-①-2大学院パンフレットp.5 1-1-3「人間文化研究科言語科学専攻博士前期課程、博士後期課程の紹介」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_h1/index.html 、 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_h1/phd/index.html

		学部・学科/研究科・専攻	言語科学専攻	氏名	鈴木 達也					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取組みが適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	言語科学専攻では、博士前期課程、博士後期課程ともに、専攻会議にて、人間文化研究科のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を踏まえて専攻のディプロマポリシーを定め、それと整合するカリキュラム・ポリシーに従って各年次における具体的な教育内容と教育方法を定めて、広く社会に公表している。博士前期課程では、言語学領域、英語教育領域、および、日本語教育領域、さらにこの3つの柱を支えるコミュニケーションに関する領域を設け、このそれぞれの領域に関する専門科目を配置している。研究指導では、修士論文の完成に向けて、研究計画の立て方、調査方法、分析方法、さらに先行研究のまとめ方、参考文献の引用の仕方などを指導している(4-②-(1))。博士後期課程では、言語理論領域と言語習得論領域に関する専門科目と研究指導からなる教育課程を編成し、その履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけた人材を育成している(4-②-(2))。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-②-(1)「言語科学専攻博士前期課程 3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mhl/policy.html 、「16-15-1メール審議 201702120議事録-1」、 「20170223言語科学専攻3つのポリシー-最終版」4-②-(2)「言語科学専攻博士後期課程 3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mhl/phd/policy.html
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1)カリキュラム・ポリシーに基づき、配当年次に従って科目を編成し、研究科委員会において整合性を確認している(4-③-(1))。(3)博士前期課程、博士後期課程ともに、専門科目と演習科目(研究指導および言語科学課題演習)を適切に配置し、時間割編成については、コーディネーターを置いて在学生の専門領域を踏まえつつ、質的管理を行なっている。(4-③-(3))	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-③-(1)言語科学専攻(博士前期課程)カリキュラム https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mhl/index.html 、 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/mhl/phd/index.html 、 大学院学則、2019年2月23日開催人間文化研究科委員会資料、4-③-(3)2018年度第1回言語科学専攻会議資料および議事録

			学部・学科/研究科・専攻	言語科学専攻	氏名	鈴木 達也	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。 [5]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取組みが適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3)学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4)研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5)専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1)博士前期課程、博士後期課程ともに留学生を広く受け入れる体制を整えており、専攻内に国際的な環境が存在している(4-④-(1)国際センター提供資料)。 (2)博士前期課程、博士後期課程ともにすべてのクラスが少人数で行われ、学生の主体的参加を促進している。 (4)博士前期課程、博士後期課程ともにシラバスに研究指導計画が明示され、すべての学生に対して複数指導教員による指導が行われている(4-④-(2))。	特になし。	A	特になし。	4-④-(1)国際センター提供資料、4-④-(4)指導教員&AC一覧
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1)ランチタイムトーク、修士論文中間発表会、博士後期課程研究進捗状況報告会等、学生が研究発表を行う機会を設け、常に教員が他領域の学生に対しても評価できる体制を整えている(4-⑤-(1))。(2)学位授与については「南山大学大学院学則」および「南山大学学位規程」に定める要件及び手続に従い、専攻で要件を確認の上、人間文化研究科委員会による審査を経て、学長が決定している(4-⑤-(2))。(3)学位論文審査基準を『大学院学生便覧』に記載し、審査にあたっては指導教員以外の研究指導担当資格者が主査を務める3名以上から成る審査委員会によって厳正に行われ、修了認定については、学位論文審査結果に基づいて研究科委員会にて審議・承認することで客観性および厳格性を担保している(4-⑤-(3))。	特になし。	A	特になし。	4-⑤-(1) 2018秋・研究報告会20190127-2、2018修士論文中間発表会ボスター、第2回、第6回、第11回専攻会議資料および議事録、4-⑤-(2)「南山大学大学院学則」第69条、第70条 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koakai/pdf/d1020.pdf 、「南山大学学位規程」第4条、第5条 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koakai/pdf/d4340.pdf 、4-⑤-(3)『2018年度大学院学生便覧』p.130、2018年度第15回研究科委員会資料および議事録

		学部・学科/研究科・専攻	言語科学専攻		氏名	鈴木 達也			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	博士前期課程、博士後期課程とも、個々の科目については定期試験の結果を分析することによって、全体的な達成度や満足度は研究科で実施している大学院生による授業評価アンケートによって確認している（4-⑥-（1））。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑥-（1）2018年度春学期 大学院生による授業評価アンケート結果
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)博士前期課程、博士後期課程とも、ディプロマ・ポリシーについては取得すべき知識、技能、態度等と照らして適切に定められているかを、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーに定める上記の学習成果を修得させるために、ふさわしい教育課程(教育内容、教育方法)を明示しているかを、新入生ガイダンスの準備、時間割編成等の機会を使い、専攻内で点検・評価している（4-⑦-（1））。(2)博士前期課程、博士後期課程とも、時間割編成作業を通して、適切な開講数等を確認し、専攻内で情報共有している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑦-（1）第2回、第6回、第8回専攻会議資料および議事録、2018年度言語科学専攻自己点検評価委員会（ピアレビュー）.docx

学部・学科/研究科・専攻			言語科学専攻			氏名		鈴木 達也	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入を促進するための制度改革しているか【2018年度学長方針】	言語科学専攻の入試種別には、2018年度に新規導入した別科推薦を含み、博士前期課程では、一般、社会人、国内在住外国人、国外在住者、学内推薦、別科推薦の6種類があり、博士後期課程では、一般、社会人、国内在住外国人、国外在住者、別科推薦の5種類が用意され、入学選抜を公正に実施している（5-②-(1)）。	設立以来、国内在住外国人、国外在住者の種別で留学生が数多く入学しており、2018年度は、中国、インドネシア、ベトナム、タイ、ウズベキスタンからの留学生在学し、日本人学生とともに研究活動を行なっている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	5-②-(1) 大学院入試情報 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/admission/yoshi.html 、国際センター提供資料
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	言語科学専攻の入学定員は、博士前期課程が12名、博士後期課程が4名となっており、2018年5月1日現在の在籍者数は、博士前期課程が13名、博士後期課程が7名である。近年、大学院への志願者は減少傾向が続いており、定員充足率は、博士前期課程が0.54、博士後期課程が0.58にとどまっている。大学院入試説明会はもとより、雑誌広告ならびに雑誌特集記事への協力も行い、入学者を増やす努力を継続している（5-③-(1)）。	特になし。	定員充足率が低い状態が続いている。	B	特になし。	志願者を増やすことが必要であるので、大学院入試説明会はもとより、雑誌広告等も含めた広報活動をより充実させる等、志願者数増加につながる方策について、2019年度の専攻会議にて具体的な検討を行う。	5-③-(1) 収容定員 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/teiin.html 、在籍学生数_大学院_20180501、『AERAムック 2019大学院・通信制大学』pp. 104-105
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	年度始めに入学試験の募集要項の確認をする際に、アドミッション・ポリシーとの整合性を確認している。その際、その内容がディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと一貫性があるかについても点検・評価している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	各種入学審査要項

			学部・学科/研究科・専攻	言語科学専攻		氏名	鈴木 達也			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが順当である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	専攻には固有の人事枠はないが、大学院設置基準上必要となる研究指導担当教員数および研究指導担当補助教員数を遵守することを前提として、毎年安定的な人材確保に努めている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年度第1回、第9回人間文化研究科委員会資料および議事録
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	FD活動については、自己点検評価委員会、専攻会議での教員間の情報共有にとどまっている。	特になし。	FD活動については、自己点検評価委員会、専攻会議での教員間の情報共有にとどまっており、組織的なFD活動が行えていない。	B	特になし。	博士前期課程、博士後期課程ともに研究指導の複数指導体制があり、博士後期課程ではそれに加えて専攻独自のアドバイザーコミッティー制度がある。2019年度はこれらを活用して、組織的なFD活動につなげている。	2018年度第2回、第8回専攻会議資料および議事録、「2018言語科学専攻の現況について」、「2018年度言語科学専攻自己点検評価委員会(ピアレビュー)」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の適切性については、毎年4月および9月に、大学院設置基準上必要となる研究指導担当教員数および研究指導担当補助教員数を満たしているかを確認し、専門分野の構成、年齢構成を専攻内で点検・評価し、研究科委員会にて確認している。FD活動の適切性については、専攻内で情報共有して検討を重ねることにより検証を行っている。	特になし。	FD活動の適切性の検証が必ずしも十分とは言えない。	B	特になし。	専攻の自己点検評価の際に、FD活動の適切性の検証についてを項目化し、検証の位置付けをより明確にする。	2018年度第1回、第9回人間文化研究科委員会資料および議事録、「2018言語科学専攻の現況について」、「2018年度言語科学専攻自己点検評価委員会(ピアレビュー)」

			学部・学科/研究科・専攻	言語科学専攻	氏名	鈴木 達也			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	言語科学専攻では、留学生、社会人を含む様々な学生がおり、特別な支援が必要と思われる学生については、指導教員、副指導教員による指導、支援を行い、専攻内で情報を共有している。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年度指導教員&AC
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	専攻会議で修学支援が必要な学生の情報を常に共有し、支援・指導を行った後の改善状況についても情報を共有することで効果の有無を確認し、就学支援の適切性を検証している。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年度第2回、第7回専攻会議資料および議事録

			学部・学科/研究科・専攻	言語科学専攻			氏名	鈴木 達也		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価		自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取組みが確かなものである 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	2018年度は大学院入学試験と日程が重なってしまったために教員の参加はできなかったが、例年、「日本語学・日本語教育院生セミナー」に参加している。「大学生と社会人のキャリアを切り拓く」をテーマにした雑誌取材に協力した。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年度第2回専攻会議資料および議事録、 『2019 大学院通信制大学2019』(AERAムック、pp. 104-105)
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	専攻会議にて情報を共有し、取り組みの適切性について逐次検証を行っている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	2018年度第2回専攻会議資料および議事録

		学部・学科/研究科・専攻	国際地域文化研究科		氏名	上村 直樹				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【A】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【B】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【C】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【D】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準1	理念・目的	<p>① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。</p>	<p>学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。</p>	<p>国際地域文化研究科では、大学の理念であるキリスト教世界観に基づく学校教育を行い、「人間の尊厳のために」（Hominis Dignitati）という教育モットーの下で、幅広い教養と専門的知識および能力をもち、人間の尊厳を尊重しかつ推進する人材を育成する、という全学的な目的を国際地域文化研究領域において実践するために、人間の行動様式の総体を規定する条件としての文化という理解の下、多文化共生社会の実現や日本との相互理解と交流の創造・発展等に資する高度専門職業人や研究者の養成を学際的・領域横断的なアプローチによって行っており、研究科の教育・研究が大学の理念・目的に十分にそった形で行われている。</p>	<p>研究科の理念・目的等に関して、2017年度の「大学院生による授業評価」等において、「自分に関係のない科目の履修が負担だ」といった意見もあり、必ずしも所属院生から十分な理解が得られていない状況があったが、2018年度において従来に増して各教員が研究指導や授業等を通じて、研究科の理念・目的等について具体的・実践的に示すよう研究科委員会等の場を通じて強く促すとともに、恒例のFDシンポジウムでもテーマを学生の授業評価として、研究科の教育研究について教員と学生が見え合いに積極的に取り組んだ。2018年度授業評価結果では、研究科の理念や特色に沿った学際的・領域横断的科目が有益であったとの評価が多く見られた（根拠資料：国際地域文化研究科「2018年度『大学院生による授業評価』実施結果報告書」（2019年3月29日））。</p>	<p>研究科Webページ冒頭の「教育理念と目標」の部分に「人間の尊厳のために」（Hominis Dignitati）という大学全体の教育モットーへの言及がなく、その点への言及がある研究科の3つのポリシーとの間に若干の差が見られる（研究科Webページ）。研究科Webページの「教育理念と目標」の部分にも「人間の尊厳のために」（Hominis Dignitati）の内容を盛り込むべく検討する必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>今後も学際的・領域横断的教育研究が本研究科の特色であり、目指す理念である点に関して、所属院生の理解の更なる定着を目標とすべく、2019年度においても各教員が研究科の理念やカリキュラムの特色を授業の中で実践し、学生にしっかり説明していきたい。</p>	<p>研究科Webページの「教育理念と目標」の部分に研究科の3つのポリシーに沿った形で、どのように「人間の尊厳のために」（Hominis Dignitati）の内容を盛り込むべきか、研究科運営委員会を中心に2019年中に検討する。</p>	<p>国際地域文化研究科「2018年度『大学院生による授業評価』実施結果報告書」（2019年3月29日）、国際地域文化研究科「2018年度春学期（Q1・Q2）『大学院生による授業評価アンケート』の結果」（2018年9月26日）、「2018年度秋学期（Q3・Q4）『大学院生による授業評価アンケート』の結果」（2018年2月19日）、研究科「教育理念と目標」（http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/index.html）、研究科3つのポリシー（http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/policy.html）</p>

			学部・学科/研究科・専攻	国際地域文化研究科	氏名	上村 直樹			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取組が卓越した水準にある。 【A】良好な状態にあり、取組が概ね適切である。 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	博士前期・後期課程ともに、ディプロマ・ポリシーに定める能力に基づく教育課程の編成・実施方針に関するカリキュラム・ポリシーを定め、大学のWeb情報等を通じて広く社会に公表している。ディプロマ・ポリシーでは、教育モットー「人間の尊厳のために」の国際地域文化研究領域での実践を通じて多文化共生社会の実現、諸外国との相互理解等に資する高度専門職業人や研究者の養成を掲げ、その能力を身につけたものに学位授与するとし、カリキュラム・ポリシーでは、かかる人材育成に向けた基礎科目、専門科目、演習科目、研究指導からなる教育課程を編成し、ディプロマ・ポリシーに沿った人材育成が目指されている(右記Webページ3つのポリシー)。両者は整合し、密接に関連して教育と人材育成が行われている。これは、毎年、研究科運営委員会において、次年度時間割編成作業時に研究科カリキュラム全体の点検作業の中で検証している(議題のみ、議事録なし)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	研究科博士前期課程Webページ「教育理念と目標」(https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/index.html)、研究科博士前期課程3つのポリシー(https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/policy.html)。研究科博士後期課程Webページ「教育理念と目標」(https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/phd/index.html)、研究科博士後期課程3つのポリシー(https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/phd/policy.html)
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチを組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	博士前期・後期両課程ともにカリキュラム・ポリシーに基づき、基礎科目・専門科目・演習科目としてふさわしい授業科目が適切な年次に配置されるなど、開設科目は、カリキュラム・ポリシーの方針に十分整合しており、教育課程が体系的に編成されている(右記カリキュラム・ポリシーおよび学生便覧、国際地域文化研究科2019)。コースワークとリサーチワークの組み合わせも適切になされている(右記学生便覧および国際地域文化研究科2019)。この点に関しては、毎年度末、研究科運営委員会において、次年度の時間割編成作業と合わせて行われる研究科カリキュラム全体の点検作業の中で検証している(議題のみ、議事録なし)。	2018年度は、スペイン・ラテンアメリカ研究領域の新任の講義担当者の就任に合わせて、カリキュラム・ポリシーの方針に沿った形で「スペイン社会・政治研究」を新設し、「国際社会における多様な文化と価値観を理解する」(カリキュラム・ポリシー)のための教育課程の一層の充実を目指した。	A	特になし。	第2クォーターへの研究指導科目導入の是非について、研究科教務委員会を中心に2019年度中に本格的検討を開始する。 博士前期課程3つのポリシー(https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/policy.html)、博士後期課程3つのポリシー(https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/phd/policy.html)、『2019大学院学生便覧』p.45、『国際地域文化研究科2019年度』pp.9-10、pp.15-16)	

			学部・学科/研究科・専攻	国際地域文化研究科	氏名	上村 直樹	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取組が卓著した状態にある。</p> <p>【A】良好な状態にあり、取組が概ね適切である。</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。</p> <p>【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
	<p>④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法</p> <p>(3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導</p> <p>(4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施</p> <p>(5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>研究指導計画は、各指導教員がシラバスで指導計画を公表するとともに、各研究指導において受講生に対して詳しく説明し、指導が行われている(右記講義概要)。また博士前期・後期課程双方において、研究計画策定や学位論文研究計画書提出、中間発表会等の研究指導の節目となるスケジュール等については、新入生にはガイダンス時に研究科パンフレット等で詳しく説明するとともに、在學生に対しても年度初めにスケジュール等の資料を配布している(右記国際地域文化研究科2019)。また各教員に対して研究科委員会で年間スケジュールを配布して各年度のスケジュールについて確認し、研究指導に活かすことを促している。また学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置の一環として、一部の授業ではWebclassの導入が検討されている(右記講義概要)。留学等に関しては、所属院生が自ら必要に応じて行っており、研究科として組織的対応は行っていない。</p>	<p>新たに導入された9月入学制度の下での最初の修了生が予定される2019年度に合わせて、9月入学生の学位取得に向けた博士前期・後期課程双方に関する学位論文研究計画書提出、中間発表会等の研究指導の節目となるスケジュール等を2019年度年間スケジュールに盛り込むとともに、2019年度用ガイダンス資料にも従来の4月入学者用研究指導タイムラインに加えて、9月入学者用にも同様のタイムラインを記載した。</p>	<p>研究科としても留学プログラムの充実を図る必要がある。</p>	<p>9月入学生の学位取得に向けた博士前期・後期課程双方のスケジュールや学位取得に向けたステップについて、4月入学生に合わせて各種記載や情報の更なる充実に関して、2019年度中に運営委員会を中心に検討を続ける。また研究科の博士前期課程の基礎科目の一つであり、博士前期課程担当教員の多くがオムニバス形式で参加する2019年度「国際文化論」の授業にWebclassが導入予定であり、大学院の授業における同プログラムの活用の可能性について、研究科運営委員会を中心に2019年度中に検討する。</p>	<p>『2018年度授業科目履修案内 講義概要[保存版]人間文化研究科 国際地域文化研究科』pp.343-420、pp.423-32、pp.441-80； https://porta.nanzan-u.ac.jp/syllabus/html/2019_40008425.html、『国際地域文化研究科2019年度』pp.9-10、15-16。</p>
	<p>⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</p> <p>(2) 学位授与に係る責任体制</p> <p>(3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>成績評価、単位認定及び学位授与は各教員及び研究科の責任において適切に行われており、学生や教員からも特に問題の指摘等はなされていない。特に複数教員によるオムニバスの科目の場合、コーディネーターを中心に個別及び全体の成績に関する相互のチェックが行われている。また学位論文審査に関しては、修士論文・博士論文ともに「国際地域文化研究科学位論文(修士論文・博士論文)審査基準」に基づいて各審査項目ごとに厳格な審査が行われており、審査報告書においてもそうした個別項目の審査に基づいた論文全体の審査結果が詳細に記述されている(右記学位論文審査基準および2018年度学位論文審査報告書)。研究科委員会では、審査報告に対して研究科委員全体による質疑がなされ、審査および修了認定の客観性と厳格性の担保が目指されている。また特に博士論文に関しては、必ず学外の審査員を加え、審査の客観性と厳格性に特に留意し、公開で行われている。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>特になし。</p>	<p>「国際地域文化研究科学位論文(修士論文・博士論文)審査基準」(2015年7月8日開催国際地域文化研究科委員会において承認；「2015年度第5回国際地域文化研究科委員会議事録」)；2018年度博士前期・博士後期学位論文審査報告書。</p>

		学部・学科/研究科・専攻	国際地域文化研究科		氏名	上村 直樹		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	学位論文完成に向けた各種発表会等が教育成果検証の有効な場として機能する一方、学位論文審査の過程そのものがディプロマ・ポリシーに沿った学生の学習成果を適切に把握し、評価する機会となっている。2018年度も修士論文・博士論文の審査がディプロマ・ポリシーおよび学位論文審査基準に基づき、厳格かつ適切に行われ、審査結果について研究科委員会で審議・承認され、研究科の教育成果を確認する機会ともなった（右記修士・博士論文）。また大学院論集には博士前期課程生の殆どが修士論文のダイジェスト版を投稿し、博士後期課程生の多くも博士論文の1章に相当する部分を投稿しているが、これらの投稿論文の内容は研究科運営委員会が兼任する論集編集委員会が論文のスタイル面を中心にチェックし、研究指導教員・副指導教員以外の複数教員の目で研究科として内容の精査が行われ、ディプロマ・ポリシーとの整合性も確認されている（『国際地域文化研究』第14号）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	2018年度国際地域文化研究科修士論文・博士論文、『国際地域文化研究』第14号（2019年3月）
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性については、研究科運営委員会において適宜点検・評価しており、必要に応じて教育課程等の改善・向上に向けた検討を行っている。特に研究科教員の退職等による人員構成の変更の際には、科目構成や担当教員の充足計画等に即して教育課程そのものの持続性も含めてその適切性を検討するとともに、学生による授業評価や学生も交えたFDシンポジウム等の機会を通じて、学生目線からの教育課程の適切性についても適宜検討している（右記授業評価報告書）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	国際地域文化研究科「2017年度『大学院生による授業評価』実施結果報告書」

			学部・学科/研究科・専攻	国際地域文化研究科	氏名	上村 直樹		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか。 【2018年度学長方針】	研究科のアドミッション・ポリシーに従って、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制が適切に整備され、入学選抜が公正に実施され、研究科運営委員会でも定期的に検証を行っている。また留学生の受け入れに関しては、2017年度12月に研究科委員会で「外国人留学生の日本語等の外国語要件（出願資格）の変更」が承認され、博士前期課程および博士後期課程それぞれについて日本語ないし英語での語学力等に関する出願要件を明確化し、特に後期課程については、英語での博士論文執筆を希望する出願者には日本語能力試験の点数を適正化し、今後、より多くの留学生受け入れにつながる改革を行ったが、2018年度からは入試要項にもその旨記載したうえで、留学生の募集、選抜が行われている。	留学生に関しては、前年度に引き続き留学生別科からの志願者があり、合格に至った。	特になし。	留学生別科から研究科への志願者を増やすために、別科での大学院紹介等の機会を利用して国際地域文化研究科への別科生の理解を更に促進する。	特になし。	2017年度第10回国際地域文化研究科委員会議事録、2019年度大学院入試要項（国際在住外国人入学審査、国外在住者入学審査）
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。【2018年度学長方針】	在籍学生数を収容定員に少しでも近づけるべく努力を続け、社会人向け入試広報の意味も込めた南山大学エクステンション講座の開催や現役院生だけでなく学部生も対象としたキャリア就職セミナーの開催等、様々な取り組みを行っているが、必ずしも入学者増という効果には結びついていない。	研究科主催（社会学研究科との共催）の院生向けのキャリア就職セミナーに入試広報の意味を込めて学部生の参加を促したところ、学部からも4名の参加があった。大学院入試広報ポスターの作成について大学院入試委員会の場で提案し、作成に至った全学的な入試広報ポスターは研究科の入試広報活動に積極的に活用された。	学部生（学内生）及び社会人の研究科への進学を促す必要がある。	2019年度開催予定の院生向けキャリア就職セミナーに学部生の参加を更に促す。2018年度に初めて作成された全学入試ポスターの改善やより積極的な活用を通じて入試広報に更に活かす。	2019年度は、新たに学部生（学内生）向けの国際地域文化研究科独自入試説明会を昼休み等に複数回開いた。同説明会には研究科教員だけでなく、在学院生にも参加してもらって学生目線からの説明も行う。また社会人（及び学外生・学内生）向けに研究科の教育研究内容に相応しい著名な大学人等を招いて講演会を開催し、入試広報としても役立てる。	2018年度第10回国際地域文化研究科委員会議事録（2018年12月12日開催）、2018年度第1回及び第2回大学院入学試験委員会記録詳細
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	研究科長、専攻主任、入試委員による入試要項確認の際、アドミッション・ポリシーとの整合性をチェックするとともに、アドミッション・ポリシー自体の妥当性及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと整合性についても点検・評価している。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	各種入試要項、博士前期課程3つのポリシー（ https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/policy.html ）；博士後期課程3つのポリシー（ https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/phd/policy.html ）。

			学部・学科/研究科・専攻	国際地域文化研究科	氏名	上村 直樹			
評価基準	点検・評価項目	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1]点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取組が卓越した水準にある。 【A】良好な状態にあり、取組が概ね適切である。 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	基準1(理念・目的)でも述べた人間の尊厳を尊重・推進し、多文化共生社会実現に資する高度専門職業人や研究者を国際地域文化研究領域において養成するという目的実現のため、学際的・領域横断的なアプローチによる教育を実践し、かつ自らの専門領域においても充実した研究活動を行う、という研究科の理念に沿った教員組織の編成方針に基づき、適切な教員組織が基本的に編成されている。過去数年にわたって教員の退職等が相次いだり、概ね人事計画に沿った教員の組織編成がなされている。特に「南山大学大学院国際地域文化研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」(2018年9月1日施行)が制定されて任用基準が明確となり、研究科の必要に応じてより柔軟かつ迅速に退職教員の補充等による教員組織の編成・管理が可能になった。	「南山大学大学院国際地域文化研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」(2018年9月1日施行)を制定した。	既に退職した教員および今後退職等が予定される教員に関して、特に博士後期課程および博士前期アメリカ研究領域において補充やその検討が必要である。	「南山大学大学院国際地域文化研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」(2018年9月1日施行)に基づいて、2019年度にも新たな任用を進める。	2019年度中に、博士後期課程に関しては、博士前期課程研究指導担当者から適格者の後期研究指導担当者への昇任人事を進める一方、アメリカ領域に関しては学部からの大学院担当者の新規任用の可能性等も含めて検討する。	「南山大学大学院国際地域文化研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」(2018年9月1日施行)
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別々FD活動を実施する必要がある。)	前年度に引き続いて、授業評価をテーマとして教員・院生がそれぞれ意見を発表し、研究科の教育についてともに考えるというFDシンポジウム「国際地域文化研究科における研究・教育の充実・発展をめざして：近年の研究科院生による授業評価内容とそれに対する改善の現状・課題をふまえて」を開催し、研究科の教育について在学院生から包括的かつ率直な意見を聞くことができた。	上記FDシンポジウムの結果については、研究科委員会にて報告して構成員に周知するとともに、運営委員会で検討したが、以下の形で院生側の要望を研究科運営に活かすこととなった。即ちクォーター制下の科目配置について、大学院では週2回の「横組み」より連続2コマの「縦組み」が望ましいという院生側の意見を踏まえて、2019年度の科目配置は後者をより多く組むこととし、また在学院生の減少への院生側の問題提起についても、2019年度に院生側の協力を得ながら特に学内広報をより積極的に行うこととなった。なお同FDシンポジウムに関しては、2019年3月16日の2018年度南山大学外部評価委員会において、立命館大学教授の島居智子委員より、教員FDに学生を参加させる取り組みとして“good practice”との評価を受けた。	特になし。	授業評価をテーマとして教員・院生がそれぞれ意見を発表し、研究科の教育についてともに考えるというFDシンポジウムは2019年度も引き続き行う。	特になし。	「2018年度『大学院生による授業評価』実施結果報告書(国際地域文化研究科)」、「『国際地域文化研究』第14号(2019年3月)」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・検証を行っているか。	(1)教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の適切性については、各年度当初に人事計画を検討する際、博士前期・後期両課程に関して大学設置基準上必要とされる研究指導教員及び研究指導補助教員等の充足等について確認するとともに、領域や専門分野ごとの担当教員配置及び年齢構成等を点検・評価している。また、FD活動の適切性については、FD委員会及び運営委員会において前年度の活動を点検・評価して、当該年度の活動に活かしている。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。

		学部・学科/研究科・専攻	国際地域文化研究科		氏名	上村 直樹				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	国際地域文化研究科では、欠席がちな学生や取得単位の少ない学生に関して、指導教員や各講義の担当者から各領域コーディネーターや専攻主任、研究科長に報告があった際には、関係者で対応を協議し、教務課や学生課とも相談しながら、問題があると考えられる場合は、研究科運営委員会で研究科としての対応を協議しており、必要があれば研究科委員会で適宜報告し、研究科教員に一定の対応を要請するなどしている。	問題を抱える学生に対して深刻化する前の早目の対応が概ねできている。	「現状の説明」で述べた研究科としての対応に関しては、関係者の黙示的理解に留まっており、対応の一貫性や継続性が必ずしも確保には担保できていない。	A	問題等の報告があった場合には、研究科として引き続き速やかな対応を心がける。	「現状の説明」で述べた研究科としての対応に関して、対応の一貫性や継続性を確実に担保するためにも一定の明示的なものとするため2019年度中に研究科運営委員会で検討する。	特になし。
		④ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	研究科運営委員会等で支援を必要とする学生情報を共有し、実際に支援等を行った場合には、その後の状況について更に運営委員会で検討し、個別の学生支援の適切性について検証している。	特になし。	上記②の支援等を必要とする学生への対応が黙示的なものに留まっているため、検証についての一貫性や継続性の担保という点で改善の余地がある。	A	特になし。	支援等を必要とする学生への対応の検証についても、一貫性や継続性の担保という点から支援自体の手続き等と同様に、研究科運営委員会で2019年度中に明示的なものとするための検討を行う。	特になし。

			学部・学科/研究科・専攻	国際地域文化研究科	氏名	上村 直樹				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	研究科における研究成果を社会に還元するという社会貢献の目的と社会人向けの入試広報もかねて、前年度、前々年度に引き続き、研究科主催で南山大学エクステンション・カレッジ講座「『1968年』に何が起こったか？—50年後に振り返る世界の画期点」を開催した（今回は、研究科教員が多数参加する南山大学、学地域研究センター共同研究との協力に基づく）。	左記エクステンション講座では、研究科の紹介や受験案内も行い、受験者増には必ずしも直接結び付かなかったものの、広い意味での研究科の広報及び社会貢献としては一定の成果があったと考えられ、受講生の中には将来の研究科の受験や科目履修も視野に関連する学部授業の2019年度科目等履修生に登録したのものもいる。	特になし。	A	2019年度にはエクステンション・カレッジ講座の開催は一旦は休止するものの、翌年度以降に向けて開催講座の検討を続ける一方、同講座に代えて入試広報もかねた形で、国際地域文化研究科の教育研究に相応しい著名な大学人による社会人（及び学外生・学内生）向けの講演会を開催し、研究科の社会貢献の一環とする。	特になし。	『南山大学エクステンション・カレッジ公開講座 2018 Autumn』、2019年度第1回外国語学部教授会議題及び審議資料2
		④ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組みを行っているか。	(1) その取組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	エクステンション・カレッジ講座については、運営委員会で開催目的を照らしてその効果等について検証を行っている。	特になし。	特になし。	B	特になし。	特になし。	特になし。

			学部・学科/研究科・専攻	社会科学部研究科	氏名	石川 良文				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、冊子の場合具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	社会科学部研究科の目的は、「南山大学大学院の目的に関する規程」において、大学の理念・目的を踏まえながら、各専攻の専門分野に応じて具体的に定めている。 また、3つのポリシーは、2016年度末に前期課程について修正したが、後期課程については研究科設置後完成年度を迎えていないため改定を行っていない。 研究科の目的の適切性は、研究科の「自己点検・評価委員会」において確認し、入学前ガイダンスにおいて、新入生及び在学学生に対し、研究科の理念・目的の趣旨を説明している。（1-①-1）	特になし。	後期課程はまだ完成年度を迎えていないため、3つのポリシーが改正できなかった。2018年度に完成年度を迎えたことから、早期に大学の理念・目的やそれぞれのポリシーが整合したものに改正していく必要がある。（1-①-2）	B	特になし。	後期課程の3つのポリシーについて、2019年度の早期に、大学や前期課程のポリシーとの整合性を図っていく必要がある。 そのため、6月頃を目途に社会科学部研究科で3つのポリシー改正案を作成し、関係部署での確認をお願いする。研究科委員会、協議会、自己点検・評価委員会（1-①-3）、大学院委員会、評議会等、各種会議体での審議を経て、2020年4月1日付で公開する予定である。	1-①-1「南山大学大学院の目的に関する規程」 http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koakai/pdf/d1030.pdf 1-①-2「社会科学部研究科3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/ss/policy.html 1-①-3「2018年度社会科学部研究科自己・点検評価委員会議題」

			学部・学科/研究科・専攻	社会科学部研究科	氏名	石川 良文			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	社会科学部研究科前期課程のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけた人材を育成するための教育課程の編成、共通科目、専攻科目、研究指導科目の趣旨と内容を定めている。 後期課程のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーで掲げた方針を受け、教育課程の編成、研究指導科目、講義科目、共通科目の趣旨と内容を定めている。 また、研究科のカリキュラム・ポリシーに準拠する形で、専攻ごとに具体的な方針を立てている。(4-②-1) こうした現状については自己点検・評価委員会で確認している。(4-②-2)	特になし。	前期課程のカリキュラム・ポリシーは、全学における3つのポリシーを改定した時にその内容を精査し、ディプロマ・ポリシーとの整合性についても確認している。しかし、後期課程のカリキュラム・ポリシーは、完成年度を迎えていなかったため、従前のままとしている。そのため、前期課程のカリキュラム・ポリシーとの整合性について精査し、内容を改定していく必要がある。	特になし。	後期課程のカリキュラム・ポリシーについては、3つのポリシーの改定に合わせて、その内容を改定していく予定である。 今後、改正案を協議会、研究科委員会、大学院委員会、自己点検・評価委員会で順に審議する。その後、評議会で審議する。	4-②-1「社会科学部研究科3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/s/policy.html 4-②-2「自己点検・評価委員会資料(2019年3月1日開催)」
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) カリキュラム・ポリシーで示した教育課程を具現化する科目群を適切に配置し、配当年次に従って科目を編成している。こうした現状については、自己点検・評価委員会で確認している。(4-③-1) (2) 前期課程は研究科選択必修共通科目、研究科選択共通科目、専攻科目等により、また、後期課程は学際共通科目、専攻科目によりコースワークの充実を図っている。また、研究指導科目を前期課程では8単位、後期課程では12単位を配置し、リサーチワークについても十分な内容になるよう配置している。(4-③-2)	特になし。	現在開設している授業科目は、カリキュラム・ポリシーと整合しているが、より充実した教育内容とするために科目群の内容について確認していく必要がある。特に、後期課程においては、完成年度を迎え3つのポリシーの改定が必要なことから、科目の適切性についても議論しながら、より充実した科目内容とするよう検討をはじめの必要がある。	特になし。	前期課程については、カリキュラム・ポリシーに即した科目群となっているか確認を行い、必要に応じて科目内容の修正、新しい科目の設置を検討する。後期課程については、3つのポリシーの改定を踏まえて、それらと整合する科目の確認を行い、必要に応じて科目の追加修正を行う。これらの議論は各専攻会議で行った上で研究科委員会で検討し、追加修正が必要な場合は原案を作り審議する。また追加修正が必要な場合は、教務課等関連部署での確認、各種会議体等での審議をお願いする。	4-③-1「自己点検・評価委員会資料(2019年3月1日開催)」 4-③-2「大学院学生便覧」

			学部・学科/研究科・専攻	社会科学部研究科	氏名	石川 良文		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価してください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 留学プログラムは研究科として用意していない。 (2) 研究指導科目を前期課程・後期課程ともに各学年各学期で配置し、学生による主体的な学習形態を充実させている。また、前期課程・後期課程ともに学位論文の中間報告を義務付けている(4-④-1)。さらに専攻によっては各年次にセミナーの開催、プロボール公聴会等を開催し、その準備を含めた能動的授業形態をとっている。 (4) 前期課程・後期課程共に、年度初めに主旨指導員が研究指導計画書(4-④-2)を提出し(4-④-3)、半期毎に副指導員が研究指導報告書(4-④-4)を提出する(4-④-5)ことによって、教育内容と方法の検証、改善を行っている。	特になし。	(1) 留学プログラム、海外での調査研究活動が行える措置についても、その可能性を検討する必要がある。	B	特になし。	(1) 留学プログラム、海外での調査研究活動が行える措置を各専攻で検討し、その案を持ち寄って研究科としての議論を行う。その際、大学院生の留学について国際センターからの情報提供をお願いしたい。	4-④-1「論文審査日程」(第1回および第4回社会科学部研究科委員会資料) 4-④-2「研究指導計画書」 4-④-3「研究指導計画書提出状況」(第2回社会科学部研究科委員会資料) 4-④-4「研究指導報告書」 4-④-5「研究指導報告書提出状況」(第6回および第11回社会科学部研究科委員会資料)
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 研究科委員会が修了判定時に論文と最終試験の評価結果を示し、客観性の高い成績評価を行っている(4-⑤-1)。 (2) 学位授与については「南山大学大学院学則」(4-⑤-2)および「南山大学学位規程」(4-⑤-3)に定める要件及び手続に従い、社会科学部研究科委員会による審議、大学院委員会による審議を経て、学長が決定している。 (3) 学生便覧(4-⑤-4)において、前期課程・後期課程ともに学位論文審査基準を掲載している。後期課程については、「課程博士学位請求論文の提出要件と審査手続きに関する申し合わせ」(4-⑤-5)の中で、学位請求論文の提出要件、学位論文審査基準を明示している。また、博士論文を提出する水準に達しているかについての「博士論文提出資格審査」を実施し(4-⑤-6)、学位審査の客観性、厳格性を担保している。最終的に提出された学位請求論文について定められた審査基準に照らし、主査、複数の副査による最終試験と評価を行っている。また、最終的な修了判定を専攻会議で審議した後、研究科委員会で修了者の認定について審議している(4-⑤-1)。	単位認定や成績評価に対する学生からの疑問や問題は生じていない。また、客観的及び厳格な学位論文の審査を経て、11名の修士、1名の博士の学位を授与することができた。(4-⑤-1)	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑤-1「修了者の認定」第10回社会科学部研究科委員会記録 4-⑤-2「南山大学大学院学則」 http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/41020.pdf 4-⑤-3「南山大学学位規程」 http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/4340.pdf 4-⑤-4「学生便覧」 4-⑤-5「課程博士学位請求論文の提出要件と審査手続きに関する申し合わせ」 4-⑤-6「博士論文提出資格審査」(第3回社会科学部研究科委員会)

		学部・学科/研究科・専攻	社会科学部研究科		氏名	石川 良文			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料		
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	個々の授業による学習成果は、各科目の試験、レポート等でその成果を評価している。また、最終的な学習成果の測定として、最終試験ならびに論文審査を通じて学習成果を把握している。さらに、大学院では専門的知識に基づく分析能力等を客観的に見るものとして、紀要、学会誌等の論文が公開されているかについての成果の測定を行っている。授業評価アンケート(4-⑥-1)を年2回実施し、評点、自由記述により評価を行っている。(4-⑥-2)	2018年度に修士11名、博士1名の学位が授与された(4-⑥-2)。また、経済学専攻では4名の学生が学生論集『南山論集』、総合政策学専攻では『南山総合政策研究』に1名の学生が投稿、掲載された。	総合的、多角的な観点から学習成果を測定する方法までには至っていない。	B	特になし。	授業評価に際して、学習成果の自己評価を行う項目を含められるか、FD委員会で検討し、社会科学部研究科で年度内に審議する。	4-⑥-1「授業評価アンケート」 4-⑥-2「シラバス例」 4-⑥-3「修了者の認定」第5回および第10回社会科学部研究科委員会記録
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー(4-⑦-1)に従って授業科目が設置され、その内容については授業評価を通じて点検・評価を実施している。また、修士論文、博士論文の指導計画と報告によっても、その適切性を点検・評価している。授業評価(4-⑦-2)、指導計画と報告は研究科委員会で報告され(4-⑦-3)、教員間で共有している。また、研究科の自己点検評価委員会、研究科委員会では、3つのポリシーについての適切性を確認し、2017年度に改正されなかった後期課程の3つのポリシーを改正することとしている。 (2)上記に記述した通り、カリキュラムポリシーに沿った授業科目となっているかについては、大学院生による授業評価、教員による研究指導計画書及び報告書の作成、研究科自己点検評価委員会(4-⑦-4)、研究科FD委員会(4-⑦-5)、研究科委員会で改善策を含め検証を行っている。	特になし。	完成年度を迎えたことから、後期課程の3つのポリシーを改正すると共に、科目配置の適切性を検証する必要がある。	A	特になし。	後期課程の3つのポリシーについて、2019年度の早期に、大学全体、前期課程のポリシーとの整合性を図る。また、カリキュラムポリシーと整合する授業科目の配置を検討する。そのため、6月頃を目途に社会科学部研究科で3つのポリシー改正案を作成し、関係部署での確認をお願いする。研究科委員会、協議会、自己点検・評価委員会、大学院委員会、評議会等各種会議体での審議を経て2020年4月1日付で公開する。 科目配置の議論は各専攻会議で行った上で研究科委員会で検討し、追加修正が必要な場合は原案を作り審議する。また追加修正が必要な場合は、教務課等関連部署での確認、各種会議体等での審議をお願いする。	4-⑦-1「社会科学部研究科3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/s/policy.html 4-⑦-2「大学院生による授業評価」 4-⑦-3「研究指導計画書及び報告書一覧」 4-⑦-4「社会科学部研究科自己点検評価委員会次第」 4-⑦-5「社会科学部研究科FD委員会次第」

		学部・学科/研究科・専攻	社会科学研究科	氏名	石川 良文				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	大学院入試において、国外在住者入学審査、留学生別科推薦などの入学審査を設け、多様な学生の能力を評価している。このほか経済学専攻では、国内在住外国人入学審査により留学生の受入れを促進している。(5-②-1)。新規に留学生の受入れを促進する制度改革は行っていないが、学部学生も参加できる「大学院生のためのキャリア就職セミナー」を開催し、学部留学生もこれに多く参加している (5-②-2)。	2018年度では、15人の留学生在籍している。(5-②-3)	留学生の受入れを促進するための方策について研究科として検討する必要がある。	特になし。	留学生受け入れ促進について、留学生別科、国際センターとの協力体制を検討する。	5-②-1「2019年度入試要項」 5-②-2「大学院生のためのキャリア就職セミナー」 5-②-3「社会科学研究科在学者一覧」
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	年に2回の大学院入試説明会（5月、12月）に加え、入学者を増やすために、例えば経済学専攻ではイブニングセミナーを年2回開催する際、社会人のための入試説明会を同時開催している (5-③-1)。また、学部学生も参加できる「大学院生のためのキャリア就職セミナー」を12月6日に開催し (5-③-2)、大学院進学の際の懸念材料となる就職について学部学生が理解できるよう努めた。更に、社会科学研究科独自のWebページを開設し (5-③-3)、研究科の内容、科目群や入学試験の情報の発信に努めた。	2019年度の志願者は前期課程17名、後期課程6名であり、特に後期課程においては前年度0人から6名へと大幅に増加した。(5-③-4)	定員の確保はできていない。定員の充足に向けた改善策を検討する必要がある。	特になし。	各学部と協力して、学部1、2年生に対する大学院進学についての説明の機会を設けることを検討する。学部学生は、大学院進学という進路を選択肢に入れていない可能性があるため、例えば、キャリア支援委員会においても大学院進学という選択肢、あるいは大学院進学後のキャリア形成についての策を検討して頂きたい。	5-③-1「大学院入試説明会参加者数一覧」 「第29・30回『イブニング・セミナー-経済@南山』社会人入試説明会での研究科説明会チラシ」 5-③-2「大学院生のためのキャリア就職セミナーチラシ」 5-③-3「社会科学研究科webページ」 http://depts.nanzan-u.ac.jp/grad/ss/5-3-4 「志願者数、受験者数」(第4回および第10回社会科学研究科委員会記録)、「社会科学研究科在学者一覧」
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	社会科学研究科「自己点検・評価委員会」において、アドミッション・ポリシーについての適切性について検証している (4-④-1)。その結果、完成年度を迎えるまで改正できなかった後期課程のアドミッション・ポリシーの改正を行うことを確認している。また、同委員会においては、志願者数等のデータを踏まえて、入学者の傾向の把握と分析を行っている。 アドミッション・ポリシーにある入試種別等については、専攻会議、研究科委員会、大学院入試運営委員会、大学院入試委員会等において確認、承認している。 学生の受入れの適切性については、専攻会議での入試合否判定案の作成、研究科委員会での審議承認を行っている。	志願者、受験者、合格者、入学者等のデータを踏まえて、入学者の傾向の把握と分析していることにより、アドミッション・ポリシーおよび選抜方法の適切性を点検・評価できている。 志願者数16名（前年に比べ3名増）、受験者数23名（8名増）、合格者数18名（6名増）、入学者数12名（増減無）であった。	特になし。	経年的な志願者、受験者、合格者、入学者等のデータを取得して、より詳細な分析を行うことが有効と思われるため、まとめてデータを提供いただけるとありがたい。	特になし。	4-④-1「社会科学研究科自己点検評価委員会次第」

		学部・学科/研究科・専攻	社会科学部研究科		氏名	石川 良文			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	社会科学部研究科では、研究科の目的に沿って教員を配置するための人事計画を研究科長、専攻主任との協議により検討し、全学的に定められているプロセスに従い、教員組織を構成している(6-②-1)。その際、大学設置基準上必要となる教員数を常に確認し、その数を遵守している。 また、研究指導及び研究指導補助を担当する教員の認定基準「南山大学大学院社会科学部研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」を制定し、それに従って教員人事を行っている(6-②-2)。	2018年度に経済学専攻において前期課程研究指導教員1名の昇格人事を行った。これにより教員組織の充実が図られた。	2018年度は研究指導及び研究指導補助教員の認定基準の制定が遅れたため、それに基づく十分な認定及び人事が行えなかった。 また、研究指導を担当する教員が少ない経済学専攻における対策ができなかった。	特になし。	2019年度の早期に人事計画を立て、着実に研究指導及び補助教員の認定を行う。 研究指導を担当する教員が少ない専攻において、教育体制を強化するための人事を行う。	6-②-1「研究科委員会構成」 6-②-2「南山大学大学院社会科学部研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	教員の授業改善に向け、授業評価を行い、研究科委員会で報告すると共に、研究科委員会全委員が参加するFD懇談会でそれを共有し意見交換を行っている(6-④-1)。更に、改善策について研究科FD委員会において検討している(6-④-2)。また、FD研修においては、各専攻で学部との共催によるFD講演会(研修会)を年1回以上行っている(6-④-3)。2018年度は、演習科目群のよりよい方向性を検討する研修会、ティーチング・ポートフォリオを活用した教育改善などの研修を行った。	2018年度3月に実施したFD懇談会では、37人が参加した(6-④-4)。また、3月1日にFD委員会を開催し、改善策等について議論した。	F D研修は各専攻で学部との共催の研修を実施しているが、研究科全体の研修についても検討していく必要がある。	B	研究科で年度末に実施していたFD懇談会を年度の前半に実施し、カリキュラム改正、研修、意見交換の機会とする。	6-④-1「大学院生による授業評価」「社会科学部研究科FD懇談会次第」 6-④-2「社会科学部研究科FD委員会次第」 6-④-3「社会科学部研究科FD研修についての研究科委員会報告資料」(第6回および第7回社会科学部研究科委員会) 6-④-4「第11回社会科学部研究科委員会記録」
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	毎年度第1回研究科委員会において、研究指導教員、補助教員、講義担当別に教員構成の適切性を確認している(6-⑤-1)。また、新たに定めた研究指導教員の認定基準に係る内規により適切な人事を行っている(6-⑤-2)。FD活動の適切性については、FD委員会にて検証している(3月1日実施)(6-⑤-3)。	2018年度に経済学専攻において前期課程研究指導教員1名の昇格人事を行った。これにより教員組織の充実が図られた。	特になし。	A	特になし。	6-⑤-1「研究科委員会構成」 6-⑤-2「南山大学大学院社会科学部研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」 6-⑤-3「社会科学部研究科FD委員会次第」

		学部・学科/研究科・専攻	社会科学研究科		氏名	石川 良文		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウエブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。 毎年3月末にガイダンスを実施し、新入生を含む院生全員が参加している（7-②-1）。研究科長から研究科の目的方針、特徴、学修全般について説明の後、専攻ごとに学修、学生生活などの指導を行っている。また、社会人学生が授業に出席できるように夜間等時間割の配慮を行い、研究指導については、通常授業以外に、中間報告、各種セミナーを通じてフォローしている（7-②-2）。更に、指導教員、副指導教員からなる副指導体制により、学修、学生生活での支援を充実させている（7-②-3）。多様な背景を持つ学生の修学期間について、1年修了、前期課程における計画的な長期修了を認めている（7-②-4）。	授業評価の自由意見において教員による指導が行き届いている旨の記述がみられる。 ・2019年3月に1年修了願が提出されている（7-②-4）。	特になし。	A	特になし。	7-②-1「大学院学生新入生行事日程」 7-②-2「研究指導の時間割中間報告、セミナーの規定（履修要項）」 7-②-3「副指導体制（指導教員割当）」 7-②-4「臨時社会科学研究科委員会（3月21日）」
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。 学生支援の適切性については、学生の声が聴くことが必要であるため、授業評価、大学院生と教員が参加する懇談会、修了パーティで意見を聴取している（7-③-1）。また、研究指導において指導教員と副指導教員の副指導体制により、様々な声が聴けるようにしている（7-③-2）。これらの意見等は、FD委員会で共有し、学生支援の適切性について確認している（7-③-3）。	特になし。	A	特になし。	7-③-1「大学院生による授業評価」「大学院生と教員が参加する懇談会3月31日」「修了パーティ3月6日・21日」 7-③-2「副指導体制（指導教員割当）」 7-③-3「社会科学研究科FD委員会次第」	

学部・学科/研究科・専攻		社会科学部研究科		氏名		石川 良文		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準 9	社会連携・社会貢献 ② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	学部との共催で各種講演会を開催している。2018年度は、総合政策学専攻との共催で「ドイツの気候変動政策」を実施した（9-②-1）。また、経済学専攻では、年に2回（7/13、12/14）にイブニングセミナー@南山を開催した（9-②-2）。	イブニングセミナーには毎回30名から50名の参加があり、その中から入学試験を検討する人も多くなっている。（9-②-3）	研究科には予算がほとんどないため、講演会などを行う際学部との共催にならざるを得ない。研究科として独自の講演会、社会連携事業を企画しても予算面で実施できないことが多い。	特になし。	大学院のプレゼンスを高めるために、研究科独自の講演会や社会連携事業を行えるよう研究科の予算の充実をお願いしたい。	9-②-1「ドイツの気候変動政策」1月12日開催 9-②-2「第29・30回『イブニング・セミナー@南山』社会人入試説明会での研究科説明会チラシ」 9-②-3「第29・30回『イブニング・セミナー@南山』社会人入試説明会での研究科説明会アンケート結果」
	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組みを行っているか。	(1) その取組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	各種講演、セミナーについては研究科委員会で報告し意見を聴取している（9-③-1）。また、研究科「自己点検・評価委員会」において意見交換を行っている（9-③-2）。	特になし。	個別の取組みについてはその適切性について研究科委員会等で議論しているが、社会連携、社会貢献の適切性全体については定期的な点検・評価、改善の仕組みがない。	特になし。	社会連携・社会貢献の適切性について自己点検評価委員会で点検・評価の仕組みを議論し実施する。	9-③-1「第5・6・7・8回社会科学部研究科委員会」 9-③-2「社会科学部研究科自己点検・評価委員会次第」「社会科学部研究科FD委員会次第」

				学部・学科/研究科・専攻	経済学専攻	氏名	阪本 俊生			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	経済学専攻では、「人間の尊厳のために」（Hominis Dignitati）という本学および研究科が掲げる教育モットーのもと、「社会経済の情勢や問題を一定の分析方法を用いて分析し判断する能力、深い学識や研究能力を備え、社会において指導的役割を担える能力、経済学に関する専門的・学術的な研究能力」を涵養することを目的としている（1-①-1）。	新学期前のガイダンス（3月31日開催）、懇談会および懇親会（5月12日）、イブニング・セミナー（7月13日および12月14日）、入試説明会（5月12日および12月8日）にて理念および3つのポリシーの確認および情報発信をおこなった。新学期のガイダンスおよび懇親会には、学生はほぼ全員の出席した。懇親会にて、院生と教員間および学年の異なる院生間の交流を深めた。懇親会には、社会人学生も積極的に参加し、経済学専攻内の学生間（学年を越えた）および教員と学生との交流を活発におこなっている。	懇談会の開催日が平日の午後であったため、社会人の院生は参加できず、懇親会だけの参加となった。	A	特になし。	特になし。	1-①-1「南山大学大学院学則」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1020.pdf 「3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_sse/policy.html 1-①-2「2018年度社会科学部経済学専攻院生懇談会5月12日開催配布資料」 1-①-3「第29・30回『イブニング・セミナー経済@南山』社会人入試説明会での研究科説明資料」

学部・学科/研究科・専攻			経済学専攻		氏名	阪本 俊生		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。 経済学専攻の、各学位ごとの教育課程の編成・実施方針については、専攻のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに従うとともに、それらを達成するための具体的な授業編成、教育方針、履修方法、コース等については、経済学専攻会議によって原案を作成し、社会科学部研究科委員会(以下、研究科委員会)の承認を経て定めている(4-②-1)。 その内容は、シラバスを通じて学生に知らせるとともに、教育課程全体の編成や実施方針については、入学試験要項や各種パンフレット等および大学や研究科のウェブページによって公表するとともに、学生に対してはガイダンスや懇談会を通じて、学外者に対しては、年2回の入学試験説明会および、やはり年2回、経済学専攻主催で開催しているイブニング・セミナー後の入学試験説明会を通じて、直接公表および説明を行っている(4-②-2)。以上から、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは、整合している。	2018年度から、社会科学部研究科のウェブページを新たに設置し、これまでの公表に加えて、本ウェブページからも専攻の教育課程について公表しはじめた(4-②-3)。 新学学期前のガイダンス(3月31日開催)、懇談会および懇親会(5月12日)、イブニング・セミナー(7月13日および12月14日)後の入学試験説明会、本学大学院全体の入学説明会(5月12日および12月8日)にて理念や教育課程の編成、その実施方針等についての情報発信を行った。	特になし。	A	特になし。	4-②-1「2018年度第8回経済学専攻会議記録」「2018年度第7回研究科委員会記録」 4-②-2「シラバス」「入学試験要項」「ガイダンス3月31日開催」「2018年度社会科学部研究科経済学専攻院生懇談会5月12日開催」「第29・30回『イブニング・セミナー経済@南山』社会人入学試験説明会での研究科説明会資料」 4-②-3「社会科学部研究科Webページ(2018年10月開設)」 http://depts.nanzan-u.ac.jp/grad/s/ 2018年度第7回社会科学部研究科委員会にて報告

学部・学科/研究科・専攻			経済学専攻		氏名	阪本 俊生			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	前期課程では、カリキュラム・ポリシーにある「各専攻の相互補完を目的とした学際共通科目」としては、各専門分野の枠を越える共通科目として、研究科選択必修共通科目および研究科選択共通科目を設けており、それぞれ4単位以上を必修として履修させている（4-③-1）。後期課程では、「社会科学の複合的学問を基に、複雑化した問題を多角的に分析できる能力、合理的で実現可能な政策立案ができる能力」を育むため、社会科学研究特論を必修科目としている（4-③-2）。 またカリキュラム・ポリシーにある力を身につけるための経済学の各分野、すなわち経済学理論、国際経済学、労働経済学、開発経済学、計量経済学、経済史、租税法、経済社会学等の専攻科目を開設している。コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育は各研究指導を通じておこなわれている。以上から、カリキュラムポリシーと整合している。	学生による授業評価の結果からも、開講科目に対する満足度は高い（4-③-3）。また、学生の全員が修士論文を提出して合格し、修了した（4-③-4）。	国際金融論、西洋経済史等、かつて開講されていた専攻科目が開かれていない状態である。	A	特になし。	学部教員で大学院を担当していない教員の大学院担当者への人事を進め、専攻の科目を充実させる。これに関しては次年度から順次、おこなっていく。	4-③-1「2018大学院学生便覧 p.61以降」 4-③-2「2018大学院学生便覧 p.67以降」 4-③-3「2018年度大学院生による授業評価」 4-③-4「2018年度第5・10回社会科学研究科委員会記録の修了判定」

			学部・学科/研究科・専攻	経済学専攻	氏名	阪本 俊生		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態であり、取組みが卓越した水準にある。</p> <p>[A] 良好な状態であり、取組みが適切である。</p> <p>[B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。</p> <p>[C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法</p> <p>(3) 学部は、e-ポートフォリオやWeblessなどによる履修指導</p> <p>(4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施</p> <p>(5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>留学は必要に応じて推奨するが、現状では国内の租税法研究を専攻する学生と留学生が大半を占めており、これらの学生は研究に留学を必要としない。だが、専攻内の教員で国際学会で報告する者が増えており、これらの教員の指導学生が増えてくれれば、留学をさらに充実させられると考えている。</p> <p>指導教員および副指導教員は4月に研究指導計画書を提出、提出状況は5月の研究科委員会にて報告される。各教員は本計画書に従って指導し、結果を研究指導報告書を通じて報告している(4-④-1)。年2回、学生による授業評価を実施し、その結果は専攻会議および研究科委員会の審議事項となる(4-④-2)。3月末にガイダンスを実施、新入生を含む院生全員が参加している。その際、専攻主任より単位履修モデル、オフィスアワーや論文審査日程、学生論集、研究室の割当、その使用方法まで、学習に必要な情報を伝えている。上級生から新入生への情報伝達や説明もある。ガイダンス後、各指導教員による個別の履修や登録の指導を行っている(4-④-3)。5月に、教員と学生との懇談会および懇親会を実施。懇談会では、学位論文関連の日程確認、中間報告や論文評価、学生論集の提出等を説明、学生論集の提出を促している。学生から履修や学生生活上の問題を聞き取り対応、昨年度の学生による授業評価結果を学生に公表し、専攻側の対処を説明、懇談会後の懇親会で学生と教員および学生相互の交流をはかっている(4-④-4)。</p> <p>大学院は主体的参加が基本であり、常識だと考えている。1科目あたりの受講生も研究指導生も少ない本専攻では、すべてにわたり学生の主体的参加が必要とされている。</p>	<p>5月の懇談会において、学生による授業評価アンケートをもとにしつつ、学生からの声を直接、専攻主任が聞くことを通じて、学生の就学上等の問題を解消するとともに不満を解消し、学習の活性化をもたらしている。また懇談会によって、学生と教員、学生同士のコミュニケーションおよび情報交換を行うこともまた、学習の活性化につながっていると考えられる(4-④-4)。</p> <p>2018年度修了予定であった学生5名(うち1名は9月修了)は、全員、修士論文を提出し、修了した(4-④-5)。また、そのうち4名が学生論集(『南山論集』)にも論文を投稿し、掲載されている(4-④-6)。</p>	<p>懇談会および懇親会への教員からの参加が少なく、ごく一部の教員に限られている。このことは、本専攻の学生の一部の専門分野(租税法)への偏りが見られることにも起因すると考えられる。</p>	<p>懇談会および懇親会への参加を促すよう、引き続き教員にこれらの意義を伝えていく。</p>	<p>4-④-1 「2018年度第2・6・11回社会科学研究所委員会記録」</p> <p>4-④-2 「2018年度第6・14回経済学専攻会議記録」 「2018年度第10回社会科学研究所委員会記録」</p> <p>4-④-3 「2019年度社会科学研究所経済学専攻ガイダンス資料」</p> <p>4-④-4 「2018年度社会科学研究所経済学専攻院生懇談会次第(5月12日実施)」</p> <p>4-④-5 「2018年度第5・10回社会科学研究所委員会記録の修了判定」</p> <p>4-④-6 『南山論集第44号経済学・経営学編』</p>	

B

			学部・学科/研究科・専攻	経済学専攻	氏名	阪本 俊生	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	<p>経済学専攻では、成績評価を厳格に行っていると考えている。また成績評価の結果および単位認定については、修了判定の際に専攻主任が最終的なチェックを行っている。学位授与に関しては、学位論文修了年度の学生に、事前に学位論文計画書を提出させ(6月)、10月中に中間報告を公開で行う(4-⑤-1)。</p> <p>最終試験の結果および評価については、報告書にまとめられ、専攻会議および研究審査委員会において審議される。各学生の論文審査委員のメンバーは、専攻主任および論文委員が、「副指導および学位論文審査委員割り当て原則」(4-⑤-2)に従って原案を作成し、専攻会議および研究科委員会の議を経て承認される(4-⑤-3)。その際、指導教員は主査となることはできない。中間報告のやり方、最終試験の審査基準および評価方法、各委員の評価の点数配分は、「社会科学研究科 学位論文審査基準」(4-⑤-4)、「修士論文の指導および審査委員会、中間報告会に関する取り扱い要項」(4-⑤-5)および「修士論文の審査及び最終試験に関する取り扱い要項」に従う(4-⑤-6)。</p>	<p>単位認定や評価に対する学生からの疑問や、その他、問題等は生じていない。学位論文審査についても、規程や取扱要領に従って実施されており、その結果、今年度中の修了予定者5名全員が修士論文の審査に合格し、修了した(4-⑤-7)。</p>	特になし。	<p>特になし。</p>	<p>4-⑤-1「学位論文審査日程」 4-⑤-2「副指導および学位論文審査委員割り当て原則」 4-⑤-3「2018年度第6・15回経済学専攻会議記録」「2018年度第5・10回社会科学研究科委員会記録」 4-⑤-4「社会科学研究科 学位論文審査基準」 4-⑤-5「修士論文の指導および審査委員会、中間報告会に関する取り扱い要項」 4-⑤-6「修士論文の審査及び最終試験に関する取り扱い要項」 4-⑤-7「2018年度第5・10回社会科学研究科委員会記録の修了判定」</p>

学部・学科/研究科・専攻			経済学専攻		氏名	阪本 俊生		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。(例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	学習成果の測定は、基本的には修士論文及び博士論文の判定によっておこなわれる。学位論文については、学位論文計画書の6月(9月修了の場合は4月)提出を義務づけ、10月に中間報告用原稿を提出させ、同月に報告会を実施する。報告会は公開であり、論文審査委員(主査および副査)は、その報告に質問とコメントを与える。論文審査委員は全員、事前に審査対象となる論文についての講評をまとめ、指導教員に提出する。また報告後、指導教員は各委員からの質問やコメントをまとめた報告書について各審査委員に確認を求め、その承認を得る。指導教員は、承認を得た報告書を指導学生にも見せ、中間報告でのコメントおよびこの報告書に基づき、引き続き学生の指導を行い、修士論文を完成させている(4-⑥-1)。 修士判定および学位論文の審査結果、学位授与に関しては、委員全員で作成する報告書に審査結果とともにまとめられ、この報告書は専攻会議および研究科委員会において、一件ずつ主査からの委員会内での報告が行われ、その審議による承認を経て、決定されている。審査の仕方や基準に関する規程は、本報告書の4.のA.の⑤に記したとおりである(4-⑥-2)。	学位論文審査についても、規程や取扱要領に従って実施されており、その結果、今年度中の修了予定者5名全員が修士論文の審査に合格し、修了した(4-⑥-2)。	特になし。	特になし。	特になし。	4-⑥-1「2018大学院学生便覧 p.64~65」 4-⑥-2「社会科学研究所 学位論文審査基準」 「修士論文の指導および審査委員会、中間報告会に関する取り扱い要項」 「修士論文の審査及び最終試験に関する取り扱い要項」 「2018年度第6・15回経済学専攻会議記録」 「2018年度第5・10回社会科学研究所委員会記録」
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのような方法で検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	ディプロマ・ポリシーが定める内容を示す成果として、修士論文を完成させている。開講科目や科目編成等は、経済学専攻のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを前提に毎年、専攻会議において協議され、研究科委員会において審議、承認されている(4-⑦-1)。また、指導教員の指導のもとで選択し、本専攻が履修要項に定める要件を満たすかたちで科目を修得し、そのうえでディプロマポリシーに合う修士論文を完成させたことをもって修了と認めることにより、整合を図っている。ただし、学生の視点に立った検証はおこなってこなかった。	学生による授業評価は概ね高い結果を得ている(4-⑦-2)。研究指導計画書および研究指導報告書は、すべての教員から滞りなく提出されている(4-⑦-3)。国際経済学の分野から1名、後期課程(マクロ経済学)に進学した(4-⑦-4)。過去、長期にわたり後期課程の学生がいなかった。これは教育課程および内容を充実させてきた結果であると考えている。	今後、さらに専攻科目等、教育内容の充実をはかる。 また、現状説明でもふれたように、学生の視点からのディプロマ・ポリシーの検証はおこなってこなかった。	特になし。	国際金融論、西洋経済史などの専攻科目が開かれていない。これら科目は学部においては開講されており、今後、教員の大学院における担当者への昇格によりこれらの科目が加わることで、教育課程をさらに充実させることが課題だが、学部教員の研究業績および教育業績の進展、また学部に着任後、間もない各教員の業績等を検討し、大学院教育に加わってもらい、その教育を充実させる。4-⑦-3「2018年度第2・6・11回社会科学研究所委員会記録」 4-⑦-4「2018年度第10回社会科学研究所委員会記録の合格者の決定」	

			学部・学科/研究科・専攻	経済学専攻	氏名	阪本 俊生					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料				
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	アドミッション・ポリシーにある通り「経済学を学んだ学生だけでなく、他学部出身の学生や、実務経験を有する社会人、外国人にも、広く入学の機会が開かれて」おり、一般入学試験とは別に、社会人入学審査、推薦入学審査、飛び級入学審査、国外在住者入学審査、国内在住外国人入学審査、他大学オープン推薦入学審査等、多様な入学選抜制度を実施している(5-②-1)。それにより毎年、南山大学経済学部生だけでなく、他学部学生、他大学出身学生、社会人、外国人留学生等、多様な学生を受け入れてきた。受験生の学部時の指導教員は口述試問担当から外れ、専門分野科目以外の出題者は毎年入れ替わる。入試問題は問題作成者とは別に、専攻主任、専攻内入学試験委員およびもう1名の専攻内委員からなる委員会で検討の上、出題する等、公正な入学選抜を実施。留学生受入れに関しては、国外在住者および別科推薦の入学試験の他、国内在住外国人の入学試験を実施し、これにより一定程度の国内在住外国人の留学生を受入れてきた(5-②-2)。また留学生の受入れ促進のため9月入学制度を導入している(5-②-3)。	2018年度も、前期課程の1年次と2年次にそれぞれ1名ずつ留学生が在学しており、そのうちの1名は後期課程に進学することになった。それ以外の院生7名のうち、4名は社会人であり、1名は他学部出身者と、多様な院生を受け入れてきている(5-②-2)。 2020年度入学試験要項の入学試験科目における専攻科目について、これまでの『詳細な専門分野のうちから専門分野1つを選択して受験する形式』から、『より大きな枠組み(すなわち、「理論・計量経済」、「経済史」、「経済政策」の3科目)のうちから、自らが専門に研究する領域の1科目を選択して受験する形式』へと変更した(5-②-3)。これにより入学試験問題が、属人的な性格のものから、より共通で一般的な学力を問う内容に変わり、入学選抜がより公正なものとなった。	特になし。	特になし。	特になし。	5-②-1「3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_sse/policy.html 「2019年度大学院入試要項」 5-②-2「入学者名簿」 5-②-3「2020年度大学院入試要項」		
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みを行っているか【2018年度学長方針】	前期、後期ともに定員が充足されているとは言いがたい。ただし、前期課程の場合、過去四年間の定員充足率は8割近く(約78%)であり、過去に定員を超えたこともあるため、収容定員はほぼ適正と考えている。後期課程に関しては、2018年度まで長期にわたり、学生が皆無の状態が続いてきたが、次年度1名の入学者を得る予定である(当該予定者は、実際、2019年度に入学した)。(5-③-1)	次年度、後期課程に1名の入学予定者を得られた(当該予定者は、実際、2019年度に入学した)。(5-③-1)。	前期課程の学生の専門分野は租税法に偏っている(学生の約81%が租税法を専攻している)。この分野の学生が多いことそれ自体はよいことであるが、この分野には後期課程がないこともあり、専攻全体にとっては、今後、より幅広く、他の分野の入学者も増えることが望ましい。 次年度、後期課程に入学予定の学生の専門分野の研究指導教員が、指導学生の在学期間である3年に満たず定年を迎えることになる。	A	B	現在の入学者が得られている背景には、学部生だけでなく社会人や留学生、他大学学生等、多様な学生を幅広く受け入れる入試制度を設けていることがある。引き続きこのやり方を維持していくとともに、地道な広報活動をおこなっていく。また、現在、大学院に所属していない経済学部教員の大学院教員に組み入れていくことにより、より専門分野の幅を広げる。	学部において、教員の研究活動の活性化がはかられている。われわれの研究を魅力あるものとして発信していく努力を通じて、研究科の魅力を高め、より幅広い分野で学生の受入れが可能な体制とする。また現在、大学院に所属していない経済学部教員の大学院教員に組み入れていくことにより、より専門分野の幅を広げていく。これらについては次年度から積極的に取り組んでいく。 次年度、後期課程に入学予定の学生の専門分野の研究指導教員を大学院教授にすることにより、当該学生が課程を修了するまで、責任をもって研究指導できる体制を整える。	5-③-1「2018年度入学定員数：大学院入試要項」「入学者名簿」

			学部・学科/研究科・専攻	経済学専攻	氏名	阪本 俊生			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にあり、取組が求められる [A] 良好な状態にあり、取組が求められる [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	アドミッション・ポリシー（5-④-1）にある入試種別等については、大学院入学試験運営委員会を通じて、毎年、確認され承認されている（5-④-2）。学内において開催される年2回の入試説明会においては、説明会参加者のアンケートにより、本学の制度についての評価や意見を聞いており、その結果は集計され、大学院入学試験委員会の報告事項となり、点検を受けている（5-④-3）。また経済学専攻の入試制度は、学内だけでなく、幅広く一般にも開かれたものであるため、社会人、学生、その他一般人向け講演会（イブニング・セミナー 年2回開催）のあとの入試説明会も実施しているが、これらにおいても毎回、独自のアンケートを実施し、一般の参加者からの意見や評価を聞いている。その結果は、事務室を通じて集計処理され、その都度、研究科委員会で報告し、意見を聞く機会をもっている（5-④-4）。受け入れの適切性については、専攻会議において入学試験の可否判定の際に協議され、また研究科委員会において確認されている（5-④-5）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	5-④-1「3つのポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_sse/policy.html 5-④-2「2018年度第3回大学院入学試験運営委員会」 5-④-3「2018年度第3回大学院入学試験運営委員会」 5-④-4「第29・30回『イブニング・セミナー経済@南山』社会人入試説明会での研究科説明会アンケート結果」、「2018年度第5・8回社会科学研究科委員会」 5-④-5「2018年度第5・16回経済学専攻会議」、「2018年度第4・10回社会科学研究科委員会」

			学部・学科/研究科・専攻	経済学専攻	氏名	阪本 俊生			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織 ② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができていないか。	前期課程については、研究指導担当者は11名、研究指導補助担当者は4名、講義担当者2名である。また後期課程については、研究指導教員は5名、研究指導補助教員は5名である(6-②-1)。前期課程においては、経済学の理論、国際、実証、歴史、経済社会学分野に研究指導教員または研究指導補助教員のいずれがいる。(6-②-2)また、本年度、大学院教員認定基準の内規を新たに定めた(6-②-3)。この内規は原案を専攻内の大学院後期課程の研究指導教員によって作成され、7月7日専攻会議、7月7日研究科委員会、7月9日大学院委員会大学院委員会の議を経て承認され、決定された。本年度以降、教員の昇格人事はこの内規に従って行っている(6-②-4)。原案については、過去の審査における外部機関による判定基準を参考にして作成した。	本年度定めた、大学院教員認定基準の内規にしたがい、前期課程において1名、研究指導補助から研究指導(国際経済学)に昇格することになり、前期課程の教育研究活動を展開できるようになった(6-②-4)。また、前期課程の講義担当者を学部教員から2名追加(財政学およびデータ解析)し、次年度の大学院の科目担当を充実させた(6-②-1)。	前期課程では、さらに幅広い分野の教員をメンバーに加えることが改善すべき点であると考えられる。後期課程の研究指導教員の数は文部科学省の設置基準を満たす最低限の教員数であり、さらに教員数を増やす方が望ましい。また、後期課程の学生の研究分野の研究指導教員が、指導学生の在学期間である3年に満たず定年を迎えることになる。	B	これに関しては、今年度から開始するとともに、今年度中に、開講科目や研究指導の専門分野を増やし、専攻の教員組織のさらなる充実をはかり、また、前期課程の経済学専攻の学生を増やすことを通じて、後期課程への進学者を増やすなど、後期課程の学生数をいまよりも確保しやすくする。	前期課程については、学部に着任後、間もない各教員の業績等を大学院教員認定基準の内規にしたがって検討し、大学院教育に変わってもらい、その教育を充実させる。後期課程については、学部教員の業績数を見つ、研究指導教員の増員をおこなっていく。後期課程の学生の研究分野の研究指導教員を大学院教授になってもらい学生の修了まで研究指導が可能であるようにする。	6-②-1「2018年度第1回社会科学研究所委員会」 6-②-2「2018年度シラバス」 https://portal.nanzan-u.ac.jp/syllabus/ 6-②-3「南山大学大学院社会科学研究所における研究指導教員の認定基準に係る内規」2018年9月1日施行 6-②-4「2018年度第8回社会科学研究所委員会」
	④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれにFD活動を実施する必要がある。)	また学部との共催により、12月5日に大学基準協会の工藤潤先生をお招きし「第3期認証評価の特質」というタイトルでFD研修が実施された(6-④-1)。例年通り、3月に研究科のFD委員会が開催された。今年度開設された社会科学研究所独自のウェブページの運用状況についての説明があった(6-④-2)。	研究科独自のウェブページが運用されている(6-④-3)。	現在のFD研修会は、学部と共催であり、専攻独自のものではない。	B	特になし。	今年度から、FD研修会を専攻として開催する。	6-④-1「FD研修会チラシ」2018年度第7回社会科学研究所委員会 6-④-2「2018年度社会科学研究所FD委員会」 6-④-3「社会科学研究所Webページ(2018年10月開設)」 http://depts.nanzan-u.ac.jp/grad/s/

			学部・学科/研究科・専攻	経済学専攻	氏名	阪本 俊生			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善が上っている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	今年度、教員の研究および教育能力を適正に点検し、評価するため、大学院教員認定基準の内規を新たに定めた(6-⑤-1)。この内規は原案を大学院後期課程の研究指導教員が作成し、7月7日専攻会議、7月7日研究科委員会、7月9日大学院委員会の議を経て承認され、決定された。この基準作成にあたっては、かつて研究指導担当教員の一部が、外部機関の判定により研究指導担当から外れざるを得なくなった過去の経緯の反省から、かつてのような審査の甘さを改め、より厳格にすべきという意見があり、それを踏まえて作成されていく。本年度以降、教員の昇格人事は、この内規に従って厳格に行っていく。	内規にしたがって、1名、研究指導補助教員から研究指導教員への昇格をおこなった(6-⑤-2)。	特になし。	A	次年度も、引き続き内規を厳格に運用しつつ、教育・研究活動の充実をはかる。	特になし。	6-⑤-1「南山大学大学院社会科学研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」2018年9月1日施行 6-⑤-2「2018年度第8回社会科学研究科委員会」

			学部・学科/研究科・専攻	経済学専攻	氏名	阪本 俊生		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。 3月末にガイダンスを実施。新入生を含む院生全員が参加している。研究科長より学修全般の説明の後、専攻主任より履修や研究室等、学生生活全般に必要な情報を伝達および説明7-②-1。院生研究室責任者、学生論集の責任者も決め、新入生と学生との交流もはかっている。ガイダンス後、各指導教員による個別の履修や登録の指導を行っている。 5月に懇談会および懇親会を実施。学位論文関連の日程確認、論文の評価方法、中間報告や最終審査の公開、学生論集の提出を促している。前年度の学生による授業評価結果を公表し、専攻側の対応を説明している。履修や学生生活上の問題を学生から聴き取り、可能な限り対応7-②-2。懇談会後の懇親会で学生と教員および学生相互の交流をはかっている。年度末には、修了記念パーティーを開催し、修了生の祝い、親睦をはかっている7-②-3。副指導体制において、指導教員および副指導教員は、いずれも計画書および報告書を作成7-②-4。副指導教員は就学上の問題以外にも学生生活上の相談にも対応する。院生研究室のプリンターやトナーは、専攻予算で補助、在庫がなくなり次第、研究科事務室を通じて補充している7-②-5。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	特になし。	[1]「効果が上がっている事項」について、さらに伸長させる方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。 [1]「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をクエリの場合はURLを必ず明示してください。
			5月の懇談会において、学生による授業評価アンケートをもとにしつつ、学生からの声を直接、専攻主任が聞くことを通じて、学生の就学上等の問題を解消するとともに不満を解消し、学習の活性化をもたらしている。また懇談会によって、学生と教員、学生同士のコミュニケーションおよび情報交換を行い、学生の学習の活性化につながっていると考えられる。具体的には、研究室のある建物の通路の照明が、夜間、院生が在室しているにもかかわらず、警備員によって消灯されてしまい、防犯上問題があるという院生からの指摘を受けて対応し、問題を解決した(7-②-6)。 2018年度修了予定の学生5名(うち1名は9月修了)は、全員、修士論文を提出し、修了した(7-②-7)。また、そのうち4名が学生論集(『南山論集』)にも論文を投稿し、掲載した(7-②-8)。	懇談会および懇親会への教員の側の参加者が少なく、減少傾向も見られる。また現役学生の懇親会への参加者も年度によって少ないことがあり、今年度は修了記念パーティーに1年次学生の参加者はいなかった。学生からは、院生の研究室が専攻の教員や授業がおこなわれる教室とは棟が異なる建物にあり、できれば他の専攻と同様、同じ建物にしてほしいという要望をうけている。経済学専攻の授業は、社会人が多いこともあり、夜間に開かれることが多く、また研究指導をうける上でも、研究室が別棟にあることの不便さ、また同じ社会科学研究科の他専攻の院生の研究室がいずれも教員研究室と同じ建物内にあることからくる不公平感がある。	B	懇談会や懇親会への積極的な参加を呼びかけ、専攻会議等でのアナウンスを通じてその意味や意義を伝えていく。院生の研究室の配置の変更については、大学院委員会を通じて大学側に申し出ているが、回答は得られておらず、困難であると思われる。	7-②-1「社会科学専攻経済学専攻ガイダンス資料」 7-②-2「2018年度社会科学専攻院生懇談会次第」 7-②-3「修了パーティーの案内(3月6日実施)」 7-②-4「複数指導体制に関する取扱要領」 「2018年度第2・6・11回社会科学専攻委員会記録」 7-②-5「伝票No.24184、No.24835」 7-②-6「10月4日～10月8日専攻主任と総務課とのメール」 7-②-7「2018年度第5・10回社会科学専攻委員会記録の修了判定」 7-②-8『南山論集第44号経済学・経営学編』	

学部・学科/研究科・専攻		経済学専攻		氏名		阪本 俊生		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
	⑨ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	懇談会、懇親会については、専攻会議において報告をおこなっている（7-③-1）。また、研究指導に関して、指導教員および副指導教員の双方から、年に2回、研究指導計画書および報告書の提出を求めている（7-③-2）。また学生支援の内容についても、年に2回の授業評価アンケートに授業以外の研究室や学生生活上の問題の項目も設けており、それらを通じて学生の声を聞いている（7-③-3）。また懇談会や懇親会および修了記念パーティー等でも、学生から直接、大学院の学生支援のあり方に関する意見を聞いている（7-③-4）。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	7-③-1 「2018年度第3回経済学専攻会議記録」 7-③-2 「2018年度第2・6・11回社会科学研究所委員会記録」 7-③-3 「2018年度第10回社会科学研究所委員会記録」 7-③-4 「2018年度社会科学研究所経済学専攻院生懇談会次第（5月12日実施）」 「修了パーティーの案内（3月6日実施）」

			学部・学科/研究科・専攻	経済学専攻	氏名	阪本 俊生				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸长させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。親規の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	専攻開催の一般向け講演会であるイブニング・セミナーを年に2回、7月と12月に開催している。社会人も参加しやすいよう、金曜日の18時30分から20時30分頃までの時間帯にし、講師は経済学部教員でローテーションし、各専門分野から一般的なテーマを選び、話題提供している。社会貢献の一環としておこなわれており、聴講料は無料である（9-②-1）。 イブニング・セミナーの講演の前に、経済学専攻の簡単な紹介、このセミナーの意義、経済学専攻の入学試験についての説明や、さまざまな変更に関するアナウンスもおこなっている。また、セミナーのアンケートと同時に連絡先を書いてもらい、セミナーに関する意見を聞くだけでなく、その後のセミナー等の広報にも役立てている（9-②-1）。	イブニング・セミナーには、毎回30名から50名程度の参加者があり、そのなかからは専攻の入学試験を検討する社会人や学生も出てきている。また、毎回、楽しみに来てくれる常連のような参加者もいる。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	9-②-1「第29・30回『イブニング・セミナー経済@南山』社会人入試説明会での研究科説明会チラシ」 9-②-1「第29・30回『イブニング・セミナー経済@南山』社会人入試説明会での研究科説明会アンケート結果」
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	アンケート結果から、セミナー参加者から、概ね高い評価を受けている。またアンケートには希望するテーマを書く欄もあり、参加者の関心対象を知ることができている。また大学院入試に関するアンケート結果では、大学院で学びたい、あるいはできれば学びたい、友人に勧めるといった回答も得ており、一定の効果が期待できる（9-③-1）。 また以前は、入学試験に関する説明を、講演のあとで開催していたが、参加教員からの意見により、今年から講演の前に開催するようにし、それによって全員が専攻のことをより知るようになった（9-③-2）。説明会を講演の前にもってきたことによる支障や不満の声はなかった。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	9-③-1「第29・30回『イブニング・セミナー経済@南山』社会人入試説明会での研究科説明会アンケート結果」 9-③-2「第29・30回『イブニング・セミナー経済@南山』社会人入試説明会での研究科説明会チラシ」

		学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻		氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	「南山大学大学院の目的に関する規程」において、経営学専攻博士前期課程、および経営学専攻博士後期課程について、人材育成その他教育研究上の目的を定めている。この目的は、大学の目的を踏まえ、専門分野に応じて具体的に定めたものであり、大学の目的と関連している。また、専攻の目的に沿って設定・公表されている3つのポリシーは、経営学専攻大学院生に毎年配布し、確認、周知および意見聴取を行なっている。	特になし。	内部質保証推進委員会からの指摘、提案について検討し、3つのポリシーの定期的な点検を充実させる。	A	特になし。	3つのポリシーの定期的な点検に関して、2019年度からは配布、意見聴取だけでなく、アンケート用紙（意見・質問記載用紙）の配布・回収を行うこととした。	南山大学大学院の目的に関する規程

			学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻	氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを公表している。博士前期課程では、カリキュラム・ポリシーは「ディプロマ・ポリシーに示す能力を養成するために・・・専門科目と研究指導からなる教育課程を編成します。」と記述しているように、ディプロマ・ポリシーと整合的に策定されている。	特になし。	博士後期課程はディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを公表し、カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーと整合的に策定されている。しかし、博士前期課程のようにカリキュラム・ポリシーが「ディプロマ・ポリシーに示す能力を養成するために・・・専門科目と研究指導からなる教育課程を編成します。」といった表記をしていないので、博士前期課程と表記が統一されていない状態にある。	A	特になし。	博士後期課程は2018年度をもって完成年次を迎えたので、2019年度以降、社会科学研究科全体で歩調を合わせながら、3つのポリシーを再検討する。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	社会科学研究科全体および経営学専攻のカリキュラム・ポリシーと整合するよう授業科目を開設、区分しており、また、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた授業科目を配置している。	博士前期課程では、教職課程の再課程認定にあわせて、2018年度および2019年度以降のカリキュラムおよび授業担当者の妥当性を検討した。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 留学プログラムは研究科・専攻として実施していない。 (2) 研究指導科目を配置し、学生による主体的な学習形態を充実させている。また、学位論文の中間報告も義務付け、その準備を含めた主体的な授業形態を取っている。 (4) 研究指導教員が研究指導計画を明示し、それに基づいて研究指導を実施する体制を整えている。	毎年4月末までに複数指導教員の連名による研究指導計画書を提出し、5月の研究科委員会で確認している。また、各学期（春、秋）ごとに、複数指導教員の連名による研究指導報告書によって研究指導の内容を報告し、研究科委員会で確認している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

			学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻	氏名	安田 忍	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	個々の授業について、成績の評価方法は各シラバスに明示されている。単位認定は、当該評価方法によって、各教員が責任をもって行っている。 学位授与については、履修要項の「論文の提出、審査と最終試験」の項目で、学位重要に必要に事項、手続等を明記し、専攻会議および研究科委員会で履行状況を適宜確認している。また、学則、学位規程に定める要件、手続に従って、学位を授与している。 学位審査委員会の主査は指導教員（主指導教員および副指導教員）以外の教員が努めることが定められ、審査の客観性を担保している。博士後期課程では、学位審査委員会に他大学院の外部審査委員を委嘱し、審査の客観性を担保することになっている。	これまで、学位論文審査基準は大学院学生便覧に全研究科、全専攻を一覧で開示していたが、博士後期課程の学位論文審査基準を履修要項の中にも記載するように改めるため、2018年度中に履修要項の改正を行い、2019年度からは履修要項にも記載するようになった。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	学習成果を把握する方法の1つとして、経営学専攻教員が担当するコースワークの授業については、各クォータごとに、すべての開講授業で、5段階評価式授業アンケートを実施している。また、研究指導その他専攻全体に対する意見、要望等については、春、秋学期ごとに自由記述のアンケートをとっている。これらの結果は専攻会議および研究科委員会で報告され、学習成果の把握、改善に役立てている。	自由記述式アンケートでは、研究指導における指導教員の指導に対して、高い評価を示す記述が多く見られる。	特になし。	特になし。	経営学専攻「授業アンケート」、「自由記述アンケート」
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	経営学専攻独自の取り組みとして、博士前期課程および博士後期課程それぞれにおいて、学位論文提出年次の前の年次に論文プロポーザル公聴会を実施し、学生の報告を義務づけている。これは学生の学位論文に対する取組の把握、進捗度合い、および、複数指導教員による研究指導の適切性を点検・評価する場として有効に機能している。 経営学専攻教員が担当する全授業科目に対する授業評価アンケートの結果は、教育内容、方法の適切性について定期的に点検・評価する手段となっている。アンケート結果は専攻会議、研究科委員会、研究科FD委員会で報告し、それぞれのメンバーが情報を共有することで、改善点の把握・検討を行っている。	特になし。	特になし。	特になし。	経営学専攻「授業アンケート」、「自由記述アンケート」

			学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻	氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	留学生や社会人などの受け入れを促進するため、博士前期課程では既に実施している全入試種別における9月入学制度について、2019年度入試からは博士後期課程の全入試種別にも9月入学制度を新たに加えて募集している。 2018年度の在籍者7名のうち、6名が外国人留学生であった。	留学生別科推薦入試に関連して、別科からの推薦を決定する段階で、専攻への推薦が妥当であるかを判断するために、別科での面談に立ち会うことがルール化された。また、2020年度入試からは、推薦候補生がいる場合には、事前に専攻の教員と面談することを指導してもらうよう、社会科学部から国際センターに要望した。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	2019年度入試要項 社会科学部研究科 委員会記録
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	志願者の増加を図るため、社会科学部研究科および3専攻(経済学、経営学、総合政策学)の各専攻)による独自のWebページ開設の準備を2017年度から始め、2018年度6月から公開することができた。 「税理士試験科目の免除を希望する方々へ」について、社会により分かりやすく周知されるよう、内容を変更した。 大学院入試説明会の案内を1年次から4年次のゼミ授業を通じて経営学部学生全員に配布し、参加を呼び掛けている。	大学院全体で年2回実施している大学院入試説明会において、2018年度は合計8名であり、2017年度より5名増加した。 2019年度4月入学入試の志願者は、博士前期課程では夏季入試1名、春季入試5名、博士後期課程では春季1名であり、博士前期課程の志願者が増えた。入試説明会参加者からの志願もあり、説明会に一定の効果が出ているといえる。 中部地区大学院商学・経営学研究科連絡協議会において他の大学院の入試状況、問題点、改善努力の方策等について意見交換を行っている。	A	特になし。	合格水準を充たす志願者をいかに増やすかという課題は、すぐに有効な方策が見いだせるものではないため、これから継続的に検討していく必要がある。		
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	4月入学者と9月入学者に適切に対応できるよう、履修要項を改正した。また、研究科自己点検評価委員会では、研究科として統一的に履修要項と実際の運用に問題が生じていないかチェックしている。 国外在住者入学審査は書類審査だけで可否を判断するため、アドミッション・ポリシーに合う能力を有し、合格水準を満たすかどうかを慎重に判断する必要があるため、専攻主任を含む3名以上の審査員によって審査することとしている。また、学力試験を課さず、書類審査と面接によって可否判定する社会人入学審査についても、書類内容に応じて、慎重を期す必要があると判断した場合、3名以上での審査を実施している。	博士後期課程では、完成年次である2018年度までアドミッション・ポリシーなど3つのポリシーを改正しないこととされていたため、2017年度時点で改正の対象外となっている。	A	特になし。	博士後期課程のアドミッション・ポリシーなど3つのポリシーについて、2019年度以降、改正を検討することについて研究科での合意が得られている。		

				学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻	氏名	安田 忍		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓出した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	ビジネス研究科ビジネス専攻が2017年度をもって廃止されたことに伴い、これまではビジネス専攻所属であったために社会科学研究科博士前期課程の研究科委員会委員でなかったが博士後期課程の委員であった教員や博士前期課程で授業を担当していた教員を、2018年度から社会科学研究科博士前期課程の研究科委員会委員として配置した。大学の方針に基づき、2018年度において「南山大学大学院社会科学研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」を策定し、承認手続きの各手順を踏んで承認された。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	社会科学研究科全体でのFD活動は、学生アンケートなどを資料として、研究科FD委員会を実施し、研究科全体や専攻ごとの問題点などを比較検討し、次年度に向けた改善点などを話し合っている。	経営学専攻では、各クォータごとに、すべての開講授業で、5段階評価式授業アンケートを実施している。また、研究指導その他専攻全体に対する意見、要望等については、春、秋学期ごとに自由記述のアンケートをとっている。これらの結果は書くクォータごとに専攻会議で報告、検討している。また、2つのクォータ分の結果を研究科委員会へは学期ごとに報告し、研究科委員会におけるFD委員会の検討資料としている。	しかし、これまで、講演会形式でのFD活動については、専攻ごとの開催としてきた。その際、経営学専攻の教員は経営学部所属教員が兼任しているため、経営学部と経営学専攻の形式で実施している。2019年度からは学部と研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。	B	特になし。	2019年度からは、学部とは別に、研究科独自にFD講演会などを実施することを検討する。
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	各年度初めの第一回専攻会議および研究科委員会における研究科委員会の構成委員および定足数を確認し、あわせて、専攻として大学院設置基準を満たしていることを確認している。	学生による授業評価アンケートの結果を各クォータごとに専攻会議で報告、検討するとともに、研究科委員会では学期ごとに報告し、3月には研究科委員会におけるFD委員会でも検討している。	2019年度からは、「南山大学大学院社会科学研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」に基づいて、博士前期課程、博士後期課程それぞれにおいて、研究指導教員、研究指導補助教員、授業担当教員の要件を満たす教員を確認し、カリキュラムポリシーによる授業編成と教員の必要性について考慮しつつ、人事を進めていかなければならない。	A	特になし。	教員の適切な配置を2019年度から検討し、人事を順次進めていく。

			学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻	氏名	安田 忍			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り残れが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り残れが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	学生の研究テーマに応じて適切な2名の指導教員を配し、複数指導体制を徹底している。大学の規定に沿って、博士前期課程および後期課程において1年修了の申請を認め、また、社会人学生には計画的に3年間で修了することを認めている。	大学院学則において認められている博士後期課程の1年修了を履修要件に明記するため、2019年度に向けて履修要件を修正した。 「博士後期課程学位取得支援に関する規程」に基づく授業料減免の申請があり、専攻会議および3研究科委員会で承認した。 2019年度4月入学生から入学手続時に1年修了願書が提出されたので、単位読み替え等1年修了見込みを検討し、専攻会議および3月の臨時研究科委員会で承認した。 授業開講曜日、時限に対する学生の要望を可能な範囲で学生と教員間で調整し、時間割の融通性を持たせている。	特になし。	特になし。	特になし。	大学院学則、社会科学研究科委員会記録
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	学生からの各種の支援の要請がある場合、基本的に指導教員が相談に乗って、適切な部署と連携しながら学生に助言している。	1年修了、「博士後期課程学位取得支援に関する規程」に基づく授業料減免については、申請に応じて専攻会議、研究科委員会で妥当性を検討し、学生の立場に立って可能な範囲で対応している。	学生の修学支援については要望がある都度、適切に対応しているが、定期的に検討しているわけではない。	特になし。	特になし。	現行の学期末「授業評価アンケート(自由記述式)」を活用するなど、学生支援の要望を定期的に抽出できる方法を検討する。

			学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻	氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	産学連携や学外の委員等の委嘱については経営学部所属教員の立場で行なわれており、2018年度において、経営学専攻としての社会連携・社会貢献に関する取り組みは実施されていない。 ビジネス研究科卒業生を外務講師として依頼し、授業等で活用する仕組みは、南山経営学会として整えている。	特になし。	左記のように、産学連携や学外の委員等の委嘱については経営学部所属教員の立場で行なわれており、2018年度において、経営学専攻としての社会連携・社会貢献に関する取り組みは実施されていない。	B	特になし。	経営学部としてだけでなく、経営学専攻または社会科学研究科としての社会連携・社会貢献に関する取り組みが可能かどうか、今後、専攻または研究科において検討していきたい。	
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	これまで専攻として社会連携等を行なっていないため、定期的な点検・評価を行っていない。	特になし。	まずは、社会連携等の取り組みについて検討していくことから始める必要がある。	B	特になし。	社会連携等の取り組みの適切性に関する検証方法は、他の研究科の方法を参考にして、今後検討していく。	

		学部・学科/研究科・専攻	総合政策学専攻		氏名	David Potter		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改革方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	2018年度では、後期課程はまだ完成年度をむかえていないため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの改正検討を行わない。 博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付ける人材を育成するために研究科の共通科目および専攻科目、研究指導からなる教育に基づいたカリキュラム・ポリシーを設置しているため、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合している。	2018年度末、博士後期課程の完成年度を迎えたため、専攻の教育方針の再検討を2019年度に行うことにした。	S	2019年度には、博士後期課程のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの改正検討を行う。	博士前期課程の3つのポリシー授業評価研究指導計画書及び報告書一覧自己点検評価委員会次第FD委員会次第
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1)カリキュラム・ポリシーで示した教育課程を具現化する科目群を適切に配置し、配当年次に従って科目を編成しているから整合している。 (3)前期課程は、研究科選択必修共通科目、研究科選択共通科目、専攻科目等により、後期課程は学際共通科目、専攻科目によりコースワークの充実を図っている。また、研究指導科目を前期課程では8単位、後期課程では12単位分配置し、リサーチワークについても十分な内容になるよう配置している。	なし 現在開設している授業科目は、カリキュラムポリシーと整合しているが、より充実した教育内容とするための科目群の確認をする必要がある。特に、後期課程においては、完成年度を迎え3つのポリシーの改正が必要なことから、3年間の評価を行い科目の適切性を議論し、より充実した科目内容とする必要がある。	A	2019年度には、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの一部改正検討を専攻会議および研究科委員会で行う。	2019年度大学院生便覧
		④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)留學プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3)学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4)研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5)専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1)、(2)、(4)なし				

		学部・学科/研究科・専攻	総合政策学専攻		氏名	David Potter		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保するために、指導・副指導教員制度、公開口述試験、及び専攻の論文構成基準を実施している。	なし		なし		
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例え、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	授業による学習成果は、各科目の試験、レポート等でその成果を評価している。また、最終的な学習成果の測定として、最終試験ならびに論文審査を通じて学習成果を把握している。さらに、大学院では専門的知識に基づく分析能力等を客観的に見るものとして、紀要、学会誌等の論文が公刊されているかについての成果の測定を行っている。	2018年度には、修士5名、博士1名の学位を授与した。博士1名は専攻並びに研究科初である。また、専攻の起用「南山総合政策学」第10号では学生3名、研究員1名が投稿、記載された。	S	なし		各科目のシラバス、学位論文提出する資格審査委員会報告書
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	専攻主任・専攻教務員研究科長同士ポリシーの検証体制を整える下で各年度検証する。	完成年度を迎えたため、後期課程の3つのポリシーと科目構成を再検討する必要がある。	A	(1)2019年度には専攻後期課程の3つのポリシーの改正とともに専攻会議で科目構成の再検討を行う予定である。	3つのポリシー授業評価研究指導計画書及び報告書一覧自己点検評価委員会次第FD委員会次第専攻会議議事録	

			学部・学科/研究科・専攻	総合政策学専攻	氏名	David Potter		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準5	学生の受け入れ ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受け入れを促進するための制度改革をしているか 【2018年度学長方針】	2018年度前期課程入試では留学生5名を受け入れた。	2018年度では、11名の留学生在学していた。	留学生の受け入れを維持するための方策を検討する必要がある。	A	2019年度入試では留学先の受け入れは2名(前期課程)で留まったため、留学学生の進学ガイダンスを強化する方法を考えなければならない。	入試要項
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	2018年度には、大学院入試説明会(5月・12月)を行った。さらに、研究科と一緒に3専攻のHPのリニューアルを行い、その一環として各教員の研究を説明するコラムを設置した。	2019年度の出願者は後期課程が4名、前年度0名から大幅に増加した。	2019年度の出願者は前期課程が3名で、前年度に比べて減少した。	B	2019年度には、進学者を増やす方法を検討しなければならない。	大学院入試説明会参加者一覧、研究科HP
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	なし					

			学部・学科/研究科・専攻	総合政策学専攻	氏名	David Potter		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織 ② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	1) 2018年度に専攻の「研究指導教員の認定基準に係る内規」を定めた。	研究指導教員・研究指導補助教員の基準を明らかにした。	A	なし	1) 同内規下で2019年度に前期課程および後期課程の昇格人事を行う必要がある。2) 2018年度末専攻の教員2名の定年退職のため、2019年度には、1)を含めて人事計画を一部改正しなければならない。	研究指導教員の認定基準
	④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	毎年FD活動は学部共催FD研修を行うことによって、学部と専攻のキャリア・研究の連携を維持している。	2018年度3月に行った研究科FD懇談会では、専攻の3名が参加した。2018年度では、専攻教員全員はFD研修に参加した。	A	2019年度には、通常のFD企画のほかに「研究指導教員の認定基準に係る内規」について専攻の教員に意識を定着しなければならない。	2018年11月28日 学部・専攻共催FD企画FD懇談会 次第FD委員会 次第	
	⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	なし					

		学部・学科/研究科・専攻	総合政策学専攻	氏名	David Potter		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。 毎年3月末にガイダンスを実施し、新入生を含む院生全員が参加している。研究科長から研究科の目的方針、特徴、学修全般について説明の後、専攻ごとに学修、学生生活などの指導を行っている。 また、社会人学生が授業に出席できるように夜間等時間割の配慮を行い、研究指導については、通常授業以外に、中間報告、各種セミナーを通じてフォローしている。更に、指導教員、副指導教員からなる副指導体制により、学修、学生生活での支援を充実させている。 多様な背景を持つ学生の修学期間について、1年修了、前期課程における計画的な長期修了を認めている。	専攻の授業評価の自由意見では学生の教員による教育・研究指導に対する満足がみられる。	なし	なし	ガイダンス実施スケジュール、研究指導の時間割、中間報告等の規定、学生による授業評価
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	授業評価、大学院生と教員が参加する懇談会、修了パーティで意見を聴取している。また、研究指導において指導教員と副指導教員の副指導体制により、様々な声が聴けるようにしている。これらの意見等は、FD委員会で共有し、学生支援の適切性について確認している。	なし	なし	学生による授業評価、FD委員会次第

学部・学科/研究科・専攻			総合政策学専攻			氏名	David Potter	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	総合政策学部との共催で各種講演会を開催している。2018年度は、総合政策学専攻との共催で「ドイツの気候変動政策」の公開講演を実施した。	学内外の参加者は75名位、質疑の時間と終了後講師とのディスカッションの様子をみて、好評であったと確認した。	A	なし	講演会共催の報告資料
	社会連携・社会貢献	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組みを行っているか。	(1) その取組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	講演会は研究科委員会と学部教授会で報告し、意見を聴取している。	と確認した。	B	なし	学部教授会、研究会委員会次第

		学部・学科/研究科・専攻	ビジネス研究科		氏名	奥田 隆明			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	「経営学専攻博士後期課程は、本学の教育モットーである「人間の尊厳のために」を体現し、かつ、経営倫理、研究倫理ならびに社会的責任を全うすることのできる研究者として研究活動をスタートさせた人物を、さらに経営学の専門分野に関する各自の研究を深化・精緻化させることによって、研究活動を自立的に行い得る研究者に養成し、このような研究者を世に送り出すことを社会的使命とする。」ことを目的に定めている。この目的は、大学の目的を踏まえ、専門分野に応じて具体的に定めたものであり、大学の目的と関連している。なお、本研究科経営学専攻は、社会科学研究科の新設に伴って募集を停止しており、博士前期課程は廃止されている。また、博士後期課程は2015年度入学者1名が在籍しており、健康上の理由で、2016年度秋学期から2018年度中は休学しているが、当該学生の修了をもって廃止されるため、目的の見直しは行っていない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	「大学院の目的に関する規程」第5条

		学部・学科/研究科・専攻	ビジネス研究科		氏名	奥田 隆明				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを公表している。カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーと整合的に策定されている。 既に募集停止し、在籍者1名の修了をもって廃止するため、見直しを行うことはできない。 こうした現状については研究科委員会で確認している。(4-②-1)	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-②-1第1回ビジネス研究科委員会記録(2017年度ビジネス研究科自己点検・評価報告書)
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	授業科目はカリキュラム・ポリシーと整合しており、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた授業科目が配置されている。 既に募集停止し、在籍者1名は、研究指導科目の単位修得を残すのみなので、授業科目の見直しができない。 2018年度は在籍者が休学であるため、授業は開講されていない。 こうした現状については研究科委員会で確認している(4-②-1)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-②-1第1回ビジネス研究科委員会記録(2017年度ビジネス研究科自己点検・評価報告書)
		④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 留学プログラムは研究科として実施していない。 (2) 研究指導科目を配置し、学生による主体的な学習形態を充実させている。また、学位論文の中間報告も義務付け、その準備を含めた主体的な授業形態を取っている。 (4) 研究指導教員が研究指導計画を明示し、それに基づいて研究指導を実施する体制を整えている。 ただし、在籍者1名が休学中のため、2018年度は実施していない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

学部・学科/研究科・専攻		ビジネス研究科		氏名	奥田 隆明				
評価基準	点検・評価項目	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
		<p>南山大学の「評価の視点」</p> <p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>		
	⑥ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置</p>	<p>(1) 研究科委員会で修了判定時に論文と最終試験の評価結果を示し、客観性の高い成績評価を行っている。 (2) 学位授与については「南山大学大学院学則」（4-⑤-1）および「南山大学学位規程」（4-⑤-2）に定める要件及び手続に従い、社会科学部研究科委員会、大学院委員会による審議を経て、学長が決定している。 (3) 学生便覧（4-⑤-3）において学位論文審査基準を掲載している。後期課程については、学位請求論文の提出要件、学位論文審査基準を明示している。また、「博士論文提出資格審査」を実施し、学位審査の客観性、厳格性を担保している。学位請求論文を定められた審査基準に照らし、主査、複数の副査による最終試験と評価を行っている。また、最終的な修了判定を専攻会議で審議した後、研究科委員会で修了者の認定について審議している。 ただし、在籍者1名が休学中のため、2018年度は実施していない。</p>	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑤-1「南山大学大学院学則」 http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1020.pdf 4-⑤-2「南山大学学位規程」 http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf 4-⑤-3「学生便覧」
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)</p>	<p>在籍者1名が休学中のため、2018年度は特に実施していない。</p>	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>在籍者1名の修了をもって博士後期課程は廃止されるため、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの改正は予定していない。</p>	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

学部・学科/研究科・専攻			ビジネス研究科			氏名	奥田 隆明			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	学生募集は行なっていない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	学生募集は行なっていない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	学生募集は行なっていない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

学部・学科/研究科・専攻		ビジネス研究科		氏名		奥田 隆明				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	社会科学研究科経営学専攻博士前期課程、博士後期課程の設置に伴い、ビジネス研究科博士前期課程は廃止されており、博士後期課程も2016年度の募集を停止している。現在、2015年度入学者1名が在籍しているが、2016年度秋学期より2018年度末まで休学中であることもあり、2018年度は教員組織の編成についての見直し、変更は行っていない。	特になし。	在籍者1名の在籍期間が延びた場合、その間の教員の退職等により、設置基準を満たさなくなることが無いよう、確認する必要がある。	A	特になし。	2021年度までは問題がないと予想されるが、研究科委員会として退職等に合わせて対応を準備しておく。	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	経営学専攻の教員は経営学部所属教員が兼任しているため、2018年度までは、FD活動は経営学部と経営学専攻共催の形式で実施してきた。	特になし。	経営学専攻の教員は経営学部所属教員が兼任しているため、これまで、FD活動は経営学部と経営学専攻共催の形式で実施してきたが、2019年度からは学部と研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。	B	特になし。	2019年度からは、社会科学研究科経営学専攻と一緒にFD活動を実施していく予定である。	
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員の退職等により、設置基準を満たさなくなることが無いよう、確認している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	ビジネス研究科		氏名	奥田 隆明		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	2015年度入学の在籍者が健康上の理由で休学中であるが、メール連絡により状況を把握し、2019年度から復学の場合について、今後の研究指導体制や修了に向けたスケジュールについて、専攻主任と指導教員との間で確認している。	特になし。	A	特になし。	特になし。
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	2018年度は在籍者1名が休学のため、特に点検を行っていない。	特になし。	A	特になし。	特になし。

学部・学科/研究科・専攻			ビジネス研究科			氏名	奥田 隆明		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	ビジネス専攻（旧）では同窓会担当教員を配置し、今年度も同窓会を開催した。経営学専攻は2018年度、特に活動を行わなかったが、修了生が勤務校のサバティカル研修の受け入れ機関として本学を希望しているとの情報も得ている。	特になし。	特になし。	特になし。	経営学専攻では社会科学研究科経営学専攻と一緒に取り組んで行くことを考えている。	
		④ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	ビジネス専攻（旧）では同窓会幹事とも意見交換を行いながら、同窓会活動の改善にも取り組んでいる。経営学専攻では社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っていない。	特になし。	特になし。	特になし。	経営学専攻では社会科学研究科経営学専攻と一緒に取り組んで行くことを考えている。	

		学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻		氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は、具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	ビジネス研究科経営学専攻博士後期課程では、「経営学専攻博士後期課程は、本学の教育モットーである「人間の尊厳のために」を体現し、かつ、経営倫理、研究倫理ならびに社会的責任を全うすることのできる研究者として研究活動をスタートさせた人物を、さらに経営学の専門分野に関する各自の研究を深化・精緻化させることによって、研究活動を自立的に行い得る研究者に養成し、このような研究者を世に送り出すことを社会的使命とする。」ことを目的に定めている。この目的は、大学の目的を踏まえ、専門分野に応じて具体的に定めたものであり、大学の目的と関連している。なお、本研究科経営学専攻は、社会科学研究科の新設に伴って募集を停止しており、博士前期課程は廃止されている。また、博士後期課程は2015年度入学者1名が在籍しており、健康上の理由で、2016年度秋学期から2018年度中は休学しているが、当該学生の修了をもって廃止されるため、目的の見直しは行っていない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	「大学院の目的に関する規程」第5条

			学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻	氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを公表している。カリキュラム・ポリシーはディプロマ・ポリシーと整合的に策定されている。在籍者1名の修了をもって廃止するため、見直しは行っていない。こうした現状については研究科委員会で確認している。(4-②-1)	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-②-1第1回ビジネス研究科委員会記録(2017年度ビジネス研究科自己点検・評価報告書)
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	授業科目はカリキュラム・ポリシーと整合しており、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた授業科目が配置されている。ただし、在籍者1名は、研究指導科目の単位修得を残すのみなので、授業科目の見直しは行っていない。また、2018年度は在籍者が休学であるため、授業は開講されていない。こうした現状については研究科委員会で確認している(4-②-1)。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-②-1第1回ビジネス研究科委員会記録(2017年度ビジネス研究科自己点検・評価報告書)
		④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 留学プログラムは研究科・専攻として実施していない。 (2) 研究指導科目を配置し、学生による主体的な学習形態を充実させている。また、学位論文の中間報告も義務付け、その準備を含めた主体的な授業形態を取っている。 (4) 研究指導教員が研究指導計画を明示し、それに基づいて研究指導を実施する体制を整えている。ただし、在籍者1名が休学中のため、2018年度は実施していない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻		氏名	安田 忍		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1)研究科委員会で修了判定時に論文と最終試験の評価結果を示し、客観性の高い成績評価を行っている。 (2)学位授与については「南山大学大学院学則」(4-⑤-1)および「南山大学学位規程」(4-⑤-2)に定める要件及び手続に従い、社会科学研究所委員会、大学院委員会による審議を経て、学長が決定している。 (3)学生便覧(4-⑤-3)において学位論文審査基準を掲載している。後期課程については、学位請求論文の提出要件、学位論文審査基準を明示している。また、「博士論文提出資格審査」を実施し、学位審査の客観性、厳格性を担保している。学位請求論文を定められた審査基準に照らし、主査、複数の副査による最終試験と評価を行っている。また、最終的な修了判定を専攻会議で審議した後、研究科委員会で修了者の認定について審議している。 ただし、在籍者1名が休学中のため、2018年度は実施していない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑤-1「南山大学大学院学則」 http://www.nanzan-u.ac.jp/menu/kokai/pdf/d1020.pdf 4-⑤-2「南山大学学位規程」 http://www.nanzan-u.ac.jp/menu/kokai/pdf/d4340.pdf 4-⑤-3「学生便覧」
⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	在籍者1名が休学中のため、2018年度は特に実施していない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的な点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	在籍者1名の修了をもって博士後期課程は廃止されるため、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの改正は予定していない。DPとCPの検証を実施していない。学位論文作成のための研究指導科目のみであるため、CPと授業科目が整合していることは検証していない。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

			学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻		氏名	安田 忍		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受け入れを促進するための制度改革をしているか。【2018年度学長方針】	学生募集は行っていない。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。【2018年度学長方針】	学生募集は行っていない。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	学生募集は行っていない。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	

		学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻		氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	社会科学研究科経営学専攻博士前期課程、博士後期課程の設置に伴い、ビジネス研究科博士前期課程は廃止されており、博士後期課程も2016年度の募集を停止している。現在、2015年度入学者1名が在籍しているが、2016年度秋学期より2018年度末まで休学中であることもあり、2018年度は教員組織の編成についての見直し、変更は行っていない。	特になし。	在籍者1名の在籍期間が延びた場合、その間の教員の退職等により、設置基準を満たさなくなることが無いよう、確認する必要がある。	A	特になし。	2021年度までは問題がないと予想されるが、研究科委員会として退職等に合わせた対応を準備しておく。	
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	経営学専攻の教員は経営学部所属教員が兼任しているため、2018年度までは、FD活動は経営学部と経営学専攻共催の形式で実施してきた。	特になし。	経営学専攻の教員は経営学部所属教員が兼任しているため、これまで、FD活動は経営学部と経営学専攻共催の形式で実施してきたが、2019年度からは学部と研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。	B	特になし。	2019年度からは、学部とは別に、研究科独自にFD活動を実施する。	
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員の退職等により、設置基準を満たさなくなることが無いよう、確認している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	

			学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻	氏名	安田 忍			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	2015年度入学の在籍者が健康上の理由で休学中であるが、メール連絡により状況を把握し、2019年度から復学の場合について、今後の研究指導体制や修了に向けたスケジュールについて、専攻主任と指導教員との間で確認している。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	A
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	2018年度は在籍者1名が休学のため、特に点検を行っていない。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	A

			学部・学科/研究科・専攻	経営学専攻	氏名	安田 忍				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	ビジネス研究科経営学専攻としての社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業は、2018年度は行っていません。卒業生との交流では、卒業生が勤務校のサバティカル研修の受け入れ機関として本学を希望している。	特になし。	社会連携・社会貢献の取組を実施する必要がある。	B	特になし。	学長方針をもとに、ビジネス研究科ではなく社会科学研究科としての取り組み事項として検討していく。	
		④ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っている。	特になし。	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行う必要がある。	B	特になし。	ビジネス研究科ではなく社会科学研究科としての取り組み事項として検討していく。	

		学部・学科/研究科・専攻	法務専攻	氏名	神原 秀訓					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	法務研究科は、「人間の尊厳を基本とした倫理観を身に付け、社会に貢献できる法曹の養成」を目的としており（1-①-1）、この目的は、大学の教育理念と連関している。この目的については、法科大学院 Web ページ（1-①-2）において周知するとともに、学生に対しては、入学時の新入生ガイダンス（1-①-3）の中で、法務研究科（法科大学院）の理念・目的を説明し、教員に対しても、年度最初の研究科委員会で、法務研究科（法科大学院）設置の趣旨の抜粋を配布し、理念・目的の説明を確認に共有している（1-①-4）。	年度が替わる時期に、理念・目的の検証について、「理念・目的及び教育目標検証会」を行い、前年度の検証を行うとともに、次年度の課題を確認し、研究科委員会において、報告し、教員で成果を共有している（1-①-5）。	特になし。	A	特になし。	特になし。	<p>1-①-1「南山大学大学院法務研究科（法科大学院）の設置の趣旨および目的」（2）設置の目的 1-①-2「法科大学院Webページ depts.nanzan-u.ac.jp/grad/1s/about/index.htm 1-①-3「新入生履修ガイダンス（2019年度）」 1-①-4「2019年度第2回法務研究科委員会議事録」 1-①-5「2018年度理念・目的及び教育目標検証会 議題」</p>

			学部・学科/研究科・専攻	法務専攻	氏名	榎原 秀剛			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準4	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	「人間の尊厳を基本とした倫理観を身につけ、社会に貢献できる法曹の養成」のため、これにふさわしい能力・資質を得た学生に学位授与ができるよう、「法律基本科目」、「実務基礎科目」、「人間の尊厳科目」、「展開・先端科目」の4つの科目群を配置している。ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性については、「2018年度南山大学法科大学院認証評価」において、「学位授与方針を踏まえた教育課程の編成・実施方針を策定し、それに基づいて、適切な授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している」旨の評価を受けている（4-②-1、4-②-2、4-②-3）。	「法律基本科目」、「実務基礎科目」、「人間の尊厳科目」、「展開・先端科目」の各科目群を配置したカリキュラム編成がされている（4-②-4）。	特になし。	A	各科目群は適切に置かれているが、各科目群の下に配置している授業科目について、配当年次のバランスがこれで良いか、検討の余地がある。そこで、科目の配当年次の現状を検証し、必要に応じた見直しを行うことが望ましいと考えられるため、2019年度に、専攻主任と教務担当を中心に、その検討に着手する。	特になし。	4-②-1「法務研究科法務専攻ディプロマ・ポリシー」 4-②-2「法務研究科法務専攻カリキュラム・ポリシー」 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/p_nl/policy.html 4-②-3「2018年度南山大学大学院法務研究科法務専攻に対する認証評価結果」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/ninsho/pdf/2018hoka_ninsho.pdf 4-②-4「南山大学大学院法務研究科履修の手引き」別表①・②カリキュラム表
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	上記②で述べたように、カリキュラム・ポリシーに整合する形で4つの科目群を配置しており、この点については、「2018年度南山大学法科大学院認証評価」において、「学位授与方針を踏まえた教育課程の編成・実施方針を策定し、それに基づいて、適切な授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している」旨の評価を受けている（4-③-1）。加えて、法学未修者1・2年次と法学既修者1年次には法学の理論的学修を中心に行い、その後、段階的に実務教育を学んでいくカリキュラム編成となっており、専門職大学院としての理論教育と実務教育のバランスがとれている（4-③-1、4-③-2）。	全体として、専門職大学院としての理論教育と実務教育のバランスがとれている（4-③-1、4-③-2）。	「実務基礎科目」について認証評価で2点の課題が指摘されており、検討が必要である。具体的には、民事系科目（「民事法演習」「民事実務演習」「民事実務総合研究」「民事法研究」）および刑事系科目（「刑事実務演習」「刑事実務総合研究」）について、各科目の内容と履修の相互関係の分りにくさ、「紛争解決（ロイヤリング）」の一環である学生の法律相談への参加が2018年度から停止しており実務的技術や責任感の修得機会が減少している点である（4-③-2）。また、「刑事実務演習」について、2018、2019年度と連続して非常勤講師の確保が困難な状況が続いている点も課題である。このほか、未修者教育充実のために開設した「基礎研究」「法情報調査」「リーガルライティング」についてその教育内容・効果を点検・検証する必要がある。不開講が続く「医療と法」の扱いについて、前年度に引き続き検討が必要である。	B	研究者教員と実務家教員の相互間で2点の課題が指摘されており、検討が必要である。具体的には、民事系科目（「民事法演習」「民事実務演習」「民事実務総合研究」「民事法研究」）および刑事系科目（「刑事実務演習」「刑事実務総合研究」）について、各科目の内容と履修の相互関係の分りにくさ、「紛争解決（ロイヤリング）」の一環である学生の法律相談への参加が2018年度から停止しており実務的技術や責任感の修得機会が減少している点である（4-③-2）。また、「刑事実務演習」について、2018、2019年度と連続して非常勤講師の確保が困難な状況が続いている点も課題である。このほか、未修者教育充実のために開設した「基礎研究」「法情報調査」「リーガルライティング」についてその教育内容・効果を点検・検証する必要がある。不開講が続く「医療と法」の扱いについて、前年度に引き続き検討が必要である。	「実務基礎科目」については、すでに「2018年度 理念・目的及び教育目標検証会」において課題の確認がされていることから、2019年度中に、専攻主任と教務担当を中心に各課題への対応策の検討に着手し、原案ができたものから研究科委員会において審議し、現状の見直しに向けた対応を進める。また、「基礎研究」「法情報調査」「リーガルライティング」の教育内容・効果の点検・検証については、まずはFDとして取り組むことが望ましい。「医療と法」については、専攻主任と教務担当を中心に、新たな科目担当者を検討する等、2020年度の開講に向けて努力する。	4-③-1「南山大学大学院法務研究科法務専攻に対する認証評価結果」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/ninsho/pdf/2018hoka_ninsho.pdf 4-③-2「南山大学大学院法務研究科履修の手引き（2018年度以降入学者）」別表①・②カリキュラム表

			学部・学科/研究科・専攻	法務専攻	氏名	榊原 秀剛			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	実務的能力の向上を目指した教育として、「実務基礎科目」のうち必修としている7科目14単位（「民事法研究」、「民事法演習」、「民事実務総合研究」、「民事実務演習」、「刑事実務総合研究」、「刑事実務演習」、「法曹倫理」）のほか、選択科目として、法学未修者2年次と既修1年次を対象とした「法務エクスターンシップ」、ロールプレイング形式で学ぶ「模擬裁判」を開講しており、より一層の実務的能力の向上ができるカリキュラムとなっている（4-④-1、4-④-2）。	2018年度は在学生数が少ないために履修登録者0名科目（不開講科目）が比較的多数生じる傾向があったが、「法務エクスターンシップ」と「模擬裁判」については、いずれも履修者があり、学生の実務的能力向上の機会を提供できている（4-④-3）。	上記③においても述べたように、認証評価において、「実務基礎科目」の各科目について、科目の内容と履修の相互関係が分かりにくく、科目の名称も含めた検討の必要性が指摘されていることか鑑み、各年次の配当科目のバランスの点検と、必要に応じた見直しが必要である（4-④-4）。	B	秋学期に定例で開催している「在学生ガイダンス」において、適切な履修指導を行い、学生の履修を促す。	検討が求められている「実務基礎科目」について、科目担当者、専攻主任および教務担当が中心となって、まずは民事法系の科目の点検に着手し、見直しの案がまとまり次第、研究科委員会の議を経て、2020年度からの実施を目指す。	4-④-1「南山大学大学院法務研究科履修の手引き」別表①・②カリキュラム表 4-④-2「南山大学法務研究科 Learning Syllabus 2019」 4-④-3「2018年度『履修登録者0名科目』一覧」 4-④-4「南山大学大学院法務研究科法務専攻に対する認証評価結果」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/ninsho/pdf/2018hoka_ninsho.pdf

		学部・学科/研究科・専攻	法務専攻		氏名	榊原 秀剛		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	法務研究科においては、「定期試験・中間テスト等の採点評価に関する確認事項」を定めており、各教員はこれに従い成績評価を行っている（4-⑤-1）。また、各学期の成績登録締切前に「成績意見交換会」を開催し、各学期の開講科目担当教員がこれに出席し、全ての科目について厳格な成績評価がされているか検討し、適正確保も図っている（4-⑤-2）。さらに、必修の法律基本科目の修得単位数とGPAの双方が一定の値を満たさなければ進級・修了させないしくみを採用していることから、修了認定の客観性と厳格性も担保されている（4-⑤-3）。	このところ、在学人数が少ない現状があることから、少人数クラスの場合の成績評価の厳格化をいかに確保するかが課題となってきた。これに対応するため、2018年度の「定期試験・中間テスト等の採点評価に関する確認事項」において、新たに「履修者が少数の科目については、学生のレベルによって平均点が大幅に高くなったり低くなったりする場合があるなど、この確認事項に従うことが適当でない事態が生じる可能性がある。このような場合には、成績意見交換会で了承を得る」旨を明記し、対処することとした（4-⑤-1）。	これは、本研究科に内在した課題ではないが、これまで全国的に試行的に実施されてきた「共通到達度確認試験」が2019年度より本格実施されることになり、これに伴い、同試験の結果を各法科大学院の進級判定に用いることが求められる。このため、その具体的な用い方を検討し、方針決定しなければならない。また、学生への答案返却と定期試験等の解説配付を行い、成績評価・単位認定・課程修了認定の客観的かつ厳格な実施を確保しているが、これについて認証評価において、返却される答案への採点内容の記述や公表された採点基準が不十分な科目が見られるとの指摘を受けている（4-⑤-4）。	B	少人数クラスにおける成績評価の厳格化をいかに確保するか、また、これに関連して、少人数クラスにおける授業運営の適切なあり方をどうするかという課題があるが、これは直ちに具体的対策を講じる必要がある状況ではないものの、専攻主任とFD委員会幹事が中心となって、FDの機会をとらえて教員間の意見交換を進め、より一層の望ましい状態の実現を目指す等、教育の質向上に向けた一層の取組みを行うことが有益である。	本研究科の進級判定において「共通到達度確認試験」の結果をどのように用いるかについて、専攻主任と教務担当が中心となって2019年度の早々に原案を検討し、研究科委員会の議を経て具体的方針を決定する。検討にあたっては、「共通到達度確認試験」の具体的な実施スケジュールを早急に情報収集し、他大学の対応状況も適宜見据えつつ対応することが望ましい。また、学生への早期の周知が不可欠であることに鑑み、2019年秋学期履修ガイダンスにおいて学生へ周知することを目指し、迅速に検討を開始する。また、認証評価で指摘を受けた、返却される答案への採点内容の記述や公表する採点基準の明確化に関する指摘については、研究科委員会において周知し、一層の徹底を図る。	4-⑤-1「定期試験・中間テスト等の採点評価に関する各自認事項2018」 4-⑤-2「研究科委員会記録」における「成績意見交換会について（報告事項）」 4-⑤-3「南山大学大学院法務研究科履修の手引き（2018年度における「成績意見交換会について（報告事項）」）」 4-⑤-4「南山大学大学院法務研究科法務専攻に対する認証評価結果」 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/ninsho/pdf/2018hoka_ninsho.pdf

		学部・学科/研究科・専攻	法務専攻		氏名	榊原 秀嗣			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	上記⑤で記したように、法務研究科においては、必修の法律基本科目の修得単位数とGPAの双方が一定の値を満たさなければ修了できないしくみ（修了要件）を定めており、修了認定の客観性と厳格性が担保されており、学位授与方針に明示した学習成果の測定がなされている（4-⑥-1）。	定められた修了要件に基づき、判定している（4-⑥-1）。	特になし。	A	ひき続き、修了要件に基づく客観的かつ厳格な評価を行う。	特になし。	4-⑥-1「南山大学大学院法務研究科履修の手引き（2018年度以降入学者）」VI修了要件（『2018年度大学院学生便覧』所収）
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	「理念・目的及び教育目標検証会」を各年度末ないしは翌年度初めに開催することが定例となっており、教育課程の内容・方法の適切性についての定期的な点検・評価を行う体制が整っている。	「2018年度 理念・目的及び教育目標検証会」を開催し、教育課程の内容・方法の現状について検証し、研究科長、専攻主任、FD委員会幹事、自己点検評価委員会幹事、教務担当、アドバイザー担当、就職支援担当の間で、課題が共有された（4-⑦-1）。	特になし。	A	「2018年度 理念・目的及び教育目標検証会」において共有された課題について、取り組むべき課題の優先順位を整理したうえで、専攻主任、および各課題に係る担当者が中心となり、2019年度中に、優先順位の高い事項から順に、取り組みを進める。	特になし。	4-⑦-1「2018年度 理念・目的及び教育目標検証会 記録」

		学部・学科/研究科・専攻	法務専攻	氏名	補原 秀剛			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	<p>現状の説明</p> <p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>点検・評価</p> <p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>自己評定</p> <p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>将来に向けた発展方策</p> <p>[1] 「改善すべき事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>根拠資料</p> <p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウエブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準5	学生の受け入れ	<p>② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。</p> <p>(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】</p>	<p>本研究科は、学生の受け入れ方針に基づき、学生募集を行い、標準修業コース、既修者コースごとに、入学選抜の基準を定め、可否の判定については、入試管理委員会、研究科委員会を踏まえて行い、公正に入学選抜を実施している（5-②-1）。また、小論文および法律科目試験問題については、出題者および入試管理委員会で出題検討会を行っている（5-②-2）。なお、専門職大学院の性格上、留学生の受け入れ促進は考えていない。</p>	<p>毎年度、入試管理委員会の中で、入試選抜における試験科目、配点基準、試験問題の適切性について、継続的に検討を行っている。また、出題者との間で、出題問題検討会を開いて、出題問題の適切化に努めている。</p>	<p>転入学試験について、これまで受験者がおらず、また適性試験の実施が停止されている現状では、既修者試験との差別化が認められず、その存続の意義につき、検討する必要がある。</p>	<p>入試管理委員会および出題問題検討会を通じて、試験科目、配点基準、試験問題の適切性について、今後も継続的に検討を行う。</p>	<p>転入学試験について、適性試験の今後の動向を勘案しながら、2019年度中に入試管理委員会でその廃止を含めて抜本的検討を行う。</p>	<p>5-②-1「南山大学法科大学院パンフレット」、 「法科大学院Webページ」 入試概要（http://www.nanzan-u.ac.jp/LS/nyushi/gaiyo.html） 「2019年度南山大学大学院入学試験要項（法務研究科）」 5-②-2「2019年度入試 出題問題提出および出題問題検討会について」</p>
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	<p>(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】</p>	<p>本研究科の定員は、20名であり、標準修業コース、既修者コースの枠は設けていない。入学増の取組みとして、とりわけ、法学部との連携を重視し、「司法特修コース」設置前においても学部科目における、「法務研究」の新設、法学部カリキュラムの変更を行うとともに、進学希望者への自習室の提供を行うことなどを確認し、さらに、入試制度やそれに関連した奨学金制度の改革、他の大学での説明会などの改善的取組みを行っている。その結果、2018年度に実施された2019年度入試の結果定員充足率は50%となった（5-②-3）。</p>	<p>2018年度に実施した、2019年度入試においては、志願者、受験者、合格者とも、改善がみられ、2019年度入学生の定員充足率も50%を回復した。また、2019年度入学生について、法学部からの内部進学者が増加した（2018年度は2名であったが、4名となった）。</p>	<p>一定の改善は見られたが、今後も入学増及び定員充足率のさらなる改善が検討課題である。</p>	<p>今後も定員充足率等の改善に努めている。</p>	<p>法学部との連携の強化（司法特修コースが実施される前からの連携を含む）、広報活動の充実などに引き続き取り組んでいく。</p>	<p>5-③-1「2019年度南山大学大学院入学試験要項（法務研究科）」 5-③-2「2018年度南山大学法科大学院パンフレット」</p>
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。</p>	<p>年度初めの研究科委員会において、研究科の目的等と並んで、3つのポリシーを確認するとともに、入試管理委員会において、アドミッション・ポリシー及び学生の受け入れの適切性について、定期的に点検・評価を行っている。</p>	<p>本研究科では、競争性を確保しつつ入学定員を充足するために、毎年度、選抜方法について点検し改革を進めており、2018年度は、A・B・C日程入試の各試験科目の配点に差を設け、入試日程についてC日程の試験日を大幅に遅らせて2月下旬に変更して実施した。その効果として、入学者の多様性が確保され、特にC日程について志願者・受験者・入学者ともに、大きく増加した。</p>	<p>特になし。</p>	<p>引き続き、研究科委員会、入試管理委員会において、点検・評価を進め、適切な学生の受け入れがされるよう努力を続ける。</p>	<p>特になし。</p>	<p>5-④-1「2019年度南山大学大学院入学試験要項（法務研究科）」 5-④-2「2019年度南山大学大学院入学試験（審査）（法務C日程）人数表」</p>

		学部・学科/研究科・専攻	法務専攻	氏名	補原 秀剛			
	評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
				<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である</p> <p>[B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる</p> <p>[C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	<p>専門職大学院設置基準および同基準に係る文科省告示53号により設定された数値が基準となる。これに基づき、専任教員13名（内実務家教員3名）を配置している（内12名が教授。法律基本科目の専任教員数の内訳は、憲法1名、行政法2名、民法2名、商法2名、刑法1名、民訴法1名、刑訴法1名）。</p>	<p>法科大学院につき設定された基準に基づき、教員組織を配置することが求められるが、法令に基づき教員配置を行っている。したがって、人事計画に沿った教員の組織編成はできている（6-②-7）。</p>	A	特になし。	<p>「望ましい事項」であり、必ずしも「改善すべき事項」ではない。</p> <p>6-②-1「専門職大学院設置基準第5条」 6-②-2「専門職大学院設置基準第5条第1項等の規定に基づく専門職大学院に関し必要な事項について定める件（文部科学省告示第53号）」 6-②-3「南山大学教育職員選考規程」 6-②-4「南山大学教育職員資格審査委員会規程」 6-②-5「法務研究科「教員評価」に関する内規」 6-②-6「法務研究科「実務家教員評価」に関する内規」 6-②-7「教員配置表」</p>
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれにFD活動を実施する必要がある。）	<p>これは、法科大学院については、「専任教員の教育・研究活動、組織内運営等についての貢献及び社会貢献を適切に評価する仕組みの整備」という認証評価基準に含まれる事項である。これについては、「学生による授業評価」アンケートを実施し、結果を踏まえて教員が報告書を作成し、研究科委員会に共有している。また、研究成果、教育成果、社会貢献活動、組織内運営等の成果を各教員が大学に報告しその結果を冊子および南山大学ウェブページ上で公開している。また、FD研修会として、2018年度には、①「法学部・法科大学院一貫教育課程のための学部カリキュラムモデルについて」（2018.7.18）、②「法科大学院における教育の改善に向けて」（2018.10.30）および「内部質保証」と南山大学」（2019.3.11）を開催した。いずれも教員の資質向上、教員組織の改善・向上に資するという課題に対応することを目指したものであるが、①はいわゆる学部との連携、②は他大学（とくに名古屋大学）との連携を通して同課題に各教員がどのように取り組むかを考える機会となった。</p>	<p>授業評価アンケートは、実施後、アンケートを踏まえて各教員が報告書を作成し、専攻主任および自己点検・評価委員の検討を経て研究科委員会に報告され、問題点等を共有し、その結果は次の授業に反映される（6-④-1、6-④-2）。</p>	A	FD活動の一環として行われている各種活動をさらに一層組織化することを試みるのが望まれる。	<p>法務研究科長より、2019年度冒頭に、法科大学院認証評価結果の公表を経て、そこで指摘された事項、とくに改善すべき事項への組織的対応の方針が示され、これに基づき本項目を含めた包括的検証が組織的に実施される（研究科長以下、専攻主任、教務、FD、自己点検・評価担当の委員が中心となって原案を作成し、研究会委員会で議論・決定される）。</p> <p>6-④-1「学生による授業評価集計結果」 6-④-2「点検・評価報告書」 6-④-3「2018年度 理念・目的及び教育目標検証会 議題（研究科長）」 6-④-4「FD研究会の開催記録」 6-④-5「南山大学」大学院法務研究科法務専攻に対する法科大学院認証評価結果」</p>

学部・学科/研究科・専攻		法務専攻		氏名		補原 秀剛		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる</p> <p>【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
<p>⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	<p>(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>上記法令に基づき、教員配置について常に点検・評価を行っているが、とくに、専任教員が退職する際には人事に関する懇談会を研究科委員会に先立って開催し、将来的に欠員等が生じないように配慮している。FD活動の適切性については、2019年度冒頭に「2018年度理念・目的及び教育目標検証会」を開催し、1年間の取組を総括するとともに次年度の課題を組織的に明らかにしたところである。</p>	<p>到達目標は、法令に定められた基準に基づき教員配置がなされていることである。これについては人事懇談会等において常に配慮している（6-⑤-3）。</p>	<p>上記④の項目において記されたことであるが、FD活動のさらなる一層の組織化が求められている（6-⑤-4）。</p>	<p>A</p>	<p>特になし。</p>	<p>上記④の項目において記された点と重なるが、FD活動の組織化に向けては、法科大学院認証評価結果の指摘事項も踏まえつつ開催した、「2018年度 理念・目的及び教育検証会」において確認された諸課題について、研究科長、専攻主任、教務、FD、自己点検・評価担当の各委員が中心となって2019年度中に取り組みを進める。</p>	<p>6-⑤-1「教員配置表」</p> <p>6-⑤-2「FD研究会の開催記録」</p> <p>6-⑤-3「人事懇談会資料」</p> <p>6-⑤-4「南山大学大学院法務研究科法務専攻に対する認証評価結果」</p>

		学部・学科/研究科・専攻	法務専攻		氏名	楠原 秀剛			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1)多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	法務研究科の管理運営体制（役割分担）として「学生指導担当」の教員2名を置き（7-②-1）、修学上の相談に応じる体制をとっている。また、専任教員1名あたり2名程度の指導学生を受け持つ指導教員制も置いており、全ての専任教員が学習面のみならず修学上の相談にも応じる体制がある。加えて、毎回の研究科委員会における議題として「学生情報について」を設定し、成績不振等の端緒となりうる学生情報を随時に共有し、できるだけ早期の学生支援が可能となるよう、組織的な取組を講じている。	毎回の研究科委員会において、気になる学生に関する情報を持つ教員に情報提供を求め、全体で共有する機会としている。これにより、例えば授業を欠席しがちな学生がいる等、随時、一定の見守りや指導を要すると思われる学生情報が共有され、以後の組織的支援の端緒となっている（7-②-2）。	特になし。	成績不振学生の中には、法曹以外の進路について検討する者がありうるため、このような学生への支援として適切な指導ができるよう、研究科として組織的な情報収集や就職支援の体制を整えていくことが考えられる。したがって、学生支援のうち進路指導について、2019年度においてそのあるべき体制を検討し、整備を進める。	特になし。	7-②-1「2018年度法務研究科役割分担」 7-②-2「研究科委員会記録」
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	「2018年度理念・目的及び教育目標検証会」（研究科長、専攻主任、FD委員会幹事、自己点検評価委員会幹事、教務担当、アドバイザー制担当、就職支援担当で構成）を開催しており、各年度の取組みの検証と現時点での課題について、組織的な検討・確認を行い、その内容を、研究科委員会において周知している。	「2018年度理念・目的及び教育目標検証会」において、学生への修学支援も含め、あらゆる法務研究科の取組について検証がされ、どのような課題があるかを明らかにすることができている（7-③-1、7-③-2）。	2018年度の検証会を経て明らかになった課題として、学生への修学支援の一環である、法曹以外の進路を検討する学生へのキャリア支援の取組みがある。具体的には、修了生の進路について、法曹以外のキャリアに進んだ者の情報収集に関しては、教員の個人的な努力にとどまっている現状があり、法科大学院全体としての組織的対応がされておらず、状況の把握が十分ではない。このため、就職あっせんを含め、引き続き改善に努める必要がある。	「理念・目的及び教育目標検証会」において明確化された課題について、着実な検討・実施へとつなげられるよう、引き続き組織的な検証と課題の検討・確認を行う取組みを進めていく。	2019年度中に、法曹以外のキャリアに進んだ者の状況把握のための取組を組織的に進めるため、研究科長、専攻主任、就職支援担当が中心となって、就職・キャリア支援の体制構築のための方策について検討を開始し、原案を作成する。	7-③-1「2018年度 理念・目的及び教育目標検証会 議題」 7-③-2「研究科委員会記録（2019年4月24日開催分）」

			学部・学科/研究科・専攻	法務専攻	氏名	榎原 秀剛				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価してください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価してください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。 【2018年度学長方針】	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。 【2018年度学長方針】	法科大学院設立後、多くの修了生が法曹として活躍しており狭義の法曹だけではなく、何らかの形で法律業務に関わる人々をも含めて、多面的で複合的な法的対応を求められる場面において、有意義な社会貢献を行っている。また、南山学園出身者を中心とする南山法友会を2010年に設立し、年に1回の総会を開くなど、社会貢献に活躍する修了生との連携の輪を広げている。国際交流に関しては、韓国の西江大学校、韓南大学などとの交流を行っている。また、法曹実務教育研究センターと連携し、本研究科を修了した法曹のための研修の場を提供している。	これまでに120名の修了生が法曹として活躍している。また、法曹実務教育研究センターと連携し、2018年度は、債権法改正セミナー、相続法改正セミナー、模擬医師専門研修を計4回開催した（債権法改正セミナー【2018年6月29日開催】、債権法改正セミナー【2018年9月27日】、相続法改正セミナー【2018年10月18日】、模擬医師専門研修【2018年12月20日】）。	特になし。	A	今後も「人間の尊厳」の倫理観を持った修了生を社会に送り出すことにより、社会貢献に努めたい。また、法科大学院修了後の継続教育の場として、法曹実務教育研究センターと連携して開催する各種セミナー等について、次年度も引き続きその充実に努め、本研究科修了後の法曹への継続教育を進める。	特になし。	1-②-1「法科大学院Webページ depts.nanzan-u.ac.jp/grad/1s/about/index.htm」 1-②-2「南山大学法科大学院パンフレット」 1-②-3「2018年度南山法曹実務教育研究センターの運営について」
	社会連携・社会貢献	③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	各年度末ないし翌年度初めに、「理念・目的及び教育目標検証会」を開催し、その中で、社会連携・社会貢献の適切性について点検・評価を行っている（9-③-1）。	専門職大学院設置基準が改正されたことを受け、2019年度より新たに「南山大学大学院法務研究科教育課程連携協議会」を発足させるため、関連規程の整備に着手し、2019年度初めに規程の制定が実現した。これにより、法曹界等の学外からの意見をj得るしくみが整った（9-③-2、9-③-3）。	特になし。	A	まずは2019年度中に「南山大学大学院法務研究科教育課程連携協議会」の初回会合を開催する。これにより、本研究科の教育課程の編成方針やその実施のあり方について法曹界等の学外からの意見を聴取するとともに意見交換を行い、本研究科の教育課程の検証とさらなる充実につなげる機会とする。	特になし。	9-③-1「2018年度 理念・目的及び教育目標検証会 記録」 9-③-2「専門職大学院設置基準6条の2第1項」 9-③-3「南山大学大学院法務研究科教育課程連携協議会規程」

		学部・学科/研究科・専攻	理工学研究科	氏名	野呂 昌満		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	博士前期課程の3つのポリシーについては、公表され、その内容は大学の理念・目的に沿っている。 博士後期課程の3つのポリシーについては、大学の理念・目的に沿うよう改訂を行い、研究科内での審議手続きは完了している。自己点検・評価委員会、大学評議会の議を経て、2019年度中に施行予定である。	A		理工学研究科 Webサイト (http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/study/policy.html) 2018年度第12回 理工学研究科委員会（2019年1月23日開催）記録 2018年度第9回 大学院委員会（2019年3月4日開催）記録

			学部・学科/研究科・専攻	理工学研究科		氏名	野呂 昌満	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	博士前期課程については、研究科全体および各専攻ごとにカリキュラム・ポリシーを定め、公表している。その内容はディプロマ・ポリシーと整合している。 博士後期課程については、研究科および各専攻の3つのポリシーを2018年度に見直し・改訂した。見直し・改訂プロセスの中で、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合するよう十分に検討を行った。新しい3つのポリシーは、大学評議会の議を経て2019年度中に施行される予定である。		A		理工学研究科Webサイト (http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/se/policy.html) (3つのポリシーを公開していること、それらがディプロマ・ポリシーを核として整合した内容であると評価していること) 2018年度第12回理工学研究科委員会(2019年1月23日開催)記録(博士後期課程の3つのポリシーについて十分に検討を行ったこと) 2018年度第9回大学院委員会(2019年3月4日開催)記録(博士後期課程の3つのポリシーについて十分に検討を行ったこと)

			学部・学科/研究科・専攻	理工学研究科	氏名	野呂 昌満		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある</p> <p>【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	<p>(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。</p> <p>(2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。</p> <p>(3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。</p> <p>(4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。</p>	<p>(1) 整合している。</p> <p>(3) 博士前期課程、博士後期課程とともに、コースワークに対応する授業科目(研究科共通科目群、基礎科目群、専攻科目群)と、リサーチワークに対応する研究指導科目群をともに配置したカリキュラムを運用している。</p>		S		<p>理工学研究科Webサイト (http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/se/index.html) (1),(3)について)</p>	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>(1) 留学プログラムの充実【2018年度学長方針】</p> <p>(2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法</p> <p>(3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導</p> <p>(4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施</p> <p>(5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施</p>	<p>(1) 理工学研究科国際化推進事業の枠組みの中で、大学院生海外派遣事業を実施、大学院生の海外での研究発表・研究交流を行っている。</p> <p>(2) 研究指導科目群では、学生が主体的に研究に取り組むことを前提とした授業を行っている。コースワークに対応する科目においても、演習や文献調査などを交え、学生が主体的に取り組めるような授業を行っている例もある。</p> <p>(4) 修士論文、博士論文の執筆に先立ち、各学生には研究計画書を提出させ、それに基づいた指導を行っている。いずれについても中間審査を行い、研究内容および研究指導計画の見直しを可能としている。</p>	<p>(1) 大学院生海外派遣では、海外4箇所へ、計15名の大学院生を派遣した。(証拠資料)2018年度第5回理工学研究科委員会(2018年7月11日開催)記録および報告資料6</p>		S	<p>(1) 2018年度第2回理工学研究科委員会(2018年5月16日開催)記録および審議資料8-1, 8-2</p> <p>(2) 理工学研究科各科目のシラバス</p> <p>(3) 理工学研究科プライベートWebサイト (https://www-p.st.nanzan-u.ac.jp/ma-thesis/2018/index.html, https://www-p.st.nanzan-u.ac.jp/d-thesis/index_2018.html)</p>	

		学部・学科/研究科・専攻	理工学研究科	氏名	野呂 昌満		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) シラバスに評価基準と評価方法を明記し、それに基づいて成績評価を行っている。成績に疑問のある学生は、成績疑問調査を行うことができる。 (2)(3) 博士前期課程、博士後期課程とともに、学生の研究指導は、指導教員、副指導教員のもとで行う。修士の学位授与については、指導教員、副指導教員とは異なる教員を主査とする学位審査委員会を研究科委員会のもとに組織して審査する。博士の学位授与については、指導教員、副指導教員とは異なる教員を主査とし、学外の有識者を審査委員に加えた学位審査委員会を研究科委員会のもとに組織して審査する。修士の学位授与、博士の学位授与については、研究科委員会での議を経たのちに、大学評議会にて決定される。		S		(1) 理工学研究科シラバス (2)(3) 大学院履修要項(理工学研究科: p.97-)
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	(1) 学生が授業理解度を自己評価する形態で、授業達成度評価を行うことで各教員が学習成果把握、評価している。		S		(1) 2018年度第1回理工学研究科委員会(2018年4月11日開催)記録および報告資料4
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善、向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについては、研究科委員会および理工学部・理工学研究科自己点検・評価委員会において評価・検討を行っている。また理工学部・理工学研究科外部評価委員会においても評価を受けている。なお博士後期課程の3つのポリシーは2017年度には改訂されていない。 (2) 授業達成度評価を行い、その結果を受けた報告書を各教員に提出させることで、授業運営がカリキュラム・ポリシーに沿って行われているかどうかを可視化し、授業改善に役立てている。その報告書については理工学部・理工学研究科FD委員会および理工学部・理工学研究科自己点検・評価委員会にて検証している。		A		(1) 2018年度第17回理工学研究科委員会(2019年3月11日開催)記録 2018年度理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録 (2) 2018年度第1回理工学研究科委員会(2018年4月11日開催)記録および報告資料4

			学部・学科/研究科・専攻	理工学研究科	氏名	野呂 昌満		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	(1) 2018年10月17日に、「名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題」なる題目でFD講演会（理工学部主催）を行い、同大学の留学生受入れ体制を参考に、学部および研究科の留学生受入れはいかにあるべきかを議論した。		A		2018年度理工学部FD活動報告（2019年度第1回理工学部教授会（2019年4月10日開催）報告資料15-1）
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	(1) 理工学部の協力のもとで、従来と同様に推薦入試制度の改善について検討するとともに、各研究室での演習・卒業研究指導の際に大学院への進学を推奨している。		A		2018年度第1回理工学部教授会（2018年4月11日開催）記録
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	(1) アドミッション・ポリシーについては、研究科委員会および理工学部・理工学研究科自己点検・評価委員会において評価・検討を行っている。また理工学部・理工学研究科外部評価委員会においても評価を受けている。なお博士後期課程の3つのポリシーは2017年度には改訂されていない。		A		(1) 2018年度第17回理工学研究科委員会（2019年3月11日開催）記録 2018年度理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	理工学研究科		氏名	野呂 昌満		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができていないか。	(1) 現状の説明 [1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	(1) 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	(1) 「改善すべき事項」を記述してください。 [1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	(1) 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	(1) 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要はある。）	(1) 理工学部と共同し、2018年10月17日にFD講演会を行い、名古屋大学の野水勉教授より、「名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題」について講演があった。 理工学部と共同し、2019年3月11日にFD・自己点検報告会を行い、栗原寛明講師より「情報倫理教育の授業と運営について」について、小藤俊幸教授より「新しい時代の微積分の教育」について、それぞれ報告があった。 研究科独自の活動として授業達成度評価を実施し、対象科目を受講する学生に対して、授業理解度を調査した。各教員には、その結果を受けた報告書を提出させた。それらを理工学部・理工学研究科FD委員会、理工学部・理工学研究科自己点検・評価委員会にて検討している。	(1) 「改善すべき事項」を記述してください。 [1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	(1) 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	(1) 2018年度理工学部FD活動報告（2019年度第1回理工学部教授会（2019年4月10日開催）報告資料15-1） 2018年度第1回理工学研究科委員会（2018年4月11日開催）記録および報告資料4	
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 教員組織の適切性については、理工学部・理工学研究科将来構想委員会で議論している。理工学部と共同して行っているFD活動については、理工学部教授会で活動報告および活動計画の報告が行われ、情報共有を行っている。 研究科独自の授業達成度評価については、研究科委員会にて情報共有を行っている。	(1) 「改善すべき事項」を記述してください。 [1] 「効果が上がっている事項」について、さらに伸ばさせる方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	(1) 「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	(1) 2018年度理工学部FD活動報告（2019年度第1回理工学部教授会（2019年4月10日開催）報告資料15-1） 2018年度第1回理工学研究科委員会（2018年4月11日開催）記録および報告資料4	

学部・学科/研究科・専攻			理工学研究科			氏名	野呂 昌満	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	(1) 合理的配慮が必要な学生については、全学的な枠組みの中で対応しているが該当する学生は出ていない。 単位修得状況が思わしくない学生については、指導教員のもとで、就学の意思確認および指導を行っている。 その他、登校状況などを通じて問題学生の発見を試みている。		A		
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 学生支援の適切性については、研究科長、専攻主任の間で議論し、必要に応じ指導教員への助言などを行っている。		A		

学部・学科/研究科・専攻		理工学研究科		氏名		野呂 昌満	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取組を実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	(1) 社会連携のための組織として理工学研究センターを設置し、企業への共同研究シーズの提供や研究員の受入れを行っている。	A		(1) 南山大学理工学研究センター規程
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組みを行っているか。	(1) その取組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) 理工学研究センターは独自に自己点検評価を行っている。	A		(1) 2018年度理工学研究センター自己点検・評価報告書

		学部・学科/研究科・専攻	システム数理専攻		氏名	三浦 英俊				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	研究科および専攻の目的は3つのポリシーに掲げてあるとおりである。3つのポリシーは大学全体における位置づけを考慮して作成されている。	本専攻の理念と目標をwebで公開し、その明確化を図っている（根拠資料：本学webページ大学院専攻案内 専攻の紹介）。	入学者が募集人員に達しなかった（根拠資料：20180501在籍者数リスト）	A	引き続き、2019年度末まで、研究科全体で、これまでと同様の方法で、取り組みを進めたい。	入学者が募集人員に達することを目標として、2019年度末まで、研究科全体で、ウェブ、研究発表、ゼミ学生への呼びかけを中心として学生や学外への研究科の魅力の発信につとめる。	理工学部・理工学研究科・理工学研究センター http://www.st.nanzan-u.ac.jp/

		学部・学科/研究科・専攻	システム教理専攻	氏名	三浦 英俊			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	している。		A		3つのポリシー、および2018年(平成30年)度第17回理工学研究所委員会 議事録
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	している		A		3つのポリシー、および2018年(平成30年)度第17回理工学研究所委員会 議事録
		④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実。【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWeblessなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	国際化事業によって学生の短期留学を実施している（根拠資料：2018年度第1回南山大学大学院理工学研究所委員会記録） (4)については、シラバスに研究指導の方針を示している（根拠資料：南山大学シラバス）；主体性参加を促す授業形態（アクティブラーニング等）については特別なことは行っていない。		A		（根拠資料：2018年度第1回南山大学大学院理工学研究所委員会記録） （根拠資料：南山大学シラバス）

		学部・学科/研究科・専攻	システム教理専攻		氏名	三浦 英俊		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが早進した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	学位審査は研究科で審議の上行っている（根拠資料：2018年（平成30年）度第15回理工学研究科委員会記録）		A			(根拠資料：2018年（平成30年）度第15回理工学研究科委員会記録）
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ループリッックを活用した測定、学生調査など。)	研究科独自の授業評価アンケートを実施している（根拠資料：2018年（平成30年）度第16回理工学研究科委員会記録）	[1]理工学研究科スタート時より授業評価アンケートを実施しており、全ての科目について3年で1回のローテーションとなっている。結果をもとに授業改善を行っている。 [2]右の欄に示した通り。 [3]これからも継続していきたい。	A			(根拠資料：2018年（平成30年）度第16回理工学研究科委員会記録）
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	研究科委員会で、3つのポリシーの検証を行った（根拠資料：2018年（平成30年）度第17回理工学研究科委員会記録）		A			(根拠資料：2018年（平成30年）度第17回理工学研究科委員会記録）

			学部・学科/研究科・専攻	システム数理解専攻	氏名	三浦 英俊		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受け入れを促進するための制度改革をしているか。 【2018年度学長方針】	国内在住外国人を対象とした入試種別を新設した		A		2018年(平成30年)度第14回理工学研究科委員会記録
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。【2018年度学長方針】	教授会や研究科委員会で構成員に受験者を増やすように呼びかけている。		B		
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	研究科委員会で、3つのポリシーの検証を行った(根拠資料：2018年(平成30年)度第17回理工学研究科委員会記録)		A		(根拠資料：2018年(平成30年)度第17回理工学研究科委員会記録)

		学部・学科/研究科・専攻	システム数理解専攻	氏名	三浦 英俊		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編制ができています。		A		2019年度 南山大学教育職員配置表
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	FD活動として、研究科独自に授業評価を行ってきた。	A		(根拠資料：2018年(平成30年)度第16回理工学研究科委員会記録)
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員個人の教育・研究の向上については科研費の申請や研究業績の内容確認を行っている。	B	資格を持っていない教員の研究活動の活性化を促す。	

		学部・学科/研究科・専攻	システム教理専攻		氏名	三浦 英俊		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	全学の方針に従って行っている。専攻では、補習教育などが必要な学生は今のところ表れていない。		A		
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	全学の方針に従って行っている。専攻では、補習教育などが必要な学生は今のところ表れていない。		A		

			学部・学科/研究科・専攻	システム数理解専攻	氏名	三浦 英俊		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	企業との共同研究に取り組んでいる。研究成果のうち主要なものはウェブに掲載している。		A		理工学部・理工学研究科・理工学研究センター http://www.st.nanzan-u.ac.jp/
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	ウェブの内容について、定期的に見直している。		B		理工学部・理工学研究科・理工学研究センター http://www.st.nanzan-u.ac.jp/

		学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学専攻	氏名	蜂巢 吉成				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	大学院の3つのポリシーを踏まえて、研究科のポリシーを定め、さらに専攻のポリシーを設定して、公表している。	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
					A				南山大学 3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/policy.html

				学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学専攻	氏名	蜂巢 吉成		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	整合している。2016年度から2017年度にかけて3つのポリシーを策定した。その際に全学的にポリシーの整合性について確認している。当時からカリキュラムは変わっていない。	特になし	特になし	特になし	特になし	2016年度第14回理工学研究科委員会議事録 2017年度第9回理工学研究科委員会議事録
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、ユースワークトリカシュークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) 整合している。2016年度から2017年度にかけて3つのポリシーを策定した。その際に全学的にポリシーの整合性について確認している。当時からカリキュラムは変わっていない。 (3) 座学の授業に加え、各年次・各クォータに研究指導科目を配置している。副指導教員により、複数の視点から研究指導を行っている。	特になし	特になし	特になし	特になし	2016年度第14回理工学研究科委員会議事録 2017年度第9回理工学研究科委員会議事録 2018年度大学院履修要項
		④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 国際化推進事業により大学院生の海外派遣を実施している。 (2) 研究指導では学生の自主的な研究を促している。 (4) 6月に研究計画を提出し、9月～10月に複数の教員による中間審査を行い指導している。中間審査の結果は報告書としてまとめられ、研究科委員会で審議している。	特になし	引き続き、研究科長、専攻主任、学部の国際委員を中心に国際化推進事業を実施していく。	特になし	(1) 2018年度第2回、第5回、第7回理工学研究科委員会議事録 (2) 「研究指導」シラバス (4) 2018年度第9回理工学研究科委員会議事録	

		学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学専攻		氏名	蜂巢 吉成		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価してください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価してください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) シラバスに評価方法を明記し、それに基づいて成績評価を行っている。 (2) 修士の学位審査は主査1名、副査2名の複数教員で、博士の学位審査は主査1名、副査3名(学外の審査員1名を含む)の複数教員で行っている。 (3) 修士の学位審査では審査員は共通の「修士論文評価表」を作成し、研究目的、成果、学術的意義、発表内容などについて評価をしている。修士および博士の学位審査において、主査が報告書をまとめ、研究科委員会で審議している。	特になし	特になし	A	特になし	(1) 大学院シラバス (2)(3) 2018年度第15回理工学研究科委員会議事録
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	座学の授業ではクォータ開始時と終了時に、重要項目の達成度評価アンケートを行っている。 修士の学位審査では審査員は共通の「修士論文評価表」を作成し、研究目的、成果、学術的意義、発表内容などについて評価をしている。	特になし	特になし	A	特になし	2018年度第1回理工学研究科委員会議事録 理工学研究科授業達成度評価報告書 理工学研究科修士論文評価表
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)(2) 研究科外部評価委員会を設け、検証を行う仕組みを整えている。	特になし	特になし	A	特になし	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

			学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学専攻	氏名	峰果 吉成			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準5	学生の受け入れ ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1)留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	2020年度入試より国内在住外国人入試を実施する。	国内在住外国人入学審査要件を作成した。	特になし	A	2020年度より、国内在住外国人入試を実施する。	2020年度国内在住外国人入学審査要件	
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	理工学部からの推薦制度を設け、学部の卒業研究指導教員からは学生に大学院進学を勧めているが、入学定員には達していない。	特になし	2019年度の博士課程前期課程の入学者は9名、後期課程の入学者は1名であり、それぞれ定員の18人、2人を満たさなかった。	B	特になし	折あるごとに学部生に大学院進学について勧めていく。 2019-04-01に開催された新入生向けのガイダンスでは学部長が、2019-04-24に開催された学部3年生向けの第1回就職進路ガイダンスではキャリア支援委員が大学院進学について説明した。	2019年度入学人数（大学院） 【理系】第1回就職（進路）ガイダンス
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	研究科外部評価委員会を設け、検証を行う仕組みを整えている。	特になし	特になし	A	引き続き、研究科外部評価委員会を開催する。	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録	

		学部・学科/研究科・専攻	ソフトウェア工学専攻	氏名	峰 圭 成					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取組みが概ら適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数を、冊子の場合はウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができていますか。	2021年度の学部改組に向けて、大学院も含めた教員人事計画を検討している。	特になし	学部にも所属しているが、研究業績が十分になく、大学院の研究指導、研究指導補助ではない教員が複数いる。 学部改組後に年次進行で大学院改組も予定されるので、博士課程後期課程の専攻を維持できる教員編成にする。	C	特になし	2018年度は研究業績が十分にあげられない教員に対して面談等を実施し、査読なしではあるが学会発表を行うことができた。 2019年度は学科・専攻内で研究発表会を定期的に行い、計画的に研究を進めるように促していく。	南山大学 研究業績システム
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部／研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	2018-10-17(水) にFD講演会を行った。 【題目】名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題 【日時】2018年10月17日（水）15：30～17：00 【場所】S棟1階会議室1 【講師】野水 勉氏 （名古屋大学国際機構・国際教育交流センター・副センター長 教育交流部門 部門長・教授 工学系研究科国際交流室 室員）	特になし	大学院のFD・自己点検報告会は実施できなかった。	B	特になし	毎年3月に学部で行っているFD・自己点検報告会にあわせて研究科でもFD・自己点検報告会を行う。	
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織については学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員らから構成される「学部・研究科将来構想委員会」で、FDはFD委員を中心に活動をしている。 検証を行う仕組みとして、学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」や「理工学部・理工学研究科外部評価委員会」がある。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻		ソフトウェア工学専攻		氏名		蜂巢 吉成	
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	研究指導を通して学生の修学状況などを確認している。アドミッションポリシーにしたがって受け入れているので、補習が必要な学生はいない。	特になし	特になし	特になし	特になし	
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	研究科委員会で学生の修学状況などを適宜報告し、情報共有している。	特になし	特になし	特になし	特になし	

学部・学科/研究科・専攻		ソフトウェア工学専攻		氏名		蜂巢 吉成		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」採択事業「組み込みシステム技術者のための技術展開力育成プログラム enPiT-Pro Emb」に連携校として参加し、社会人教育に貢献している。 教育成果や研究成果は共同研究などを通して、社会に還元している。	特になし	特になし	特になし	enPiT-Pro Emb 文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」採択事業 - 組み込みシステム技術者のための技術展開力育成プログラム https://www.nes.i.nagoya-u.ac.jp/enpit-pro-emb/
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	enPiT-Pro Emb 運営委員会などで本大学院の取組みについても検証を行っている。	特になし	特になし	特になし	enPiT-Pro Emb 文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」採択事業 - 組み込みシステム技術者のための技術展開力育成プログラム https://www.nes.i.nagoya-u.ac.jp/enpit-pro-emb/ enPiT-Pro Emb 2018 年度報告書 https://www.nes.i.nagoya-u.ac.jp/enpit-pro-emb/files_new/enPiT-Pro%20Emb報告書(2018年度).pdf

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学専攻		氏名	河野 浩之			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	
基準1	理念・目的	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	学部・研究科の目的が設定され、公表されていることを前提に、その内容および大学の理念・目的と関連しているか。	大学の3つのポリシーを踏まえて、研究科のポリシーを定め、さらに専攻のポリシーを設定して、公表している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	南山大学 3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/policy.html

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学専攻		氏名	河野 浩之			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	整合している。2016年度から2017年度にかけて3つのポリシーを策定した。その際に全学的にポリシーの整合性について確認している。当時からカリキュラムは変わっていない。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	南山大学 3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/policy.html
		④ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) 整合している。2016年度から2017年度にかけて3つのポリシーを策定した。その際に全学的にポリシーの整合性について確認している。当時からカリキュラムは変わっていない。 (3) 座学の授業に加え、各年次・各クォータに研究指導科目を配置している。副指導教員により、複数の視点から研究指導を行っている。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	南山大学 3つのポリシー https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/policy.html 2018年度大学院履修要項
		④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 国際化推進事業により大学院生の海外派遣を実施している。 (2) 研究指導では学生の自主的な研究を促している。 (4) 6月に研究計画を提出し、9月～10月に複数の教員による中間審査を行い指導している。中間審査の結果は報告書としてまとめられ、研究科委員会で審議している。	(1) 2018年度は3名の修士1年生を(中華民国)へ、1名の修士2年生をデウスト大学(スペイン)に派遣した。 (2) 学生の主体的参加を可能とする、安全性の高い実験室の拡充が必要である。	引き続き、研究科長、専攻主任、学部の国際委員を中心に国際化推進事業を実施していく。	特に無し。	(1) 2018年度第2回、第5回、第7回理工学研究科委員会議事録 (2) 「研究指導」シラバス (4) 2018年度第9回理工学研究科委員会議事録	

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学専攻		氏名	河野 浩之		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが早進した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である [B] 軽微な問題があり、さらなる改善が求められる [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。 [1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) シラバスに評価方法を明記し、それに基づいて成績評価を行っている。 (2) 修士の学位審査は主査1名、副査2名の複数教員で、博士の学位審査は主査1名、副査3名(学外の審査員1名を含む)の複数教員で行っている。 (3) 修士の学位審査では審査員は共通の「修士論文評価表」を作成し、研究目的、成果、学術的意義、発表内容などについて評価をしている。修士および博士の学位審査において、主査が報告書をまとめ、研究科委員会で審議している。	特に無し。	特に無し。	A	特に無し。	(1) 大学院シラバス (2) (3) 2018年度第15回理工学研究科委員会議事録
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	座学の授業ではクォータ開始時と終了時に、重要項目の達成度評価アンケートを行っている。（達成度評価アンケート依頼分と雛形ファイルを添付する） 修士の学位審査では審査員は共通の「修士論文評価表」を作成し、研究目的、成果、学術的意義、発表内容などについて評価をしている。	特に無し。	特に無し。	A	特に無し。	2018年度第1回理工学研究科委員会議事録 理工学研究科 授業達成度評価報告書
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2) カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) (2) 研究科外部評価委員会を設け、検証を行う仕組みを整えている。	特に無し。	特に無し。	A	引き続き、研究科外部評価委員会を開催する。	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

学部・学科/研究科・専攻		機械電子制御工学専攻		氏名		河野 浩之				
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか。【2018年度学長方針】	2020年度入試より国内在住外国人入学生試験を実施する。	国内在住外国人入学生審査要項を作成した。	特に無し。	A	2020年度より、国内在住外国人入学生試験を実施する。	特に無し。	2020年度国内在住外国人入学生審査要項
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学科の卒業研究指導教員からは学生に大学院進学を勧めているが、入学定員には達していない。	理工学部からの推薦制度を設け、学生の卒業研究指導教員からは学生に大学院進学を勧めているが、入学定員には達していない。	特に無し。	2019年度の博士課程前期課程の入学者は16名、後期課程の入学者は0名であり、それぞれ定員の18人、2人を満たさなかった。	B	特に無し。	演習・研究指導において、学部生に大学院進学について説明する。2019-04-01に開催された新入生向けのガイダンスでは学部長が、2019-04-24に開催された学部3年生向けの第1回就職進路ガイダンスではキャリア支援委員が大学院進学について説明した。	2019年度入学人数（大学院） 【理系】第1回就職（進路）ガイダンス
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	研究科外部評価委員会を設け、検証を行う仕組みを整えている。	特に無し。	特に無し。	A	引き続き、研究科外部評価委員会を開催する。	特に無し。	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻		機械電子制御工学専攻		氏名		河野 浩之		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		掲載資料		
			[1]点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』(左記参照)」について、現状を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重篤な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	2021年度の学部改組に向けて、大学院も含めた教員人事計画を検討している。	2018年度に博士前期課程・後期課程の研究指導担当への昇格を行った。	学部改組後に年次進行で大学院改組も予定されるので、博士課程後期課程の専攻を維持できる教員編成にする。	B	2019年度も引き続き、博士前期課程・後期課程の研究指導担当ができるよう自己申告ならびに研究業績システムにより点検する。	特に無し。	南山大学 研究業績システム
		④ ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。(学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。)	2018-10-17(水)にFD講演会を行った。 【題目】名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ(学部・大学院)の現状と課題 【日時】2018年10月17日(水)15:30-17:00 【場所】S棟1階会議室1 【講師】野水 勉氏 (名古屋大学国際機構・国際教育交流センター・副センター長 教育交流部門 部門長・教授 工学系研究科国際交流室 室員)	特に無し。	大学院のFD・自己点検報告会は実施できなかった。	B	特に無し。	毎年3月に学部で行っているFD・自己点検報告会にあわせて研究科でもFD・自己点検報告会を行う。	
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織については学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員らから構成される「学部・研究科将来構想委員会」で、FDはFD委員を中心に活動をしている。 検証を行う仕組みとして、学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」や「理工学部・理工学研究科外部評価委員会」がある。	特に無し。	特に無し。	A	特に無し。	特に無し。	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録

		学部・学科/研究科・専攻	機械電子制御工学専攻		氏名	河野 浩之			
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる改善が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。		[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準7	学生支援	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	(1) 多様な背景をもつ学生に対する具体的な対応、補習教育、補充教育および成績不良学生の状況把握など、修学に対する支援の実施。	研究指導を通して学生の修学状況などを確認している。アドミッションポリシーにしたがって受け入れているので、補習が必要な学生はいない。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	
		③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 学生への修学支援の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	研究科委員会で学生の修学状況などを適宜報告し、情報共有している。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	

学部・学科/研究科・専攻		機械電子制御工学専攻		氏名		河野 浩之		
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重要な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流、国際交流事業、卒業生との連携を行っているか。【2018年度学長方針】	教育成果や研究成果は共同研究などを通して、適切に社会に還元している。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	2018年度教授会資料（共同研究）
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	共同研究などが継続していることで、適切に教育成果や研究成果を社会に還元していることを点検している。	特に無し。	特に無し。	特に無し。	教授会資料（共同研究）